

九月、北平の人吳柱、衆千餘を聚め、沙門法長を立てて天子と爲し、北平郡を破り、轉じて廣都に寇し、(一七)白狼城に入る。燕の幽州の牧高陽王隆、方に其の夫人を葬り、郡縣の守宰皆之に會す。衆、柱・反すと聞き、隆に・城に還り・大兵を遣はして之を討たんと請ふ。隆曰はく、『今、閭閻、業に安んじ、民、亂を思はず。柱等、詐謀を以て愚夫を惑はし、誘脅して相聚む。能く爲す無からん』と。遂に留まりて葬り訖り、(一八)廣平の太守・廣都の令を遣りて先づ歸らしめ、續いて安昌侯進を遣はし、百餘騎を將ゐて、白狼城に趨かしむ。柱の衆、之を聞き、皆潰ゆ。窮捕して之を斬る。

侍中王國寶を以て中書令と爲し、俄に中領軍を兼ねしむ。

丁未、吳郡の太守王珣を以て尙書右僕射と爲す。

吐谷渾視連・卒す。子視罷立つ。視罷以へらく、(一九)其の父祖慈仁にして、

四鄰の侵侮する所と爲ると。乃ち將士を督厲し、功業を建てんと欲す。冬

十月、金城王乾歸、使を遣はし、視罷を沙州の牧・白蘭王に拜す。視罷、受けず。

十二月、郭質、苟曜と、(二〇)鄭東に戰ふ。質敗れ、洛陽に奔る。

(二一)越質詰歸、平襄に據り、金城王乾歸に叛く。

十六年、春正月、燕、行臺を薊に置き、長樂公盛に録行臺尙書事を加ふ。

金城王乾歸、越質詰歸を撃つ。詰歸降る。乾歸、宗女を以て之に妻す。

賀染干、其の兄訥を殺さんと謀る。訥、之を知り、兵を擧げて相攻む。

魏王珪、燕に告げ、郷導を爲し以て之を討たんと請ふ。二月甲戌、燕主

垂、趙王麟を遣はして兵を將ゐて訥を撃たしめ、(二二)鎮北將軍蘭汗をして龍

城の兵を帥ゐて染干を撃たしむ。

三月、秦主登、雍より、後秦の安東將軍金榮を(二三)范氏堡に攻め、之に克

つ。遂に渭水を渡り、京兆の太守韋範を(二四)段氏堡に攻め、克たず、進みて

(二五)曲牢に據る。

夏四月、燕の蘭汗、賀染干を(二六)牛都に破る。

苟曜、衆一萬有り、密に秦主登を召し、内應を爲すを許す。登、曲牢よ

り、(二七)繁川に向ひ、馬頭原に軍す。五月、後秦主萇、兵を引きて逆へ戦ふ。

登撃ちて之を破り、其の右將軍吳忠を斬る。萇、衆を收めて復た戦ふ。姚頌德曰はく、『陛下、輕し

く戦ふに愼み、毎に・計を以て之を取らんと欲せり。今戦つて利を失ふ。而るに更に更に前みて賊に逼る

は、何ぞや』と。萇曰はく、『登、兵を用ふること遅緩にして、虚實を識らず。今、輕兵直に進み、

【一七】白狼。故城は今の熱河塔溝縣の南に在り。
 【一八】廣平。當に北平に作るべし。
 【一九】吐谷渾視連・視連の慈仁なること、一百三卷簡文帝咸安元年に見ゆ。
 【二〇】鄭東。鄭縣の東。
 【二一】十三年、越質詰歸、乞伏氏に附けり。

【二二】賀染干の部落は、蓋し賀蘭部の東偏に居る。故に燕、龍城の兵を以てこれを撃つ。
 【二三】范氏堡。今の陝西省關中道高陵縣に在り。
 【二四】段氏堡。同上長安縣に在り。
 【二五】曲牢。同上。
 【二六】牛都。内蒙古察哈爾特別區域内。
 【二七】繁川。蓋し即ち杜陵縣の樊川ならん。樊川は今の陝西省關中道長安縣の南に在り、渭水の支流なり。

遙に吾が東に據る。此れ必ず苟曜豎子、之と與に、謀る有るなり。之を緩くするときは、則ち其の謀、成るを得ん。故に其の交の未だ合せざるに及びて、急に之を撃ち、以て其の事を敗り散すのみ」と。遂に進みて戦ひ、大に之を破る。登退きて、郿に屯す。

秦の兗州の刺史、強金槌、新平に據り、後秦に降り、其の子達を以て質と爲す。後秦主苻、數百騎を將ゐて、金槌の營に入る。羣下、之を諫む。

苻曰はく、「金槌既に去るとも、苻登、又、我を圖らんと欲す、將に安所にか歸せんとするや。且つ彼初めて來りて欺附す。宜しく心を推して以て之に結ぶべし。柰何ぞ復た不信を以て之を疑はんや」と。既にして羣氏、苻を取らんと欲す。金槌、從はず。

六月甲辰、燕の趙王麟、賀訥を赤城に破り、之を禽にし、其の部落數萬を降す。燕主垂、麟に命じて、訥の部落を歸し、染干を中山に徙さしむ。麟歸り、垂に言つて曰はく、「臣、拓跋珪の舉動を観るに、終に國の患を爲さん。若かず、之を攝して朝に還し、其の弟をして國事を監せしめんには」と。垂、從はず。

西燕主永、河南に寇す。太守楊佺期、撃ちて之を破る。
秋七月壬申、燕主垂、范陽に如く。

- 【七】 馬頭原の地は蓋し長安の東に在り。
- 【八】 郿。今の陝西省關中道郿縣の地。
- 【九】 強金槌。氏種にして、秦の威黨なり。姚萇、心を推してこれを待ち、以て苻登の黨を離す。
- 【一〇】 赤城。今の直隸省口北道赤城縣。
- 【一一】 攝。收め録する也。
- 【一二】 范陽。故城は今の京兆涿縣に在り。

魏王珪、其の弟觚を遣はして、燕に獻見す。燕主垂、衰老し、子弟、事を用ひ、觚を留めて以て良馬を求む。魏王珪、與へず、遂に燕と絶ち、長史張袞をして好を西燕に求めしむ。觚逃れ歸る。燕の太子寶、追うて之を獲たり。垂、之を待つこと初めの如し。

秦主登、新平を攻む。後秦主苻、之を救ふ。登引き去る。

秦の驃騎將軍沒奔干、其の二子を以て金城王乾歸に質と爲し、共に鮮卑の大兜を撃たんと請ふ。乾歸、沒奔干と與に、大兜を鳴蟬堡に攻め、之に克つ。兜、微服して走る。乾歸、其の部衆を收めて還り、沒奔干の二子を歸す。沒奔干尋いで叛き、東のかた劉衛辰に合す。八月、乾歸、騎一萬を帥ゐて沒奔干を討つ。沒奔干、他樓城に犇る。乾歸、之を射、目中つ。

九月癸未、尙書右僕射王珣を以て左僕射と爲し、太子の詹事謝琰を右僕射と爲す。太學博士范弘之、殷浩を論じ、「宜しく贈諡を加へらるべし」

といひ、因つて桓温の不臣の迹を叙す。是の時、桓氏猶ほ盛なり。王珣は温の故吏なり、以爲へらく、温は昏を廢し明を立つ、忠貞の節有りと。弘之を黜けて、餘杭の令と爲す。弘之は汪の孫なり。

- 【一三】 鳴蟬堡。今の甘肅省渭川道秦安縣に在るべし。
- 【一四】 他樓城。今の甘肅省涇原道固原縣に在り。
- 【一五】 王珣は、先に温の府の主簿たり。
- 【一六】 餘杭。縣の名、今の浙江省錢塘道餘杭縣。
- 【一七】 范汪、罪を桓温に得たること、一百一卷哀帝升平五年に見ゆ。

冬十月壬辰、燕主垂、中山に還る。

初め柔然部の人、世代に服す。其の大人郁久閭地粟袁・卒するや、部落分れて二と爲り、長子匹

候跋、父に繼ぎて東邊に居り、次子緄紇提、別れて西邊に居る。秦王堅、代を滅ぼすや、柔然、劉

衛辰に附く。魏王珪が位に即くに及びて、高車等の諸部を攻撃し、率ね皆服従す。獨り柔然のみ魏に

事へす。戊戌、珪、兵を引ききて之を撃つ。柔然、部を擧げて遁走す。珪、

犇るを追ふこと六百里。諸將、張袞に因つて珪に言つて曰はく、『賊遠く

糧盡く。早く還るに如かず』と。珪、諸將に問ふ、『若し副馬を殺し、

三日の食と爲さば、足らんか』と。皆曰はく、『足らん』と。乃ち復た道

を倍して之を追ひ、大磧の南牀山の下に及び、大に之を破り、其の半部を

虜にす。匹候跋及び別部の帥屋擊、各餘衆を收めて遁れ走る。珪、長孫

嵩・長孫肥を遣はして之を追はしむ。珪、將佐に謂つて曰はく、『卿が曹、吾が前に三日の糧を問ひ

し意を知るや』と。曰はく、『知らざるなり』と。珪曰はく、『柔然、畜産を驅りて犇走すること數日、

水に至れば必ず留まる。我、輕騎を以て之を追はば、其の道里・三日に過ぎずして之に及ばんと計り

しなり』と。皆曰はく、『及ぶ所に非ざるなり』と。嵩追うて屋擊を平望川に斬る。肥、匹候跋を

追うて、涿邪山に至る。匹候跋、衆を擧げて降る。緄紇提の子曷多汗・兄の子社輪解律等宗黨數百人

衆を雲中に従す。緄紇提、將に劉衛辰に奔らんとす。珪追うて之に及ぶ。緄紇提も亦降る。珪悉く其の部

を獲たり。翟遼・卒す。子釗代りて立ち、定鼎と改元し、燕の鄴城を攻む。燕の遼西王農、擊ちて之を却く。

三河王光、兵を遣はし、虚に乗じて金城王乾歸を伐つ。乾歸、之を聞

き、兵を引ききて歸る。光の兵も亦退く。

劉衛辰、子直力鞬を遣はし、衆八九萬を帥ゐて、魏の南部を攻めしむ。

十一月己卯、魏王珪、兵五六千人を引ききて之を拒ぐ。壬午、大に直力鞬

を鐵岐山の南に破る。直力鞬、單騎にて走る。勝に乗じて之を追ふ。

戊子、五原の金津より南して河を濟り、徑に衛辰の國に入る。衛辰の部

落駭き亂る。辛卯、珪、直に其の居る所の悅跋城に抵る。衛辰父子出

で走る。壬辰、諸將を分遣し、輕騎をもて之を追はしむ。將軍伊謂、直力

鞬を木根山に禽にす。衛辰、其の部下の殺す所と爲る。十二月、珪、鹽

池に軍す。衛辰の宗黨五千餘人を誅し、皆、尸を河に投ず。河より以南、諸部悉く降る。馬三十

餘萬匹・牛羊四百餘萬頭を獲たり。國用、是に由りて遂に饒なり。衛辰の少子勃勃、亡げて薛于部に

犇る。珪、人をして之を求めしむ。薛于部の帥太悉仗、勃勃を出し、以て使者に示して曰はく、『勃

勃勃、人をして之を求めしむ。薛于部の帥太悉仗、勃勃を出し、以て使者に示して曰はく、『勃

〔一〕 虚に乗ず。其の没奔干を伐つの虚に乗ずる也。

〔二〕 鐵岐山。今の内蒙古オルドス内。

〔三〕 金津は、當に五原郡の宜梁・九原二縣の間に在るべし。

〔四〕 悅跋城。即ち代來城なり。

〔五〕 鹽池。今の甘肅省寧夏道鹽池縣。

〔六〕 元年に衛辰が秦の兵を藉りて代を滅ぼしし怨に報ゆるなり。

勃、國破れ家亡び、窮を以て我に歸す。我、寧ろ之と俱に亡ぶるも、何ぞ執へて以て魏に與ふるに忍びんや」と。乃ち勃を没奔干に送る。没奔干、女を以て之に妻す。

戊申、燕主垂、魯口に如く。

秦主登、安定を攻む。後秦主萇、陰密に如き、以て之を拒ぐ。太子興に

謂つて曰はく、「苟隴、吾、北行すと聞かば、必ず來りて汝を見ん。汝、

執へて之を誅せよ」と。隴果して興を長安に見る。興、尹緯をして讓めて

之を誅せしむ。萇、登を安定の城東に敗る。登退き、路承堡に據る。萇、

酒を置きて高會す。諸將皆曰はく、「若し、魏の武王に値はば、此の賊を

して今に至らしめざりしならん。陛下は、將宰、ただ過ぐるのみ」と。

萇笑つて曰はく、「吾、亡兄に如かざること、四つ有り。身の長八尺五寸、

臂垂れて膝を過ぎ、人望みて之を畏るるは、一なり。十萬の衆を將ゐて、

天下と衡を争ひ、塵を望みて進み、前に横陳無きは、二なり。古を温ねて今を知り、道藝を講論し、

英雋を收羅するは、三なり。大衆を董帥し、上下咸悦び、人、死力を盡すは、四なり。(吾) 功業を建

立し羣賢を驅策するを得る所以は、正に、算略の中に片長有るを望むのみ」と。羣臣、咸、萬歳と稱

卷の第一一八

晉紀三十

烈宗孝武皇帝下

太元十七年、春正月己巳朔、大赦す。

秦主登、昭儀隴西の李氏を立てて皇后と爲す。

二月壬寅、燕主垂、魯口より、河間・渤海・平原に如く。翟釗、其の將翟

都を遣はして館陶を侵さしむ。蘇康壘に屯す。三月、垂、兵を引き、

南して釗を撃つ。

秦の驃騎將軍没奔干、衆を帥ゐて後秦に降る。後秦、以て車騎將軍と爲

し、高平公に封ず。

後秦主萇、疾に寝ね、姚碩德に命じて李潤に鎮せしめ、尹緯をして長安

を守らしめ、太子興を召して、行營に詣らしむ。征南將軍姚方成、興に言つて曰はく、「今、寇敵未

晉烈宗孝武皇帝太元十七年

五八三

【一七】 北行。長安より陰密に行
くは、北行たり。
【一八】 路承堡。今の甘肅省涇原
道鎮原縣に在り。路承は人の
姓名、堡を築きて自ら守る、
因つて以て名と爲す。
【一九】 魏の武王。姚萇、僭號し、
兄襄に追諡して魏の武王と爲
す。
【二〇】 將宰。先づ自ら固くして
妄に動かざるをいふ。

【一】 太元十七年。西紀三九二
年。
【二】 蘇康壘。今の山東省東臨
道館陶縣に在り。蘇康といふ
人名によつて名づけしなり。
【三】 行營。萇、時に安定に屯
す。

だ滅びず、上復た疾に寢ぬ。王統等、皆、部曲有り、終に人の患を爲さん。宜しく盡く之を除くべし』
と。興、之に従ひ、王統・王廣・苻胤・徐成・毛盛を殺す。冀怒りて曰はく、『王統兄弟は、吾の州里
(八)にして、實に他志無し。徐成等は、皆、前朝の名將にして、吾方に之を用ふ。奈何ぞ輒ち之を殺
すや』と。

燕主垂、進みて蘇康壘に逼る。夏四月、翟都、南して滑臺に走り、翟釗、救を西燕に求む。西燕主永、
羣臣に謀る。尙書郎渤海の鮑遵曰はく、『兩寇をして相弊れしめ、吾、其の後を承けん。此れ下莊子
の策なり』と。中書侍郎太原の張騰曰はく、『垂は彊く釗は弱し。何の弊
をか之れ承けん。速かに之を救ひ、以て鼎足の勢を成すに如かず。今、我、
兵を引きて中山に趨き、晝は疑兵を多くし、夜は火炬を多くせば、垂必ず懼れて自ら救はん。我、其
の前を衝き、釗其の後を躡まん。此れ天授の機なり。失ふ可からざるなり』と。永、從はず。

【四】王統等は皆苻氏の舊臣なり。

燕・大赦す。

五月丁卯朔、日、之を食する有り。

六月、燕主垂、黎陽に軍す。河に臨み、濟らんと欲す。翟釗、兵を南岸に列し、以て之を拒ぐ。辛
亥、垂、營を徙して西津に就く。黎陽の西を去ること四十里。牛皮船百餘艘を爲り、僞りて兵仗を列
し、流に沂りて上る。釗亟かに兵を引きて西津に趨く。垂潛に中壘將軍桂林王鎮等を遣はし、黎陽

の津より夜濟り、河南に營せしむ。明くるに比びて營成る。釗、之を聞き、亟かに還り、鎮等の營を
攻む。垂、鎮等に命じ、壁を堅くして、戰ふ勿からしむ。釗の兵、往來、疲喝し、營を攻むれども、
抜く能はず。將に引き去らんとす。鎮等、兵を引きて出で戰ふ。驃騎將軍農、西津より濟り、鎮等と
夾み撃ち、大に之を破る。釗走り、滑臺に還り、妻子を將る、遺衆を收め、北して河を濟り、白鹿
山に登り、險に憑りて自ら守る。燕の兵、進むを得ず。農曰はく、『釗は糧無し。久しく山中に居る
能はざらん』と。乃ち兵を引きて還り、騎を留めて之を候はしむ。釗果し
て山を下り、兵を還して掩撃し、盡く其の衆を獲たり。釗、單騎にて長
子に犇る。西燕主永、釗を以て車騎大將軍・兗州の牧と爲し、東郡王に封
す。歲餘にして、釗、反を謀る。永、之を殺す。初め郝晷・崔逞及び清河
の崔宏・新興の張卓・遼東の夔騰・陽平の路纂、皆、秦に仕へ、秦の亂を避
けて來犇す。詔して、以て冀州の諸郡と爲す。各部曲を將る、河南に營す。既にして翟氏の官爵
を受く。翟氏敗るるや、皆、燕に降る。燕主垂、各、其の材に隨つて之を用ふ。釗が統ぶる所の七郡、
三萬餘戸、皆按堵すること故の如し。章武王宙を以て兗豫二州の刺史と爲し、滑臺に鎮せしめ、徐
州の民七千餘戸を黎陽に徙し、彭城王脱を以て徐州の刺史と爲し、黎陽に鎮せしむ。脱は垂の弟の
子なり。垂、崔蔭を以て宙の司馬と爲す。初め陳留王紹、鎮南將軍と爲り、太原王楷、征西將軍と爲

【五】喝。警さに中る也。
【六】白鹿山。今の河南省河北道輝縣にあり。
【七】徐州の民。蓋し翟釗の掠むる所の者たり。

り、樂浪王温、征東將軍と爲る。垂、皆、蔭を以て之が佐と爲す。蔭、才幹明敏、強正にして規諫を善くす。四王、皆、之を嚴憚す。至る所、刑法を簡にし、賦役を軽くす。流民、之に歸し、戸口、滋息す。秋七月、垂、鄴に如く。太原王楷を以て冀州の牧と爲し、右光祿大夫餘蔚を左僕射と爲す。

秦主登、後秦主苻の疾病なりと聞き、大に喜び、世祖の神主に告祠し、大赦し、百官、位二等を進め、馬に秣かひ兵を厲ぎ、進みて安定に逼る。城を去ること九十餘里。八月、苻、疾小しく瘳え、出でて之を拒ぐ。登、兵を引ききて營を出で、將に逆へ戦はんとす。苻、安

南將軍姚熙隆を遣はし、別に秦の營を攻めしむ。登懼れて還る。苻、夜、兵を引ききて旁出し、以て其の後を躡む。旦にして候騎告げて曰はく、「賊

の諸營已に空しく、向ふ所を知らず」と。登驚きて曰はく、「彼は何人たるか。去るときは我をして知らざらしめ、來るときは我をして覺らざらしめ、其れ將に死せんとすと謂へるに、忽然として復た來れり。朕、此の羌と世を同じうす。何ぞ其れ厄なるや」と。登遂に雍に還る。苻も亦安定に還る。

三河王光、其の弟、右將軍寶等を遣はして、金城王乾歸を攻めしむ。寶及び將士、死する者萬餘人。又、其の子虎賁中郎將纂を遣はして南羌の彭奚念を撃たしむ。纂も亦敗れて歸る。光自ら將として奚念を枹罕に撃ち、之に克つ。奚念、甘松に奔る。

冬十月辛亥、荊州の刺史王忱卒す。雍州の刺史朱序、老病を以て、職を解かんことを求む。詔して、太子右衛率郗恢を以て雍州の刺史と爲し、序に代りて襄陽に鎮せしむ。恢は、曇の子なり。巴蜀の人、關中に在る者、皆、後秦に叛き、弘農に據り、以て秦に附く。秦主登、寶衝を以て左丞相と爲す。衝徙りて華陰に屯す。郗恢、將軍趙睦を遣はして金墉を守らしむ。河南の太守楊佺期、衆を帥りて湖城に軍し、衝を撃ちて之を走らす。

十一月癸酉、黃門郎殷仲堪を以て、都督荆益寧三州諸軍事・荊州の刺史と爲し、江陵に鎮せしむ。仲堪、英譽有りと雖も、資望猶は淺し。議者、以て、允と爲さず。官に到るや、好みて小惠を行ひ、綱目擧らず。南郡公、桓玄、其の才地を負み、雄豪を以て自ら處る。朝廷疑つて、用ひ

ず。年二十三、始めて太子の洗馬に拜す。玄、嘗て琅邪王道子に詣る。其の酣醉に値ふ。(道)目を張りて衆客に謂つて曰はく、「桓温、晩塗、賊と作らんと欲せしは、云何」と。玄、地に伏して汗を流し、起つ能はず。是に由りて、益、自ら安んぜず、常に道子に切齒す。後出でて義興の太守に補せられ、鬱鬱として、志を得ず、歎じて曰はく、「父は九州の伯と爲り、兒は五湖の長と爲る」と。遂に官を棄てて國に歸る。上疏して自ら訟へて曰はく、「先臣が勤王匡復の勳をば、朝廷、之を遺る。

- 【一】 郗恢は一百卷穆帝昇平二年に見ゆ。
- 【二】 允。當る也。適任。
- 【三】 桓玄。桓温の子なり。
- 【四】 才地。才能と門地。
- 【五】 晩塗。晩年。

臣復た計らず。(二六)先帝龍飛し・陛下・明を繼ぐに至りては、談者に請ひ問ふ、誰に之れ由るや」と。疏寝めて・報せられず。玄、江陵に在り、仲堪甚だ之を敬憚す。桓氏は、累世、荊州に臨み、玄復た豪横なり。士民、之を畏るること、仲堪よりも過ぎたり。嘗て仲堪の(二七)聽事の前に於て、(二八)馬に戯るに稍を以てし、仲堪に擬す。仲堪の中兵參軍彭城の劉邁、玄に謂つて曰はく、『馬稍は餘り有れども、精理足らず』と。玄悦ばず。仲堪、之が爲めに色を失ふ。玄出づ。仲堪、邁に謂つて曰はく、『卿は狂人なり。玄、夜(人ヲ)卿を殺さしむとも、我豈に能く相救はんや』と。邁をして(二九)都に下りて之を避けしむ。玄(果シ)人をして之を追はしむ。邁、僅にして・免るを獲たり。征虜の參軍豫章の胡藩、江陵に過り、仲堪を見、之に説きて曰はく、『桓玄は志趣常ならず、毎に職を失ふに怏怏たり。節下、崇待すること太た過ぐるば、恐らくは將來の計に非ざらん』と。仲堪悦ばず。

藩の(三〇)内弟羅企生、仲堪の功曹たり。藩退きて企生に謂つて曰はく、『殷侯は、戈を倒にして以て人に授く。必ず禍に及ばん。君、早く去就を圖らずんば、後に悔ゆとも及ぶ無からん』と。庚寅、皇子德文を立てて琅邪王と爲し、琅邪王道子を従して會稽王と爲す。

十二月、燕主垂、中山に還り、遼西王農を以て、都督兗豫荆徐雍五州諸軍事と爲し、鄴に鎮せしむ。

【二六】 桓温が海西公を廢して簡文帝を立て、而して帝、統を繼ぐをいふ。
 【二七】 聽事。廳事。役所。
 【二八】 稍は長さ一丈八尺のほこ也。稍を擧げて、馬に向ひ、將にこれを刺さんとするが若くす。
 【二九】 都。建康をいふ。
 【三〇】 内弟。宋書胡藩傳には、外弟に作る。従ふ可し。

(三一) 休官の權千成、(三二)顯親に據り、自ら秦州の牧と稱す。清河の人李暹、上表し、兖州に敕して・孔子の廟を脩め・戶を給して灑掃せしめ・仍て庠序を立て・學者を收教せんことを請うて曰はく、『事、賒なるが如くにして寔に急なる者有りとは、此の謂なり』と。表、省せられず。

十八年、春正月、燕の陽平の孝王柔・卒す。權千成、秦の逼る所と爲り、降を金城王乾歸に請ふ。乾歸、以て東秦州の刺史・休官大都統・顯親公と爲す。

夏四月庚子、燕主垂、太子寶に大單于を加へ、安定王庫偁官偉を以て太尉と爲し、范陽王德を司徒と爲し、太原王楷を司空と爲し、陳留王紹を尙書右僕射と爲す。五月、子熙を立てて河間王と爲し、朗を勃海王と爲し、曠を博陵王と爲す。

秦の右丞相竇衝、才に矜り人を尙ぎ、自ら・天水王に封せられんことを請ふ。秦主登、許さず。

六月、衝自ら秦王と稱し、元光と改元す。金城王乾歸、其の子熾磐を立てて太子と爲す。熾磐、勇略明決、其の父に過ぐ。

秋七月、秦主登、竇衝を野人堡に攻む。衝、救を後秦に求む。尹緯、後秦主苻苌に言つて曰はく、

【三一】 休官。雜夷の部落の名。
 【三二】 顯親。縣の名、故城は今の甘肅省渭川道天水縣の西北に在り。
 【三三】 野人堡。今の甘肅省渭川道天水縣に在り。

「太子は、仁厚の稱、遠近に著はるれども、英略未だ著はれず。請ふ（太子ヲ）苻登を撃ちて以て之を著はさしめん」と。苻、之に従ふ。太子興、兵を將ゐて胡空堡を攻む。登、衝の圍を解きて以て之に赴く。興因つて平涼を襲ひ、大に獲て歸る。苻、興をして還りて長安に鎮せしむ。

魏王珪、薛干太悉伏が劉勃勃を送らざりしを以て、八月、其の城を襲ひ、之を屠る。太悉伏、秦に犇る。

氏帥楊佛嵩、叛きて後秦に犇る。楊佺期・趙睦、之を追ふ。九月丙戌、佛嵩を潼關に敗る。後秦の將姚崇、佛嵩を救ひ、晉の兵を敗る。趙睦・死す。

冬十月、後秦主苻、疾甚だしく、長安に還る。

燕主垂、西燕を伐たんと議す。諸將皆曰はく、「永は未だ釐有らず。我は連年征討し、士卒疲弊せり。未だ可ならざるなり」と。范陽王德曰はく、「永は既に國の枝葉にして、又、位號を僭擧し、民の視聽を惑はす。宜しく先づ之を除き、以て民心を壹にすべし。士卒、疲ると雖も、庸ぞ已むを得んや」と。垂曰はく、「司徒の意、正に吾と同じ。吾、老ゆるに比べども、囊底の智を叩かば、以て之を取るに足らん。終に復た此の賊を留めて以て子孫を累はさざるなり」と。遂に戒嚴す。十一月、垂、中山を發す。歩騎七萬。鎮西將軍丹楊王・纘・龍・驤將軍張崇を遣

- 【一】 稱。名稱。名聲。
- 【二】 平涼。苻登、大界の敗り、平涼を以て根據地と爲す。
- 【三】 事、前卷十六年に見ゆ。
- 【四】 纘。當に瓚に作るべし。

はし、井陘に出で、西燕の武郷公友を晉陽に攻めしめ、征東將軍平規をして、（西燕）鎮東將軍段平を沙亭に攻めしむ。西燕主永、其の尙書令刁雲・車騎將軍慕容鍾をして、衆五萬を帥ゐて潞川を守らしむ。友は永の弟なり。十二月、垂、鄴に至る。

己亥、後秦主苻、太尉姚弋・僕射尹緯・姚晃・將軍姚大目・尙書狄伯支を召し、禁中に入り、遺詔を受け、政を輔けしむ。苻、太子興に謂つて曰はく、「此の諸公を毀る者有りとも、慎んで之を受くる勿

- 【六】 沙亭。鄴の西南に在り。今の直隸省大名道大名縣に在り。
- 【七】 苻卒するとき、年六十四。
- 【八】 易世。代がはり。
- 【九】 碩德はもと兵を隴城に起し、冀城に據る。

かれ。汝、骨肉を撫するに恩を以てし、大臣に接するに禮を以てし、物を待するに信を以てし、民を遇するに仁を以てせよ。四つの者失はずんば、吾、憂無し」と。姚晃、涕を垂れて、苻登を取るの策を問ふ。苻曰はく、「今、大業、成るに垂なんとし、興の才智、辨するに足る。奚んぞ復た問ふ所あらん」と。庚子、苻卒す。興、秘して喪を發せず、其の叔父緒を以て安定に鎮せしめ、碩德をして陰密に鎮せしめ、弟崇をして長安を守らしむ。或るひと碩德に謂つて曰はく、「公の威名素より重く、部曲最も彊し。今、易世の際、必ず朝廷の疑ふ所と爲らん。且く秦州に犇り事勢を觀望するに如かず」と。碩德曰はく、「太子は志度寛明なり。必ず他慮無からん。今、苻登未だ滅びざるに、骨肉相攻むるは、是れ自ら亡ぼすなり。吾、死する有らんのみ、終に爲さざるなり」と。遂に往きて興に見ゆ。興、優禮して之を遣る。興自ら大

將軍と稱し、尹緯を以て長史と爲し、狄伯支を司馬と爲し、衆を帥めて秦を伐つ。

十九年、春(脛)、秦主登、後秦主苻・卒すと聞き、喜んで曰はく、『姚興は小兒なり。吾、折杖をもて之を笞うたんのみ』と。乃ち大赦し、衆を盡して東し、司徒安成王廣を留めて雍を守らしめ、太子崇をして胡空堡を守らしめ、使を遣はして金城王乾歸を拜して左丞相・河南王と爲し、秦梁益涼沙五州の牧を領せしめ、九錫を加ふ。

初め禿髮思復鞬・卒し、子烏孤立つ。烏孤、雄勇にして大志有り、大將紛陀と、涼州を取らんと謀る。紛陀曰はく、『公、必ず涼州を得んと欲せば、宜しく先づ農を務め武を講じ、俊賢を禮し、政刑を修むべし。然る後可なり』と、烏孤、之に従ふ。三河王光、使を遣はして烏孤を冠軍大將軍・河西鮮卑大都統に拜す。烏孤、其の羣下と之を謀りて曰はく、『受く可きか』と。皆曰はく、『吾が士馬衆多なり。何爲れぞ人に屬せん』と。石真若留・對へず。烏孤曰はく、『卿、呂光を畏るるか』と。石真若留曰はく、『吾、根本未だ固からず、小大、敵に非ず。若し光、死を我に致さば、何を以てか之を待たん。受けて以て之を驕らし、釁を俟ちて動くに如かず。克たざる蔑からん』と。烏孤乃ち之を受く。

二月、秦主登、屠各の姚奴・帛蒲の二堡を攻め、之に克つ。燕主垂、清河公會を留めて鄴に鎮せしめ、司・冀・青・兗の兵を發し、太原王楷を遣はして滏口に出しめ、遼西王農をして壺關に出しめ、垂自ら沙庭に出で、以て西燕を撃つ。趣く所を標榜し、軍各頓に就く。西燕主永、之を聞き、兵を嚴し、道を分ちて拒ぎ守り、糧を臺壁に聚め、從子征東將軍小逸豆歸・鎮東將軍王次多・右將軍勒馬駒を遣はし、衆萬餘人を帥めて之を成らしむ。

夏(卯)、秦主登、六陌より、廢橋に趣く。後秦の始平の太守姚詳、馬嵬堡に據り、以て之を拒ぐ。太子興、尹緯を遣はし、兵を將めて詳を救はしむ。緯、廢橋に據り、以て秦を待つ。秦の兵、水を争へども、得る能はず、渴死する者什に二三。因つて急に緯を攻む。興、狄伯支を馳せ遣はして緯に謂つて曰はしむ、『苻登は窮寇なり、宜しく持重して以て之を挫くべし』と。緯曰はく、『先帝登遐し、人情擾れ懼る。今、奮はんと思ふの力に因りて以て敵を禽にせずんば、大事去りなん』と。遂に秦と戰ふ。秦の兵大に敗る。其の夜、秦の衆潰ゆ。登、單騎にて雍に犇る。太子崇及び安成王廣、敗を聞き、皆、城を棄てて走る。登至り、歸す。

- 【一】 呂光を并せんと欲するなり。
- 【二】 我は小にして、彼は大にして、遂に懸隔するをいふ。敵は匹敵なり。
- 【三】 姚奴帛蒲。二堡は胡空堡の東に在り。
- 【四】 沙庭。當に沙亭に作るべし。其の地、鄴の西南に在り。
- 【五】 趣く所云云。兵を分置して以て敵をして疑はしめ、備ふべき所を知らざらしむるなり。頓は屯と通ず。
- 【六】 臺壁。今の山西省冀寧道潞城縣に在り。
- 【七】 六陌。今の陝西省關中道乾縣に在り。
- 【八】 登遐。崩御する也。
- 【九】 平涼。今の甘肅省涇原道平涼縣。

る所無し。乃ち平涼に犇り、遺衆を收集し、馬毛山に入る。

燕主垂、軍を鄴の西南に頓し、月餘まで進まず。西燕主永、之を怪しみ、以爲へらく、太行の道寛

なり、疑ふらくは垂、詭道をもて之を取らんと欲するならんと。乃ち悉く諸軍を斂め、軹關に屯し、

太行の口を杜ぎ、惟だ臺壁の一軍を留む。甲戌、垂、大軍を引きて滏口に

出で、天井關に入る。五月乙酉、燕の軍、臺壁に至る。永、從兄太尉大

逸豆歸を遣はして之を救はしむ。平規撃ちて之を破る。小逸豆歸出でて戰

ふ。遼西王農、又撃ちて之を破り、勒馬駒を斬り、王次多を禽にし、遂に

臺壁を圍む。永、太行の軍を召して還らしめ、自ら精兵五萬を將ゐ、以て

之を拒ぐ。刁雲、慕容鍾、震ひ怖れ、衆を帥ゐて燕に降る。永、其の妻子

を誅す。己亥、垂、臺壁の南に陳し、驍騎將軍慕容國を遣はし、千騎を澗

下に伏せしむ。庚子、永と合戦す。垂僞り退く。永の衆、之を追ふ。行く

こと數里、國の騎、澗中より出で、其の後を斷つ。諸軍、四面より俱に進

み、大に之を破る。斬首八千餘級。永走りて長子に歸る。晉陽の守將、之を聞き、城を棄てて走る。

丹楊王瓚等、進みて晉陽を取る。

後秦の太子 興、始めて喪を發し、皇帝の位に 槐里に即く。大赦し、皇初と改元す。遂に安定

に如く。後秦主叢を諡して武昭皇帝と曰ひ、廟を太祖と號す。

六月壬子、會稽王の太妃鄭氏を追尊して簡文宣太后と曰ふ。羣臣謂へらく、宣太后は、應に元帝に

配食すべしと。太子の前率徐邈曰はく、『宣太后は、平素の時、先帝

に伉儷たらず。子孫に至りて、豈に祖考の爲めに配を立つ可けんや』と。

國學明教東莞の臧熹曰はく、『今、尊號既に正しきは、則ち 罔極の情申

ぶるなり。別に寢廟を建つるは、則ち 嚴禰の義顯るるなり、子を繫

けて稱と爲すは、兼ねて(母) 貴きの由る所を明かにするなり。一舉して

三義に允る。亦善からずや』と。乃ち廟を太廟の路西に立つ。

燕主垂、軍を進めて 長子を圍む。西燕主永、後秦に犇らんと欲す。

侍中蘭英曰はく、『昔、石虎、龍都を伐つや、太祖、堅く守りて、去ら

ず、卒に大燕の基を成せり。今、垂は七十の老翁にして、兵革を厭苦す。

終に、兵を頓むること連歲、以て我を攻むる能はざらん。但だ當に城守して

以て之を疲らすべし』と。永、之に従ふ。

秦主登、其の子汝陰王宗を遣はし、河南王乾歸に質と爲し、以て救を請

ひ、乾歸を梁王に進め封じ、其の妹を納れて梁王の后と爲す。乾歸、前軍將軍乞伏益州等を遣はし、

晉烈宗孝武皇帝太元十九年

五九五

〔一〇〕 馬毛山。また馬髦山とも曰ふ。甘肅省涇原道舊平涼府内にあり。蓋し平涼の險要の處なり。

〔一一〕 天井關。今の山西省翼寧道鳳臺縣に在り。

〔一二〕 興。字は子略、叢の長子なり。

〔一三〕 槐里。縣の名、故城は今の陝西省關中道興平縣の東南に在り。興既に苻登を破り、始めて喪を發し位を襲ぐ。

〔一四〕 平素の時云云。存命中、正妃に非ざるを言ふ。

〔一五〕 宋書臧熹傳には「明教」を「助教」に作る。

〔一六〕 罔極の情。亡き母を思ふの情極り無きこと。

〔一七〕 嚴禰。嚴は尊ぶ也、禰は父の廟をいふ。

〔一八〕 子を繫けて稱と爲す。簡文を宣太后の上に繫くるをいふ。

〔一九〕 春秋傳に曰はく、母は子を以て貴しと。

〔二〇〕 長子。今の山西省翼寧道長子縣。

〔二一〕 事、九十六卷晉の成帝咸康四年に見ゆ。

騎一萬を帥ゐて之を救はしむ。秋七月、登、兵を引き、出でて乾歸の兵を迎ふ。後秦主興、安定より涇陽に如き、登と山南に戦ひ、登を執へて之を殺し、悉く其の部衆を散じ、農業に歸せしめ、陰密の三萬戸を長安に徙し、李后を以て姚晃に賜ふ。益州等、之を聞き、兵を引きて還る。秦の太子崇、湟中に奔り、帝位に即き、延初と改元し、登を諡して高皇帝と曰ひ、廟を太宗と號す。後秦の安南將軍強熙、鎮遠將軍強多叛き、寶衝を推して主と爲す。後秦主興、自ら將として之を討つ。軍、武功に至る。多の兄の子良國、多を殺して降る。熙、秦州に奔り、衝、汧川に奔る。汧川の氏仇高、執らへて之を送る。

三河王光、子覆を以て都督玉門以西諸軍事、西域大都護と爲し、高昌に鎮せしめ、大臣の子弟に命じて之に隨はしむ。

八月己巳、皇太妃李氏を尊びて皇太后と爲し、崇訓宮に居らしむ。

西燕主永、困急し、其の子常山公弘等を遣はし、救を雍州の刺史郗恢に求め、并に玉璽一紐を獻す。恢、上言す、「垂若し永を并せば、患を爲すこと益深からん。兩つながら之を存するに如かず。以て機に乗じて雙つながら斃す可し」と。帝、以て然りと爲し、青兗二州の刺史王恭、豫州の刺史庾楷に詔して之を救はしむ。楷は亮の孫なり。永、晉の兵の出でざらんことを恐れ、又、其の太子亮を遣はし、來りて質と爲す。平規、亮を追ひ、高都に及び、之を獲たり。永、又、急を魏に告ぐ。魏王

【一】 山南。馬鬣山の南。
 【二】 登卒するとき、年五十二。
 【三】 汧川。今の陝西省關中道隴縣の地。
 【四】 高都。縣の名、今の山西省襄寧道嵐縣。

珪、陳留公虔、將軍庾岳を遣はし、騎五萬を帥る、東して河を渡り、秀容に屯し、以て之を救はしむ。虔は、紇根の子なり。晉、魏の兵皆未だ至らず。大逸豆歸の部將伐勤等、門を開きて燕の兵を内る。燕人、永を執へて之を斬り、并せて其の公卿大將刁雲、大逸豆歸等三十餘人を斬り、永の統ぶる所の八郡七萬餘戸、及び秦の乘輿服御、伎樂珍寶を得ること甚だ衆し。燕主垂、丹楊王瓚を以て并州の刺史と爲し、晉陽に鎮せしめ、宜都王鳳を雍州の刺史と爲し、長子に鎮せしむ。永の尙書僕射昌黎の屈遵、尙書陽平の王德、祕書監中山の李先、太子の詹事渤海の封則、黃門郎太山の胡母亮、中書郎張騰、尙書郎燕郡の公孫表、皆、才に隨つて擢叙せらる。九月、垂、長子より、鄴に如く。

冬十月、秦主崇、梁王乾歸の逐ふ所と爲り、隴西王楊定に奔る。定、司馬邵彊を留めて秦州を守らしめ、衆二萬を帥る、崇と共に乾歸を攻む。乾歸、涼州の牧軻彈、秦州の牧益州、立義將軍詰歸を遣はし、騎三萬を帥ゐて之を拒がしむ。益州、定と戦ひ、平州に敗る。軻彈、詰歸、皆引き退く。軻彈の司馬翟瑠、劔を奮ひて怒りて曰はく、「主上、雄武を以て基を開き、向ふ所敵無く、威、秦・蜀に振ふ。將軍、宗室を以て元帥の任に居る。當に力を竭し命を致し、以て國家を佐くべし。今、秦州、敗ると雖も、二軍尙ほ全し。奈何ぞ風を望みて退衄せんや。將た何の面ありて以て主上に見えんや。瑠、任無しと雖も、

【一】 秀容。此れ北秀容なり。今の山西省雁門道朔縣の西北に在り。
 【二】 紇根。一百四卷元年に見ゆ。
 【三】 平州。載記には平川に作る、當にこれに従ふべし。今の甘肅省西寧道碾伯縣。

獨り便宜を以て將軍を斬る能はざらんや」と。軻鞮・謝して曰はく、「向には未だ衆心の何如を知らざりしのみ。果して能く是の若くならば、吾、敢て死を愛まんや」と。乃ち騎を帥ゐて進み戰ふ。益州・詰歸も亦兵を勸して之に繼ぎ、大に定の兵を敗り、定及び崇を殺す。斬首萬七千級。乾歸、(三〇)是に於て盡く隴西の地を有つ。定、子無し。其の叔父佛狗の子盛、先に仇池を守り、自ら征西將軍・秦州の刺史・仇池公と稱し、定を誣して武王と爲し、仍て使を遣はして來りて藩と稱す。秦の太子宣、盛に犇る。氏羌を分ちて二十部と爲し、護軍各鎮戍を爲し、郡縣を置かず。

燕主垂、東して陽平・平原を巡り、遼西王農に命じて、河を濟り、安南將軍尹國と與に、地を青・兗に略せしむ。農は廩丘を攻め、國は陽城を攻め、皆、之を拔く。東平の太守韋簡・戰死す。高平・泰山・琅邪の諸郡、皆、城を委て犇り潰ゆ。農、軍を進めて、海に臨み、徧く守宰を置く。

(三一)柔然の曷多汗、其の父を棄て、社論と與に、衆を率ゐて西に走る。魏の長孫肥、之を追ひ、上郡の跋那山に及び、曷多汗を斬る。社論、其餘衆數百を收め、疋候跋に犇る。疋候跋、之を南鄙に處く。社論、疋候跋を襲ひ、之を殺す。疋候跋の子啓跋・吳頡等、皆、魏に犇る。社論、五原以西の諸部を掠め、走りて漠北を度る。

十一月、燕の遼西王農、辟閭渾を龍水に敗り、遂に臨淄に入る。十二月、燕主垂、農等を召して還らしむ。

(三二)秦主興、使を遣はして燕と好を結び、并に太子寶の子敏を燕に送る。燕、敏を封じて河東公と爲す。

梁王乾歸、自ら秦王と稱し、大赦す。

二十年、春正月、燕主垂、散騎常侍封則を遣はし、秦に報聘す。遂に平原より、廣川・勃海・長樂に狩して歸る。

西秦王乾歸、太子熾磐を以て尙書令を領せしめ、左長史邊芮を左僕射と爲し、右長史祕宜を右僕射と爲し、官を置くこと、皆、魏武・晉文の故事の如し。然れども猶ほ大單于・大將軍と稱し、邊芮等、府佐を領すること故の如し。

薛干の太悉伏、長安より、亡げて嶺北に歸る。上郡以西の鮮卑・雜胡、皆、之に應ず。

二月甲寅、尙書令陸納・卒す。

三月庚辰朔、日、之を食する有り。

〔三〇〕龍水。今の山東省膠東道益都縣に在り。

〔三一〕是の歲、前秦滅ぶ。通鑑始めて後秦を書して秦と爲す。

〔三二〕此れより以後、史、西秦と稱してこれを別つ。

〔三三〕太悉伏は、十八年、秦に奔る。

〔三四〕嶺北。九峻嶺の北をいふ。

皇太子、出でて東宮に就き、丹陽の尹王雅を以て少傅を領せしむ。時に會稽王道子、權を専らにして奢縱なり。嬖人趙牙は、本、倡優に出で、茹千秋は、本、錢唐の捕賊吏にして、皆、諂賂を以て進むを得たり。道子、牙を以て魏郡の太守と爲し、千秋を驃騎の諮議參軍と爲す。牙、道子の爲めに東第を開き、山を築き池を穿ち、功用鉅萬なり。帝嘗て其の第に幸し、道子に謂つて曰はく、『府内に乃ち山有るは、甚だ善し。然れども修飾太だ過ぎたり』と。道子、以て對ふる無し。帝去り、道子、牙に謂つて曰はく、『上若し山は是れ人力の爲す所なるを知らば、爾必ず死せん』と。牙曰はく、『公在す。牙何ぞ敢て死せん』と。營作すること彌甚だし。千秋、官を賣り權を招き、貨を聚むること累億なり。博平の令吳興の聞人爽、上疏して之を言ふ。帝益、道子を惡む。而れども太后に逼られ、廢黜するに忍びず。乃ち時望及び親幸する所の王恭・郗恢・殷仲堪・王珣・王雅等を擢で、内外の要任に居らしめ、以て道子を防ぐ。道子も亦、王國寶及び國寶の從弟なる琅邪の内史緒を引き、以て心腹と爲す。是に由りて、朋黨競ひ起り、復た曩時の友愛の驩無し。太后毎に之を和解す。中書侍郎徐邈、從容として帝に言つて曰はく、『漢文は明主なれども、猶ほ淮南に悔い、世祖は聰達なれども、齊王に負愧せり。兄弟の際は、實に深愼と爲す。會稽王、酣蝶の累有りと雖も、宜しく』

- 【三】 錢唐。縣の名、今の浙江省錢塘道杭縣の地。
- 【四】 博平。縣の名、平原郡に屬す。江左、魏郡に屬し、郡と皆僞置す。
- 【五】 淮南の事は、十四卷漢の文帝六年に見ゆ。
- 【六】 齊王の事は、八十一卷武帝太康四年に見ゆ。
- 【七】 弘貨。度量寛大にして人の過失を宥恕すること。

弘貨を加へ、羣議を消散し、外は國家の計を爲し、内は太后の心を慰むべし』と。帝、之を納れ、復た道子に委任すること故の如し。

初め楊定の死するや、天水の姜乳、襲うて上邽に據る。夏四月、西秦王乾歸、乞伏益州を遣はし、騎六千を帥ゐて之を討たしむ。左僕射邊芮・民部尙書王松壽曰はく、『益州は屢勝ちて驕る。専ら任す可からず。必ず、敵を輕んずるを以て敗を取らん』と。乾歸曰はく、『益州は驍勇にして、諸將、及ぶもの莫し。當に重佐を以て之を輔くべきのみ』と。乃ち平北將軍韋虔を以て長史と爲し、左禁將軍務和を司馬と爲す。大寒嶺に至る。益州、部伍を設けず、將士に聽して遊畋縱飲せしめ、令して曰はく、『敢て軍事を言ふ者は、斬らん』と。虔等諫むれども聽かず。乳逆へ擊ち、大に之を破る。

- 【八】 大寒嶺。上邽の西に在り。今の甘肅省渭川道天水縣に在り。
- 【九】 代王什翼犍、ふたたび慕容に娶り、皆、早く卒す。哀帝の隆和元年、什翼犍、女を燕に納れ、燕、又、女を以てこれに妻す。
- 【一〇】 事、一百六卷十一年、及び一百七卷十二年に見ゆ。
- 【一一】 事、前卷十六年に見ゆ。

魏王珪、燕に叛き、附塞の諸部に侵し逼る。五月甲戌、燕主垂、太子寶・遼西王農・趙王麟を遣はし、衆八萬を帥ゐて、五原より魏を伐たしめ、范陽王德・陳留王紹をして、別に歩騎萬八千を將ゐて後繼を爲さしむ。散騎常侍高湖諫めて曰はく、『魏は燕と、世、昏姻を爲し、彼、内難有るや、燕、實に之を存せり。其の德を施すこと厚く、好を結ぶこと久し。間、馬を求めて、獲ざるを以てして、其の弟を留む。曲、我に在り。柰何ぞ遽に』

兵を興して之を撃たん。拓跋珪は、沈勇にして謀有り、幼にして艱難を歴、兵精しく馬彊し。未だ輕んじ易からざるなり。皇太子は、春秋に富み、志果に氣銳なり。今、之に委ねて専ら任せば、必ず魏を小として之を易らん。萬一、欲する所の如くならずんば、威を傷り重きを毀はん。願はくは陛下、深く之を圖れ」と。言頗る激切なり。垂怒り、湖の官を免す。湖は泰の子なり。

六月癸丑、燕の太原の元王楷卒す。

西秦王乾歸、西城に遷る。

秋七月、三河王光、衆十萬を帥ゐて西秦を伐つ。西秦の左輔密貴周、左衛將軍莫者殺抵、西秦王乾歸に勸めて、藩と光に稱し、子救勃を以て質と爲さしむ。光、兵を引ききて歸る。乾歸、之を悔い、周及び殺抵を殺す。

魏の張袞、燕の軍將に至らんとすと聞き、魏王珪に言つて曰はく、「燕、滑臺・長子の捷に狂れ、國の資力を竭して以て來り、我を輕んずるの心有り。宜しく羸形以て之を驕らすべし。乃ち克つ可からん」と。珪、之に従ひ、悉く部落畜産を徙し、西して河を渡ること千餘里、以て之を避く。燕の軍、五原に至り、魏の別部三萬餘家を降し、稜田百餘萬斛を收め、黑城に置き、軍を進めて河に臨み、船を造り濟具を爲る。珪、右司馬許謙を遣はし、師を秦に乞ふ。

秃髮烏孤、乙弗・折掘等の諸部を撃ち、皆破りて之を降し、廉川堡を築きて之に都す。廣武の趙振、少くして奇略を好む。烏孤が廉川に在るを聞き、家を棄てて之に従ふ。烏孤喜んで曰はく、「吾、趙生を得たり。大事濟らん」と。左司馬に拜す。三河王光、烏孤を封じて廣武郡公と爲す。

長星有り見はれ、須女より哭星に至る。帝、心に之を惡み、華林園に於て、酒を擧げて之を祝して曰はく、「長星、汝に一盃の酒を勸む。古より、何ぞ萬歲の天子有らんや」と。

八月、魏王珪、兵を河南に治め、九月、軍を進めて河に臨む。燕の太子寶、兵を列ねて將に濟らんとす。暴風起り、其の船數十艘を漂はし、南岸に泊す。魏、其の甲士三百餘人を獲、皆、釋して之を遣る。寶が中山を發するや、燕主垂、已に疾有り。既に五原に至るや、珪、人をして中山の路に邀へしめ、其の使者を伺ひ、盡く之を執ふ。寶等、數月、垂の起居を聞かず。珪、執ふる所の使者をして、河に臨みて之に告げしめて曰はく、「若が父已に死せり。何ぞ早く歸らざる」と。寶等憂へ恐れ、士卒駭き動く。珪、陳留公虔をして、五萬騎を將ゐて河東に屯せしめ、東平公儀をして、十萬騎を將ゐて河北に屯せしめ、略陽公遵をして、七萬騎を將ゐて燕の軍の南を塞がしむ。遵は、壽鳩の子なり。秦主興、楊佛嵩を遣はし、兵を將ゐて魏を救

〔一六〕 乙弗・折掘の二部は、皆、秃髮氏の西に在り。
〔一七〕 廉川。湟中に在り。故城は今の甘肅省西寧道碾伯縣の東に在り。
〔一八〕 須女は二十八宿の一、揚州の分。虚・危の二宿は、死喪哭泣を主る。
〔一九〕 華林園。晉、建康に都し、洛都に倣うて華林園を起す。
〔二〇〕 壽鳩。一百四卷元年に見ゆ。

はしむ。燕の術士靳安、太子寶に言つて曰はく、「天の時、利あらず、燕必ず大に敗れん。速かに去らば、免る可し」と。寶、聽かず。安退きて人に告げて曰はく、「吾が輩、皆、當に尸を草野に棄て、歸るを得ざるべし」と。燕、魏相持すること積旬。趙王麟の將慕輿高等、垂を以て實に死せりと爲し、亂を作し麟を奉じて主と爲さんと謀る。事泄れ、嵩等皆死す。寶、麟等、内自ら疑ふ。冬十月辛未、船を燒きて夜遁る。時に河水未だ結ばず。寶以へらく、魏の兵必ず度る能はざらんと。斥候を設けず。十一月己卯、暴に風ふき氷合す。魏王珪、兵を引きて河を濟り、輜重を留め、精銳二萬餘騎を選び、急に之を追ふ。燕の軍、參合陂に至る。大風有り、黒氣、堤の如く、軍後より來り、軍上に臨み覆ふ。沙門支曇猛、寶に言つて曰はく、「風氣暴迅なるは、魏の兵將に至らんとするの候なり。宜しく兵を遣はして之を禦ぐべし」と。寶、魏の軍を去ること已に遠きを以て、笑つて應へず。曇猛固く請うて・已ます。麟怒つて曰はく、「殿下の神武と師徒の盛なるを以てせば、以て沙漠を横行するに足らん。索虜何ぞ敢て遠く來らんや。而るに曇猛、妄言して衆を驚かす。當に斬りて以て徇ふべし」と。曇猛泣いて曰はく、「苻氏、百萬の師を以て、淮南に敗れしは、正に、衆を待みて敵を輕んじ・天道を信せざりしに由るが故なり」と。司徒德、寶に勸めて曇猛の言に従はしむ。寶乃ち麟を遣はし、騎三萬を帥ゐて軍後に居らしめ、以て非常に備ふ。麟、曇猛を以て妄と爲し、騎を縱ちて遊獵し、肯て備を設けず。寶、

【三】 候。兆候なり。
【四】 苻氏の事、一百四卷五卷七年八年に見ゆ。

騎を遣はし、還つて魏の兵を誦はしむ。騎行くと十餘里、即ち鞍を解きて寢ぬ。魏の軍、晨夜兼行し、乙酉暮、參合陂の西に至る。燕の軍、陂の東に在り、蟠羊山南の水上に營す。魏王珪、夜、諸將を部分し、燕の軍を掩覆し、士卒、枚を衝み、馬口を束ね、潜に進む。丙戌、日出、魏の軍、山に登り、下、燕の營に臨む。燕の軍、將に東に引かんとし、顧みて之を見、士卒大に驚き擾亂す。珪、兵を縱ちて之を撃つ。燕の兵走りて水に赴き、人馬相騰りて躡壓し、溺死する者、萬を以て數ふ。略陽公遵、兵を以て其の前を邀ふ。燕の兵四五萬人、一時に仗を放ち、手を斂めて禽に就く。其の遺進して去る者、數千人に過ぎず。太子寶等、皆單騎にて僅に免る。燕の右僕射陳留の悼王紹を殺し、魯陽王倭奴・桂林王道成・濟陰公尹國等文武の將吏數千人を生禽し、兵甲糧貨、鉅萬を以て計る。道成は垂の弟の子なり。魏王珪、燕の臣の・才用有る者代郡の太守廣川の賈閏・閏の從弟驃騎の長史昌黎の太守彝・太史郎晁崇等を擇びて之を留め、其餘は、悉く衣糧を給して遣り還し、以て中州の人を招懷せんと欲す。中部の大人王建曰はく、「燕の衆は彊盛なり。今、國を傾けて來る。我、幸にして大に捷つ。悉く之を殺すに如かず。則ち其の國空虛にして、之を取らんこと易しと爲す。且つ寇を獲て之を縱すは、乃ち不可なる無からんや」と。乃ち盡く之を阬にす。十二月、珪、雲中の盛樂に還る。燕の太子寶、參合の敗を恥ち、更に魏を撃たんと請ふ。司徒德、

【三】 蟠羊山。今の山西省雁門道陽高縣に在り。
【四】 盛樂。縣の名、故城は歸化城の南に在り。即ち今の綏遠和林格爾縣の地。

燕主垂に言つて曰はく、「虜、參合の捷を以て、太子を輕んずるの心有り。宜しく陛下の神略に及びて以て之を服すべし。然らずんば、將に後の患を爲さんとす」と。垂乃ち清河公會を以て留臺の事を録し、幽州の刺史を領し、高陽王隆に代りて龍城に鎮せしめ、陽城王蘭汗を以て北中郎將と爲し、長樂公盛に代りて薊に鎮せしめ、隆・盛に命じて、悉く其の精兵を引きて中山に還らしめ、期するに明年を以てし、大舉して魏を撃たんとす。

是の歲、秦主興、其の叔父緒を封じて晉王と爲し、頌德を隴西王と爲し、弟崇を齊公と爲し、顯を常山公と爲す。

二十一年、春正月、燕の高陽王隆、龍城の甲を引きて、中山に入る。

軍容精整なり。燕人の氣稍振ふ。

休官の權萬世、衆を帥ゐて西秦に降る。

燕主垂、征東將軍平規を遣はし、兵を冀州に發せしむ。二月、規、博陵・武邑・長樂の三郡の兵を以て、魯口に反す。其の從子冀州の刺史喜、諫むれども・聽かず。規の弟海陽の令翰、亦、兵を遼西に起し、以て之に應ず。垂、鎮東將軍餘嵩を遣はして規を撃つ。嵩敗れて死す。垂自ら將として規を撃つ。魯口に至る。規、衆を棄て、妻子及び平喜等數十人を將ゐ、走りて河を渡る。垂、兵を引きて

【一】 前年、乞伏乾歸、秦王と稱す、故に西秦と稱し、以て姚秦に別つ。
【二】 海陽は縣の名、遼西郡に屬す。今の直隸省津海道灤縣。平規兄弟、燕の兵敗れしを以て、故に之に叛く。

て還る。翰、兵を引きて龍城に趣く。清河公會、東陽公根等を遣はして、翰を撃ち、之を破る。翰、山南に走る。

三月庚子、燕主垂、范陽王德を留めて中山を守らしめ、兵を引きて密に發し、青嶺を踰え、天門を經、山を鑿ちて道を通じ、魏の不意に出で、直に雲中を指す。魏の陳留公度、部落三萬餘家を帥ゐ、平城に鎮す。垂、獵嶺に至り、遼西王農、高陽王隆を以て前鋒と爲し、以て之を襲ふ。是の時、燕の兵新に破れ、皆、魏を畏る。惟だ龍城の兵、勇銳にして先を爭ふ。度、素より備を設けず。閏月乙卯、燕の軍、平城に至る。度乃ち之を覺り、麾下を帥ゐて出で戦ひ、敗れて死す。燕の軍盡く其の部落を收む。魏王珪、震ひ怖れ、走らんと欲す。諸部、度・死せりと聞き、皆、貳心有り。珪、適く所を知らず。垂が參合陂を過ぐるや、積骸山の如きを見、之が爲めに祭を設く。軍士皆慟哭し、聲、山谷に震ふ。垂、慙憤して血を嘔く。是に由つて疾を發し、馬輿に乗りて進み、平城の西北三十里に頓す。太子寶等、之を聞き、皆引き還る。燕の軍の叛く者、犇りて魏に告げて云はく、「垂已に死し、尸を輿して軍に在り」と。魏王珪、之を追はんと欲す。平城已に没すと聞き、乃ち引きて陰山に還る。垂、平城に在り、十日を積み、疾轉た篤し。乃ち燕昌城を築きて還る。夏四

【三】 山南。白狼徐無等の山の南。
【四】 青嶺・天門。直隸省易縣と山西省との境に在る山。
【五】 平城。縣の名、故城は今の山西省雁門道大同縣の東に在り。
【六】 獵嶺。山西省代縣に在り。夏屋山の東北に在り。魏、平城に都し、常に此に獵す。
【七】 燕昌城は平城の北四十里に在り。

月癸未、上谷の沮陽に卒す。祕して喪を發せず。丙申、中山に至り、戊戌、喪を發し、諡して成武皇帝と曰ひ、廟を世祖と號す。壬寅、太子寶、位に即く。大赦し、永康と改元す。五月辛亥、范陽王德を以て、都督冀兗青徐荆豫六州諸軍事・車騎大將軍・冀州の牧と爲し、鄴に鎮せしめ、遼西王農を、都督并雍益梁秦涼六州諸軍事・并州の牧と爲し、晉陽に鎮せしむ。又、安定王庫偁官偉を以て太師と爲し、〔一〇〕夫餘王蔚を太傅と爲す。甲寅、趙王麟を以て尙書左僕射を領せしめ、高陽王隆をして右僕射を領せしめ、長樂公盛を司隸校尉と爲し、宜都王鳳を冀州の刺史と爲す。

乙卯、散騎常侍彭城の劉該を以て徐州の刺史と爲し、郵城に鎮せしむ。

甲子、望蔡公謝琰を以て尙書左僕射と爲す。

初め燕王垂、先の段后、子令・寶を生み、〔二〕後の段后、子朗・鑿を生み、諸姫の子麟・農・隆・柔・熙を愛す。寶初め太子と爲り、〔三〕美稱有り、已にして荒怠し、中外、望を失ふ。後の段后、嘗て垂に言つて曰はく、「太子、承平の世に遭はば、守成の主と爲すに足らん。今國歩艱難なり。恐らくは濟世の才に非ざらん。遼西、高陽の二王は、陛下の賢子なり。宜しく一人を擇び、付するに大業を以てすべし。趙王麟は、姦詐強

〔八〕 沮陽の故城は今の直隸省口北道懷來縣の東に在り。垂が卒する時、年七十一。

〔九〕 寶は、字は道祐。垂の第四子なり。

〔一〇〕 餘蔚は夫餘王の子なり。燕王毓、夫餘を破りてこれを得。燕亡びて秦に入る。秦亂れて復た燕に歸す。燕主垂、封じて夫餘王と爲す。

〔二〕 燕王垂、初め段氏を娶る。可足渾后の讒を以て死す。後、位に即き、追尊して后と爲す。復た段氏を納れて后と爲す。故に史、後の段后と書して、これを別つ。

〔三〕 美稱。名譽。

復なり。異日、必ず國家の患を爲さん。宜しく早く之を圖るべし」と。寶善く垂の左右に事ふ。左右多く之を譽む。故に垂、以て賢と爲し、段氏に謂つて曰はく、「汝、我をして〔三〕晉の獻公と爲らしめんと欲するか」と。段氏泣いて退き、其の妹范陽王の妃に告げて曰はく、「太子の不才は、天下の知る所なり。吾、社稷の爲めに之を言ふ。主上乃ち吾を以て驪姫と爲す。何ぞ其れ苦なるや。太子を觀るに、必ず社稷を喪ぼさん。范陽王は非常の器度あり。若し燕祚未だ盡きずんば、其れ王に在らんか」と。寶及び麟、聞きて之を恨む。乙丑、寶、麟をして段氏に謂つて曰はしむ、「后常に謂へらく、主上は、大業を守る能はじと。今竟に能くするや不や。宜しく早く自裁し、以て段宗を全くすべし」と。段氏怒りて曰はく、「汝兄弟、逼りて其の母を殺すを難らず。況んや能く先業を守らんや。吾、豈に死を愛まんや。但だ國亡ぶること久しからざらんことを念ふのみ」と。遂に自殺す。寶・議して以はく、「段后、適統を廢せんと謀る。母后の道無し。宜しく喪を成すべからず」と。羣臣咸以て然りと爲す。中書令眭邃、朝に颺言して曰はく、「子は母を廢するの義無し。〔四〕漢の安思閭后、親ら順帝を廢せしが、猶ほ太廟に配饗するを得たり。況んや先后の曖昧の言、虛實未だ知る可からざるをや」と。乃ち喪を成す。

六月癸酉、魏王珪、將軍王建等を遣はし、燕の〔五〕廣甯の太守劉亢泥を撃ち、之を斬り、其の部落

〔三〕 晉の獻公。驪姫の讒を信じ、太子申生を殺す。

〔四〕 事、五十卷漢の安帝延光三年に見ゆ。

〔五〕 廣甯。漢の縣にして上谷郡に屬す。晉の太康中、分ちて廣甯郡を置く。

を平城に徙す。燕の上谷の太守開封公詳、郡を棄てて走る。詳は眇の曾孫なり。

丁亥、魏の賀太妃卒す。

燕主寶、士族の舊籍を定め、清濁を分辨し、戸口を校閲し、軍營の封蔭の戸を罷め、悉く郡縣に屬す。是に由りて、士民嗟怨し、始めて離心有り。

三河王 呂光、天王の位に即き、國を大涼と號す。大赦し、龍飛と改

元し、百官を備置す。世子紹を以て太子と爲し、子弟を封じて公侯と爲す

者二十人。中書令王詳を以て尙書左僕射と爲し、著作郎段業等五人を尙書

と爲す。光、使者を遣はし、禿髮烏孤を拜して征南大將軍・益州の牧・左賢

王と爲す。烏孤、使者に謂つて曰はく、『呂王の諸子は貪淫に、三甥

は暴虐にして、遠近愁苦す。吾、安んぞ百姓の心に違ひて、不義の爵を受

く可けんや。吾、當に帝王の事を爲すべきのみ』と。乃ち其の鼓吹羽儀を

留め、謝して之を遣る。

平規、餘黨を收拾して、高唐に據る。燕主寶、高陽王隆を遣はし、兵を將ゐて之を討たしむ。東

土の民、素より隆の惠を懷ひ、迎候する者路に屬く。秋七月、隆、軍を進めて河に臨む。規、高唐を

棄てて走る。隆、建威將軍慕容進等を遣はし、河を濟りて之を追はしむ。規を濟北に斬る。平喜、彭

城に犇る。

故の中書令王獻之の女を納れて太子の妃と爲す。獻之は 義之の子なり。

魏の羣臣、魏王珪に尊號を稱せんことを勸む。珪始めて天子の旌旗を建て、出づるに警し入るに

蹕し、皇始と改元す。參軍事上谷の張恂、珪に進んで中原を取らんことを

勸む。珪、之を善しとす。燕の遼西王農、悉く部曲數萬口を將ゐ、并州に之

く。并州素より 儲侍に乏し。是の歲、早く霜ふり、民、其の食を供する能

はず。又、諸部の護軍を遣はし、分ちて諸胡を監せしむ。是に由りて、民夷

俱に怨み、潜に魏の軍を召す。八月己亥、魏王珪、大舉して燕を伐つ。步騎

四十餘萬、南のかた馬邑に出で、句注を踰ゆ。旌旗二千餘里、鼓行して進

む。左將軍雁門の李栗、五萬騎を將ゐて、前驅と爲る。別に將軍封眞等を

遣はし、東道より、軍都に出で、燕の幽州を襲ふ。燕の征北大將軍幽平二州の牧清河公會、母賤し

くして年長じ、雄俊にして器藝有り。燕主垂、之を愛す。寶が魏を伐つや、垂、會に命じて、東宮の

事を攝せしめ、總錄禮遇、一に太子の如し。垂が魏を伐つに及びて、會に命じて龍城に鎮せしめ、

委ぬるに東北の任を以てす。國官府佐、皆、一時の才望を選ぶ。垂疾篤きや、遺言して寶に命じ、會

- 【六】 賀太妃。魏王珪の母なり。
- 【七】 軍營の封蔭の戸。諸軍が庇蔭して以て其の部曲と爲す者。
- 【八】 呂光。字は世明、略陽の氏なり。父婆樓は、苻堅の佐命たり。
- 【九】 光の諸子、史に見ゆる者は、纂・弘・紹・覆。
- 【一〇】 光の甥石聰、杜進を譖殺す。餘の二人は未だ詳ならず。
- 【一一】 高唐。縣の名、平原郡に屬す。故城は今の山東省東臨道禹城縣の西南に在り。

- 【三】 義之。王導の從子。
- 【四】 珪。什翼犍の嫡孫、寔の子、一百四卷元年に詳かなり。
- 【五】 儲侍。糧食の貯蓄。
- 【六】 軍都。關の名、今の京兆昌平縣に在り。
- 【七】 總錄。朝政を總錄するをいふ。

を以て嗣と爲さしむ。而るに寶、少子濮陽公策を愛し、意、會に在らず。長樂公盛、會と同年にして、之が下と爲るを恥づ。乃ち趙王麟と共に、寶に策を立てんことを勸む。寶、之に従ふ。乙亥、妃段氏を立てて皇后と爲し、策を皇太子と爲し、會、盛、皆、爵を進めて王と爲す。策、年十一、素より〔三七〕 恚弱なり。會、之を聞き、心愠懣す。九月、章武王宙、燕主垂及び〔三六〕 成哀段后の喪を奉じて、龍城の宣平陵に葬る。寶、宙に詔して、悉く高陽王隆の參佐部曲家屬を徙して、中山に還らしむ。會、詔に違ひ、多く部曲を留めて、遣らず。宙、年長じ屬尊し。會、事毎に之を陵侮す。見る者、皆、其の異志有るを知る。

戊午、魏の軍、陽曲に至り、西山に乗り、晉陽に臨み、騎を遣はして城を環り、大に謀ぎて去る。燕の遼西王農、出で戦ひ、大に敗れ、犇りて晉陽に還る。〔三〇〕 司馬慕輿嵩、門を閉ちて之を拒む。農、妻子を將る、數千騎を帥ゐて東に走る。魏の〔三一〕 中領將軍長孫肥、之を追ひ、潞川に及び、農の妻子を獲たり。燕の軍盡く没す。農、創を被り、獨り三騎と與に、逃げて中山に歸る。魏土珪、遂に并州を取り、初めて臺省を建て、刺史・太守・尚書郎以下の官を置き、悉く儒生を用ひて之と爲す。士大夫、軍門に詣れば、少長と無く、皆引き入れて存恩し、人人をして言を盡さしめ、少しく才用有

〔三七〕 恚弱。恚は懣と同じ。愚なり。
 〔三六〕 成哀段后。即ち寶が殺しし後母段氏なり。
 〔三九〕 陽曲。縣の名、太原郡に屬す。山西省冀寧道陽曲縣。
 〔三〇〕 前に慕輿嵩あり、趙王麟を奉じて變を爲さんことを謀りて誅せらる。此れ又別の一人なり。
 〔三一〕 中領將軍は魏の置く所。

れば、咸、擢叙を加ふ。己未、輔國將軍奚收を遣はし、地を汾川に略せしむ。燕の丹楊王買德及び離石の護軍高秀和を獲たり。中書侍郎張恂等を以て諸郡の太守と爲し、離散を招撫し、農桑を勸課す。燕主寶、魏の軍將に至らんとすと聞き、東堂に議す。中山の尹苻謨曰はく、『今、魏の軍衆彊にして、千里遠く鬪ひ、勝に乗じて氣鋭し。若し之を縱して、平土に入らしめば、敵す可からざるなり。宜しく險を杜ぎて以て之を拒ぐべし』と。中書令陸邃曰はく、『魏は騎兵多く、往來剽速なり。馬上、糧を齎すこと、旬日に過ぎじ。宜しく郡縣に令し、民千家を聚めて一堡と爲し、溝を深くし壘を高くし、野を清めて以て之を待つべし。彼至るとも掠むる所無くんば、六旬に過ぎずして、食盡きて自ら退かん』と。尚書封懿曰はく、『今、魏の兵數十萬、天下の勍敵なり。民、堡を築くと雖も、以て自ら固むるに足らざらん。是れ兵及び糧を聚め、以て之を資くるなり。且つ民心を動搖し、之に示すに弱きを以てするなり。關を阻して拒ぎ戦ふに如かず。計の上なり』と。趙王麟曰はく、『魏、今、勝に乗じて氣鋭く、其の鋒、當る可からず。宜しく中山を完守し、其の弊を待ちて之に乗すべし』と。是に於て、城を修め粟を積み、持久の備を爲し、遼西王農に命じ、出でて〔三五〕 安喜に屯せしめ、軍事の動靜、悉く以て麟に委ぬ。

〔三〇〕 奚收。當に奚牧に作るべし。
 〔三一〕 離石。縣の名、西河郡に屬す。山西省冀寧道離石縣。
 〔三二〕 苻謨が燕に降ること、一百六卷十年に見ゆ。
 〔三五〕 安喜。今の直隸省保定道定縣の東三十里に在り。

帝、酒を嗜み、内殿に流連し、〔三〕醒治既に少く、外人、進見するを得ること罕なり。張貴人、寵、後宮に冠たり、後宮皆之を畏る。庚申、帝、後宮と宴し、妓樂盡く侍る。時に貴人、年、三十に近し。帝、之に戯れて曰はく、『汝も年を以てせば亦當に廢すべし。吾が意更に少者に屬す』と。貴人、潜に怒る。夕に向つて、帝醉うて、清暑殿に寝ぬ。貴人徧く宦者に酒を飲ませ、之を散遣し、婢をして被を以て帝の面を蒙うて之を弑せしめ、重く左右に賂ひて云ふ、〔三〕「魔に囚りて暴に崩す」と。時に太子は闇弱にして、會稽王道子は昏荒なり。遂に復た推問せず。王國寶、夜、禁門を叩き、入りて遺詔を爲らんと欲す。侍中王爽、之を拒みて曰はく、『大行晏駕し、皇太子未だ至らず。敢て入る者は斬らん』と。國寶乃ち止む。爽は恭の弟なり。辛酉、太子、皇帝の位に即く。大赦す。癸亥、有司奏す、『會稽王道子は、宜しく位を太傅・揚州の牧に進め、黄鉞を假すべし』と。

- 〔三〕 醒治。醉醒めて事を治むるなり。
- 〔三〕 清暑殿は帝の作る所。
- 〔三〕 魔。睡中にうなざるること。
- 〔三〕 不慧。白癡なり。
- 〔四〕 節適。事の節制を爲して其の口體に適せしむるをいふなり。
- 〔四〕 王國寶が道子に黨附すること一百五卷八年に始まる。

〔三〕 詔して、内外の衆事、動靜、之に咨ふ。安帝、幼にして、不慧なり、口、言ふ能はず、寒暑飢飽に至るまで、亦、辨ずる能はず、飲食寢興、皆、己に出づるに非ず。母弟琅邪王德文、性恭謹にして、常に左右に侍し、之が爲めに、〔四〕 節適し、始めて其の宜しきを得たり。初め、王國寶、會稽王道子に黨附し、驕縱不法なり。屢、御史中丞褚燦の糾す所と爲る。國寶、齋を起し、清暑殿に俸し。孝武帝

甚だ之を惡む。國寶懼れ、遂に更に媚を帝に求め、而して道子を疎んず。帝復た之を寵昵す。道子大に怒り、嘗て内省に於て、面のあたり國寶を責め、劍を以て之に擲ち、舊好盡きぬ。帝崩するに及びて、國寶、復た道子に事へ、王緒と共に邪詔を爲す。道子、更に之に惑ひ、倚りて心腹と爲す。遂に朝權に參管し、威、内外に震ふ。竝に時の疾む所と爲る。王恭入りて山陵に赴き、毎に色を正して直言す。道子深く之を憚る。恭、朝を罷きて歎じて曰はく、『椶棟は新なりと雖も、便ち、黍離の歎有り』と。緒、國寶に説き、恭が入朝するに因りて、相王に、兵を伏して之を殺さんことを勸む。國寶許さず。道子、内外を輯和せんと欲し、乃ち深く腹心を恭に布き、舊惡を除かんことを冀ふ。而して恭、言・時政に及ぶ毎に、輒ち聲色を厲ます。道子、恭の和協す可からざるを知り、遂に相圖るの志有り。或るひと恭に勸む、『入朝するに因りて、兵を以て國寶を誅せよ』と。恭、豫州の刺史庾楷が、士馬甚だ盛にして、國寶に黨するを以て、之を憚り、敢て發せず。王珣、恭に謂つて曰はく、『國寶、終に禍亂を爲すと雖も、之を要するに、罪逆未だ彰れず。今遽に事に先だちて發せば、必ず大に朝野の望を失はん。況んや彊兵を擁し、竊に京輦に發せば、誰か逆に非ずと謂はん。國寶若し遂に改めずんば、惡、天下に布かん。然る後、衆心に順つて以て之を除かん。亦、濟らざるを憂ふる無きなり』と。恭、乃ち止む。既にして珣に謂つて曰はく、『比來、君を視る

- 〔三〕 椶。たるき。
- 〔四〕 黍離。周の大夫・行役し、故の宗廟宮室の荒廢して盡く黍黍と爲れるを見、黍離の詩を作る。

に、**一**に胡廣に似たり」と。珣曰はく、**二**王陵は廷争し、陳平は慎黙す、但だ歳晏何如を問ふのみ」と。冬十月甲申、孝武帝を隆平陵に葬る。王恭、鎮に還る。將に行かんとするとき、道子に謂つて曰はく、「主上諒闇にして、冢宰の任は、伊周の難んずる所なり。願はくは大王、萬幾を親らし、直言を納れ、鄭聲を放ち、佞人を遠ざけよ」と。國寶等愈々懼る。

魏王珪、冠軍將軍代人于栗磾・寧朔將軍公孫蘭をして、步騎二萬を帥み、潛に晉陽より、韓信の故道を開かしむ。乙酉、珪、井陘より中山に趨く。李先、魏に降る。珪、以て征東の左長史と爲す。

西秦の涼州の牧軻彈、秦州の牧益州と平かならず。軻彈、涼に奔る。

魏王珪、進みて常山を攻め、之を拔き、太守苟延を獲たり。常山より以東、守宰或は走り或は降り、諸郡縣、皆、魏に附く。惟だ中山・鄴・信都の三城、燕の爲めに守る。十一月、珪、東平公儀に命じて、五萬騎を將ゐて鄴を攻めしめ、冠軍將軍王建・左將軍李栗をして信都を攻めしむ。

戊午、珪進みて中山に軍し、己未、之を攻む。燕の高陽王隆、南郭を守り、衆を帥ゐて力戰す。旦より晡に至る。殺傷數千人。魏の兵乃ち退く。珪、諸將に謂つて曰はく、「中山は城固し。寶必ず肯て出でて戰はざらん。急に攻めば則ち士を傷はん。久しく圍まば則ち糧を費さん。如かず、先づ鄴・信

【四四】 權姦の間に依違して以て祿位を保つをいふ。

【四五】 王陵云云。王陵は廷争を以て位を失ひ、陳平は慎黙を以て遂に能く劉を安んず。

【四六】 韓信の故道。韓信が井陘より趙を伐ちし故路なり。

【四七】 李先。去年、西燕より燕に歸す。

【四八】 中山は燕の都、慕容德、鄴を守り、慕容鳳、信都を守る、皆重鎮なり。

都を取り、然る後之を圖らんには」と。丁卯、珪、兵を引きて南す。章武王宙、龍城より還り、魏の寇有りと聞き、馳せて薊に入り、鎮北將軍陽城王蘭と與に、城に乗りて固く守る。蘭は垂の從弟なり。魏の別將石河頭、之を攻め、克たず、退きて、漁陽に屯す。珪、魯口に軍す。博陵の太守申永、河南に奔り、高陽の太守崔宏、海渚に奔る。珪素より宏の名を聞き、騎を遣はして追ひ求め、之を獲たり。以て黃門侍郎と爲し、給事黃門侍郎張衰と與に、對して機要を掌り、制度を創立せしむ。博陵の令屈遵、魏に降る。珪、以て中書令と爲し、號令を出納し、兼ねて文詔を總べしむ。燕の范陽王德、南安王青等をして、夜、魏の軍を鄴下に撃たしめ、之を破る。魏の軍退きて、新城に屯す。青等、之を追撃せんと請ふ。別駕韓諱曰はく、「古人は計を先にして戰を後にす。魏の軍の撃つ可からざる者四つあり。懸軍遠く客たり、利、野戰に在り。一なり。深く近畿に入り、兵を死地に頓む。二なり。前鋒既に敗れ、後陣方に固し。三なり。彼は衆にして我は寡なり。四なり。官軍の宜しく動くべからざる者三つあり。一なり。自ら其の地に戰ふ。一なり。動きて勝たず、衆心固くし難し。二なり。城隍未だ修まらず、敵來れども備無し。三なり。今、魏は資糧無し。壘を深くし軍を固くして以て之を老らすに如かず」と。德、之に従ひ、青を召して還らしむ。青は詳の兄なり。十二月、魏の遼西

【四九】 漁陽。故城は京兆密雲縣の西南に在り。

【五〇】 海渚。海中の洲なり。

【五一】 新城。即ち燕主垂が鄴を攻むるとき、築きし所の者なり。今の河南省河北道臨漳縣に在り。

【五二】 自ら其の地に戰ふときは、衆、敗れ散じ易し。

公賀賴盧、騎二萬を帥る、東平公儀に會して鄴を攻む。賴盧は訥の弟なり。魏の別部の大人沒根、膽勇有り。魏王珪、之を惡む。沒根、誅を懼れ、己丑、親兵數十人を將ゐて燕に降る。燕主寶、以て鎮東大將軍と爲し、鴈門公に封ず。沒根、還りて魏を襲はんことを求む。寶、重兵を與ふるを難り、百餘騎を給す。沒根、其の號令に效ひ、夜、魏の營に入り、中仗に至る。珪乃ち之を覺り、狼狽して驚き走る。沒根、從ふ所の人少きを以て、其の大衆を壞る能はず、多く首虜を獲て還る。

楊盛、使を遣はして來りて命を請ふ。詔して、盛を鎮南將軍・仇池公に拜す。盛、苻宣を表して平北將軍と爲す。

是の歲、(五三)越質詰歸、戸二萬を帥る、西秦に叛きて秦に降る。秦人、之を(五四)成紀に處き、鎮西將軍・平襄公に拜す。

秦の隴西王碩德、姜乳を上邽に攻む。乳、衆を率ゐて秦に降る。碩德を以て秦州の牧と爲し、上邽に鎮せしむ。乳を徵して尙書と爲す。張熙・權千成、衆三萬を帥る、共に上邽を圍む。碩德撃ちて之を破る。熙、仇池に犇り、遂に來犇す。碩德、西して千成を略陽に撃つ。千成降る。

西燕既に亡び、其の署する所の河東の太守柳恭等、各兵を擁して自ら守る。秦主興、晉王緒を遣はして之を攻む。恭等、河に臨みて拒ぎ守る。緒、濟るを得ず。初め永嘉の亂に、汾陰の薛氏、其の族黨を聚め、河を阻てて自ら固め、劉石及び苻氏に仕へず。興乃ち禮を以て薛彊を聘し、鎮東將軍に

拜す。彊、秦の兵を引ききて、龍門より濟り、遂に蒲阪に入る。恭等皆降る。興、緒を以て并冀二州の牧と爲し、蒲阪に鎮せしむ。

【五三】龍門。今の山西省河東道河津縣と陝西省關中道鞏城縣

との間に在り。

國譯資治通鑑第六終

晉烈宗孝武皇帝太元二十一年

資治通鑑卷第九十一

晉紀十四

中宗元皇帝下

永昌元年春正月郭璞復上疏請因皇孫生下赦令帝從之乙卯大赦改元王敦以璞爲記室參軍璞善卜筮知敦必爲亂已預其禍甚憂之大將軍掾潁川陳述卒璞哭之極哀曰嗣祖焉知非福也敦既與朝廷乖離乃羈錄朝士有時望者置己幕府以羊曼及陳國謝鯤爲長史曼祐之兄孫也曼鯤終日酣醉故敦不委以事敦將作亂謂鯤曰劉隗姦邪將危社稷吾欲除君側之惡何如鯤曰隗誠始禍然城狐社鼠敦怒曰君庸才豈達大體出爲豫章太守又留不遣戊辰敦舉兵於武昌上疏罪狀劉隗稱隗佞邪讒賊威福自由妄興事役勞擾士民賦役煩重怨聲盈路臣備位宰輔不可坐視成敗輒進軍致討隗首朝懸諸軍夕退昔太甲顛覆厥度幸納伊尹之忠殷道復昌願陛下深垂三思則四海乂安社稷永固矣沈充亦起兵於吳興以應敦敦以充爲大都督督護東吳諸軍事敦至蕪湖又上表罪狀刁協帝大怒乙亥詔曰王敦憑恃寵靈敢肆狂逆方朕太甲欲見幽囚是可忍也孰不可忍今親帥六軍以誅大逆有殺敦者封五千戶侯敦兄光祿勳含乘輕舟逃歸于敦太子中庶子溫嶠謂僕射周顛曰大將軍此舉似有所在當無濫邪顛曰不然人主自非堯舜何能無失人臣安可舉兵以脅之舉動如此豈得云非亂乎處仲狼抗無上其意寧有限邪敦初起兵遣使告梁州刺史甘卓約與之俱下卓許之及敦升舟而卓不赴使參軍孫雙詣武昌諫止敦敦

驚曰。甘侯前與吾語。云何而更有異。正當慮吾危朝廷耳。吾今但除姦凶。若事濟。當以甘侯作公。雙還報。卓意狐疑。或說卓。且僞許敦。待敦至。都而討之。卓曰。昔陳敏之亂。吾先從而後圖之。論者謂吾懼逼而思變。心常愧之。今若復爾。何以自明。卓使人以敦旨告順陽太守魏該。該曰。我所以起兵拒胡賊者。正欲忠於王室耳。今王公舉兵向天子。非吾所宜與也。遂絕之。敦遣參軍桓熙說譙王承。請承爲軍司。承歎曰。吾其死矣。地荒民寡。勢孤援絕。將何以濟。然得死忠義。夫復何求。承檄長沙虞胤爲長史。會胤遭母喪。承往弔之。曰。吾欲討王敦。而兵少糧乏。且新到。恩信未洽。卿兄弟湘中之豪俊。王室方危。金革之事。古人所不辭。將何以教之。胤曰。大王不以懼兄弟猥劣。親屈臨之。敢不致死。然鄱州荒弊。難以進討。宜且收衆固守。傳檄四方。敦勢必分。分而圖之。庶幾可捷也。承乃囚桓熙。以胤爲長史。以其弟望爲司馬。督護諸軍。與零陵太守尹奉。建昌太守長沙王循。衡陽太守淮陵劉翼。春陵令長沙易雄。同舉兵討敦。雄移檄遠近。列敦罪惡。於是一州之內。皆應承。惟湘東太守鄭澹不從。承使虞望討斬之。以徇四境。澹姊夫也。承遣主簿鄧騫至襄陽。說甘卓曰。劉大連雖驕蹇。失衆心。非有害於天下。大將軍以其私憾。稱兵向闕。此忠臣義士竭節之時也。公受任方伯。奉辭伐罪。乃辱文之功也。卓曰。桓文則非吾所能。然志在徇國。當共詳思之。參軍李梁說卓曰。昔隗囂跋扈。竇融保河西。以奉光武。卒受其福。今將軍有重望於天下。但當案兵坐以待之。使大將軍事捷。當委將軍以方面。不捷。朝廷必以將軍代之。何憂不富貴。而釋此廟勝。決存亡於一戰邪。騫謂梁曰。光武當創業之初。故隗竇可以文服。從容願望。今將軍之於本朝。非竇融之比也。襄陽之於太府。非河西之固也。使大將軍克劉隗。還武昌。增石城之戍。絕荆湘之粟。將軍將安歸乎。勢在人手。而曰我處廟勝。未之聞也。且爲人臣。國家有難。坐視不救。於義安乎。卓尙疑之。騫曰。今既不爲義舉。又不承大將軍檄。此必至之禍。愚智所見也。且議者之所難。以

彼強而我弱也。今大將軍兵不過萬餘。其留者不能五千。而將軍見衆。既倍之矣。以將軍之威名。帥此府之精銳。杖節鳴鼓。以順討逆。豈王合所能禦哉。迺流之衆。勢不自救。將軍之舉武昌。若摧枯拉朽。尙何顧慮邪。武昌既定。據其軍實。鎮撫二州。以恩意招懷士卒。使還者如歸。此呂蒙所以克關羽也。今釋必勝之策。安坐以待危亡。不可以言智矣。敦恐卓於後爲變。又遣參軍丹楊樂道融往邀之。必欲與之俱東。道融雖事敦。而忿其悖逆。乃說卓曰。主上親臨萬機。自用譙王爲湘州。非專任劉隗也。而王氏擅權日久。卒見分政。使謂失職。背恩肆逆。舉兵向闕。國家遇君至厚。今與之同。豈不違負大義。生爲逆臣。死爲愚鬼。永爲宗黨之恥。不亦惜乎。爲君之計。莫若僞許應命。而馳襲武昌。大將軍士衆聞之。必不戰自潰。大勳可就矣。卓雅不欲從。敦聞道融之言。遂決曰。吾本意也。乃與巴東監軍柳純。南平太守夏侯承。宜都太守譚該等。露檄數敦逆狀。帥所統致討。遣參軍司馬讚。孫雙。奉表詣臺。羅英至廣州。約陶侃同進。戴淵在江西。先得卓書。表上之。臺內皆稱萬歲。陶侃得卓信。即遣參軍高寶。帥兵北上。武昌城中。傳卓軍至。人皆奔散。敦遣從母弟南蠻校尉魏乂。將軍李恒。帥甲卒二萬。攻長沙。長沙城池不完。資儲又闕。人情震恐。或說譙王承。南投陶侃。或退據零桂。承曰。吾之起兵。志欲死於忠義。豈可貪生苟免。爲奔敗之將乎。事之不濟。令百姓知吾心耳。乃嬰城固守。未幾。虞望戰死。甘卓欲留鄧騫爲參軍。騫不可。乃遣參軍虞冲。與騫偕至長沙。遣譙王承書勸之固守。當以兵出河口。斷敦歸路。則湘圍自解。承復書稱。江左中興。草創始爾。豈圖惡逆。萌自寵臣。吾以宗室受任。志在隕命。而止尙淺。凡百茫然。足下能卷甲電赴。猶有所及。若其狐疑。則求我於枯魚之肆矣。卓不能從。○二月甲午。封皇子昱爲琅邪王。○後趙王勒立子弘爲世子。遣中山公虎。將精卒四萬。擊徐龕。龕堅守不戰。虎築長圍守之。○趙主曜自將擊楊難敵。難敵逆戰不勝。退保仇池。仇池諸氐羌。及故晉王保將楊韜。隴西太守梁勛。皆降於

曜遷隴西萬餘戶於長安。進攻仇池。會軍中大疫。曜亦得疾。將引兵還。恐難敵。躡其後。乃遣光國中郎將王獫說難敵。諭以禍福。難敵遣使稱藩。曜以難敵爲假黃鉞。都督益寧南秦涼梁巴六州隴上西域諸軍事。上大將軍。益寧南秦三州牧。武都王。秦州刺史。陳安求朝於曜。曜辭以疾。安怒。以爲曜已卒。大掠而歸。曜疾甚。乘馬輿而還。使其將呼延寔監輜重於後。安邀擊獲之。謂寔曰。劉曜已死。子尙誰佐。吾當與子共定大業。寔叱之曰。汝受人寵祿。而叛之。自視智能。何如主上。吾見汝不日梟首於上邽市。何謂大業。宜速殺我。安怒殺之。以寔長史魯憑爲參軍。安遣其弟集帥騎三萬追曜。衛將軍呼延瑜逆擊斬之。安乃還上邽。遣將襲汧城。拔之。隴上氏羌皆附於安。有衆十餘萬。自稱大都督。假黃鉞大將軍。雍涼秦梁四州牧。涼王。以趙纂爲相國。魯憑對安大哭曰。吾不忍見陳安之死也。安怒。命斬之。憑曰。死自吾分。懸吾頭於上邽市。觀趙之斬陳安也。遂殺之。曜聞之。慟哭曰。賢人。民之望也。陳安於求賢之秋。而多殺賢者。吾知其無能爲也。休屠王石武以桑城降趙。趙以武爲秦州刺史。封酒泉王。○帝徵戴淵。劉隗入衛建康。隗至。百官迎于道。隗岸幘大言。意氣自若。及入見。與刁協勸帝盡誅王氏。帝不許。隗始有懼色。司空導帥其從弟中領軍虞。侍中侃。彬。及諸宗族二十餘人。每旦詣臺待罪。周顛將入。導呼之曰。伯仁。以百口累卿。顛直入不顧。既見帝。言導忠誠。申救甚至。帝納其言。顛喜飲酒。至醉而出。導猶在門。又呼之。顛不與言。顧左右曰。今年殺諸賊奴。取金印如斗大。繫肘後。既出。又上表。明導無罪。言甚切至。導不之知。甚恨之。帝命還導朝服。召見之。導稽首曰。逆臣賊子。何代無之。不意今者。近出臣族。帝跳而執其手曰。茂弘。方寄卿以百里之命。是何言邪。三月。以導爲前鋒大都督。加戴淵驃騎將軍。詔曰。導以大義滅親。可以吾爲安東時節。假之。以周顛爲尙書左僕射。王邃爲右僕射。帝遣王廙往諭止敦。敦不從。而留之。廙更爲敦用。征虜將軍周札。素矜險好利。帝以爲右將軍。都督石頭諸

軍事。敦將至。帝使劉隗軍金城札守石頭。帝親被甲徇師於郊外。以甘卓爲鎮南大將軍。侍中。都督荆梁二州諸軍事。陶侃領江州刺史。使各帥所統。以躡敦後。敦至石頭。欲攻劉隗。杜弘言於敦曰。劉隗死士衆多。未易可克。不如攻石頭。周札少恩。兵不爲用。攻之必敗。札敗。則隗自走矣。敦從之。以弘爲前鋒。攻石頭。札果開門納弘。敦據石頭。歎曰。吾不復得爲盛德事矣。謝鯤曰。何爲其然也。但使自今以往。日忘日去耳。帝命刁協。劉隗。戴淵帥衆攻石頭。王導。周顛。郭逸。虞潭等。三道出戰。協等兵皆大敗。太子紹聞之。欲自帥將士決戰。升車將出。中庶子溫嶠執轡諫曰。殿下國之儲副。柰何以身輕天下。抽劔斬鞞。乃止。敦擁兵不朝。放士卒劫掠。宮省奔散。惟安東將軍劉超。案兵直衛。及侍中二人。侍常側。帝脫戎衣。著朝服。顧而言曰。欲得我處。當早言。何至害民如此。又遣使謂敦曰。公若不忘本朝。於此息兵。則天下尙可共安。如其不然。朕當歸琅邪。以避賢路。刁協。劉隗既敗。俱入宮。見帝於太極東除。帝執協。隗手。流涕嗚咽。勸令避禍。協曰。臣當守死。不敢有貳。帝曰。今事逼矣。安可不行。乃令給協。隗人馬。使自爲計。協老。不堪騎乘。素無恩紀。募從者皆委之。行至江乘。爲人所殺。送首於敦。隗奔後趙。官至太子太傅。而卒。帝令公卿百官詣石頭見敦。敦謂戴淵曰。前日之戰。有餘力乎。淵曰。豈敢有餘。但力不足耳。敦曰。吾今此舉。天下以爲何如。淵曰。見形者謂之逆。體誠者謂之忠。敦笑曰。卿可謂能言。又謂周顛曰。伯仁。卿負我。顛曰。公戎車犯順。下官親帥六軍。不能其事。使王旅奔敗。以此負公。辛未。大赦。以敦爲丞相。都督中外諸軍。錄尙書事。江州牧。封武昌郡公。竝讓不受。初。西都覆沒。四方皆勸進於帝。敦欲專國政。忌帝年長。難制。欲更議所立。王導不從。及敦克建康。謂導曰。不用吾言。幾至覆族。敦以太子有勇略。爲朝野所嚮。欲誣以不孝而廢之。大會百官。問溫嶠曰。皇太子以何德稱。聲色俱厲。嶠曰。鈞深致遠。蓋非淺局所量。以禮觀之。可謂孝矣。衆皆以爲信然。敦謀遂沮。帝召周顛於廣室。謂之曰。近日大事。二宮無恙。

諸人平安。大將軍固副所望邪。顓曰：二宮自如明詔，臣等尙未可知。護軍長史郝嘏等勸顓避敦。顓曰：吾備位大臣，朝廷喪敗，寧可復草間求活？外投胡越邪？敦參軍呂猗嘗爲臺郎，性姦諂，戴淵爲尙書惡之，猗說敦曰：周顓、戴淵皆有高名，足以惑衆。近者之言，曾無忤色，公不除之，恐必有再舉之憂。敦素忌二人之才，心頗然之。從容問王導曰：周戴南北之望，當登三司無疑也。導不答。又曰：若不三司，止應令僕邪？又不答。敦曰：若不爾，正當誅爾。又不答。丙子，敦遣部將陳郡鄧岳收顓及淵。先是，敦謂謝鯤曰：吾當以周伯仁爲尙書令，戴若思爲僕射。是日，又問鯤。近來人情何如？鯤曰：明公之舉，雖欲大存社稷，然悠悠之言，實未達高義。若果能舉用周戴，則羣情帖然矣。敦怒曰：君羸疎邪？二子不相當，吾已收之矣。鯤愕然自失。參軍王嶠曰：濟濟多士，文王以寧，奈何戮諸名士？敦大怒，欲斬嶠。衆莫敢言。鯤曰：明公舉大事，不戮一人，嶠以獻替忤旨，便以釁鼓不亦過乎？敦乃釋之。黜爲領軍長史。嶠、渾之族孫也。顓被收，路經太廟，大言曰：賊臣王敦傾覆社稷，枉殺忠臣，神祇有靈，當速殺之。收人以戟傷其口，血流至踵，容止自若。觀者皆爲流涕。并戴淵殺之於石頭南門之外。帝使侍中王彬勞敦，彬素與顓善，先往哭顓，然後見敦。敦怪其容慘，問之。彬曰：向哭伯仁，情不能已。敦怒曰：伯仁自致刑戮，且凡人遇汝，汝何哀而哭之？彬曰：伯仁長者，兄之親友，在朝雖無善愕，亦非阿黨而赦後加之極刑，所以傷惋也。因勃然數敦曰：兄抗旌犯順，殺戮忠良，圖爲不軌，禍及門戶矣。辭氣慷慨，聲淚俱下。敦大怒，厲聲曰：爾狂悖，乃至此。以吾爲不能殺汝邪？時王導在坐，爲之懼。勸彬起謝。彬曰：脚痛不能拜，且此復何謝？敦曰：脚痛孰若頸痛？彬殊無懼容，竟不肯拜。王導後料檢中書故事，乃見顓救己之表，執之流涕曰：吾雖不殺伯仁，伯仁由我而死，幽冥之中，負此良友。沈充拔吳國殺內史張茂，初王敦聞甘卓起兵，大懼。卓兄子叩爲敦參軍，敦使叩歸說卓曰：君此自是臣節，不相責也。吾家計急，不得不爾。想便旋軍襄陽，當更結好。卓雖

慕忠義，性多疑少決，軍于豬口，欲待諸方同出軍，稽留累旬，不前。敦既得建康，乃遣臺使以騶虞幡駐卓軍。卓聞周顓、戴淵死，流涕謂叩曰：吾之所憂，正爲今日。且使聖上元吉，太子無恙。吾臨敦上流，亦未敢遽危社稷。適吾徑據武昌，敦勢逼，必劫天子，以絕四海之望。不如還襄陽，更思後圖。卽命旋軍。都尉秦康與樂道融說卓曰：今分兵斷彭澤，使敦上下不得相赴，其衆自然離散。可一戰擒也。將軍起義兵而中止，竊爲將軍不取。且將軍之下，士卒各求其利，欲求西還，亦恐不可得也。卓不從。道融晝夜泣諫，卓不聽。道融憂憤而卒。卓性本寬和，忽更彊塞，徑還襄陽，意氣騷擾，舉動失常。識者知其將死矣。王敦以西陽王羨爲太宰，加王導尙書令。王廙爲荊州刺史，改易百官。及諸軍鎮轉徙，黜免者以百數。或朝行暮改，惟意所欲。敦將還武昌，謝鯤言於敦曰：公至都以來，稱疾不朝，是以雖建勳而人心實有未達。今若朝天子，使君臣釋然，則物情皆悅服矣。敦曰：君能保無變乎？對曰：鯤近日入覲，主上側席，遲得見公，宮省穆然，必無虞也。公若入朝，鯤請侍從。敦勃然曰：正復殺君等數百人，亦復何損於時？竟不朝而去。夏四月，敦還武昌。初，宜都內史天門周級聞譙王承起兵，使其兄子該潛詣長沙，申款於承。魏父等攻湘州急，承遣該及從事邵陵周崎間出求救。皆爲邏者所得。又使崎語城中，稱大將軍已克建康，甘卓還襄陽，外援理絕，崎僞許之。既至城下，大呼曰：援兵尋至，努力堅守。父殺之。父考該至死，竟不言其故。周級由是獲免。父等攻戰日逼，敦又送所得臺中人書疏，令父射以示承。城中知朝廷不守，莫不悵惋，相持且百日。劉翼戰死，士卒死傷相枕。癸巳，又拔長沙，承等皆被執。父將殺虞悝，子弟對之號泣。悝曰：人生會當有死，今闔門爲忠義之鬼，亦復何恨。父以檻車載承及易雄，送武昌。佐吏皆犇散，惟主簿桓雄、西曹書佐韓階從事武延，毀服爲僮，從承不離左右。父見桓雄姿貌舉止非凡人，憚而殺之。韓階、武延執志愈固。荊州刺史王廙承敦旨，殺承於道中。階延送承喪至都，葬之而去。易雄至武昌，意

氣忼慨。曾無懼容。敦遣人。以檄示。雄而數之。雄曰。此實有之。惜雄位微力弱。不能救國難耳。今日之死。固所願也。敦憚其辭正。釋之。遣就舍。衆人皆賀之。雄笑曰。吾安得生。既而敦遣人潛殺之。魏又求鄧騫甚急。鄉人皆爲之懼。騫笑曰。此欲用我耳。彼新得州。多殺忠良。故求我以厭人望也。乃往詣。又喜曰。君古之解揚也。以爲別駕。詔以陶侃領湘州刺史。王敦上侃復還廣州。加散騎常侍。○甲午。前趙羊后卒。諡曰獻文。○甘卓家人皆勸卓備王敦。卓不從。悉散兵佃作。聞諫輒怒。襄陽太守周慮密承敦意。詐言湖中多魚。勸卓遣左右悉出捕魚。五月乙亥。慮引兵襲卓於寢室。殺之。傳首於敦。并殺其諸子。敦以從事中郎周撫督河北諸軍事。代卓鎮沔中。撫訪之子也。敦既得志。暴慢滋甚。四方貢獻多入其府。將相岳牧皆出其門。以沈充錢鳳爲謀主。唯二人之言是從。所譖無不死者。以諸葛瑤鄧岳周撫李恒謝雍爲爪牙。充等竝凶險驕恣。大起營府。侵人田宅。剽掠市道。識者咸知其將敗焉。○秋七月。後趙中山公虎拔泰山。執徐龕送襄國。後趙王勒盛之以囊。於百尺樓上撲殺之。命王伏都等妻子刳而食之。阮其降卒三千人。○兖州刺史郝鑿在鄒山三年。有衆數萬。戰爭不息。百姓飢饉。掘野鼠蟄鷲而食之。爲後趙所逼。退屯合肥。尙書右僕射紀瞻以鑿雅望清德。宜從容臺閣。上疏請徵之。乃徵拜尙書。徐亮問諸塢。多降於後趙。後趙置守宰以撫之。○王敦自領寧益二州都督。冬十月己丑。荊州刺史武陵康侯王廙卒。王敦以下邳內史王邃都督青徐幽平四州諸軍事。鎮淮陰。衛將軍王含都督沔南諸軍事。領荊州刺史。武昌太守丹楊王諒爲交州刺史。使諒收交州刺史修湛。新昌太守梁碩殺之。諒誘湛斬之。碩舉兵圍諒於龍編。○祖逖既卒。後趙屢寇河南。拔襄城城父圍譙。豫州刺史祖約不能禦。退屯壽春。後趙遂取陳留。梁鄭之間復騷然矣。○十一月。以臨潁元公荀組爲太尉。辛酉。薨。罷司徒。并丞相府。王敦以司徒官屬爲留府。○帝憂憤成疾。閏月己丑。崩。司空王導受遺詔輔政。帝恭儉有餘。而明斷

不足。故大業未復。而禍亂內興。庚寅。太子卽皇帝位。大赦。尊所生母荀氏爲建安君。○十二月。趙主曜葬其父母於粟邑。大赦。陵下周二里。上高百尺。計用六萬夫。作之百日乃成。役者夜作。繼以脂燭。民甚苦之。游子遠諫。不聽。○後趙濮陽景侯張賓卒。後趙王勒哭之。慟曰。天不欲成吾事邪。何奪吾右侯之早也。程遐代爲右長史。遐世子弘之舅也。勒每與遐議。有所不合。輒嘆曰。右侯捨我去。乃令我與此輩共事。豈非酷乎。因流涕彌日。○張茂使將軍韓璞帥衆取隴西南安之地。置秦州。○慕容廆遣其世子皝襲段末柸。入令支。掠其居民千餘家而還。

肅宗明皇帝上

太寧元年春正月。成李驥任回寇臺登將軍司馬玖戰死。越嶲太守李釗漢嘉太守王載皆以郡降于成。○二月庚戌。葬元帝于建平陵。○三月戊寅朔。改元。○饒安東光安陵三縣災。燒七千餘家。死者萬五千人。○後趙寇彭城下邳。徐州刺史卞敦與征北將軍王邃退保。許胎敦。壺之從父兄也。○王敦謀篡位。諷朝廷徵己。帝手詔徵之。夏四月。加敦黃鉞。班劍。奏事不名。入朝不趨。劔履上殿。敦移鎮姑孰。屯于湖。以司空導爲司徒。敦自領揚州牧。敦欲爲逆。王彬諫之甚苦。敦變色。目左右將收之。彬正色曰。君昔歲殺兄。今又殺弟邪。敦乃止。以彬爲豫章太守。○後趙王勒遣使結好於慕容廆。廆執送建康。○成李驥等進攻寧州。刺史襄中壯公王遜使將軍姚嶽等拒之。戰於蟠娘。成兵大敗。嶽追至瀘水。成兵爭濟。溺死者千餘人。嶽以道遠不敢濟而還。遜以嶽不窮追。大怒鞭之。怒甚。冠裂而卒。遜在州十四年。威行殊俗。州人立其子堅行州府事。詔除堅寧州刺史。○廣州刺史陶侃遣兵救交州。未至。梁碩拔龍編奪刺史王諒節。諒不與。碩斷其右臂。諒曰。死且不避。斷臂何爲。踰旬而卒。○六月壬子。立

妃庾氏爲皇后。以后兄中領軍亮爲中書監。○梁頌據交州。凶暴失衆心。陶侃遣參軍高寶攻頌斬之。詔以侃領交州刺史。進號征南大將軍。開府儀同三司。未幾。吏部郎阮放求爲交州刺史。許之。放行至寧浦。遇高寶爲寶設饌。伏兵殺之。寶兵擊放。放走得免。至州。少時。病卒。放。咸之族子也。○陳安圍趙征西將軍劉貢于南安。休屠王石武自桑城引兵趣上邽。以救之。與貢合擊安。大破之。安收餘騎八千。走保隴城。秋。七月。趙主曜自將圍隴城。別遣兵圍上邽。安頻出戰。輒敗。右軍將軍劉幹攻平襄。克之。隴上諸縣悉降。安留其將楊伯支。姜冲兒守隴城。自帥精騎突圍出。奔陝中。曜遣將軍平先等追之。安左揮七尺大刀。右運丈八蛇矛。近則刀矛俱發。輒殪五六人。遠則左右馳射而走。先亦勇捷如飛。與安搏戰三交。遂奪其蛇矛。會日暮雨甚。安棄馬。與左右匿於山中。趙兵索之。不知所在。明日。安遣其將石容。覘趙兵。趙輔威將軍呼延青人獲之。拷問安所在。容卒不肯言。青人殺之。雨霽。青人尋其迹。獲安於澗曲。斬之。安善撫將士。與同甘苦。及死。隴上人思之。爲作壯士之歌。楊伯支斬姜冲兒。以隴城降。別將宋亨。斬趙募。以上邽降。曜徙秦州大姓楊姜諸族二千餘戶于長安。氏羌皆送任請降。以赤亭羌酋姚弋仲爲平西將軍。封平襄公。○帝畏王敦之逼。欲以郗鑒爲外援。拜鑒兖州刺史。都督揚州江西諸軍事。鎮合肥。王敦忌之。表鑒爲尙書令。八月。詔徵鑒還。道經姑孰。敦與之論。西朝人士曰。樂彥輔短才耳。考其實。豈勝滿武秋邪。鑒曰。彥輔道韻平淡。愍懷之廢。柔而能正。武秋失節之士。安得擬之。敦曰。當是時。危機交急。鑒曰。丈夫當死生以之。敦惡其言。不復相見。久留不遣。敦黨皆勸敦殺之。敦不從。鑒還臺。遂與帝謀討敦。○後趙中山公虎。帥步騎四萬。擊安東將軍曹嶷。青州郡縣多降之。遂圍廣固。嶷出降。送襄國。殺之。阮其衆三萬。虎欲盡殺嶷衆。青州刺史劉徵曰。今留徵使牧民也。無民焉。徵將歸耳。虎乃留男女七百日。配徵。使鎮廣固。○趙主曜自隴上西擊涼州。遣其將劉威。攻韓璞於冀城。呼延晏攻

寧羌護軍陰鑿於桑壁。曜自將戎卒二十八萬軍于河上。列營百餘里。金鼓之聲動地。河水爲沸。張茂臨河諸戍皆望風奔潰。曜揚聲欲百道俱濟。直抵姑臧。涼州大震。參軍馬岌勸茂親出拒戰。長史汜禕怒請斬之。岌曰。汜公。糟粕書生。刺舉小才。不思家國大計。明公父子欲爲朝廷誅劉曜。有年矣。今曜自至。遠近之情。共觀明公此舉。當立信勇之驗。以副秦隴之望。力雖不敵。勢不可以不出。茂曰。善。乃出屯石頭。茂謂參軍陳珍曰。劉曜舉三秦之衆。乘勝席卷而來。將若之何。珍曰。曜兵雖多。精卒至少。大抵皆氐羌烏合之衆。恩信未洽。且有山東之虞。安能捨其腹心之疾。曠日持久。與我爭河西之地邪。若二旬不退。珍請得弊卒數千。爲明公擒之。茂喜。使珍將兵。救韓璞。趙諸將爭欲濟河。趙主曜曰。吾軍勢雖盛。然畏威而來者。三分有二。中軍疲困。其實難用。今但案甲勿動。以吾威聲震之。若出中甸。張茂之表不至者。吾爲負卿矣。茂尋遣使稱藩。獻馬牛羊珍寶。不可勝紀。曜拜茂侍中。都督涼南北秦梁益巴漢隴右西域雜夷匈奴諸軍事。太師。涼州牧。封涼王。加九錫。○楊難敵聞陳安死。大懼。與弟堅頭。南奔漢中。趙鎮西將軍劉厚。追擊之。大獲而還。趙主曜以大鴻臚田崧爲鎮南大將軍。益州刺史。鎮仇池。難敵送任。請降於成。成安北將軍李稚。受難敵賂。不送難敵於成都。趙兵退。卽遣歸武都。難敵遂據險不服。稚自悔失計。亟請討之。稚遣稚兄侍中中領軍瑯與稚出白水。征東將軍李壽及瑯弟珩。出陰平。以擊難敵。羣臣諫。不聽。難敵遣兵拒之。壽珩不得進。而瑯稚長驅至下辨。難敵遣兵斷其歸路。四面攻之。瑯稚深入無繼。皆爲難敵所殺。死者數千人。瑯蕩之長子。有才望。稚欲以爲嗣。聞其死。不食者數日。○初。趙主曜長子儉。次子胤。胤年十歲。長七尺五寸。漢主聰奇之。謂曜曰。此兒神氣。非義真之比也。當以爲嗣。曜曰。藩國之嗣。能守祭祀足矣。不敢亂長幼之序。聰曰。卿之勳德。當世受專征之任。非它臣之比也。吾當更以一國封義真。乃封儉爲臨海王。立胤爲世子。旣長。多力善射。驍捷如風。斬準之亂。沒於黑

匿郁鞠部。陳安既敗。胤自言於郁鞠。郁鞠大驚。禮而歸之。曜悲喜。謂羣臣曰。義光雖已爲太子。然冲幼儒謹。恐不堪。今之多難。義孫故世子也。材器過人。且涉歷艱難。吾欲法周文王漢光武。以固社稷。而安義光何如。太傅呼延晏等皆曰。陛下爲國家無窮之計。豈惟臣等賴之。實宗廟四海之慶。左光祿大夫卜泰。太子太保韓廣。進曰。陛下以廢立爲是。不應更問羣臣。若以爲疑。固樂聞異同之言。臣竊以爲廢太子非也。昔文王定嗣於未立之前。則可也。光武以母失恩而廢其子。豈足爲聖朝之法。邾以東海爲嗣。未必不如明帝也。胤文武才略。誠高絕於世。然太子孝友仁慈。亦足爲承平賢主。況東宮者。民神所繫。豈可輕動。陛下誠欲如是。臣等有死而已。不敢奉詔。曜默然。胤進曰。父之於子。當愛之如一。今黜胤而立臣。臣何敢自安。陛下苟以臣爲頗堪驅策。豈不能輔胤以承聖業乎。必若以臣代胤。臣請效死於此。不敢聞命。因獻歔流涕。曜亦以熙羊后所生。不忍廢也。乃追諡前妃卜氏爲元悼皇后。泰卽胤之舅也。曜嘉其公忠。以爲上光祿大夫。儀同三司。領太子太傅。封胤爲永安王。拜侍中。衛大將軍。都督二宮禁衛諸軍事。開府儀同三司。錄尚書事。命熙於胤。盡家人之禮。○張茂大城姑臧。修靈鈞臺。別駕吳紹諫曰。明公所以修城築臺者。蓋懲既往之患耳。愚以爲苟恩未洽於人心。雖處層臺。亦無所益。適足以疑羣下忠信之志。失士民繫託之望。示怯弱之形。啓鄰敵之謀。將何以佐天子。霸諸侯乎。願亟罷茲役。以息勞費。茂曰。亡兄一旦失身於物。豈無忠臣義士欲盡節者哉。顧禍生不意。雖有智勇。無所施耳。王公設險。勇夫重閉。古之道也。今國家未靖。不可以太平之理責人於屯遭之世也。卒爲之。○王敦從子允之。方總角。敦愛其聰警。常以自隨。敦常夜飲。允之辭醉先臥。敦與錢鳳謀爲逆。允之悉聞其言。卽於臥處大吐。衣面並污。鳳出。敦果照視。見允之臥於吐中。不復疑之。會其父舒拜廷尉。允之求歸省父。悉以敦鳳之謀。白舒。舒與王導俱啓帝。陰爲之備。敦欲彊其宗族。陵弱帝室。冬十一月。徙王含爲征

東將軍。都督揚州江西諸軍事。王舒爲荊州刺史。監荊州河南諸軍事。王彬爲江州刺史。○後趙王勒以參軍樊坦爲章武內史。勒見其衣冠弊壞。問之。坦率然對曰。頃爲羯賊所掠。資財蕩盡。勒笑曰。羯賊乃爾無道邪。今當相償。坦大懼。叩頭泣謝。勒賜車馬衣服。裝錢三百萬而遣之。○是歲。越嶲斯叟攻成。將任回成主雄。遣征南將軍費黑討之。○會稽內史周札。一門五侯。宗族彊盛。吳士莫與爲比。王敦忌之。敦有疾。錢鳳勸敦早除周氏。敦然之。周嵩以兄顓之死。心常憤憤。敦無子。養王含子應爲嗣。嵩嘗於衆中言。應不宜統兵。敦惡之。嵩與札兄子蕤。皆爲敦從事中郎。會道士李脫。以妖術惑衆。士民頗信事之。

資治通鑑卷第九十二

晉紀 肅宗明皇帝上太寧元年

資治通鑑卷第九十三

晉紀十五

肅宗明皇帝下

太寧二年春正月王敦誣周嵩周蕊與李脫謀為不軌收嵩蕊於軍中殺之遣參軍賀鸞就沈充於吳盡殺周札諸兄子進兵襲會稽札拒戰而死○後趙將兵都尉石瞻寇下邳彭城取東莞東海劉遐退保泗口司州刺史石生擊趙河南太守尹平於新安斬之掠五千餘戶而歸自是二趙構隙日相攻掠河東弘農之間民不聊生矣石生寇許穎俘獲萬計攻郭誦于陽翟誦與戰大破之生退守康城後趙汲郡內史石聰聞生敗馳救之進攻司州刺史李矩穎川太守郭默皆破之○成主雄后任氏無子有妾子十餘人雄立其兄蕩之子班為太子使任后母之羣臣請立諸子雄曰吾兄先帝之嫡統有奇材大功事垂克而早世朕常悼之且班仁孝好學必能負荷先烈太傅驥司徒王達諫曰先王立嗣必子者所以明定分而防篡奪也宋宣公吳餘祭足以觀矣雄不聽驥退而流涕曰亂自此始矣班為人謙恭下士動遵禮法雄每有大議輒令豫之○夏五月甲申張茂疾病執世子駿手泣曰吾家世以孝友忠順著稱今雖天下大亂汝奉承之不可失也且下令曰吾官非王命苟以集事豈敢榮之死之日當以白帟入棺勿以朝服斂是日薨愍帝使者史淑在姑臧左長史汜禕右長史馬謨等使淑拜駿大將軍涼州牧西平公赦其境內前趙主曜遣使贈茂太宰諡曰成烈王拜駿上大將軍涼州牧涼王○王敦疾甚矯詔拜王應為武衛將軍以自副以王含為驃騎

大將軍開府儀同三司錢鳳謂敦曰脫有不諱便當以後事付應邪敦曰非常之事非常人所能為且應年少豈堪大事我死之後莫若釋兵散衆歸身朝廷保全門戶上計也退還武昌收兵自守貢獻不廢中計也及吾尚存悉衆而下萬一僥倖下計也鳳謂其黨曰公之下計乃上策也遂與沈充定謀俟敦死即作亂又以宿衛尚多奏令三番休二初帝親任中書令溫嶠敦惡之請嶠為左司馬嶠乃繆為勤敬綜其府事時進密謀以附其欲深結錢鳳為之聲譽每曰錢世儀精神滿腹嶠素有藻鑑之名鳳甚悅深與嶠結好會丹楊尹缺嶠言於敦曰京尹咽喉之地公宜自選其才恐朝廷用人或不盡理敦然之問嶠誰可者嶠曰愚謂無如錢鳳鳳亦推嶠嶠偽辭之敦不聽六月表嶠為丹楊尹且使覘伺朝廷嶠恐既去而錢鳳於後間止之因敦餞別嶠起行酒至鳳鳳未及飲嶠偽醉以手版擊鳳幘墜作色曰錢鳳何人溫太真行酒而敢不飲敦以為醉兩釋之嶠臨去與敦別涕泗橫流出閣復入者再三行後鳳謂敦曰嶠於朝廷甚密而與庾亮深交未可信也敦曰太真昨醉小加聲色何得便爾相讒嶠至建康盡以敦逆謀告帝請先為之備又與庾亮共畫討敦之謀敦聞之大怒曰吾乃為小物所欺與司徒導書曰太真別來幾日作如此事當募人生致之自拔其舌帝將討敦以問光祿勳應詹詹勸成之帝意遂決丁卯加司徒導大都督領揚州刺史以溫嶠都督東安北部諸軍事與右將軍卞敦守石頭應詹為護軍將軍都督前鋒及朱雀橋南諸軍事郝鑿行衛將軍都督從駕諸軍事庾亮領左衛將軍以吏部尚書卞壺行中軍將軍郝鑿以為軍號無益事實固辭不受請召臨淮太守蘇峻兖州刺史劉遐同討敦詔徵峻遐及徐州刺史王邃豫州刺史祖約廣陵太守陶瞻等入衛京師帝屯于中堂司徒導聞敦疾篤帥子弟為敦發哀衆以為敦信死咸有奮志於是尚書騰詔下敦府列敦罪惡曰敦輒立兄息以自承代未有宰相繼體而不由王命者也頑凶相獎無所顧忌志驍凶醜以窺神器天不

長姦。敦以隕斃。鳳承凶宄。彌復煽逆。今遣司徒導等。虎旅三萬。十道竝進。平西將軍遂等。精銳三萬。水陸齊勢。朕親統諸軍。討鳳之罪。有能殺鳳送首。封五千戶侯。諸文武爲敦所授用者。一無所問。無或猜嫌。以取誅滅。敦之將士。從敦彌年。違離家室。朕甚愍之。其單丁在軍。皆遣歸家。終身不調。其餘皆與假三年。休訖還臺。當與宿衛同例。三番。敦見詔甚怒。而病轉篤。不能自將。將舉兵伐京師。使記室郭璞筮之。璞曰。無成。敦素疑璞。助溫嶠。庾亮。及聞卦凶。乃問璞曰。卿更筮。吾壽幾何。璞曰。思向卦。明公起事。必禍不久。若住武昌。壽不可測。敦大怒曰。卿壽幾何。曰。命盡今日。日中。敦乃收璞斬之。敦使錢鳳及冠軍將軍鄧岳。前將軍周撫等。帥衆向京師。王含謂敦曰。此乃家事。吾當自行。於是。以含爲元帥。鳳等問曰。事克之日。天子云何。敦曰。尙未南郊。何得稱天子。便盡卿兵勢。保護東海王及表妃而已。乃上疏。以誅姦臣。溫嶠等爲名。秋七月。壬申朔。王含等。水陸五萬。奄至江寧南岸。人情恟懼。溫嶠移屯水北。燒朱雀桁。以挫其鋒。含等不得渡。帝欲親將兵擊之。聞嶠已絕。大怒。嶠曰。今宿衛寡弱。微兵未至。若賊豕突。危及社稷。宗廟且恐不保。何愛一橋乎。司徒導。遣含書曰。近承大將軍困篤。或云已有不諱。尋知錢鳳大嚴。欲肆姦逆。謂兄當抑制不逞。還藩武昌。今乃與犬羊俱下。兄之此舉。謂可得如大將軍昔年之事乎。昔者。佞臣亂朝。人懷不寧。如導之徒。心思外濟。今則不然。大將軍來屯于湖。漸失人心。君子危怖。百姓勞弊。臨終之日。委重安期。安期斷乳。幾日。又於時望。便可襲宰相之迹邪。自開關以來。頗有宰相以孺子爲之者乎。諸有耳者。皆知將爲禪代。非人臣之事也。先帝中興。遺愛在民。聖主聰明。德洽朝野。兄乃欲妄萌逆節。凡在人臣。誰不憤歎。導門小大。受國厚恩。今日之事。明目張膽。爲六軍之首。寧爲忠臣而死。不爲無賴而生矣。含不答。或以爲王含。錢鳳。衆力百倍。苑城小而固。宜及軍勢未成。大駕自出拒戰。郗鑒曰。羣逆縱逸。勢不可當。可以謀屈。難以力競。且含等號令不一。抄盜相尋。吏民懲往年暴

掠。皆人自爲守。乘逆順之勢。何憂不克。且賊無經略。遠圖惟恃豕突。一戰曠日持久。必啓義士之心。令智力得展。今以此弱力。敵彼彊寇。決勝負於一朝。定成敗於呼吸。萬一蹉跌。雖有申胥之徒。義存投袂。何補於既往哉。帝乃止。帝帥諸軍出屯南皇堂。癸酉夜。募壯士。遣將軍段秀。中軍司馬曹暉等。帥甲卒千人。渡水掩其未備。平旦。戰於越城。大破之。斬其前鋒將何康。秀。匹礮之弟也。敦聞含敗。大怒曰。我兄老婢耳。門戶衰。世事去矣。顧謂參軍呂寶曰。我當力行。因作勢而起。困乏復臥。乃謂其舅少府羊鑒及王應曰。我死。應便卽位。先立朝廷百官。然後營葬事。敦尋卒。應祕不發喪。裹尸以席。蠟塗其外。埋於廳事中。與諸葛瑤等。日夜縱酒淫樂。帝使吳興沈楨。說沈充。許以爲司空。充曰。三司具瞻之重。豈吾所任。幣厚言甘。古人所畏也。且丈夫共事。終始當同。豈可中道改易。人誰容我乎。遂舉兵。趣建康。宗正卿虞潭。以疾歸。會稽聞之。起兵餘姚。以討充。帝以潭領會稽內史。前安東將軍劉超。宣城內史鍾雅。皆起兵以討充。義興人周憲。殺王敦所署太守劉芳。平西將軍祖約。遂敦所署淮南太守任台。沈充帥衆萬餘人。與王含軍合。司馬顧颺說充曰。今舉大事。而天子已扼其咽喉。鋒摧氣沮。相持日久。必致禍敗。今若決破柵塘。因湖水以灌京邑。乘水勢。縱舟師以攻之。此上策也。藉初至之銳。并東西軍之力。十道俱進。衆寡過倍。理必摧陷。中策也。轉禍爲福。召錢鳳計事。因斬之以降。下策也。充皆不能用。颺逃歸于吳。丁亥。劉遐。蘇峻等。帥精卒萬人。至。帝夜見勞之。賜將士各有差。沈充。錢鳳。欲因北軍初到。疲困擊之。乙未夜。充鳳從竹格渚渡淮。護軍將軍應詹。建威將軍趙胤等。拒戰不利。充鳳至宣陽門。拔柵將戰。劉遐。蘇峻。自南塘橫擊。大破之。赴水死者三千人。遐又破沈充于青溪。尋陽太守周光。聞敦舉兵。帥千餘人來赴。既至。求見敦。王應辭以疾。光退曰。今我遠來。而不得見。公其死乎。遽見其兄撫曰。王公已死。兄何爲與錢鳳作賊。衆皆愕然。丙申。王含等。燒營夜遁。丁酉。帝還宮。大赦。惟敦黨不原。命庾亮督蘇峻等。

追沈充於吳興。溫嶠督劉遐等追王含錢鳳於江寧。分命諸將追其黨與。劉遐軍人頗縱虜掠。嶠責之曰：天道助順，故王含勦絕，豈可因亂爲亂也？遐惶恐拜謝。王含欲犇荊州，王應曰：不如江州。含曰：大將軍平素與江州云何，而欲歸之？應曰：此乃所以宜歸也。江州當人強盛時，能立同異，此非常人所及。今觀困厄，必有愍惻之心。荊州守文，豈能意外行事邪？含不從。遂奔荊州。王舒遣軍迎之。沈含父子於江。王彬聞應當來，密具舟以待之。不至，深以爲恨。錢鳳走至闔廬洲，周光斬之。詣闕自贖。沈充走失道，誤入故將吳儒家。儒誘充，內重壁中，因笑謂充曰：三千戶侯矣。充曰：爾以義存我，我家必厚報汝。若以利殺我，我死，汝族滅矣。儒遂殺之。傳首建康。敦黨悉平。充子勁當坐誅。鄉人錢舉匿之得免。其後勁竟滅吳氏。有司發王敦瘞，出尸焚其衣冠，踞而斬之。與沈充首同懸於南桁。郗鑒言於帝曰：前朝誅楊駿等，皆先極官刑，後聽私殯。臣以爲王誅加於上，私義行於下，宜聽敦家收葬於義。爲弘帝許之。司徒導等皆以討敦功受封賞。周撫與鄧岳俱亡。周光欲資給其兄而取岳，撫怒曰：我與伯山同亡，何不先斬我。會岳至，撫出門遙謂之曰：何不速去。今骨肉尙欲相危，況他人乎？岳廻舟而走。與撫共入西陽蠻中。明年詔原敦黨，撫岳出首得免。死禁錮。故吳內史張茂妻陸氏，傾家產帥茂部曲爲先登，以討沈充報其夫仇。充敗，陸氏詣闕上書爲茂謝不克之責，詔贈茂太僕。有司奏：王彬等敦之親族，皆當除名。詔曰：司徒導以大義滅親，猶將百世宥之。況彬等皆公之近親乎？悉無所問。有詔：王敦綱紀除名，參佐禁錮。溫嶠上疏曰：王敦剛愎不仁，忍行殺戮，朝廷所不能制，骨肉所不能諫。處其朝者，恒懼危亡，故人士結舌，道路以目。誠賢人君子道窮數盡，遵養時晦之辰也。原其私心，豈違安處，如陸玩、劉胤、郭璞之徒，常與臣言，備知之矣。必其贊導凶悖，自當正以典刑。如其枉陷，姦黨謂宜施之寬貸。臣以玩等之誠，聞於聖聽，當受同賊之責，苟默而不言，實負其心。惟陛下仁聖裁之。郗鑒以爲先王立君，臣之教貴於伏

節死義。王敦佐吏雖多逼迫，然進不能止其逆謀，退不能脫身遠遁。準之前訓，宜加義責。帝卒從嶠議。○冬十月，以司徒導爲太保，領司徒，加殊禮。西陽王綦領太尉，應詹爲江州刺史。劉遐爲徐州刺史。代王邃鎮淮陰，蘇峻爲歷陽內史。加庾亮護軍將軍。溫嶠前將軍，導固辭不受。應詹至江州，吏民未安。詹撫而懷之，莫不悅服。○十二月，涼州將辛晏據枹罕不服。張駿將討之。從事劉慶諫曰：霸王之師，必須天時，人事相得，然後乃起。辛晏凶狂安忍，其亡可必。柰何以饑年大舉，盛寒攻城乎？駿乃止。駿遣參軍王驥聘於趙，趙主曜謂之曰：貴州欵誠和好，卿能保之乎？驥曰：不能。侍中徐邈曰：君來結好，而云不能保，何也？驥曰：齊桓貫澤之盟，憂心兢兢，諸侯不召自至。葵丘之會，振而矜之。叛者九國，趙國之化，常如今日，可也。若政教陵遲，尙未能察邇者之變，況鄙州乎？曜曰：此涼州之君子也。擇使可謂得人矣。厚禮而遣之。○是歲代王賀偁始親國政，以諸部多未服，乃築城於東木根山，徙居之。三年春二月，張駿承元帝凶問，大臨三日。會黃龍見嘉泉，汜禕等請改年以章休祥。駿不許。辛晏以枹罕降，駿復收河南之地。○贈故譙王承、甘卓、戴淵、周顛、虞望、郭璞、王澄等官。周札故吏爲札訟冤。尙書下臺議以爲札守石頭，開門延寇，不當贈諡。司徒導以爲往年之事，敦姦逆未彰，自臣等有議以上，皆所未悟。與札無異。旣悟其姦，札便以身許國，尋取梟夷。臣謂宜與周戴同例。郗鑒以爲周戴死節，周札延寇，事異賞均。何以勸沮。如司徒議，謂往年有識以上，皆與札無異。則譙王周戴皆應受責。何贈諡之有。今三臣旣褒，則札宜受貶明矣。導曰：札與譙王周戴雖所見有異，同皆人臣之節也。鑒曰：敦之逆謀，履霜日久，緣札開門，令王師不振。若敦前者之舉，義同桓文，則先帝可爲幽厲邪？然卒用導議，贈札衛尉。○後趙王勒加宇文乞得歸官爵，使之擊慕容廆。廆遣世子就索頭段國共擊之。以遼東相裴嶷爲右翼，慕容仁爲左翼，乞得歸據澆水以拒就。遣兄子悉拔雄拒仁。仁擊悉拔雄斬之。乘勝與就攻乞

得歸。大破之。乞得歸。棄軍走。魏仁進入其國城。使輕兵追乞得歸。過其國三百餘里而還。盡獲其國重器畜產。以百萬計。民之降附者數萬。○三月。段末杯卒。弟牙立。○戊辰。立皇子衍爲太子。大赦。○趙主曜。立皇后劉氏。○北羌王盆句除。附於趙。後趙將石佗。自鴈門出。上郡襲之。俘三千餘。落獲牛馬羊百餘萬。而歸。趙主曜遣中山王岳追之。曜屯于富平。爲岳聲援。岳與石佗戰於河濱。斬之。後趙兵死者六千餘人。岳悉收所虜而歸。○楊難敵襲仇池。克之。執田崧。立之於前。左右令崧拜。崧瞑目叱之曰。臣狗安有天子牧伯而向賊拜乎。難敵字謂之曰。子岱。吾當與子共定大業。子忠於劉氏。豈不能忠於我乎。崧厲色大言曰。賊氏。汝本奴才。何謂大業。我寧爲趙鬼。不爲汝臣。顧排一人。奪其劍。前刺難敵。不中。難敵殺之。○都尉魯潛。以許昌叛。降於後趙。○夏。四月。後趙將石瞻。攻兖州刺史檀斌于鄒山。殺之。○後趙西夷中郎將王騰。襲殺并州刺史崔琨。上黨內史王晉。據并州降趙。○五月。以陶侃爲征西大將軍。都督荆湘雍梁四州諸軍事。荆州刺史。荆州士女相慶。侃性聰敏。恭勤。終日斂膝危坐。軍府衆事。檢攝無遺。未嘗少閑。常語人曰。大禹聖人。乃惜寸陰。至於衆人。當惜分陰。豈可但逸遊荒醉。生無益於時。死無聞於後。是自棄也。諸參佐或以談戲廢事者。命取其酒器。搗搏之。具悉投之於江。將吏則加鞭扑。曰。樛蒺者。牧猪奴戲耳。老莊浮華。非先王之法言。不益實用。君子當正其威儀。何有蓬頭跣足。自謂宏達邪。有奉饋者。必問其所由。若力作所致。雖微必喜。慰賜參倍。若非理得之。則切厲詞辱。還其所饋。嘗出遊。見人持一把未熟稻。侃問。用此何爲。人云。行道所見。聊取之耳。侃大怒曰。汝既不佃。而戲賊人稻。執而鞭之。是以百姓勤於農作。家給人足。嘗造船。其木屑竹頭。侃皆令籍而掌之。人咸不解。所以。後正會。積雪始晴。聽事前。餘雪猶濕。乃以木屑布地。及桓温伐蜀。又以侃所貯竹頭作丁裝船。其綜理微密。皆此類也。○後趙將石生。屯洛陽寇掠河南。司州刺史李矩。潁川太守郭默。軍數敗。又乏食。乃遣使

附於趙。趙主曜。使中山王岳將兵萬五千人。趣孟津。鎮東將軍呼延謨。帥荆司之衆。自滎滬而東。欲會矩。共攻石生。岳克孟津。石梁二戍。斬獲五千餘級。進圍石生於金塘。後趙中山公虎。帥步騎四萬。入自成臯關。與岳戰洛西。岳兵敗。中流矢。退保石梁。虎作塹柵環之。遏絕內外。岳衆飢甚。殺馬食之。虎又擊呼延謨。斬之。曜自將兵救岳。虎帥騎三萬逆戰。趙前軍將軍劉黑擊。虎將石聰。於八特阪。大破之。曜屯于金谷。夜。軍中無故大驚。士卒奔潰。乃退屯澠池。夜。又驚潰。遂歸長安。六月。虎拔石梁。禽岳及其將佐八十餘人。氏羌三千餘人。皆送襄國。阮其士卒九千餘人。遂攻王騰於并州。執騰殺之。阮其士卒七千餘人。曜還長安。素服郊次。哭七日。乃入城。因憤恚成疾。郭默復爲石聰所敗。棄妻子。南奔建康。李矩將士。陰謀叛。後趙矩不能討。亦帥衆南歸。衆皆道亡。惟郭誦等百餘人隨之。卒於魯陽。矩長史崔宣。帥其餘衆二千。降于後趙。於是司豫徐兗之地。率皆入於後趙。以淮爲境矣。○趙主曜。以永安王胤爲大司馬。大單于。徙封南陽王。置單于臺于渭城。其左右賢王以下。皆以胡羯鮮卑氏羌豪傑爲之。○秋。七月。辛未。以尙書令郗鑿爲車騎將軍。都督徐兗青三州諸軍事。兖州刺史。鎮廣陵。○閏月。以尙書左僕射苟崧爲光祿大夫。錄尙書事。尙書鄧攸爲左僕射。○右衛將軍虞胤。元敬皇后之弟也。與左衛將軍南頓王宗。俱爲帝所親任。典禁兵。直殿內。多聚勇士。以爲羽翼。王導。庾亮皆忌之。頗以爲言。帝待之愈厚。宮門管鑰。皆以委之。帝寢疾。亮夜有所表。從宗求鑰。宗不與。叱亮使曰。此汝家門戶邪。亮益忿之。及帝疾篤。不欲見人。羣臣無得進者。亮疑宗胤。及宗兄西陽王羨。有異謀。排闥入。升御牀。見帝流涕言。羨與宗等。謀廢大臣。自求輔政。請黜之。帝不納。壬午。帝引太宰羨。司徒導。尙書令卞壺。車騎將軍郗鑿。護軍將軍庾亮。領軍將軍陸曄。丹楊尹溫嶠。竝受遺詔。輔太子。更入殿。將兵直宿。復拜壺右將軍。亮中書令。曄錄尙書事。丁亥。降遺詔。戊子。帝崩。帝明敏有機斷。故能以弱制彊。誅翦逆臣。克復大業。己丑。

太子卽皇帝位。生五年矣。羣臣進璽。司徒導以疾不至。卞壺正色於朝曰。王公豈社稷之臣邪。大行在殯。嗣皇未立。寧是人臣辭疾之時也。導聞之。輿疾而至。大赦。增文武位二等。尊庾后爲皇太后。羣臣以帝幼冲。奏請太后依漢和熹皇后故事。太后辭讓數四。乃從之。秋九月。癸卯。太后臨朝稱制。以司徒導錄尚書事。與中書令庾亮。尚書令卞壺。參輔朝政。然事之大要。皆決於亮。加都鑿車騎大將軍。陸曄左光祿大夫。皆開府儀同三司。以南頓王宗爲驃騎將軍。虞胤爲大宗正。尚書召樂廣之子謨爲郡中正。庾珉族人怡爲廷尉評。謨怡各稱父命。不就。卞壺奏曰。人非無父而生。職非無事而立。有父必有命。居職必有悔。有家各私其子。則爲王者無民。君臣之道廢矣。樂廣。庾珉受寵聖世。身非己有。況及後嗣。而可專哉。所居之職。若順夫羣心。則戰成者之父母。皆當命子以不處也。謨怡不得已。各就職。○辛丑。葬明帝于武平陵。○冬十一月。癸巳朔。日有食之。○慕容廆與段氏方睦。爲段牙謀。使之徙都。牙從之。卽去。令支國人不樂。段疾陸眷之孫遼欲奪其位。以徙都爲牙罪。十二月。帥國人攻牙殺之。自立。段氏自務勿塵以來。日益彊盛。其地西接漁陽。東界遼水。所統胡晉三萬餘戶。控弦四五萬騎。○荊州刺史陶侃。以寧州刺史王堅不能禦寇。是歲。表零陵太守南陽尹奉。爲寧州刺史。以代之。先是。王遜在寧州。蠻酋梁水太守爨量。益州太守李暹。皆叛附於成。遜討之不能克。奉至州。重募徼外夷刺爨量殺之。諭降李暹。州境遂安。○代王賀正卒。弟紇那立。

顯宗成皇帝上之上

咸和元年。春二月。大赦。改元。○趙以汝南王咸爲太尉。錄尚書事。光祿大夫劉綬爲大司徒。卜泰爲大司空。劉后疾病。趙主曜問所欲言。劉氏泣曰。妾幼鞠於叔父。願陛下貴之。叔父曜之女芳。有德色。願以備後宮。言終而卒。曜以昶爲侍中。大司徒錄尚書事。立芳爲皇后。尋

又以昶爲太保。○三月。後趙王勒夜微行。檢察諸營衛。齎金帛。以賂門者。求出。永昌門候王假欲收捕之。從者至。乃止。且召假以爲振忠都尉。爵關內侯。勒召記室參軍徐光。光醉不至。黜爲牙門。光侍直。有愠色。勒怒。并其妻子囚之。○夏四月。後趙將石生寇汝南。執內史祖濟。○六月。癸亥。泉陵公劉遐卒。癸酉。以車騎大將軍都鑿領徐州刺史。征虜將軍郭默爲北中郎將。監淮北諸軍事。領遐部曲。遐子肇尙幼。遐妹夫田防及故將史迭等。不樂他屬。共以肇襲遐故位。而叛。臨淮太守劉矯掩襲遐營。斬防等。遐妻邵續女也。驍果有父風。遐嘗爲後趙所圍。妻將數騎拔退。出於萬衆之中。及田防等欲作亂。遐妻止之。不從。乃密起火。燒甲仗。都盡。故防等卒敗。詔以肇襲遐爵。司徒導稱疾不朝。而私送都鑿。卞壺奏。導。虧法從私。無大臣之節。請免官。雖事寢不行。舉朝憚之。壺儉素廉潔。裁斷切直。當官幹實。性不弘裕。不肯苟同時好。故爲諸名士所少。阮孚謂之曰。卿常無閑泰。如含瓦石。不亦勞乎。壺曰。諸君子以道德恢弘。風流相尙。執鄙吝者。非壺而誰。時貴游子弟多慕王澄。謝鯤。爲放達。壺厲色於朝。曰。悖禮傷教。罪莫大焉。中朝傾覆。實由於此。欲奏推之。王導。庾亮不聽。乃止。○成人討越。嵩斯叟破之。○秋七月。癸丑。觀陽烈侯應詹卒。○初。王導輔政。以寬和得衆。及庾亮用事。任法裁物。頗失人心。豫州刺史祖約。自以名輩。不後都下。而不豫顧命。又望開府。復不得。及諸表請。多不見許。遂懷怨望。及遺詔。褒進大臣。又不及。約與陶侃二人皆疑。庾亮刪之。歷陽內史蘇峻有功於國。威望漸著。有銳卒萬人。器械甚精。朝廷以江外寄之。而峻頗懷驕溢。有輕朝廷之志。招納亡命。衆力日多。皆仰食縣官。連漕相屬。稍不如意。輒肆忿言。亮旣疑峻。約又畏侃之得衆。八月。以丹楊尹溫嶠爲都督江州諸軍事。江州刺史鎮武昌。尙書僕射王舒爲會稽內史。以廣聲援。又修石頭。以備之。丹楊尹阮孚以太后臨朝。政出舅族。謂所親曰。今江東創業尙淺。主幼時艱。庾亮年少。德信未孚。以吾觀之。亂將作矣。遂求出。爲廣州刺史。孚。咸之子。

也。○冬十月立帝母弟岳爲吳王。○南頓王宗自以失職怨望。又素與蘇峻善。庾亮欲誅之。宗亦欲廢執政。御史中丞鍾雅劾宗謀反。亮使右衛將軍趙胤收之。宗以兵拒戰。爲胤所殺。貶其族爲馬氏三子。綽。演。皆廢爲庶人。免太宰西陽王羨。降封弋陽縣王。太宗正虞胤。左遷桂陽太守。宗室近屬羨。先帝保傅亮。一旦翦黜。由是愈失遠近之心。宗黨下闡亡奔蘇峻。亮符峻送闡。峻保匿不與。宗之死也。帝不之知。久之帝問亮曰。常日白頭公何在。亮對以謀反伏誅。帝泣曰。舅言人作賊便殺之。人言舅作賊當如何。亮懼變色。○趙將黃秀等寇鄴。順陽太守魏該帥衆奔襄陽。○後趙王勒用程遐之謀營鄴宮。使世子弘鎮鄴。配禁兵萬人。車騎所統五十四營。悉配之。以驍騎將軍領門臣祭酒王陽專統六夷以輔之。中山公虎自以功多無去鄴之意。及修二臺遷其家室。虎由是怨程遐。○十一月後趙石聰攻壽春。祖約屢表請救。朝廷不爲出兵。聰遂寇遼阜陵。殺掠五千餘人。建康大震。詔加司徒導大司馬。假黃鉞。都督中外諸軍事。以禦之。軍于江寧。蘇峻遣其將韓晃擊石聰走之。導解大司馬。朝議又欲作涂塘。以遏胡寇。祖約曰。是棄我也。益懷憤恚。○十二月濟岷太守劉闔等殺下邳內史夏侯嘉。以下邳叛。降于後趙。石瞻攻河南太守王瞻于邾。拔之。彭城內史劉續復據蘭陵石城。石瞻攻拔之。○後趙王勒以牙門將王波爲記室參軍。典定九流。始立秀孝。試經之制。○張駿畏趙人之逼。是歲徙隴西南安民二千餘家於姑臧。又遣使修好於成。以書勸成主雄。去尊號。稱藩於晉。雄復書曰。吾過爲士大夫所推。然本無心於帝王。思爲晉室元功之臣。掃除氛埃。而晉室陵遲。德聲不振。引領東望。有年月矣。會獲來覲。情在闡至。有何已已。自是聘使相繼。

二年春正月朱提太守楊術與成將羅恒戰於臺登兵敗術死。○夏五月甲申朔日有食之。○趙武衛將軍劉朝帥騎三萬襲楊難敵於仇池弗克掠二千餘戶而歸。○張駿聞趙兵爲

後趙所敗乃去趙官爵復稱晉大將軍涼州牧遣武威太守竇濤金城太守張閭武興太守辛巖揚烈將軍宋輯等帥衆數萬東會韓璞攻掠趙秦州諸郡趙南陽王胤將兵擊之屯狄道枹罕護軍辛晏告急秋駿使韓璞辛巖救之璞進度沃干嶺巖欲速戰璞曰夏末以來日星數有變不可輕動且曜與石勒相攻胤必不能久與我相守也與胤夾洮相持七十餘日冬十月璞遣辛巖督運於金城胤聞之曰韓璞之衆十倍於吾吾糧不多難以持久今虜分兵運糧天授我也若敗辛巖璞等自潰乃帥騎三千襲巖於沃干嶺敗之遂前逼璞營璞衆大潰胤乘勝追奔濟河攻拔令居斬首二萬級進據振武河西大駭張閭辛晏帥其衆數萬降趙駿遂失河南之地○庾亮以蘇峻在歷陽終爲禍亂欲下詔徵之訪於司徒導導曰峻猜險必不奉詔不若且苞容之亮言於朝曰峻狼子野心終必爲亂今日徵之縱不順命爲禍猶淺若復經年不可復制猶七國之於漢也朝臣無敢難者獨光祿大夫卞壺爭之曰峻擁彊兵逼近京邑路不終朝一旦有變易爲蹉跌宜深思之亮不從壺知必敗與溫嶠書曰元規召峻意定此國之大事峻已出狂意而召之是更速其禍也必縱毒蠶以向朝廷朝廷威力雖盛不知果可擒不王公亦同此情吾與之爭甚懇切不能如之何本出足下以爲外援而今更恨足下在外不得相與共諫止之或當相從耳嶠亦累書止亮舉朝以爲不可亮皆不聽峻聞之遣司馬何仍詣亮曰討賊外任遠近惟命至於內輔實非所堪亮不許召北中郎將郭默爲後將軍領屯騎校尉司徒右長史庾冰爲吳國內史皆將兵以備峻冰亮之弟也於是下優詔徵峻爲大司農加散騎常侍位特進以弟逸代領部曲峻上表曰昔明皇帝親執臣手使臣北討胡寇今中原未靖臣何敢卽安乞補青州界一荒郡以展鷹犬之用復不許峻嚴裝將赴召猶豫未決參軍任讓謂峻曰將軍求處荒郡而不見許事勢如此恐無生路不如勒兵自守阜陵令匡術亦勸峻反峻遂不應命溫嶠聞之卽欲帥衆下衛建康三

吳亦欲起義兵。亮竝不聽。而報嶠書曰。吾憂西陲。過於歷陽。足下無過雷池一步也。朝廷遣使諭嶠。嶠曰。臺下云我欲反。豈得活邪。我寧山頭望廷尉。不能廷尉望山頭。往者國家危如累卵。非我不濟。狡兔既死。獵犬宜烹。但當死報。造謀者耳。嶠知祖約怨朝廷。乃遣參軍徐會。推崇約。請共討庾亮。約大喜。其從子智衍。竝勸成之。譙國內史桓宣。謂智曰。本以彊胡未滅。將勦力討之。使君若欲爲雄霸。何不助國討嶠。則威名自舉。今乃與嶠俱反。此安得久乎。智不從。宣詣約請見。約知其欲諫。拒而不內。宣遂絕約。不與之同。十一月。約遣兄子沛內史渙。女婿淮南太守許柳。以兵會嶠。逃妻柳之姊也。固諫不從。詔復以下壺爲尙書令。領右衛將軍。以鄧稽內史王舒行揚州刺史事。吳興太守虞潭。督三吳等諸郡軍事。○尙書左丞孔坦。司徒司馬丹楊陶回。言於王導。請及嶠未至。急斷阜陵。守江西當利諸口。彼少我衆。一戰決矣。若嶠未來。可往逼其城。今不先往。嶠必先至。嶠至則人心危駭。難與戰矣。此時不可失也。導然之。庾亮不從。十二月。辛亥。蘇峻使其將韓晃張健等。襲陷姑孰。取鹽米。亮方悔之。壬子。彭城王雄。章武王休。叛嶠。雄釋之子也。庚申。京師戒嚴。假庾亮節。都督征討諸軍事。以左衛將軍趙胤爲歷陽太守。使左將軍司馬流。將兵據慈湖。以拒嶠。以前射聲校尉劉超爲左衛將軍。侍中褚翼。典征討軍事。亮使弟翼。以白衣。領數百人。備石頭。○丙寅。徙琅邪王昱爲會稽王。吳王岳爲琅邪王。○宣城內史桓彝。欲起兵以赴朝廷。其長史裨惠。以郡兵寡弱。山民易擾。謂宜且案甲以待之。彝厲色曰。見無禮於其君者。若鷹鷂之逐鳥雀。今社稷危逼。義無宴安。辛未。彝進屯蕪湖。韓晃擊破之。因進攻宣城。彝退保廣德。晃大掠諸縣而還。徐州刺史郗鑿。欲帥所領赴難。詔以北寇不許。○是歲。後趙中山公虎。擊代王紇。那戰于句注。陞北紇那兵敗。徙都大甯。以避之。○代王鬱律之子翳槐。居於其舅賀蘭部。紇那遣使求之。賀蘭大人藹頭。擁護不遣。紇那與宇文部共擊藹頭。不克。

資治通鑑卷第九十三

晉紀 顯宗成皇帝上之上咸和二年

資治通鑑卷第九十四

晉紀十六

顯宗成皇帝上之下

咸和三年春正月温嶠入救建康軍于尋陽韓晃襲司馬流於慈湖流素懦怯將戰食炙不知口處兵敗而死丁未蘇峻帥祖渙許柳等衆二萬人濟自橫江登牛渚軍于陵口臺兵禦之屢敗二月庚戌峻至蔣陵覆舟山陶回謂庾亮曰峻知石頭有重戍不敢直下必向小丹陽南道步來宜伏兵邀之可一戰擒也亮不從峻果自小丹陽來迷失道夜行無復部分亮聞乃悔之朝士以京邑危逼多遣家人入東避難左衛將軍劉超獨遷妻孥入居宮內詔以下壺都督大桁東諸軍事與侍中鍾雅帥郭默趙胤等軍及峻戰于西陵壺等大敗死傷以千數丙辰峻攻青溪柵下壺率諸軍拒擊不能禁峻因風縱火燒臺省及諸營寺署一時蕩盡壺背癰新愈創猶未合力疾帥左右苦戰而死二子眇時隨父後亦赴敵而死其母撫尸哭曰父爲忠臣子爲孝子夫何恨乎丹陽尹羊曼勒兵守雲龍門與黃門侍郎周導廬江太守陶瞻皆戰死庾亮帥衆將陳于宣陽門內未及成列士衆皆奔甲走亮與弟懌條翼及郭默趙胤俱奔尋陽將行顧謂鍾雅曰後事深以相委雅曰棟折榱崩誰之咎也亮曰今日之事不容復言亮乘小船亂兵相剝掠亮左右射賊誤中柂工應弦而倒船上咸失色欲散亮不動徐曰此手何可使著賊衆乃安峻兵入臺城司徒導謂侍中褚裒曰至尊當御正殿君可啓令速出裒即入上閣躬自抱帝登太極前殿導及光祿大夫陸曄荀崧尙書張闔共登

御牀擁衛帝以劉超爲右衛將軍使與鍾雅褚裒侍立左右太常孔愉朝服守宗廟時百官奔散殿省蕭然峻兵既入叱褚裒令下裒正立不動呵之曰蘇冠軍來觀至尊軍人豈得侵逼由是峻兵不敢上殿突入後宮宮人及太后左右侍人皆見掠奪峻兵驅役百官光祿勳王彬等皆被捶撻令負擔登蔣山裸剝士女皆以壞席苫草自障無艸者坐地以土自覆哀號之聲震動內外初姑孰既陷尙書左丞孔坦謂人曰觀峻之執必破臺城自非戰士不須戎服及臺城陷戎服者多死白衣者無他時官有布二十萬匹金銀五千斤錢億萬絹數萬匹他物稱是峻盡費之太官惟有燒餘米數石以供御膳或謂鍾雅曰君性亮直必不容於寇讐蓋早爲之計雅曰國亂不能匡君危不能濟各遁逃以求免何以爲臣丁巳峻稱詔大赦惟庾亮兄弟不在原例以王導有德望猶使以本官居己之右祖約爲侍中太尉尙書令峻自爲驃騎將軍錄尙書事許柳爲丹陽尹馬雄爲左衛將軍祖渙爲驍騎將軍弋陽王羨詣峻稱述峻功峻復以羨爲西陽王太宰錄尙書事峻遣兵攻吳國內史庾冰冰不能禦奔郡奔會稽至浙江峻購之甚急吳鈴下卒引冰入船以蘆蔭覆之吟嘯鼓柁泝流而去每逢邏所輒以杖叩船曰何處覓庾冰庾冰正在此人以爲醉不疑之水僅免峻以侍中蔡謨爲吳國內史温嶠聞建康不守號慟人有候之者悲哭相對庾亮至尋陽宣太后詔以嶠爲驃騎將軍開府儀同三司又加徐州刺史郗鑒司空嶠曰今日當以滅賊爲急未有功而先拜官將何以示天下遂不受嶠素重亮亮雖奔敗嶠愈推奉之分兵給亮○後趙大赦改元太和○三月丙子庾太后以憂崩○蘇峻南屯于湖○夏四月後趙將石堪攻宛南陽太守王國降之遂進攻祖約軍于淮上約將陳光起兵攻約約左右閻禿貌類約光謂爲約而擒之約踰垣獲免光奔後趙○壬申葬明穆皇后于武平陵○庾亮温嶠將起兵討蘇峻而道路斷絕不知建康聲聞會南陽范汪至尋陽言峻政令不壹貪暴縱橫滅亡已兆雖彊易弱朝廷有

倒懸之急。宜時進討。嶠深納之。亮辟汪參護軍事。亮嶠互相推爲盟主。嶠從弟充曰。陶征西位重兵彊。宜共推之。嶠乃遣督護王愨期詣荊州。邀陶侃與之同赴國難。侃猶以不豫。顧命爲恨。答曰。吾疆場外。將不敢越局。嶠屢說不能回。乃順侃意。遣使謂之曰。仁公且守。僕當先下。使者去已二日。平南參軍榮陽毛寶別使還。聞之。說嶠曰。凡舉大事。當與天下共之。師克在和。不宜異同。假令可疑。猶當外示不覺。況自爲攜貳邪。宜急追信改書。言必應俱進。若不。及前信。當更遣使。嶠意悟。即追使者改書。侃果許之。遣督護龔登帥兵詣嶠。嶠有衆七千。於是列上尙書。陳祖約蘇峻罪狀。移告征鎮。灑泣登舟。陶侃復追龔登還。嶠遣侃書曰。夫軍有進而無退。可增而不可減。近已移檄遠近。言于盟府。刻後月半大舉。諸郡軍並在路次。惟須仁公軍至。便齊進耳。仁公今召軍還。疑惑遠近。成敗之由。將在於此。僕才輕任重。實憑仁公篤愛。遠稟成規。至于首啓戎行。不敢有辭。僕與仁公。如首尾相衛。唇齒相依也。恐或者不達高旨。將謂仁公。緩於討賊。此聲難追。僕與仁公。並受方岳之任。安危休戚。理既同之。且自頃之顧。綢繆往來。情深義重。一旦有急。亦望仁公。悉衆見救。況社稷之難乎。今日之憂。豈惟僕一州文武。莫不翹企。假令此州不守。約峻樹置官長於此。荆楚西逼。彊胡東接。逆賊因之以飢饉。將來之危。乃當甚於此州之今日也。仁公進當爲大晉之忠臣。參桓文之功。退當以慈父之情。雪愛子之痛。今約峻凶逆無道。痛感天地。人心齊壹。咸皆切齒。今之進討。若以石投卵耳。苟復召兵還。是爲敗於幾成也。願深察所陳。王愨期謂侃曰。蘇峻豺狼也。如得遂志。四海雖廣。公寧有容足之地乎。侃深感悟。即戎服登舟。瞻喪至不臨。晝夜兼道而進。郗鑒在廣陵。城孤糧少。逼近胡寇。人無固志。得詔書。即流涕誓衆。入赴國難。將士爭奮。遣將軍夏侯長等間行。謂溫嶠曰。或聞賊欲挾天子。東入會稽。當先立營壘。屯據要害。既防其越逸。又斷賊糧運。然後清野堅壁。以待賊。賊攻城不拔。野無所掠。東道既斷。糧運自絕。必自潰矣。嶠深以

爲然。五月。陶侃率衆至尋陽。議者咸謂侃欲誅庾亮。以謝天下。亮甚懼。用溫嶠計。侃拜謝。侃驚止之曰。庾元規乃拜陶士行邪。亮引咎自責。風止可觀。侃不覺釋然曰。君侯修石頭。以擬老子。今日反見求邪。即與之談宴終日。遂與亮嶠同趣建康。戎卒四萬。旌旗七百餘里。鉦鼓之聲。震於遠近。蘇峻聞西方兵起。用參軍賈寧計。自姑孰還。據石頭。分兵以拒侃等。乙未。峻逼遷帝於石頭。司徒導固爭不從。帝哀泣升車。宮中慟哭。時天大雨。道路泥濘。劉超鍾雅步侍左右。峻給馬。不肯乘。而悲哀恍惚。峻聞而惡之。然未敢殺也。以其親信許方等補司馬。督殿中監。外託宿衛。內實防禦。超等峻以倉屋爲帝宮。日來帝前。肆醜言。劉超鍾雅與右光祿大夫荀崧。金紫光祿大夫華恒。尙書荀邃。侍中丁潭。侍從不離帝側。時飢饉米貴。峻問遣超一無所受。繼繼朝夕。臣節愈恭。雖居幽厄之中。超猶啓帝。授孝經論語。峻使左光祿大夫陸曄守留臺。逼迫居民。盡聚之後苑。使匡術守苑城。尙書左丞孔坦奔陶侃。侃以爲長史。初蘇峻遣尙書張闔督東軍。司徒導密令以太后詔諭三吳吏士。使起義兵。救天子。會稽內史王舒。以庾水行奮武將軍。使將兵一萬。西渡浙江。於是吳興太守虞潭。吳國內史蔡謨。前義興太守顧衆等。皆舉兵應之。潭母孫氏謂潭曰。汝當捨生取義。勿以吾老爲累。盡遣其家僮從軍。鬻其環珮。以爲軍資。謨以庾水當還舊任。即去郡。以讓水。蘇峻聞東方兵起。遣其將管商張健。弘徽等拒之。虞潭等與戰。互有勝負。未能得前。陶侃溫嶠軍于茄子浦。嶠以南兵習水。蘇峻兵使步令將士。有上岸者死。會峻送米萬斛。饋祖約。約遣司馬桓撫等迎之。毛寶帥千人爲嶠前鋒。告其衆曰。兵法。軍令有所不從。豈可視賊可擊。不上岸擊之邪。乃擅往襲撫。悉獲其米。斬獲萬計。約由是飢乏。嶠表寶爲廬江太守。陶侃表王舒監浙東軍事。虞潭監浙西軍事。郗鑒都督揚州八郡諸軍事。令舒潭皆受鑒節度。鑒帥衆渡江。與侃等會于茄子浦。雍州刺史魏該亦以兵會之。丙辰。侃等舟師直指石頭。至于蔡洲。侃屯查浦。嶠屯沙門浦。峻

登烽火樓望見士衆之盛有懼色謂左右曰吾本知溫嶠能得衆也庾亮遣督護王彰擊峻黨張曜反爲所敗亮送節傳以謝侃侃答曰古人三敗君侯始二當今事急不宜數爾亮司馬陳郡殷融詣侃謝曰將軍爲此非融等所裁王彰至曰彰自爲之將軍不知也侃曰昔殷融爲君子王彰爲小人今王彰爲君子殷融爲小人宣城內史桓彝聞京城不守慷慨流涕進屯涇縣時州郡多遣使降蘇峻裨惠復勸彝宜且與通使以紓交至之禍彝曰吾受國厚恩義在致死焉能忍恥與逆臣通問如其不濟此則命也彝遣將軍俞縱守蘭石峻遣其將韓晃攻之縱將敗左右勸縱退軍縱曰吾受桓侯厚恩當以死報吾之不可負桓侯猶桓侯之不負國也遂力戰而死晃進軍攻彝六月城陷執彝殺之諸軍初至石頭即欲決戰陶侃曰敗衆方盛難與爭鋒當以歲月智計破之既而屢戰無功監軍部將李根請築白石壘侃從之夜築壘至曉而成聞峻軍嚴聲諸將咸懼其來攻孔坦曰不然若峻攻壘必須東北風急令我水軍不得往救今天清靜賊必不來所以嚴者必遣軍出江乘掠京口以東矣已而果然侃使庾亮以二千人守白石峻帥步騎萬餘四面攻之不克王舒虞潭等數與峻兵戰不利孔坦曰本不須召郗公遂使東門無限今宜遣還雖晚猶勝不也侃乃令鑿與後將軍郭默還據京口立大業曲阿慶亭三壘以分峻之兵執使郭默守大業壬辰魏該卒祖約遣祖渙桓撫襲溢口陶侃聞之將自擊之毛寶曰義軍恃公公不可動寶請討之侃從之渙撫過皖因攻譙國內史桓宣寶往救之爲渙撫所敗箭貫寶髀徹鞍寶使人蹋鞍拔箭血流滿鞞還擊渙撫破走之宣乃得出歸于溫嶠寶進攻祖約軍于東關拔合肥戍會嶠召之復歸石頭祖約諸將陰與後趙通謀許爲內應後趙將石聰石堪引兵濟淮攻壽春秋七月約衆潰奔歷陽聰等虜壽春二萬餘戶而歸○後趙中山公虎帥衆四萬自軹關西入擊趙河東應之者五十餘縣遂進攻蒲阪趙主曜遣河間王述發氐羌之衆屯秦州以備張駿楊難敵

自將中外精銳水陸諸軍以救蒲阪自衛關北濟虎懼引退曜追之八月及於高候與虎戰大破之斬石瞻枕尸二百餘里收其資仗億計虎奔朝歌曜濟自大陽攻石生于金墉決千金塢以灌之分遣諸將攻汲郡河內後趙滎陽太守尹矩野王太守張進等皆降之襄國大震○張駿治兵欲乘虛襲長安理曹郎中索詢諫曰劉曜雖東征其子胤守長安未易輕也借使小有所獲彼若釋東方之圖還與我校禍難之期未可量也駿乃止○蘇峻腹心路永匡術賈寧聞祖約敗恐事不濟勸峻盡誅司徒導等諸大臣更樹腹心峻雅敬導不許永等更貳於峻導使參軍袁耽潛誘永使歸順九月戊申導攜二子與永皆奔白石耽渙之曾孫也陶侃溫嶠等與蘇峻久相持不決峻分遣諸將東西攻掠所嚮多捷人情恟懼朝士之奔西軍者皆曰峻狡黠有膽決其徒驍勇所向無敵若天討有罪則峻終滅亡止以人事言之未易除也溫嶠怒曰諸君怯懦乃譽賊及累戰不勝嶠亦憚之嶠軍食盡貸於陶侃侃怒曰使君前云不憂無良將及兵食惟欲得老僕爲主耳今數戰皆北良將安在荊州接胡蜀二虜當備不虞若復無食僕便欲西歸更思良算徐來珍賊不爲晚也嶠曰凡師克在和古之善教也光武之濟昆陽曹公之拔官渡以寡敵衆杖義故也峻約小豎凶逆滔天何憂不滅峻驟勝而驕自謂無前今挑之戰可一鼓而擒也奈何捨垂立之功設進退之計乎且天子幽逼社稷危殆乃四海臣子肝腦塗地之日嶠等與公竝受國恩事若克濟則臣主同祚如其不捷當灰身以謝先帝耳今之事執義無旋踵譬如騎虎安可中下哉公若違衆獨返人心必沮沮衆敗事義旗將廻指於公矣毛寶言於嶠曰下官能留陶公乃往說侃曰公本應鎮蕪湖爲南北執援前旣已下執不可還且軍政有進無退非直整齊三軍示衆必死而已亦謂退無所據終至滅亡往者杜弢非不彊盛公竟滅之何至於峻獨不可破邪賊亦畏死非皆勇健公可試與寶兵使上岸斷賊資糧若寶不立効然後公去人心不恨矣侃然之加

寶督護而遣之。竟陵太守李陽說侃曰：「今大事若不濟，公雖有粟，安得而食諸？侃乃分米五萬石以餉嶠軍。毛寶燒峻，峻句容湖孰積聚，峻軍乏食，侃遂留不去。張健韓晃等急攻大業，壘中乏水，人飲糞汁，郭默懼，潛突圍出外，留兵守之，都鑿在京口，軍士聞之，皆失色。參軍曹納曰：「大業京口之扞蔽也，一旦不守，則賊兵徑至，不可當也。請還廣陵，以俟後舉。」鑿大會僚佐，責納曰：「吾受先帝顧託之重，正復捐軀九泉，不足報塞，今彊寇在近，衆心危逼，君腹心之佐，而生長異端，當何以帥先義衆？鎮壹三軍邪？將斬之。」久乃得釋。陶侃將救大業，長史殷羨曰：「吾兵不習步戰，救大業而不捷，則大事去矣。不如急攻石頭，則大業自解。」侃從之。羨融之兄也。庚午，侃督水軍向石頭，庾亮、溫嶠、趙胤、步兵萬人從白石南上，欲挑戰，峻將八千人逆戰，遣其子碩及其將匡孝分兵先薄趙胤軍，敗之。峻方勞，其將士乘醉，望見胤走，曰：「孝能破賊，我更不如邪？」因舍其衆，與數騎北下，突陳，不得入，將回趨白木陂，馬蹶，侃部將彭世、李千等投之，以矛峻墜馬，斬首鬪割之，焚其骨。三軍皆稱萬歲，餘衆大潰。峻司馬任讓等共立峻弟逸爲主，閉城自守。溫嶠乃立行臺，布告遠近，凡故吏二千石以下，皆令赴臺，於是至者雲集。韓晃聞峻死，引兵趣石頭，管商、弘徽攻陵亭壘，督護李閔輕車長史滕含擊破之，含修之。孫也。商走，詣庾亮降，餘衆皆歸張健。○冬十一月，後趙王勒欲自將救洛陽，僚佐程遐等固諫曰：「劉曜懸軍千里，執不支久，大王不宜親動，動無萬全。」勒大怒，按劍叱遐等出，乃赦徐光，而謂之曰：「劉曜乘一戰之勝，圍守洛陽，庸人之情，皆謂其鋒不可當，曜帶甲十萬，攻一城而百日不克，師老卒怠，以我初銳擊之，可一戰而禽也。若洛陽不守，曜必送死冀州，自河北，席卷而來，吾事去矣。程遐等不欲吾行，卿以爲何如？」對曰：「劉曜乘高候之勢，不能進臨襄國，更守金墉，此其無能爲可知也。以大王威略臨之，彼必望旗奔敗，平定天下，在今一舉，不可失也。」勒笑曰：「光言是也。」乃使內外戒嚴，有諫者斬，命石堪、石聰及豫州刺史桃豹等各統

見衆會滎陽，中山公虎進據石門，勒自統步騎四萬趣金墉，濟自大塌，勒謂徐光曰：「曜盛兵成阜關，上策也。阻洛水，其次也。坐守洛陽，此成禽耳。」十二月乙亥，後趙諸軍集于成阜，步卒六萬，騎二萬七千，勒見趙無守兵，大喜，舉手指天，復加額曰：「天也。」卷甲銜枚，詭道兼行，出于鞏營之間。趙主曜專與嬖臣飲博，不撫士卒，左右或諫，曜怒，以爲妖言，斬之。聞勒已濟河，始議增滎陽戍，杜黃馬關，俄而洛水候者與後趙前鋒交戰，擒羯送之。曜問：「大胡自來邪？」其衆幾何？羯曰：「王自來，軍執甚盛，曜色變，使攝金墉之圍，陳于洛西，衆十餘萬，南北十餘里，勒望見，益喜，謂左右曰：「可以賀我矣。」勒帥步騎四萬入洛陽城，己卯，中山公虎引步卒三萬自城北而西，攻趙中軍，石堪、石聰等各以精騎八千自城西而北，擊趙前鋒，大戰于西陽門，勒躬貫甲冑，出自閭闔，夾擊之，曜少而嗜酒，末年尤甚，將戰，飲酒數斗，常乘赤馬，無故踟頓，乃乘小馬，比出，復飲酒斗餘，至西陽門，揮陳就平，石堪因而乘之，趙兵大潰，曜昏醉退走，馬陷石渠，墜于水上，被瘡十餘，通中者三，爲堪所執，勒遂大破趙兵，斬首五萬餘級，下令曰：「所欲擒者一人耳，今已獲之，其救將士，抑鋒止銳，縱其歸命之路。」曜見勒，曰：「石王頗憶重門之盟否？」勒使徐光謂之曰：「今日之事，天使其然，復云何邪？」乙酉，勒班師，使征東將軍石邃將兵衛送曜，邃，虎之子也。曜瘡甚，載以馬輿，使醫李永與同載，己亥，至襄國，舍曜於永豐小城，給其妓妾，嚴兵圍守，遣劉岳、劉震等從，男女盛服以見之。曜曰：「吾謂卿等久爲灰土，石王仁厚，乃全宥至今邪？我殺石佗，愧之多矣。」今日之禍，自其分耳。留宴終日而去。勒使曜與其太子熙書，諭令速降。曜但救熙，與諸大臣，匡維社稷，勿以吾易意也。勒見而惡之，久之，乃殺曜。○是歲，成漢獻王驥卒，其子征東將軍壽，以喪還成都，成主雄以李玪爲征北將軍，梁州刺史代壽屯晉壽。

四年春正月，光祿大夫陸曄及弟尚書左僕射玩說匡術，以苑城附于西軍，百官皆赴之，推

■ 嘩督宮城軍事。陶侃命毛寶守南城，鄧岳守西城。右衛將軍劉超侍中鍾雅與建康令管旆等謀奉帝出赴西軍。事洩，蘇逸使其將平原任讓將兵入宮收超雅。帝抱持悲泣曰：「還我侍中右衛，讓奪而殺之。」初，讓少無行，太常華恒爲本州大中正，黜其品。及讓爲蘇峻將，乘執多所誅殺，見恒輒恭敬，不散縱。暴及鍾劉之死，蘇逸欲并殺恒，讓盡心救衛，恒乃得免。○冠軍將軍趙胤遣部將甘苗擊祖約于歷陽。戊辰，約夜帥左右數百人奔後趙，其將牽騰率衆出降。○蘇逸、蘇碩、韓晃并力攻臺城，焚太極東堂及祕閣。毛寶登城射殺數十人，晃謂寶曰：「君名勇果，何不出鬪？」寶曰：「君名健將，何不入鬪？」晃笑而退。○趙太子熙聞趙主曜被禽，大懼，與南陽王胤謀西保秦州。尙書胡勳曰：「今雖喪君，境土尙完，將士不叛，且當并力拒之，力不能拒，走未晚也。」胤怒，以爲沮衆，斬之。遂帥百官奔上邽，諸征鎮亦皆棄所守從之。關中大亂，將軍蔣英、辛恕擁衆數十萬，據長安。遣使降于後趙，後趙遣石生帥洛陽之衆赴之。○二月，丙戌，諸軍攻石頭，建威長史滕含擊蘇逸，大破之。蘇碩帥驍勇數百渡淮而戰，溫嶠擊斬之。韓晃等懼，以其衆就張健於曲阿。門隘不得出，更相蹈藉，死者萬數。西軍獲蘇逸，斬之。滕含部將曹據抱帝奔溫嶠，羣臣見帝頓首號泣請罪，殺西陽王羨，并其二子播、充、孫崧。及彭城王雄，陶侃與任讓有舊，爲請其死。帝曰：「是殺吾侍中右衛者，不可赦也。」乃殺之。司徒導入石頭，令取故節。陶侃笑曰：「蘇武節，似不如是。」導有慙色。丁亥，大赦。張健疑弘徽等貳於己，皆殺之。帥舟師自延陵將入吳興。乙未，揚烈將軍王允之與戰，大破之。獲男女萬餘口，健復與韓晃、馬雄等西趨故鄣。郗鑒遣參軍李閔追之，及於平陵山，皆斬之。是時宮闕灰燼，以建平園爲宮。溫嶠欲遷都豫章，二吳之豪請都會稽，二論紛紜未決。司徒導曰：「孫仲謀、劉玄德俱言建康王者之宅，古之帝王不必以豐儉移都，苟務本節，用何憂彫弊？若農事不修，則樂土爲墟矣。且北寇游覓伺我之隙，一旦示弱，竄於蠻越，求之望實，懼非良計。今特宜鎮之以靜羣。」

情自安。由是不復徙都。以褚翼爲丹陽尹。時兵火之後，民物彫殘，翼收集散亡，京邑遂安。○壬寅，以湘州并荊州。○三月壬子，論平蘇峻功，以陶侃爲侍中、太尉，封長沙郡公，加都督交廣、寧州諸軍事，郗鑒爲侍中、司空，南昌縣公。溫嶠爲驃騎將軍，開府儀同三司，加散騎常侍。始安郡公陸曄進爵江陵公。自餘賜爵侯伯子男者甚衆。下壹及二子眇、盱。桓彝劉超、鍾雅、羊曼、陶瞻皆加贈諡。路永、匡術、賈寧皆蘇峻之黨也。峻未敗，永等去峻歸朝廷。王導欲賞以官爵，溫嶠曰：「永等皆峻之腹心，首爲亂階，罪莫大焉。晚雖改悟，未足以贖前罪。得全首領，爲幸多矣。豈可復褒寵之哉？」導乃止。陶侃以江陵偏遠，移鎮巴陵。朝議欲留溫嶠輔政，嶠以王導先帝所任，固辭還藩。又以京邑荒殘，費用不給，乃留資蓄具器用，而後旋于武昌。帝之出石頭也，庾亮見帝稽顙哽咽，詔亮與大臣俱升御座。明日，亮復泥首謝罪，乞骸骨。欲闔門投竄山海，帝遣尙書侍中手詔慰喻曰：「此社稷之難，非舅之責也。亮上疏自陳，祖約、蘇峻縱肆凶逆，罪由臣發，寸斬屠戮，不足以謝七廟之靈，塞四海之責。朝廷復何理齒？臣於人次，臣亦何顏。自次於人理，願陛下雖垂寬宥，全其首領，猶宜棄之。任其自存自沒，則天下粗知勸戒之綱矣。」優詔不許。亮又欲遁逃山海，自暨陽東出，詔有司錄奪舟船，亮乃求外鎮自效。出爲都督豫州、揚州之江西宣城諸軍事，豫州刺史領宣城內史，鎮蕪湖。陶侃溫嶠之討蘇峻也，移檄征鎮，使各引兵入援。湘州刺史益陽侯下敦擁兵不赴，又不給軍糧。遣督護將數百人隨大軍而已。朝野莫不怪歎。及峻平，陶侃奏敦沮軍，願望不赴國難，請檻車收付廷尉。王導以喪亂之後，宜加寬宥，轉敦安南將軍、廣州刺史。病不赴，徵爲光祿大夫，領少府。敦憂愧而卒。追贈本官，加散騎常侍，諡曰敬。

臣光曰：庾亮以外戚輔政，首發禍機，國破君危，竄身苟免，下敦位列方鎮，兵糧俱足，朝廷顛覆，坐觀勝負，人臣之罪，孰大於此？既不能明正典刑，又以寵祿報之，晉室無政，亦可知。

矣。任是責者。豈非王導乎。

徙高密王紘爲彭城王。紘雄之弟也。○夏四月乙未。始安忠武公溫嶠卒。葬於豫章。朝廷欲爲之造大墓於元明二帝陵之北。太尉侃上表曰。嶠忠誠著於聖世。勳義感於人神。使亡而有知。豈樂今日勞費之事。願陛下慈恩。停其移葬。詔從之。以平南軍司劉胤爲江州刺史。陶侃。郗鑒。皆言胤非方伯才。司徒導不從。或謂導子悅曰。今大難之後。紀綱弛頓。自江陵至于建康。三千餘里。流民萬計。布在江州。江州國之南藩。要害之地。而胤以怙侈之性。臥而對之。不有外變。必有內患矣。悅曰。此溫平南之意也。○秋八月。趙南陽王胤帥衆數萬。自上邽趣長安。隴東武都安定新平北地扶風。始平諸郡戎夏皆起兵應之。胤軍于仲橋。石生嬰城自守。後趙中山公虎帥騎二萬救之。九月。虎大破趙兵於義渠。胤奔還上邽。虎乘勝追擊。枕尸千里。上邽潰。虎執趙太子熙。南陽王胤及其將王公卿校以下三千餘人皆殺之。徙其臺省文武關東流民秦雍大族九千餘人于襄國。又阬五郡屠各五千餘人于洛陽。進攻集木且羌于河西。克之。俘獲數萬。秦隴悉平。氐王蒲洪。羌酋姚弋仲俱降于虎。虎表洪監六夷軍事。弋仲爲六夷左都督。徙氐羌十五萬落于司冀州。○初隴西鮮卑乞伏述延居于苑川。侵并鄰部。士馬彊盛。及趙亡。述延懼。遷于麥田。述延卒。子傳大寒立。傳大寒卒。子司繁立。○江州刺史劉胤矜豪日甚。專務商販。殖財百萬。縱酒耽樂。不恤政事。冬十二月。詔徵後將軍郭默爲右軍將軍。默樂爲邊將。不願宿衛。以情懇於胤。胤曰。此非小人之所及也。默將赴召。求資於胤。胤不與。默由是怨胤。胤長史張滿等素輕默。或保露見之。默常切齒。臘日。胤餉默豚酒。默對信投之水中。會有司奏。今朝廷空竭。百官無祿。惟資江州運漕。而胤商旅繼路。以私廢公。請免胤官。書下。胤不卽歸罪。方自申理。僞人蓋肫掠人女爲妻。張滿使還其家。肫不從。而謂郭默曰。劉江州不受免。密有異圖。與張滿等日夜計議。惟忌郭侯一人。欲先除之。默以爲

然。帥其徒候旦門開。襲胤。胤將吏欲拒默。默呵之曰。我被詔有所討。動者誅三族。遂入。至內寢。牽胤下。斬之。出取胤僚佐張滿等。誣以大逆。悉斬之。傳胤首于京師。詐作詔書。宣示內外。掠胤女及諸妾。并金寶還船。初云下都。旣而停胤故府。招引譙國內史桓宣。宣固守不從。○是歲。賀蘭部及諸大人共立拓拔翳槐爲代王。代王紘那奔宇文部。翳槐遣其弟什翼犍質於趙。以請和。○河南王吐延。雄勇多猜忌。羌酉姜聰刺之。吐延不抽劍。召其將紇圜。使輔其子葉延。保于白蘭。抽劍而死。葉延孝而好學。以爲禮公孫之子。得以王父字爲氏。乃自號其國曰吐谷渾。

五年春正月。劉胤首至建康。司徒導以郭默驍勇難制。己亥。大赦。梟胤首于大航。以默爲江州刺史。太尉侃聞之。投袂起曰。此必詐也。卽將兵討之。默遣使送妓妾及絹。并寫中詔。呈侃。參佐多諫曰。默不被詔。豈敢爲此。若欲進軍。宜待詔報。侃厲色曰。國家年幼。詔令不出。曾懷劉胤爲朝廷所禮。雖方任非才。何緣猥加極刑。郭默恃勇所在貪暴。以大難新除。禁網寬簡。欲因際會。騁其從橫耳。發使上表言狀。且與導書曰。郭默殺方州。卽用爲方州。害宰相便爲宰相乎。導乃收胤首。答侃書曰。默據上流之執。加有船艦成資。故苞含隱忍。使有其地。朝廷得以潛嚴。俟足下軍到。風發相赴。豈非遵養時晦。以定大事者邪。侃笑曰。是乃遵養時賊也。豫州刺史庾亮亦請討默。詔加亮征討都督。帥步騎二萬往與侃會。西陽太守鄧岳武昌太守劉詡皆疑桓宣與默同。豫州西曹王隨曰。宣尙不附祖約。豈肯同郭默邪。岳詡遣隨詣宣。觀之。隨說宣曰。明府心雖不爾。無以自明。惟有以賢子付隨耳。宣乃遣其子戎與隨俱迎陶侃。侃辟戎爲掾。上宣爲武昌太守。○二月。後趙羣臣請後趙王勒卽皇帝位。勒乃稱大趙天王。行皇帝事。立妃劉氏爲王后。世子弘爲太子。以其子宏爲驃騎大將軍。都督中外諸軍事。大單于封秦王。斌爲左衛將軍。封太原王。恢爲輔國將軍。封南陽王。以中山公虎爲太尉。尙

書令進爵爲王。虎子遂爲冀州刺史。封齊王。宣爲左將軍。挺爲侍中。封梁王。又封石生爲河東王。石堪爲彭城王。以左長史郭敷爲尙書左僕射。右長史程遐爲右僕射。領吏部尙書。左司馬夔安。右司馬郭殷。從事中郎李鳳。前郎中令裴憲。皆爲尙書。參軍事。徐光爲中書令。領祕書監。自餘文武封拜。各有差。中山王虎怒。私謂齊王遂曰。主上自都襄國以來。端拱仰成。以吾身當矢石。二十餘年。南擒劉岳。北走索頭。東平齊魯。西定秦雍。克十有三州。成大趙之業者。我也。大單于當以授我。今乃以與黃吻婢兒。念之。令人氣塞。不能寢食。待主上晏駕之後。不足復留種也。程遐言於勒曰。天下粗定。當顯明逆順。故漢高祖赦季布。斬丁公。大王自起兵以來。見忠於其君者。輒褒之。背叛不臣者。輒誅之。此天下所以歸盛德也。今祖約猶存。臣竊惑之。安西將軍姚弋仲。亦以爲言。勒乃收約。并其親屬中外百餘人。悉誅之。妻妾兒女。分賜諸胡。初祖逖有胡奴曰王安。逃甚愛之。在雍丘。謂安曰。石勒是汝種類。吾亦無在爾一人。厚資送而遣之。安以勇幹仕趙。爲左衛將軍。及約之誅。安歎曰。豈可使祖士雅無後乎。乃往就市觀刑。逃庶子道重。始十歲。安竊取以歸。匿之。變服爲沙門。及石氏亡。道重復歸江南。臨之。三月。庾亮兵至淝口。諸軍大集。夏五月乙卯。默將宋侯。縛默父子。出降。侃斬默于軍門。傳首建康。同黨死者四十人。詔以侃都督江州。領刺史。以鄧岳督交廣諸軍事。領廣州刺史。侃還巴陵。因移鎮武昌。庾亮還蕪湖。辭爵賞不受。○趙將劉徵。帥衆數千。浮海抄東南諸縣。殺南沙都尉許儒。○張駿因前趙之亡。復收河南地。至于狄道。置五屯護軍。與趙分境。六月。趙遣鴻臚孟毅。拜駿征西大將軍。涼州牧。加九錫。駿恥爲之。臣不受。留毅不遣。○初丁零翟斌。世居康居。後徙中國。至是入朝於趙。趙以斌爲句町王。○趙羣臣固請正尊號。秋九月。趙王勒。卽皇帝位。大赦。改元建平。文武封進。各有差。立其妻劉氏爲皇后。太子弘爲皇太子。弘

好屬文。親敬儒。素勸。謂徐光曰。大雅惜惜。殊不似將家子。光曰。漢祖以馬上取天下。孝文以玄默守之。聖人之後。必有勝殘。去殺者。天之道也。勒甚悅。光因說曰。皇太子仁孝溫恭。中山王雄暴多詐。陛下一旦不諱。臣恐社稷非太子所有也。宜漸奪中山王權。使太子早參朝政。勒心然之。而未從。○趙荊州監軍郭敬。寇襄陽。南中郎將周撫。監河北軍事。屯襄陽。趙主勒。以驛書救敬。退屯樊城。使之偃藏旗幟。寂若無人。曰。彼若使人觀察。則告之曰。汝宜自愛。堅守。後七八日。大騎將至。相策。不復得走矣。敬使人浴馬于津。周而復始。晝夜不絕偵者。還以告周撫。撫以爲趙兵大至。思奔武昌。敬入襄陽。中州流民。悉降于趙。魏該弟遐。帥其部衆。自石城降。敬毀襄陽城。遷其民于河北。城樊城。以戍之。趙以敬爲荊州刺史。周撫坐免官。○休屠王羌叛趙。趙河東王生。擊破之。羌奔涼州。西平公駿懼。遣孟毅還。使其長史馬詵。稱臣入貢于趙。○更造新宮。○甲辰。徙樂成王欽爲河間王。封彭城王紘子浚爲高密王。○冬十月。成大將軍壽。督征南將軍費黑等。攻巴東建平。拔之。巴東太守楊謙。監軍母丘奧。退保宜都。

六年春正月。趙劉徵復寇婁縣。掠武進。郗鑒擊却之。○三月壬戌朔。日有食之。○夏。趙主勒如鄴。將營新宮。廷尉上黨續咸。苦諫。勒怒。欲斬之。中書令徐光曰。咸言不可用。亦當容之。柰何。一旦以直言斬列卿乎。勒歎曰。爲人君。不得自尊。如是乎。匹夫家。貲滿百匹。猶欲市宅。況富有四海乎。此宮終當營之。且敕停作。以成吾直臣之氣。因賜咸絹百匹。稻百斛。又詔公卿以下。歲舉賢良方正。仍令舉人。得更相薦引。以廣求賢之路。起明堂。辟雍。靈臺于襄國城西。○秋七月。成大將軍壽。攻陰平。武都。楊難敵降之。○九月。趙主勒復營鄴宮。以洛陽爲南都。置行臺。○冬。蒸祭太廟。詔歸胙於司徒。導且命無下拜。導辭疾。不敢當。初帝卽位。冲幼。每見導。必拜。與導手詔。則云。惶恐言。中書作詔。則曰。敬問。有司議。元會日。帝應敬導。不。博士郭熙

杜援議以爲禮無拜臣之文。謂宜除敬侍中馮懷。議以爲天子臨辟雍。拜三老。況先帝師傅。謂宜盡敬。侍中苟奕。議以爲三朝之首。宜明君臣之體。則不應敬。若它日小會。自可盡禮。詔從之。奕。組之子也。○慕容廆遣使與太尉陶侃。賡勸以興兵北伐。共清中原。僚屬宋該等。共議以廆立功一隅。位卑任重。等差無別。不足以鎮華夷。宜表請進廆官爵。參軍韓恒。駁曰。夫立功者。患信義不著。不患名位不高。桓文有匡復之功。不先求禮命。以令諸侯。宜繕甲兵。除羣凶。功成之後。九錫自至。比於邀君以求寵。不亦榮乎。廆不悅。出恒爲新昌令。於是東夷校尉封抽等。疏上侃府。請封廆爲燕王。行大將軍事。侃復書曰。夫功成進爵。古之成制也。車騎雖未能爲官。擢勒然忠義竭誠。今騰牋上聽。可不遲速。當在天臺也。

資治通鑑卷第九十四

資治通鑑卷第九十五

晉紀十七

顯宗成皇帝中之上

咸和七年春正月辛未大赦。○趙主勒大饗羣臣。謂徐光曰。朕可方自古何等主。對曰。陛下神武謀略過於漢高。後世無可比者。勒笑曰。人豈不自知。卿言太過。朕若遇漢高祖。當北面事之。與韓彭比肩。若遇光武。當竝驅中原。未知鹿死誰手。大丈夫行事。宜礪礪落落。如日月皎然。終不效曹孟德。司馬仲達。欺人孤兒寡婦。狐媚以取天下也。羣臣皆頓首稱萬歲。勒雖不學。好使諸生讀書。而聽之時以其意論古今得失。聞者莫不悅服。嘗使人讀漢書。聞酈食其勸立六國後。驚曰。此法當失。何以遂得天下。及聞留侯諫。乃曰。賴有此耳。○郭敬之退戍樊城也。晉人復取襄陽。夏四月。敬復攻拔之。留戍而歸。○趙右僕射程遐言於趙主勒曰。中山王勇悍權略。羣臣莫及。觀其志。自陛下之外。視之蔑如。加以殘賊安忍。久爲將帥。威振內外。其諸子年長。皆典兵權。陛下在。自當無它。恐非少主之臣也。宜早除之。以便大計。勒曰。今天下未安。大雅冲幼。宜得彊輔。中山王骨肉至親。有佐命之功。方當委以伊霍之任。何至如卿所言。卿正恐不得擅帝舅之權耳。吾亦當參卿顧命。勿過憂也。遐泣曰。臣所慮者公家。陛下乃以私計拒之。忠言何自而入乎。中山王雖爲皇太后所養。非陛下天屬。雖有微功。陛下酬其父子恩榮亦足矣。而其志願無極。豈將來有益者乎。若不除之。臣見宗廟不血食矣。勒不聽。遐退。告徐光。光曰。中山王常切齒於吾二人。恐非但危國。亦將爲家禍也。它日光承間。

言於勒曰。今國家無事。而陛下神色若有不怡。何也。勒曰。吳蜀未平。吾恐後世不以吾為受命之王也。光曰。魏承漢運。劉備雖興於蜀。漢豈得為不亡乎。孫權在吳。猶今之李氏也。陛下苞括二都。平蕩八州。帝王之統。不在陛下。當復在誰。且陛下不憂腹心之疾。而更憂四支乎。中山王藉陛下威略。所向輒克。而天下皆言其英武。亞於陛下。且其資性不仁。見利忘義。父子竝據權位。執傾王室。而耿耿常有不滿之心。近於東宮侍宴。有輕皇太子之色。臣恐陛下萬年之後。不可復制也。勒默然。始命太子。省可尚書奏事。且以中常侍嚴震參綜。可否惟征伐斷。斬大事。乃呈之。於是嚴震之權。過於主相。中山王虎之門。可設雀羅矣。虎愈怏怏不悅。○秋。趙郭敬南掠江西。太尉侃遣其子平西參軍斌。及南中郎將桓宣。乘虛攻樊城。悉俘其衆。敬旋救樊。宣與戰于涅水。破之。皆得其所掠。侃兄子臻。及竟陵太守李陽。攻新野。拔之。敬懼。遁去。宣遂拔襄陽。侃使宣鎮襄陽。宣招懷初附。簡刑罰。略威儀。勸課農桑。或載鉏耒於輅。軒親帥民芸穫。在襄陽十餘年。趙人再攻之。宣以寡弱拒守。趙人不能勝。時人以爲亞於祖逖。周訪。○成大將軍壽寇寧州。以其征東將軍費黑爲前鋒。出廣漢。鎮南將軍任回出越嶲。以分寧州之兵。○冬。十月。壽黑至朱提。朱提太守董炳。城守寧州。刺史尹奉遣建寧太守霍彪引兵助之。壽欲逆拒。彪黑曰。城中食少。宜縱彪入城。共消其穀。何爲拒之。壽從之。城久不下。壽欲急攻之。黑曰。南中險阻難服。當以日月制之。待其智勇俱困。然後取之。邨牢之物。何足汲汲也。壽不從。攻果不利。乃悉以軍事任黑。○十一月。壬子朔。進太尉侃爲大將軍。劍履上殿。入朝不趨。贊拜不名。侃固辭不受。○十二月。庚戌。帝遷于新宮。○是歲。涼州僚屬勸張駿稱涼王。領秦涼二州牧。置公卿百官。如魏武晉文故事。駿曰。此非人臣所宜言也。敢言此者。罪不赦。然境內皆稱之爲王。駿立次子重華爲世子。八年春正月。成大將軍李壽拔朱提。董炳霍彪皆降。壽威震南中。○丙子。趙主勒遣使來修

好詔焚其幣。○三月。寧州刺史尹奉降于成。成盡有南中之地。大赦。以大將軍壽領寧州。○夏五月。甲寅。遼東武宣公慕容廆卒。六月。世子皝以平北將軍行平州刺史。督攝部內。赦紫囚。以長史裴開爲軍諮祭酒。郎中令高詡爲玄菟太守。皝以帶方太守王誕爲左長史。誕以遼東太守陽鶩爲才。而讓之。皝從之以誕爲右長史。○趙主勒寢疾。中山王虎入侍禁中。矯詔羣臣親戚。皆不得入。疾之增損。外無知者。又矯詔召秦王宏。彭城王堪。還襄國。勒疾小瘳。見宏驚曰。吾使王處藩鎮。正備今日。有召王者。邪。將自來邪。有召者。當按誅之。虎懼曰。秦王思慕。暫還耳。今遣之。仍留不遣。數日。復問之。虎曰。受詔即遣。今已半道矣。廣阿有蝗。虎密使其子冀州刺史邃。帥騎三千。遊於蝗所。秋七月。勒疾篤。遺命曰。大雅兄弟。宜善相保。司馬氏汝曹之前車也。中山王宜深思。周霍勿爲將來口實。戊辰。勒卒。中山王虎劫太子弘。使臨軒收右光祿大夫程遐。中書令徐光。下廷尉。召邃。使將兵入宿衛。文武皆奔散。弘大懼。自陳劣弱。讓位于虎。虎曰。君終太子立禮之常也。弘涕泣固讓。虎怒曰。若不堪重任。天下自有大義。何足豫論。弘乃即位。大赦。殺程遐。徐光。夜以勒喪潛瘞山谷。莫知其處。己卯。備儀衛。虛葬于高平陵。諡曰明帝。廟號高祖。趙將石聰及譙郡太守彭彪。各遣使來降。聰本晉人。冒姓石氏。朝廷遣督護喬球將兵救之。未至。聰等爲虎所誅。○慕容皝遣長史勃海王濟等來告喪。○八月。趙主弘以中山王虎爲丞相。魏王大單于加九錫。以魏郡等十三郡爲國。總攝百揆。虎赦其境內。立妻鄭氏爲魏王后。子邃爲魏太子。加使持節。侍中都督中外諸軍事。大將軍。錄尚書事。次子宣爲使持節。車騎大將軍。冀州刺史。封河間王。韜爲前鋒將軍。司隸校尉。封樂安王。遵封齊王。鑿封代王。苞封樂平王。徙平原王斌爲章武王。勒文武舊臣皆補散任。虎之府寮親屬。悉署臺省要職。以鎮軍將軍夔安領左僕射。尚書郭殷爲右僕射。更命太子宮曰崇訓宮。太后劉氏以下。皆徙居之。選勒宮人及車馬服玩之美者。皆入丞相府。○宇文乞得

歸爲其東部大人逸豆歸所逐。走死于外。慕容皝引兵討之。軍于廣安。逸豆歸懼而請和。遂築榆陰安晉二城而還。○成建寧。牂牁二郡來降。李壽復擊取之。○趙劉太后謂彭城王堪曰。先帝甫晏駕。丞相遽相陵藉如此。帝祚之亡。殆不復久。王將若之何。堪曰。先帝舊臣。皆被疎斥。軍旅不復由人。宮省之內。無可爲者。臣謂奔兖州。挾南陽王恢爲盟主。據廩丘。宣太后詔於牧守征鎮。使各舉兵以誅暴逆。庶幾猶有濟也。劉氏曰。事急矣。當速爲之。九月。堪微服輕騎襲兖州。不克。南奔譙城。丞相虎遣其將郭太追之。獲堪于城父。送襄國。爰而殺之。徵南陽王恢還襄國。劉氏謀泄。虎廢而殺之。尊弘母程氏爲皇太后。堪本田氏子。數有功。趙主勒養以爲子。劉氏有膽略。每與之參決軍事。佐勒建功業。有呂后之風。而不妬忌。更過之。趙河東王生鎮關中。石朗鎮洛陽。冬十月。生朗皆舉兵。以討丞相虎。生自稱秦州刺史。遣使來降。氏帥蒲洪自稱雍州刺史。西附張駿。虎留太子邃守襄國。將步騎七萬。攻朗于金墉。金墉潰。獲朗。別而斬之。進向長安。以梁王挺爲前鋒。大都督生遣將軍郭權帥鮮卑涉瑣衆二萬。爲前鋒。以拒之。生將大軍繼發。軍于蒲阪。權與挺戰于潼關。大破之。挺及丞相左長史劉隗皆死。虎還奔灑池。枕尸三百餘里。鮮卑潛與虎通謀反擊生。生不知。挺已死。懼。單騎奔長安。權收餘衆。退屯渭汭。生遂奔長安。匿於鷄頭山。將軍蔣英據長安拒守。虎進兵擊英。斬之。生麾下斬生以降。權奔隴右。虎分命諸將屯汧。隴。遣將軍麻秋討蒲洪。洪帥戶二萬降于虎。虎迎拜洪光烈將軍。護氏校尉。洪至長安。說虎徙關中豪桀及氐羌以實東方。曰。諸氏皆洪家部曲。洪帥以從。誰敢違者。虎從之。徙秦雍民及氐羌十餘萬戶于關東。以洪爲龍驤將軍。流民都督。使居枋頭。以羌帥姚弋仲爲奮武將軍。西羌大都督。使帥其衆數萬徙居清河之潏頭。虎還襄國。大赦。趙主弘命虎建魏臺。一如魏武王輔漢故事。○慕容皝初嗣位。用法嚴峻。國人多不自安。主簿皇甫真切諫不聽。皝庶兄建威將軍翰母弟征虜將軍仁有勇略。屢立

戰功。得士心。季弟昭有才藝。皆有寵於虎。皝忌之。翰歎曰。吾受事於先公。不敢不盡力。幸賴先公之靈。所向有功。此乃天贊吾國。非人力也。而人謂吾之所辦。以爲雄才難制。吾豈可坐而待禍邪。乃與其子出奔段氏。段遼素聞其才。冀收其用。甚愛重之。仁自平郭來奔。喪謂昭曰。吾等素驕。多無禮於嗣君。嗣君剛嚴。無罪猶可畏。況有罪乎。昭曰。吾輩皆體正嫡。於國有分。兄素得士心。我在內未爲所疑。伺其間隙。除之。不難。兄趣舉兵。以來。我爲內應。事成之日。與我遼東。男子舉事。不克則死。不能效建威偷生異域也。仁曰。善。遂還平郭。閏月。仁舉兵而西。或以仁昭之謀告皝。皝未之信。遣使按驗。仁兵已至黃水。知事露。殺使者。還據平郭。皝賜昭死。遣軍祭酒封奕。慰撫遼東。以高詡爲廣武將軍。將兵五千。與庶弟建武將軍幼稚。廣威將軍軍。寧遠將軍汗。司馬遼東。修壽。共討仁。與仁戰於汝城北。皝兵大敗。幼稚軍皆爲仁所獲。壽嘗爲仁司馬。遂降於仁。前大農孫機等舉遼東城以應仁。封奕不得入。與汗俱還。東夷校尉封抽。護車平原乙逸。遼東相太原韓矯。皆奔城走。於是仁盡有遼東之地。段遼及鮮卑諸部皆與仁。遙相應援。皝追思皇甫真之言。以真爲平州別駕。○十二月。郭權據上邽。遣使來降。京兆新平。扶風。馮翊。北地。皆應之。○初。張駿欲假道於成。以通表建康。成主雄不許。駿乃遣治中從事張淳。稱藩於成。以假道。雄僞許之。將使盜覆諸東峽。蜀人橋贊。密以告淳。淳謂雄曰。寡君使小臣行無迹之地。萬里通誠於建康者。以陛下嘉尙忠義。能成人之美故也。若欲殺臣者。當斬之都市。宣示衆目。曰。涼州不忘舊德。通使琅邪。主聖臣明。發覺殺之。如此。則義聲遠播。天下畏威。今使盜殺之。江中威形不顯。何足以示天下乎。雄大驚曰。安有此邪。司隸校尉景騫言於雄曰。張淳壯士。請留之。雄曰。壯士安肯留。且試以卿意觀之。騫謂淳曰。卿體豐大。天熱。可且遣下吏。小住須涼。淳曰。寡君以皇輿播越。梓宮未返。生民塗炭。莫之振救。故遣淳通誠上都。所論事重。非下吏所能傳。使下吏可了。則淳亦不來矣。雖火山湯海。猶

將赴之。豈寒暑之足憚哉。雄謂淳曰。貴主英名蓋世。土險兵彊。何不亦稱帝自娛。一方淳曰。寡君祖考以來。世篤忠貞。以讐恥未雪。枕戈待旦。何自娛之有。雄甚慙曰。我之祖考。本亦晉臣。遭天下大亂。與六郡之民。避難此州。為衆所推。遂有今日。琅邪若能中興大晉於中國者。亦當帥衆輔之。厚為淳禮。而遣之。淳卒致命於建康。長安之失守也。敦煌計吏耿訪。自漢中入江東。屢上書請遣大使慰撫涼州。朝廷以訪守持書御史。拜張駿鎮西大將軍。選隴西賈陵等十二人配之。訪至涼州。道不通。以詔書付賈陵。詐為賈客。以達之。是歲。陵始至涼州。駿遣部曲督王豐等報謝。

九年春正月。趙改元延熙。○詔以郭權為鎮西將軍。雍州刺史。○仇池王楊難敵卒。子毅立。自稱龍驤將軍。左賢王。下辨公。以叔父堅頭之子盤為冠軍將軍。右賢王。河池公。遣使來稱藩。○二月丁卯。詔遣耿訪。王豐齋印綬。授張駿大將軍。都督陝西雍秦涼州諸軍事。自是每歲使者不絕。○慕容仁以司馬翟楷領東夷校尉。前平州別駕廳鑒領遼東相。○段遼遣兵襲徒河。不克。復遣其弟蘭與慕容翰共攻柳城。柳城都尉石琮。城大慕與濕。并力拒守。蘭等不克而退。遼怒。切責蘭等必令拔之。休息二旬。復益兵來攻。士皆重袍蒙楯。作飛梯。四面俱進。晝夜不息。琮泥拒守。彌固。殺傷千餘人。卒不能拔。慕容遣慕容汗及司馬封奕等共救之。孰戒汗曰。賊氣銳。勿與爭鋒。汗性驍果。以千餘騎為前鋒。直進封奕止之。汗不從。與蘭遇于牛尾谷。汗兵大敗。死者太半。奕整陳力戰。故得不沒。蘭欲乘勝窮追。慕容翰恐遂滅其國。止之曰。夫為將。當務慎重。審己量敵。非萬全不可動。今雖挫其偏師。未能屈其大執。孰多權詐。好為潛伏。若悉國中之衆。自將以拒我。我縣軍深入。衆寡不敵。此危道也。且受命之日。止求此捷。若違命貪進。萬一取敗。功名俱喪。何以返面。蘭曰。此已成禽。無有餘理。卿正慮遂滅卿國耳。今千年在東。若進而得志。吾將迎之。以為國嗣。終不負卿。使宗廟不祀也。千年者。慕容

容仁小字也。翰曰。吾投身相依。無復還理。國之存亡。於我何有。但欲為大國之計。且相為惜功名耳。乃命所部。欲獨還。蘭不得已而從之。○三月。成主雄。分寧州置交州。以霍彪為寧州刺史。龔深為交州刺史。○趙丞相虎。遣其將郭敖。及章武王斌。帥步騎四萬。西擊郭權軍于華陰。夏四月。上邽豪族。殺權以降。虎徙秦州三萬餘戶于青并二州。長安人陳良夫。奔黑羌。與北羌王薄句大等。侵擾北地。馮翊。章武王斌。樂安王韜。合擊破之。句大奔馬蘭山。郭敖乘勝逐北。為羌所敗。死者什七八。斌等收軍還三城。虎遣使誅郭敖。秦王宏有怨言。虎幽之。○慕容仁自稱平州刺史。遼東公。○長沙桓公陶侃。晚年深以滿盈自懼。不預朝權。屢欲告老歸國。佐吏等苦留之。六月。侃疾篤。上表遜位。遣左長史殷羨。奉送所假節麾幢。蓋侍中貂蟬。太尉章。荆江雍梁交廣益寧八州刺史印傳。棨戟。軍資器仗。牛馬舟船。皆有定簿。封印倉庫。侃自加管鑰。以後事付右司馬王愨。加督護。統領文武。甲寅。輿車出臨津。就船將歸。長沙顧謂愨。曰。老子婆娑。正坐諸君。乙卯。薨於樊谿。侃在軍四十一年。明毅善斷。識察纖密。人不能欺。自南陵迄于白帝。數千里中。路不拾遺。及薨。尚書梅陶。與親人曹識書曰。陶公。機神明鑒。似魏武。忠順勤勞。似孔明。陸抗諸人。不能及也。謝安每言。陶公。雖用法。而恒得法外意。安。鯤之從子也。○成主雄。生蕩於頭。身素多金創。及病。舊痕皆膿潰。諸子皆惡而遠之。獨太子班。晝夜侍側。不脫衣冠。親為吮膿。雄召大將軍建寧王壽。受遺詔輔政。丁卯。雄卒。太子班即位。以建寧王壽錄尚書事。政事皆委於壽。及司徒何點。尚書令王瓌。班居中。行喪禮。一無所預。○辛未。加平西將軍庾亮。征西將軍。假節。都督江荆豫益梁雍六州諸軍事。領江豫荆三州刺史。鎮武昌。亮辟殷浩為記室參軍。浩。羨之子也。與豫章太守褚裒。丹陽丞杜乂。皆以識度清遠。善談老易。擅名江東。而浩尤為風流所宗。裒之孫。父錫之子也。桓彝嘗謂裒曰。季野有皮裏春秋。言其外無臧否。而內有褒貶也。謝安曰。裒雖不言。而四時之氣亦備矣。○

秋八月王濟還遼東詔遣御史王齊祭遼東公廐又遣謁者徐孟策拜慕容皝鎮軍大將軍平州刺史大單于遼東公持節都督承制封拜一如虜故事船下馬石津皆爲慕容仁所留○九月戊寅衛將軍江陵穆公陸曄卒○成主雄之子車騎將軍越屯江陽奔喪至成都以太子班非雄所生意不服與其弟安東將軍期謀作亂班弟珩勸班遣越還江陽以期爲梁州刺史鎮葭萌班以未葬不忍遣推心待之無所疑閉遣珩出屯于涪冬十月癸亥朔越因班夜哭弑之於殯宮并殺班兄領軍將軍都矯太后任氏令罪狀班而廢之初期母冉氏賤任氏母養之期多才藝有令名及班死衆欲立越越奉期而立之甲子期卽皇帝位諡班曰戾太子以越爲相國封建寧王加大將軍壽大都督徙封漢王皆錄尙書事以兄霸爲中領軍鎮南大將軍弟保爲鎮西大將軍汝山太守從兄始爲征東大將軍代越鎮江陽丙寅葬雄於安都陵諡曰武皇帝廟號太宗始欲與壽共攻期壽不敢發始怒反譖壽於期請殺之期欲藉壽以討李珩故不許遣壽將兵向涪壽先遣使告珩珩以去就利害開其去路珩遂來奔詔以珩爲巴郡太守期以壽爲梁州刺史屯涪○趙主弘自齋璽綬詣魏宮請禪位於丞相虎虎曰帝王大業天下自當有議何爲自論此邪弘流涕還宮謂太后程氏曰先帝種真無復遺矣於是尙書奏魏臺請依唐虞禪讓故事虎曰弘愚暗居喪無禮不可以君萬國便當廢之何禪讓也十一月虎遣郭殷入宮廢弘爲海陽王弘安步就車容色自若謂羣臣曰庸昧不堪篡承大統夫復何言羣臣莫不流涕宮人慟哭羣臣詣魏臺勸進虎曰皇帝者盛德之號非所敢當且可稱居攝趙天王幽弘及太后程氏秦王宏南陽王恢于崇訓宮尋皆殺之西羌大都督姚弋仲稱疾不賀虎累召之乃至正色謂虎曰弋仲常謂大王命世英雄奈何把臂受託而返奪之邪虎曰吾豈樂此哉顧海陽年少恐不能了家事故代之耳心雖不平然察其誠實亦不之罪虎以變安爲侍中太尉守尙書令郭殷爲司空韓晞爲尙書

左僕射魏郡申鍾爲侍中郎圖爲光祿大夫王波爲中書令文武封拜各有差虎行如信都復還襄國○慕容皝討遼東甲申至襄平遼東人王岌密信請降師進入城翟楷龐參單騎走居就新昌等縣皆降皝欲悉阮遼東民高詡諫曰遼東之叛實非本圖直畏仁凶威不得不從今元惡猶存始克此城遽加夷滅則未下之城無歸善之路矣皝乃止分徙遼東大姓於棘城以杜羣爲遼東相安輯遺民○十一月趙徐州從事蘭陵朱縱斬刺史郭祥以彭城來降趙將王朗攻之縱奔淮南○慕容仁遣兵襲新昌督護新興王嵩擊走之遂徙新昌入襄平咸康元年春正月庚午朔帝加元服大赦改元○成趙皆大赦成改元玉恒趙改元建武○成主期立皇后閻氏以衛將軍尹奉爲右丞相驃騎將軍尙書令王瓌爲司徒○趙王虎命太子選省尙書奏事惟祀郊廟選牧守征伐刑殺乃親之虎好治宮室鸛雀臺崩殺典匠少府任汪復使修之倍於其舊選保母劉芝封宜城君關預朝權受納賄賂求仕進者多出其門○慕容皝置左右司馬以司馬韓矯軍祭酒封奕爲之○司徒導以羸疾不堪朝會三月乙酉帝幸其府與羣臣宴于內室拜導并拜其妻曹氏侍中孔坦密表切諫以爲帝初加元服動宜顧禮帝從之坦又以帝委政於導從容言曰陛下春秋已長聖敬日躋宜博納朝臣諮諏善道導聞而惡之出坦爲廷尉坦不得意以疾去職丹陽尹桓景爲人諂巧導親愛之會焚惑守南斗經旬導謂領軍將軍陶回曰斗揚州之分吾當遜位以厭天譴回曰公以明德作輔而與桓景造膝使焚惑何以退舍導深愧之導辟太原王濛爲掾王述爲中兵屬述昶之曾孫也濛不修小廉而以清約見稱與沛國劉惔齊名友善惔常稱濛性至通而自然有節濛曰劉君知我勝我自知當時稱風流者以惔濛爲首述性沈靜每坐客辯論蓋起而述處之恬如也年三十尙未知名人謂之癡導以門地辟之既見唯問江東米價述張目不答導曰王掾不癡人何言癡也嘗見導每發言一坐莫不贊美述正色曰人非堯舜何得每

事盡善。導改容謝之。○趙王虎南遊臨江而還。有遊騎十餘。至歷陽。歷陽太守袁耽表上之。不言騎多少。朝廷震懼。司徒導請出討之。夏四月。加導大司馬。假黃鉞。都督征討諸軍事。癸丑。帝親兵廣莫門。分命諸將救歷陽。及成慈湖。牛渚。蕪湖。司空郗鑒使廣陵相陳光將兵入衛京師。俄聞趙騎至少。又已去。戊午。解嚴。王導解大司馬。袁耽坐輕安。免官。○趙征虜將軍石遇攻桓宣於襄陽。不克。○大旱。會稽餘姚米斗五百。○秋七月。慕容皝立子雋爲世子。○九月。趙王虎遷都于鄴。大赦。○初。趙主勒以天竺僧佛圖澄。豫言成敗。數有驗。敬事之。及虎卽位。奉之尤謹。衣以綾錦。乘以彫輦。朝會之日。太子諸公扶翼上殿。主者唱大和尚。衆坐皆起。使司空李農。旦夕問起居。太子諸公五日一朝。國人化之。率多事佛。澄之所在。無敢向其方面涕唾者。爭造寺廟。削髮出家。虎以其真僞雜糅。或避賦役爲姦宄。乃下詔。問中書曰。佛國家所奉。里閭小人無爵秩者。應事佛不著。作郎王度等議曰。王者祭祀典禮具存。佛外國之神。非天子諸華所應祠奉。漢氏初傳其道。唯聽西域人立寺都邑。以奉之。漢人皆不得出家。魏世亦然。今宜禁公卿以下。毋得詣寺燒香禮拜。其趙人爲沙門者。皆返初服。虎詔曰。朕生自邊鄙。忝君諸夏。至于饗祀。應從本俗。其夷趙百姓樂事佛者。特聽之。○趙章武王斌帥精騎二萬。并秦雍二州兵。以討薄句大平之。○成太子班之舅羅演。與漢王相天水上官澹謀殺成主期。立班子事覺。期殺演澹。及班母羅氏。期自以得志。輕諸舊臣。信任尙書令景騫。尙書姚華。田褒。中常侍許涪等。刑賞大政。皆決於數人。希復關公卿。褒無他才。嘗勸成主雄立。期爲太子。故有寵。由是紀綱隳紊。雄業始衰。○冬十月乙未朔。日有食之。○慕容仁遣王齊等南還。齊等自海道趣棘城。齊遇風不至。十二月。徐孟等至棘城。慕容皝始受朝命。段氏宇文氏各遣使詣慕容仁。館于平郭城外。皝帳下督張英將百餘騎。間道潛行。掩擊之。斬宇文氏使十餘人。生擒段氏使。以歸。○是歲。明帝母建安君荀氏卒。荀氏在禁中。尊重同於太

后。詔贈豫章郡君。○代王翳槐。以賀蘭譚頭不恭。將召而戮之。諸部皆叛。代王紇那。自宇文部入。諸部復奉之。翳槐奔鄴。趙人厚遇之。○初。張軌及二子寔。茂。雖保據河右。而軍旅之事。無歲無之。及張駿嗣位。境內漸平。駿勤修庶政。總御文武。咸得其用。民富兵彊。遠近稱之。以爲賢君。駿遣將楊宣伐龜茲。鄯善。於是西域諸國焉耆。于寘之屬。皆詣姑臧朝貢。駿於姑臧南。作五殿。官屬皆稱臣。駿有兼秦雍之志。遣參軍麴護。上疏以爲勸。雄既死。虎期繼逆。兆庶離主。漸冉經世。先老消落。後生不識。慕戀之心。日遠日忘。乞敕司空鑒。征西亮等。汎舟江河。首尾齊舉。

二年春正月辛巳。彗星見于奎婁。○慕容皝將討慕容仁。司馬高詡曰。仁叛奔君親民。神共怒。前此海未嘗凍。自仁反以來。連年凍者三矣。且仁專備陸道。天其或者欲使吾乘海水以襲之也。皝從之。羣僚皆言。涉冰危事。不若從陸道。皝曰。吾計已決。敢沮者斬。壬午。皝帥其弟軍師將軍評等。自昌黎東踐冰而進。凡三百餘里。至歷林口。捨輜重。輕兵趣平郭。去城七里。候騎以告仁。仁狼狽出戰。張英之俘二使也。仁恨不窮追。及皝至。仁以爲皝復遣偏師。輕出寇抄。不知皝自來。謂左右曰。今茲當不使其匹馬得返矣。乙未。仁悉衆陳于城之西北。慕容軍帥所部降於皝。仁衆沮動。皝從而縱擊。大破之。仁走。其帳下皆叛。遂擒之。皝先爲斬其帳下之叛者。然後賜仁死。丁衡游毅。孫機等皆仁所信用也。皝執而斬之。王水自殺。慕容幼。慕容稚。佟壽。郭充。翟楷。龐鑒。皆東走。幼中道而還。皝兵追及楷。鑒。斬之。壽充奔高麗。自餘吏民爲仁所誣誤者。皝皆赦之。封高詡爲汝陽侯。○二月。尙書僕射王彬卒。○辛亥。帝臨軒。遣使備六禮。逆故當陽侯杜乂女陵陽爲皇后。大赦羣臣。畢賀。○夏六月。段遼遣中軍將軍李詠襲慕容皝。詠趣武興都尉張萌擊擒之。遼別遣段蘭將步騎數萬。屯柳城西回水。宇文逸豆歸攻安晉。以爲蘭聲援。皝帥步騎五萬向柳城。蘭不戰而遁。皝引兵北趣安晉。逸豆歸棄輜

重走。孰遣司馬封奕帥輕騎追擊大破之。孰謂諸將曰：二虜恥無功，必將復至，宜於柳城左右設伏以待之。乃遣封奕帥騎數千伏於馬兜山。三月，段遼果將數千騎來寇抄，奕縱擊大破之，斬其將榮伯保。○前廷尉孔坦卒，坦疾篤，庾永省之流涕，坦慨然曰：大丈夫將終，不問以濟國安民之術，乃為兒女子相泣邪？水深謝之。○九月，慕容皝遣長史劉斌兼郎中令遼東陽景，送徐孟等還建康。○冬，十月，廣州刺史鄧岳遣督護王隨等擊夜郎，與古皆克之。加岳督寧州。○成主期以從子尚書僕射武陵公載有雋才，忌之，誣以謀反殺之。○十一月，詔建威將軍司馬勳將兵安集漢中，成漢王壽擊敗之，壽遂置漢中守宰，戍南鄭而還。○索頭郁鞠帥衆三萬降于趙，趙拜郁鞠等十三人為親趙王，散其部衆於冀青等六州。○趙王虎作太武殿於襄國，作東西宮於鄴，十二月皆成。太武殿基高二丈八尺，縱六十五步，廣七十五步，登以文石，下穿伏室，置衛士五百人，以漆灌瓦，金瑤銀楹，珠簾玉壁，窮極工巧。殿上施白玉牀，流蘇帳，為金蓮華，以冠帳頂，又作九殿于顯陽殿後，選士民之女以實之，服珠玉被綺縠者萬餘人，教宮人占星氣，馬步射，置女太史及雜伎工巧，皆與外同，以女騎千人為鹵簿，皆著紫綸巾，熟錦袴，金銀鏤帶，五文織成鞞，執羽儀，鳴鼓吹遊宴，以自隨。於是趙大旱，金一斤直粟二斗，百姓嗷然，而虎用兵不息，百役並興，使牙門將張彌徙洛陽鐘虞九龍翁仲銅駝飛廉於鄴，載以四輪纏軻車，輟廣四尺，深二尺，一鐘沒於河，募浮沒三百人，入河繫以竹繩，用牛百頭，鹿楯引之，乃出，造萬斛之舟，以濟之。既至鄴，虎大悅，為之赦二歲刑，賚百官穀帛，賜民爵一級，又用尚方令解飛之言於鄴，南投石於河，以作飛橋，功費數千萬億，橋竟不成，役夫飢甚，乃止，使令長帥民入山澤采橡及魚，以佐食，復為權豪所奪，民無所得。○初日南夷帥范稚有奴曰范文，常隨商賈往來中國，後至林邑，教林邑王范逸作城郭宮室器械，逸愛信之，使為將，文遂潛逸諸子，或徙或逃，是歲，逸卒，文許迎逸子於它國，置毒於椰酒，而

殺之。文自立為王，於是出兵攻大岐界，小岐界，式僕，徐狼，屈都，乾魯，扶單等國，皆滅之，有衆四五萬，遣使奉表入貢。○趙左校令成公段作庭燎於杠末，高十餘丈，上盤置燎，下盤置人，趙王虎試而悅之。

三年春正月庚辰，趙太保夔安等文武五百餘人，入上尊號，庭遼油灌下盤，死者二十餘人。趙王虎惡之，腰斬成公段，辛巳，虎依殷周之制，稱大趙天王，即位於南郊，大赦，立其后鄭氏為天王皇后，太子邃為天王皇太子，諸子為王者，皆降為郡公，宗室為王者，降為縣侯，百官封署各有差。○國子祭酒袁瓌，太常馮懷，以江左寔安，請興學校，帝從之，辛卯，立太學，徵集生徒，而士大夫習尚老莊，儒術終不振，瓌之曾孫也。○三月，慕容皝於乙連城東築好城，以逼乙連，留折衝將軍蘭勃守之，夏四月，段遼以車數千兩輸乙連，粟蘭勃擊而取之，六月，遼又遣其從弟揚威將軍屈雲將精騎夜襲皝子遵於興國城，遵擊破之，初北平陽裕事段疾陸眷及遼五世，皆見尊禮，遼數與孰相攻，裕諫曰：親仁善鄰，國之寶也，況慕容氏與我世婚，迭為甥舅，孰有才德，而我與之構怨，戰無虛月，百姓彫弊，利不補害，臣恐社稷之憂，將由此始，願兩追前失，通好如初，以安國息民，遼不從，出裕為北平相。○趙太子邃素驍勇，趙王虎愛之，常謂羣臣曰：司馬氏父子兄弟自相殘滅，故使朕得至此，如朕有殺阿鐵理否，既而邃驕淫殘忍，好繕飾美姬，斬其首，洗血置盤上，與賓客傳觀之，又烹其肉，共食之，河間公宣樂安公韜皆有寵於虎，邃疾之如讎，虎荒耽酒色，喜怒無常，使邃省可尚書事，每有所關白，虎恚曰：此小事，何足白也，時或不聞，又恚曰：何以不白，請責答，極月至再三，邃私謂中庶子李顏等曰：官家難稱，吾欲行冒頓之事，卿從我乎，顏等伏不敢對，秋七月，邃稱疾不視事，潛帥宮臣文武五百餘騎，飲於李顏別舍，因謂顏等曰：我欲至冀州，殺河間公，有不從者，斬，行數里，騎皆逃散，顏叩頭固諫，邃亦昏醉而歸，其母鄭氏聞之，私遣中人，請讓邃，邃怒殺之，佛

圖澄謂虎曰。陛下不宜數往東宮。虎將視遼疾。思澄言而還。既而瞑目。大言曰。我為天下主。父子不相信乎。乃命所親信女尚書往察之。遂呼前與語。因抽劔擊之。虎怒。收李顏等詰問。顏具言其狀。殺顏等三十餘人。幽遼于東宮。既而赦之。引見太武東堂。遂朝而不謝。俄頃即出。虎使謂之曰。太子應朝中宮。豈可遽去。遂徑出不顧。虎大怒。廢遼為庶人。其夜殺遼。及其妃張氏。并男女二十六人。同埋於一棺。誅其宮臣支黨二百餘人。廢鄭后為東海太妃。立其子宣為天王皇太子。宣母杜昭儀為天王皇后。○安定侯子光。自稱佛太子云。從大秦國來。當王小秦國。聚衆數千人於杜南山。自稱大黃帝。改元龍興。石廣討斬之。○九月。鎮軍左長史封奕等。勸慕容皝稱燕王。皝從之。於是備置羣司。以封奕為國相。韓壽為司馬。裴開為奉常。陽鶩為司隸。王嵩為太僕。李洪為大理。杜羣為納言。令宋該。劉睦。石琮為常伯。皇甫真。陽協。為冗騎常侍。宋晃。平熙。張泓。為將軍。封裕為記室監。洪。臻之孫。晃。爽之子也。冬。十月。丁卯。皝即燕王位。大赦。十一月。甲寅。追尊武宣公曰武宣王。夫人段氏曰武宣后。立夫人段氏為王后。世子雋為王太子。如魏武晉文輔政故事。○段遼數侵趙邊。燕王皝遣揚烈將軍宋回。稱藩於趙。乞師以討遼。自請盡帥國中之衆以會之。并以其弟寧遠將軍汗為質。趙王虎大悅。厚加慰答。辭其質。遣還。密期以明年。○是歲。趙將李穆。納拓跋翳槐於大甯。其故部落多歸之。代王紇那奔燕。國人復奉翳槐。城盛樂而居之。○仇池氏王楊毅。族兄初襲殺毅。并有其衆。自立為仇池公。稱臣于趙。

資治通鑑卷第九十五

資治通鑑卷第九十六

晉紀十八

顯宗成皇帝中之下

咸康四年春正月。燕王皝遣都尉趙槃如趙。聽師期。趙王虎將擊段遼。募驍勇者三萬人。悉拜龍騰中郎。會遼遣段屈雲襲趙幽州刺史李孟。退保易京。虎乃以桃豹為橫海將軍。王華為渡遼將軍。帥舟師十萬出漂淪津。支雄為龍驤大將軍。姚弋仲為冠軍將軍。帥步騎七萬為前鋒。以伐遼。○三月。趙槃還至棘城。燕王皝引兵攻掠令支。以北諸城。段遼將追之。慕容翰曰。今趙兵在南。當并力禦之。而更與燕鬪。燕王自將而來。其士卒精銳。若萬一失利。將何以禦南敵乎。段蘭怒曰。吾前為卿所誤。以成今日之患。吾不復墮卿計中矣。乃悉將見衆追之。皝設伏以待之。大破蘭兵。斬首數千級。掠五千戶及畜產萬計。以歸。趙王虎進屯金臺。支雄長驅入薊。段遼所署漁陽上谷代郡守相皆降。取四十餘城。北平相陽裕帥其民數千家。登燕山。以自固。諸將恐其為後患。欲攻之。虎曰。裕。儒生。矜惜名節。恥於迎降耳。無能為也。遂過之。至徐無。段遼以其弟蘭既敗。不敢復戰。帥妻子宗族豪大千餘家。棄令支。奔密雲山。將行。執慕容翰手。泣曰。不用卿言。自取敗亡。我固甘心。令卿失所。深以為愧。翰北奔宇文氏。遼左右長史劉羣。盧諶。崔悅等。封府庫。請降。虎遣將軍郭太。麻秋。帥輕騎二萬追遼。至密雲山。獲其母妻。斬首三千級。遼單騎走險。遣其子乞特真奉表。及獻名馬於趙。虎受之。虎入令支宮。論功封賞。各有差。徙段國民二萬餘戶於司雍。兗豫四州士大夫之有才行者。皆擢叙。

之陽裕詣軍門降。虎讓之曰：卿昔為奴虜走，今為士人來，豈識知天命將逃匿無地邪？對曰：臣昔事王公，不能匡濟，逃于段氏，復不能全。今陛下天網高張，籠絡四海，幽冀豪傑，莫不風從。如臣比肩，無所獨愧，生死之命，惟陛下制之。虎悅，即拜北平太守。○夏四月癸丑，以慕容皝為征北大將軍，幽州牧，領平州刺史。○成主期驕虐日甚，多所誅殺，而籍沒其資財婦女。由是大臣多不自安。漢王壽素貴重，有威名，期及建寧王越等皆忌之。壽懼不免，每當入朝，常詐為邊書，辭以警急。初，巴西處士龔壯，父叔皆為李特所殺，壯欲報仇，積年不除喪。壽數以禮辟之，壯不應，而往見壽。壽密問壯以自安之策，壯曰：巴蜀之民，本皆晉臣，節下若能發兵，西取成都，稱藩於晉，誰不爭為節下奮臂前驅者？如此則福流子孫，名垂不朽，豈徒脫今日之禍而已？壽然之。陰與長史略陽羅恒、巴西解思明謀攻成都。期頗聞之，數遣許濟、至壽所伺其動靜。又鳩殺壽養弟安北將軍攸。壽乃詐為妹夫任調書云：期當取壽，其衆信之。遂帥步騎萬餘人，自涪襲成都，許賞以城中財物。以其將李奕為前鋒，期不意其至，初不設備。壽世子勢為翊軍校尉，開門納之。遂克成都，屯兵宮門，期遣侍中勞壽。壽奏建寧王越、景騫、田褒、姚華、許濟及征西將軍李遐、將軍李西等懷奸亂政，皆收殺之。縱兵大掠，數日乃定。壽矯以太后任氏令，廢期為邛都縣公，幽之別宮。追諡戾太子曰哀皇帝。羅恒、解思明、李奕等勸壽稱鎮西將軍，益州牧，成都王。稱藩于晉。送邛都公於建康，任調及司馬蔡興、侍中李豔等勸壽自稱帝。壽命筮之，占者曰：可數年。天子調喜曰：一日尙足，況數年乎？思明曰：數年天子孰與百世諸侯？壽曰：朝聞道，夕死可矣。遂即皇帝位，改國號曰漢。大赦，改元漢興。以安車束帛徵龔壯為太師，壯誓不仕。壽所贈遺一無所受。壽改立宗廟，追尊父驥曰獻皇帝，母咎氏曰皇太后，立妃閻氏為皇后。世子勢為皇太子，更以舊廟為大成廟。凡諸制度，多所更易。以董皎為相國，羅恒為尙書令，解思明為廣漢太守，任調為鎮北將軍，梁州刺史，李奕為西

夷校尉。從子權為寧州刺史，公卿州郡悉用其僚佐代之。成氏舊臣近親及六郡士人皆見疎斥。邛都公期歎曰：天下主乃為小縣公，不如死。五月，益而卒。壽諡曰幽公，葬以王禮。○趙王虎以燕王皝不會趙兵，攻段遼，而自專其利，欲伐之。太史令趙攬諫曰：歲星守燕，分師必無功。虎怒，鞭之。皝聞之，嚴兵設備。罷六卿，納言常伯，充騎常侍官。趙戎卒數十萬，燕人震恐。皝謂內史高詡曰：將若之何？對曰：趙兵雖彊，然不足憂，但堅守以拒之，無能為也。虎遣使四出招誘民夷，燕成周內史崔壽居就令游泓，武原令常霸，東夷校尉封抽，護軍宋晃等皆應之。凡得三十六城。泓遂之兄子也。冀陽流寓之士共殺太守宋燭，以降於趙。燭晃之從兄也。營丘內史鮮于屈亦遣使降趙。武寧令廣平孫興、曉諭吏民共收屈，數其罪而殺之。閉城拒守。朝鮮令昌黎孫泳帥衆拒趙。大姓王請等密謀應趙。泳收斬之。同謀數百人，惶怖請罪。泳皆釋之。與同拒守。樂浪太守鞠彭以境內皆叛，選鄉里壯士二百餘人，共還棘城。戊子，趙兵進逼棘城。燕王皝欲出亡，帳下將慕輿根諫曰：趙彊我弱，大王一舉足，則趙之氣勢遂成，使趙人收略國民，兵彊穀足，不可復敵。竊意趙人正欲大王如此耳。奈何入其計中乎？今固守堅城，其勢百倍，縱其急攻，猶足枝持。觀形察變，間出求利，如事之不濟，不失於走。奈何望風委去，為必亡之理乎？皝乃止。然猶懼形於色。玄菟太守河間劉佩曰：今彊寇在外，衆心恟懼，事之安危繫於一人。大王此際，無所推委，當自彊以厲將士，不宜示弱。事急矣，臣請出擊之。縱無大捷，足以安衆。乃將敢死數百騎，出衝趙兵，所向披靡，斬獲而還。於是士氣自倍。皝問計於封奕，對曰：石虎凶虐已甚，民神共疾，禍敗之至，其何日之有？今空國遠來，攻守勢異，戎馬雖彊，無能為患。頓兵積日，釁隙自生，但堅守以俟之耳。皝意乃安。或說皝降，皝曰：孤方取天下，何謂降也？趙兵四面蟻附，緣城慕輿根等晝夜力戰，凡十餘日，趙兵不能克。壬辰，引退。皝遣其子恪帥二千騎追擊之，趙兵大敗，斬獲三萬餘級。趙諸軍皆弃甲逃潰，惟游擊將軍

石闕一軍。獨全。闕。父。瞻。內。黃。人。本。姓。冉。趙。主。勒。破。陳。午。獲。之。命。虎。養。以。為。子。闕。驍。勇。善。戰。多。策。略。虎。愛。之。比。於。諸。孫。虎。還。鄴。以。劉。羣。為。中。書。令。盧。諶。為。中。書。侍。郎。蒲。洪。以。功。拜。使。持。節。都。督。六。夷。諸。軍。事。冠。軍。大。將。軍。封。西。平。郡。公。石。闕。言。於。虎。曰。蒲。洪。雄。雋。得。將。士。死。力。諸。子。皆。有。非。常。之。才。且。握。彊。兵。五。萬。屯。據。近。畿。宜。密。除。之。以。安。社。稷。虎。曰。吾。方。倚。其。父。子。以。取。吳。蜀。奈。何。殺。之。待。之。愈。厚。燕。王。皝。分。兵。討。諸。叛。城。皆。下。之。拓。境。至。凡。城。崔。燾。常。霸。奔。鄴。封。抽。宋。晃。游。泓。奔。高。句。麗。皝。賞。鞠。彭。慕。與。根。等。而。治。諸。叛。者。誅。滅。甚。衆。功。曹。劉。翔。為。之。申。理。多。所。全。活。趙。之。攻。棘。城。也。燕。右。司。馬。李。洪。之。弟。普。以。為。棘。城。必。敗。勸。洪。出。避。禍。洪。曰。天。道。幽。遠。人。事。難。知。且。當。委。任。勿。輕。動。取。悔。普。固。請。不。已。洪。曰。卿。意。見。明。審。者。當。自。行。之。吾。受。慕。容。氏。大。恩。義。無。去。就。當。效。死。於。此。耳。與。普。流。涕。而。訣。普。遂。降。趙。從。趙。軍。南。歸。死。於。喪。亂。洪。由。是。以。忠。篤。著。名。趙。王。虎。遣。渡。遼。將。軍。曹。伏。將。青。州。之。衆。戍。海。島。運。穀。三。百。萬。斛。以。給。之。又。以。船。三。百。艘。運。穀。三。十。萬。斛。詣。高。句。麗。使。典。農。中。郎。將。王。典。帥。衆。萬。餘。屯。田。海。濱。又。令。青。州。造。船。千。艘。以。謀。擊。燕。○趙。太。子。宣。帥。步。騎。二。萬。擊。朔。方。鮮。卑。解。摩。頭。破。之。斬。首。四。萬。餘。級。○冀。州。八。郡。大。蝗。趙。司。隸。請。坐。守。宰。趙。王。虎。曰。此。朕。失。政。所。致。而。欲。委。咎。守。宰。豈。罪。己。之。意。邪。司。隸。不。進。讜。言。佐。朕。不。逮。而。欲。妄。陷。無。辜。可。白。衣。領。職。虎。使。襄。城。公。涉。歸。上。庸。公。日。歸。帥。衆。戍。長。安。二。歸。告。鎮。西。將。軍。石。廣。私。樹。恩。澤。潛。謀。不。軌。虎。追。廣。至。鄴。殺。之。○乙。未。以。司。隸。導。為。太。傅。都。督。中。外。諸。軍。事。郗。鑒。為。太。尉。庾。亮。為。司。空。六。月。以。導。為。丞。相。罷。司。徒。官。以。并。丞。相。府。導。性。寬。厚。委。任。諸。將。趙。胤。賈。寧。等。多。不。奉。法。大。臣。患。之。庾。亮。與。郗。鑒。牋。曰。主。上。自。八。九。歲。以。及。成。人。入。則。在。宮。人。之。手。出。則。唯。武。官。小。人。讀。書。無。從。受。音。句。顧。問。未。嘗。遇。君。子。秦。政。欲。恐。其。黔。首。天。下。猶。知。不。可。況。欲。愚。其。主。哉。人。主。春。秋。既。盛。宜。復。子。明。辟。不。稽。首。歸。政。甫。居。師。傅。之。尊。多。養。無。賴。之。士。公。與。下。官。竝。荷。託。付。之。重。大。鈞。不。掃。何。以。見。先。帝。於。地。下。乎。欲。共。起。兵。廢。導。鑒。不。聽。而。蠻。

校尉陶稱侃之子也。以亮謀語導。或勸導密為之備。導曰。吾與元規休戚是同。悠悠之談。宜絕智者之口。則如君言。元規若來。吾便角巾還第。復何懼哉。又與稱書。以為庾公帝之元舅。宜善事之。征西參軍孫盛密諫亮曰。王公常有世外之懷。豈肯為凡人。事邪。此必佞邪之徒。欲間內外耳。亮乃止。盛。楚之孫也。是時亮雖居外鎮。而遙執朝廷之權。既據上流。擁彊兵。趨勢者多歸之。導內不能平。常遇西風塵起。舉扇自蔽。徐曰。元規塵汚人。導以江夏李充為丞。相。揆。充。以。時。俗。崇。尚。浮。虛。乃。著。學。箴。以。為。老。子。云。絕。仁。棄。義。民。復。孝。慈。豈。仁。義。之。道。絕。然。後。孝。慈。乃。生。哉。蓋。患。乎。情。仁。義。者。寡。而。利。仁。義。者。衆。將。寄。責。於。聖。人。而。遣。累。乎。陳。迹。也。凡。人。見。形。者。衆。及。道。者。鮮。遂。逾。篤。離。本。逾。遠。故。作。學。箴。以。祛。其。蔽。曰。名。之。攸。彰。道。之。攸。廢。乃。損。所。隆。乃。崇。所。替。非。仁。無。以。長。物。非。義。無。以。齊。恥。仁。義。固。不。可。遠。去。其。害。仁。義。者。而。已。○漢。李。奕。從。兄。廣。漢。太。守。乾。告。大。臣。謀。廢。立。秋。七。月。漢。主。壽。使。其。子。廣。與。大。臣。盟。于。前。殿。徙。乾。為。漢。嘉。太。守。以。李。闕。為。荆。州。刺。史。鎮。巴。郡。闕。恭。之。子。也。八。月。蜀。中。久。雨。百。姓。飢。疫。壽。命。羣。臣。極。言。得。失。龔。壯。上。封。事。稱。陛。下。起。兵。之。初。上。指。星。辰。昭。告。天。地。歃。血。盟。衆。舉。國。稱。藩。天。應。人。悅。大。功。克。集。而。論。者。未。諭。權。宜。稱。制。今。淫。雨。百。日。飢。疫。竝。臻。天。其。或。者。將。以。監。示。陛。下。故。也。愚。謂。宜。遵。前。盟。推。奉。建。康。彼。必。不。愛。高。爵。重。位。以。報。大。功。雖。降。階。一。等。而。子。孫。無。窮。永。保。福。祚。不。亦。休。哉。論。者。或。言。二。州。附。晉。則。榮。六。郡。人。事。之。不。便。昔。公。孫。述。在。蜀。羈。客。用。事。劉。備。在。蜀。楚。士。多。貴。及。吳。鄧。西。伐。舉。國。屠。滅。寧。分。客。主。論。者。不。達。安。固。之。基。苟。惜。名。位。以。為。劉。氏。守。令。方。仕。州。郡。曾。不。知。彼。乃。國。亡。主。易。豈。同。今。日。義。舉。主。榮。臣。顯。哉。論。者。又。謂。臣。當。為。法。正。臣。蒙。陛。下。大。恩。恣。臣。所。安。至。於。榮。祿。無。問。漢。晉。臣。皆。不。處。復。何。為。效。法。正。乎。壽。省。書。內。慙。祕。而。不。宣。○九。月。漢。僕。射。任。顏。謀。反。誅。顏。任。太。后。之。弟。也。漢。主。壽。因。盡。誅。成。主。雄。諸。子。○冬。十。月。光。祿。勳。顏。含。以。老。遜。位。論。者。以。王。導。帝。之。師。傅。名。位。隆。重。百。僚。宜。為。降。禮。太。常。馮。懷。以。問。含。含。曰。王。

公雖貴重。理無偏敬。降禮之言。或是諸君事宜。鄙人老矣。不識時務。既而告人曰。吾聞伐國不問仁人。向馮祖思。問佞於我。我豈有邪德乎。郭璞嘗遇合。欲為之筮。合曰。年在天。位在人。修己而天不與者。命也。守道而人不知者。性也。自有性命。無勞著龜。致仕二十餘年。年九十。三而卒。○代王翳槐之弟什翼健。質於趙。翳槐疾病。命諸大人立之。翳槐卒。諸大人梁蓋等。以新有大故。什翼健在遠。來未可必。比其至。恐有變亂。謀更立君。而翳槐次弟屈。剛猛多詐。不如屈弟孤仁厚。乃相與殺屈而立孤。孤不可。自詣鄴。迎什翼健。請身留為質。趙王虎。義而俱遣之。十一月。什翼健即代王位於繁時北。改元曰建國。分國之半以與孤。初代王猗盧既卒。國多內難。部落離散。拓跋氏寢衰。及什翼健立。雄勇有智略。能修祖業。國人附之。始置百官。分掌衆務。以代人燕鳳為長史。許謙為郎中令。始制反逆殺人。奸盜之法。號令明白。政事清簡。無繫訊連逮之煩。百姓安之。於是東自滅貊。西及破落那。南距陰山。北盡沙漠。率皆歸服。有衆數十萬人。○十二月。段遼自密雲山遣使求迎於趙。既而中悔。復遣使求迎於燕。趙王虎遣征東將軍麻秋。帥衆三萬迎之。秋曰。受降如受敵。不可輕也。以尙書左丞陽裕。遼之故臣。使為秋司馬。燕王皝。自帥諸軍迎遼。遼密與燕謀。覆趙軍。皝遣慕容恪。伏精騎七千於密雲山。大敗麻秋於三藏口。死者什六七。秋步走得免。陽裕為燕所執。趙將軍范陽鮮于亮。失馬步緣山。不能進。因止端坐。燕兵環之。叱令起。亮曰。身是貴人。義不為小人所屈。汝曹能殺。亟殺。不能則去。亮儀觀豐偉。聲氣雄厲。燕兵憚之。不敢殺。以白皝。皝以馬迎之。與語大悅。用為左常侍。以崔苾之女妻之。皝盡得段遼之衆。待遼以上賓之禮。以陽裕為郎中令。趙王虎聞麻秋敗。怒削其官爵。

五年春正月辛丑大赦。○三月乙丑。廣州刺史鄧岳。將兵擊漢寧州。漢建寧太守孟彥。執其刺史霍彪以降。○征西將軍庾亮。欲開復中原。表桓宣為都督河北前鋒諸軍事。司州刺史。

鎮襄陽。又表其弟臨川太守懌為監梁雍二州諸軍事。梁州刺史。鎮魏興。西陽太守翼為南蠻校尉。領南郡太守。鎮江陵。皆假節。又請解豫州。以授征虜將軍毛寶。詔以寶監揚州之江西諸軍事。豫州刺史。與西陽太守樊峻。帥精兵萬人戍邾城。以建威將軍陶稱。為南中郎將。江夏相。入河中。稱將二百人。下見亮。亮素惡稱。輕狡。數稱前後罪惡。收而斬之。後以魏興險遠。命庾懌徙屯半洲。更以武昌太守陳暉為梁州刺史。趣漢中。遣參軍李松。攻漢巴郡。江陽。夏四月。執漢荊州刺史李閔。巴郡太守黃植。送建康。漢主壽。以李奕為鎮東將軍。代閔守巴郡。庾亮上疏言。蜀甚弱。而胡尚強。欲帥大衆十萬。移鎮石城。遣諸軍。羅布江河。為伐趙之規。帝下其議。丞相導。請許之。太尉鑿。議以為費用未備。不可大舉。太常蔡謨。議以為時有否泰。道有屈伸。苟不計強弱。而輕動。則亡不終日。何功之有。為今之計。莫若養威以俟。時之可。否。繫胡之彊弱。胡之彊弱。繫石虎之能否。自石勒舉事。虎常為爪牙。百戰百勝。遂定中原。所據之地。同於魏世。勒死之後。虎挾嗣君。誅將相。內難既平。剪削外寇。一舉而拔金墉。再戰而禽石生。誅石聰。如拾遺。取郭權。如振稿。四境之內。不失尺土。以是觀之。虎為能乎。將不能也。論者以胡前攻襄陽。不能拔。謂之無能。為夫百戰百勝之彊。而以不拔一城為劣。譬諸射者。百發百中。而一失。可以謂之拙乎。且石遇偏師也。桓平北。邊將也。所爭者。疆場之士。利則進。否則退。非所急也。今征西。以重鎮名賢。自將大軍。欲席卷河南。虎必自帥一國之衆。來決勝負。豈得以襄陽為比哉。今征西。欲與之戰。何如石生。若欲城守。何如金墉。欲阻河水。何如大江。欲拒石虎。何如蘇峻。凡此數者。宜詳校之。石生猛將。關中精兵。征西之戰。殆不能勝也。又當是時。洛陽關中。皆舉兵擊虎。今此三鎮。反為其用。方之於前。倍半之勢也。石生不能敵其半。而征西欲當其倍。愚所疑也。蘇峻之彊。不及石虎。河水之險。不及大江。大江不能禦蘇峻。而欲以河水禦石虎。又所疑也。昔祖士雅在譙。佃於城北界。胡來攻。豫置軍屯。以禦其外。穀

將熟。胡果至。丁夫戰於外。老弱穫於內。多持炬火。急則燒穀而走。如此數年。竟不得其利。當是時。胡唯據河北。方之於今。四分之一耳。士雅不能捍其一。而征西欲以禦其四。又所疑也。然此但論征西既至之後耳。尚未論道路之慮也。自河以西。水急岸高。魚貫沂流。首尾百里。若胡無宋襄之義。及我未陣而擊之。將若之何。今王士與胡。水陸異勢。便習不同。胡若送死。則敵之有餘。若奔江遠進。以我所短。擊彼所長。懼非廟勝之算。朝議多與謨同。乃詔亮。不聽移鎮。○燕前軍師慕容評。廣威將軍慕容容。折衝將軍慕容興。根。蕩寇將軍慕容與。涅。襲趙遼西。俘獲千餘家而去。趙鎮遠將軍石成。積弩將軍呼延晃。建威將軍張支等。追之。評等與戰。斬晃支首。○段遼謀反於燕。燕人殺遼及其黨與數十人。送遼首於趙。○五月。代王什翼犍會諸大人於參合陂。議都灑源川。其母王氏曰。吾自先世以來。以遷徙為業。今國家多難。若城郭而居。一旦寇來。無所避之。乃止。代人謂他國之民來附者。皆為烏桓。什翼犍分之為二部。各置大人以監之。弟孤監其北。子寔君監其南。什翼犍求昏於燕。燕王皝以其妹妻之。○秋七月。趙王虎。以太子宣為大單于。建天子旌旗。○庚申。始興文獻公王導薨。喪葬之禮。視漢博陸侯及安平獻王故事。參用天子之禮。導簡素寡欲。善因事就功。雖無口用之益。而歲計有餘。輔相三世。倉無儲穀。衣不重帛。初導與庾亮共薦丹楊尹何充於帝。請以為己副。且曰。臣死之日。願引充內侍。則社稷無虞矣。由是。加吏部尚書。及導薨。徵庾亮為丞相。揚州刺史。錄尚書事。亮固辭。辛酉。以充為護軍將軍。亮弟會稽內史水為中書監。揚州刺史。參錄尚書事。水既當重任。經綸時務。不捨晝夜。賓禮朝賢。升擢後進。由是朝野翕然稱之。以為賢相。初王導輔政。每從寬恕。水頗任威刑。丹楊尹殷融諫之。水曰。前相之賢。猶不堪其弘。況如吾者哉。范汪謂水曰。頃天文錯度。足下宜盡消禦之道。水曰。玄象豈吾所測。正當勤盡人事耳。又隱實戶口。料出無名萬餘人。以充軍實。水好為糾察。近於繁細。後益矯遠。復存寬縱。疎密自

由。律令無用矣。○八月。壬午。復改丞相為司徒。○南昌文成公鄒鑿。疾篤。以府事付長史劉遐。上疏乞骸骨。且曰。臣所統錯雜。率多北人。或逼遷徙。或是新附。百姓懷土。皆有歸本之心。臣宣國恩。示以好惡。處與田宅。漸得少安。聞臣疾篤。衆情駭動。若當北渡。必啓寇心。太常臣謨。平簡貞正。素望所歸。謂可以為都督徐州刺史。詔以蔡謨為太尉軍司。加待中。辛酉。鑿薨。即以謨為征北將軍。都督徐兗青三州諸軍事。徐州刺史。假節。時左衛將軍陳光請伐趙。詔遣光攻壽陽。謨上疏曰。壽陽城小而固。自壽陽至琅邪。城壁相望。一城見攻。衆城必救。又王師在路。五十餘日。前驅未至。聲息久聞。賊之郵驛。一日千里。河北之騎。足以來赴。夫以白起韓信項藉之勇。猶發梁焚舟。背水而陣。今欲停船水渚。引兵造城。前對堅敵。顧臨歸路。此兵法之所誡。若進攻未拔。胡騎卒至。懼桓子不知所為。而舟中之指可掬也。今光所將。皆殿中精兵。宜令所向。有征無戰。而頓之堅城之下。以國之爪士擊寇之下邑。得之則利薄。而不足損敵。失之則害重。而足以益寇。懼非策之長者也。乃止。○初。陶侃在武昌。議者以江北有邾城。宜分兵戍之。侃每不答。而言者不已。侃乃渡水獵。引將佐。語之曰。我所以設險而禦寇者。正以長江耳。邾城隔在江北。內無所倚。外接羣夷。夷中利深。晉人貪利。夷不堪命。必引虜入寇。此乃致禍之由。非以禦寇也。且吳時戍此城。用三萬兵。今縱有兵守。亦無益於江南。若羯虜有可乘之會。此又非所資也。及庾亮鎮武昌。卒使毛寶樊峻戍邾城。趙王虎惡之。以夔安為大都督。帥石鑿石閔李農張貉李菟等五將軍。兵五萬人。寇荆揚北鄙。二萬騎攻邾城。毛寶求救於庾亮。亮以城固。不時遣兵。九月。石閔敗晉兵於河陰。殺將軍蔡懷。夔安李農陷河。南朱保敗晉兵於白石。殺鄭豹等五將軍。張貉陷邾城。死者六千人。毛寶樊峻突圍出走。赴江溺死。夔安進據胡亭。寇江夏。義陽將軍黃冲。義陽太守鄭進。皆降於趙。安進圍石城。竟陵太守李陽拒戰。破之。斬首五千餘級。安乃退。遂掠漢東。擁七千餘戶。遷于幽冀。是時。庾亮猶

上疏欲遷鎮石城。聞邾城陷，乃止。上表陳謝，自貶三等。行安西將軍，有詔復位，以輔國將軍庾懌為豫州刺史，監宣城廬江歷陽安豐四郡諸軍事。假節鎮蕪湖。○趙王虎患貴戚豪恣，乃以殿中御史李巨為御史中丞，特加親任。中外肅然。虎曰：朕聞良臣如猛虎，高步曠野，而豺狼避路，信哉！虎以撫軍將軍李農為使持節，監遼西北平諸軍事，征東將軍，營州牧，鎮令支。農帥眾三萬，與征北大將軍張舉攻燕。凡城，燕王皝以榷盧城大悅，縮為禦難將軍，授兵一千，使守凡城。及趙兵至，將吏皆恐，欲奔城走。縮曰：受命禦寇，死生以之。且憑城堅守，一可敵百，敢有妄言惑眾者，斬。眾然後定。縮身先士卒，親冒矢石，舉等攻之，經旬不能克。乃退。虎以遼西迫近燕境，數遭攻襲，乃悉徙其民於冀州之南。○漢主壽疾病，羅恒解思明復議奉晉，壽不從。李演復上書言之，壽怒，殺演。壽常慕漢武，魏明之為人，恥聞父兄時事。上書者不得言先世政教，自以為勝之也。舍人杜襲作詩十篇，託言應璩，以諷諫。壽報曰：省詩知意，若今人所作，乃賢哲之語言。若古人所作，則死鬼之常辭耳。○燕王皝自以稱王，未受晉命，冬遣長史劉翔參軍鞠運來獻捷論，功且言權假之意，并請刻期大舉。共平中原。皝擊高句麗兵及新城，高句麗王乞盟乃還。又使其子恪霸擊宇文別部，霸年十三，勇冠三軍。○張駿立辟雍明堂，以行禮。十一月，以世子重華行涼州事。○十二月，丁丑，趙太保桃豹卒。○丙戌，以驃騎將軍琅邪王岳為侍中司徒。○漢李奕寇巴東，守將勞楊敗死。六年春正月，庚子朔，都亭文康侯庾亮薨。以護軍將軍錄尚書何充為中書令。庚戌，以南郡太守庾翼為都督江荆司雍梁益六州諸軍事，安西將軍，荊州刺史，假節代亮鎮武昌。時人疑翼年少，不能繼其兄翼，悉心為治，戎政嚴明，數年之間，公私充實。人皆稱其才。○辛亥，以左光祿大夫陸玩為侍中司空。○宇文逸豆歸忌慕容翰才名，翰乃陽狂酣飲，或臥自便利，或被髮歌呼，拜跪乞食。宇文舉國賤之，不復省錄，以故得行來自遂。山川形便，皆默記之。

燕王皝以翰初非叛亂，以猜嫌出奔，雖在他國，常潛為燕計。乃遣商人王車通市於宇文部，以窺翰。翰見車無言，撫膺領之而已。皝曰：翰欲來也。復使車迎之。翰彎弓三石餘，矢尤長大。皝為之造可手弓矢，使車埋於道旁，而密告之。二月，翰竊逸豆歸名馬，携其二子，過取弓矢，逃歸。逸豆歸使驍騎百餘追之。翰曰：吾久客思歸，既得上馬，無復還理。吾曷日陽愚以誑汝，吾之故藝猶在，無為相逼，自取死也。追騎輕之，直突而前。翰曰：吾居汝國久，恨恨不欲殺汝，汝去我百步，立汝刀，吾射之。一發中者，汝可還，不中者，可來前。追騎解刀立之一發，正中其環，追騎散走。皝聞翰至，大喜，恩遇甚厚。○庚辰，有星孛于太微。○三月，丁卯，大赦。○漢人攻拔丹川，守將孟彥、劉齊、李秋皆死。○代王什翼犍始都雲中之盛樂宮。○趙王虎遣漢主壽書，欲與之連兵入寇，約中分江南。壽大喜，遣散騎常侍王嘏、中常侍王廣使于趙。翼壯諫不聽。壽大修舟艦，繕兵聚糧。秋九月，以尚書令馬當為六軍都督，徵集士卒七萬餘人，為舟師。大閱於成都，鼓譟盈江。壽登城觀之，有吞噬江南之志。解思明諫曰：我國小兵弱，吳會險遠，圖之未易。壽乃命羣臣大議利害。翼壯曰：陛下與胡通，孰若與晉通。胡豺狼也，既滅晉，不得不北面事之。若與之爭天下，則疆弱不敵，危亡之勢也。虞號之事，已然之戒。願陛下熟慮之。羣臣皆以壯言為然，叩頭泣諫。壽乃止。士卒咸稱萬歲。翼壯以為人之行，莫大於忠孝。既報父叔之仇，又欲使壽事晉，壽不從。乃詐稱耳聾，手不制物，辭歸。以文籍自娛，終身不復至成都。○趙尚書令夔安卒。○趙王虎命司冀青徐幽并雍七州之民，五丁取三，四丁取二。合鄴城舊兵，滿五十萬，具船萬艘，自河通海。運穀千一，百萬斛于樂安城。徙遼西北平漁陽萬餘戶於兗豫雍洛四州之地。自幽州以東至白狼，大興屯田，悉括取民馬，有敢私匿者，腰斬。凡得四萬餘匹。大閱於宛陽，欲以擊燕。燕王皝謂諸將曰：石虎自以樂安城防守重複，薊城南，必不設備。今若詭路出其不意，可盡破也。冬十月，皝帥諸軍入自嶧嶮，襲趙戍將，當道者皆禽之。直

抵薊城。趙幽州刺史石光擁兵數萬，閉城不敢出。燕進破武遂、津，入高陽，所至焚燒積聚，略三萬餘家而去。石光坐懦弱徵還。○趙王虎以秦公綽為太尉，與太子宣送日省，可尚書奏事。專決賞刑，不復啓白。司徒申鍾諫曰：「賞刑者，人君之大柄，不可以假人。所以防微杜漸，消逆亂於未然也。太子職在視膳，不當豫政。庶人遂以豫政致敗，覆車未遠也。且二政分權，鮮不階禍。愛之不以道，適所以害之也。虎不聽。中謁者令申扁以慧悟辯給，有寵於虎，宣亦昵之。使典機密，虎既不省事，而宣輒皆好酣飲，由是除拜生殺皆決於扁。自九卿已下，率皆望塵而拜。太子詹事孫珍病，求方於侍中崔約。約戲之曰：「溺中則愈。」珍曰：「目何可溺？」約曰：「卿目腕腕，正耐溺中。」珍恨之，以白宣。宣於兄弟中最胡狀，目深，聞之，怒，誅約父子。於是公卿以下，畏珍側目。燕公斌督邊州，亦好畋獵，常懸管而入。征北將軍張賀度每裁諫之，斌怒，辱賀度。虎聞之，使主書禮儀持節監之，斌殺儀。又欲殺賀度，賀度嚴衛，馳白之。虎遣尚書張離帥騎追斌，鞭之三百，免官歸第，誅其親信十餘人。○張駿遣別駕馬詵入貢于趙，表辭塞傲。虎怒，欲斬詵。侍中石璞諫曰：「今國家所當先除者，遺晉也。河西僻陋，不足為意。今斬馬詵，必征張駿，則兵力分而為二，建康復延數年之命矣。乃止。璞苞之曾孫也。○初，漢將李閔為晉所獲，逃奔于趙。漢主壽致書於趙王虎，以請之。署曰：「趙王石君，虎不悅，付外議之。中書監王波曰：「今李閔以死自誓，苟得歸骨於蜀，當糾帥宗族，混同王化。若其信也，則不煩一旅。坐定梁益，若有前却，不過失一亡命之人於趙，何損？李壽既僭大號，今以制詔與之，彼必酬返。不若復為書與之，會挹婁國，獻楛矢石弩於趙。波因請以遺漢，曰：「使其知我能服遠方也。」虎從之，遣李閔歸，厚為之禮。閔至成都，壽下詔曰：「羯使來庭，貢其楛矢。虎聞之，怒，黜王波，以白衣領職。」

七年春正月，燕王皝使唐國內史陽裕等築城於柳城之北，龍山之西，立宗廟宮闕，命曰龍

城。○二月甲子朔，日有食之。○劉翔至建康，帝引見，問慕容鎮軍平安，對曰：「臣受遣之日，朝服拜章，翔為燕王，皝求大將軍，燕王章璽朝儀以為故事，大將軍不處邊，自漢魏以來，不封異姓為王，所求不可許。」翔曰：「自劉石構亂，長江以北，翦為戎藪，未聞中華公卿之胄有一人能攘臂揮戈，摧破凶逆者也。獨慕容鎮軍父子竭力，心存本朝，以寡擊衆，屢殄強敵，使石虎畏懼，悉徙邊陲之民，散居三魏，蹙國千里，以薊城為北境，功烈如此，而惜海北之地，不以為封邑，何哉？昔漢高祖不愛王爵於韓彭，故能成其帝業。項羽矜功，不忍授卒用危亡，吾之至心，非苟欲尊其所事，竊惜聖朝疎忠義之國，使四海無所勸慕耳。尚書諸葛恢，翔之姊夫也，獨主異議，以為夷狄相攻，中國之利，惟器與名，不可輕許。乃謂翔曰：「借使慕容鎮軍能除石虎，乃是復得一石虎也。朝廷何賴焉？」翔曰：「嫠婦猶知恤宗周之隕，今晉室阽危，君位俸元，凱會無憂國之心，邪嚮使靡，高之功不立，則少康何以祀夏，桓文之戰不捷，則周人皆為左袵矣。慕容鎮軍枕戈待旦，志殄兇逆，而君更唱邪惑之言，忌間忠臣，四海所以未壹。良由君輩耳。翔留建康歲餘，衆議終不決。翔乃說中常侍或弘曰：「石虎苞八州之地，帶甲百萬，志吞江漢，自索頭宇文暨諸小國，無不臣服。唯慕容鎮軍翼戴天子，精貫白日，而更不獲殊禮之命，竊恐天下移心解體，無復南向者矣。公孫淵無尺寸之益於吳，吳主封為燕王，加以九錫，今慕容鎮軍屢摧賊鋒，威震秦隴，虎比遣重使，甘言厚幣，欲授以曜威大將軍，遼西王，慕容鎮軍惡其非正，却而不受。今朝廷乃矜惜虛名，沮抑忠順，豈社稷之長計乎？後雖悔之，恐無及已。弘為之入言於帝，帝意亦欲許之。會皝上表稱庾氏兄弟擅權召亂，宜加斥退，以安社稷。又與庾水書責其當國秉權，不能為國雪恥，水甚懼，以其絕遠，非所能制，乃與何充奏從其請。乙卯，以慕容皝為使持節大將軍、都督河北諸軍事、幽州牧、大單于，燕王，備物典策皆從。殊禮。又以其世子雋為假節安北將軍，東夷校尉，左賢王，賜軍資器械，以千萬計。又封諸功

臣百餘人。以劉翔爲代郡太守。封臨泉鄉侯。加員外散騎常侍。翔固辭不受。翔疾。江南士大夫。以驕奢酣縱相尙。嘗因朝貴宴集。謂何充等曰。四海板蕩。奄踰三紀。宗社爲墟。黎民塗炭。斯乃廟堂焦慮之時。忠臣畢命之秋也。而諸君宴安江沱。肆情縱欲。以奢靡爲榮。以傲誕爲賢。譽諤之言不聞。征伐之功不立。將何以尊主濟民乎。充等甚慙。詔遣兼大鴻臚郭悌持節詣棘城。冊命燕王。與翔等偕北。公卿餞于江上。翔謂諸公曰。昔少康資一旅。以滅有窮。句踐憑會稽。以報彊吳。蔓草猶宜早除。況寇讐乎。今石虎李壽志相吞噬。王師縱未能澄清北方。且當從事巴蜀。一旦石虎先人舉事。併壽而有之。據形便之地。以臨東南。雖有智者不能善其後矣。中護軍謝廣曰。是吾心也。○三月。戊戌。皇后杜氏崩。夏。四月。丁卯。葬恭皇后于興平陵。○詔實王公以下。至庶人。皆正土斷白籍。○秋。七月。郭悌劉翔等至燕。燕王皝以翔爲東夷護軍。領大將軍長史。以唐國內史陽裕爲左司馬。典書令李洪爲右司馬。中丞鄭林爲軍諮祭酒。○八月。辛酉。東海哀王冲薨。○九月。代王什翼犍築盛樂城於故城南八里。○代王妃慕容氏卒。○冬。十月。匈奴劉虎寇代西部。代王什翼犍遣軍逆擊。大破之。虎卒。子務桓立。遣使求和於代。什翼犍以女妻之。務桓又朝貢於趙。趙以務桓爲平北將軍。左賢王。○趙橫海將軍王華帥舟師自海道襲燕安平。破之。○燕王皝以慕容恪爲渡遼將軍。鎮平郭。自慕容翰慕容仁之後。諸將無能繼者。及恪至平郭。撫舊懷新。屢破高句麗兵。高句麗畏之。不敢入境。○十二月。興平康伯陸玩薨。○漢主壽以其太子勢領大將軍。錄尚書事。初成主雄。以儉約寬惠得蜀人心。及李閔王昶還自鄴。盛稱鄴中繁庶。宮殿壯麗。且言趙王虎以刑殺御下。故能控制境內。壽慕之。徙旁郡民三丁以上者。以實成都。大修宮室。治器玩。人有小過輒殺。以立威。左僕射蔡興。右僕射李嶷。皆坐直諫死。民疲於賦役。吁嗟滿道。思亂者衆矣。

資治通鑑卷第九十六

資治通鑑卷第九十七

晉紀十九

顯宗成皇帝下

咸康八年春正月己未朔日有食之。○乙丑大赦。○豫州刺史庾懌以酒餉江州刺史王允之。允之覺其毒飲犬犬斃。密奏之。帝曰。大舅已亂天下。小舅復欲爾邪。二月。懌飲鴆而卒。○三月初以武悼后配食武帝廟。○庾翼在武昌。數有妖怪。欲移鎮樂鄉。征虜長史王述與庾冰牋曰。樂鄉去武昌千有餘里。數萬之衆。一旦移徙。興立城壁。公私勞擾。又江州當沂流數千里。供給軍府力役增倍。且武昌實江東鎮戍之中。非但扞禦上流而已。緩急赴告。駁奔不難。若移樂鄉。遠在西陲。一朝江渚有虞。不相接救。方岳重將。固當居要害之地。爲內外形勢。使闕闕之心。不知所向。昔秦忌亡胡之讖。卒爲劉項之資。周惡壓弧之謠。而成褒姒之亂。是以達人君子。直道而行。禳避之道。皆所不取。正當擇人事之勝理。思社稷之長計耳。朝議亦以爲然。翼乃止。○夏五月乙卯。帝不豫。六月庚寅。疾篤。或詐爲尚書符。敕宮門。無得內宰相。衆皆失色。庾冰曰。此必詐也。推問果然。帝二子丕奕。皆在襁褓。庾冰自以兄弟秉權日久。恐易世之後。親屬愈疎。爲它人所間。每說帝以國有彊敵。宜立長君。請以母弟琅邪王岳爲嗣。帝許之。中書令何充曰。父子相傳。先王舊典。易之者。鮮不致亂。故武王不授聖弟。非不愛也。今琅邪踐阼。將如孺子。何冰不聽。下詔以岳爲嗣。并以奕繼琅邪哀王。壬辰。冰充及武陵王晞。會稽王昱。尚書令諸葛恢。並受顧命。癸巳。帝崩。帝幼冲嗣位。不親庶政。及長。頗有勤儉之

德。○甲午。琅邪王卽皇帝位。大赦。○己亥。封成帝子丕爲琅邪王。奕爲東海王。○康帝亮陰不言。委政於庾冰。冰何充。秋七月丙辰。葬成帝于興平陵。帝徒行送喪。至閭闔門。乃升素輿。至陵所。既葬。帝臨軒。冰何充侍坐。帝曰。朕嗣鴻業。二君之力也。充曰。陛下龍飛。臣冰之力也。若如臣議。不親升平之世。帝有慙色。己未。以充爲驃騎將軍。都督徐州。揚州之晉陵諸軍事。領徐州刺史。鎮京口。避諸庾也。○冬十月。燕王皝遷都龍城。赦其境內。建威將軍翰言於皝曰。宇文彊盛日久。屢爲國患。今逸豆歸篡竊得國。羣情不附。加之性識庸闇。將帥非才。國無防衛。軍無部伍。臣久在其國。悉其地形。雖遠附彊。羯聲執不接。無益救援。今若擊之。百舉百克。然高句麗去國密邇。常有闕關之志。彼知宇文既亡。禍將及己。必乘虛深入。掩吾不備。若少留兵。則不足以守。多留兵。則不足以行。此心腹之患也。宜先除之。觀其執力。一舉可克。宇文自守之虜。必不能遠來爭利。既取高句麗。還取宇文。如返手耳。二國既平。利盡東海。國富兵彊。無返顧之憂。然後中原可圖也。皝曰。善。將擊高句麗。高句麗有二道。其北道平闊。南道險狹。衆欲從北道。翰曰。虜以常情料之。必謂大軍從北道。當重北而輕南。王宜帥銳兵。從南道擊之。出其不意。丸都不足取也。別遣偏師。縱北道。縱有蹉跌。其腹心已潰。四支無能爲也。皝從之。十一月。皝自將勁兵四萬。出南道。以慕容翰慕容霸爲前鋒。別遣長史王寓等將兵萬五千。出北道。以伐高句麗。高句麗王釗果遣弟武帥精兵五萬。拒北道。自帥羸兵以備南道。慕容翰等先至。與釗合戰。皝以大衆繼之。左常侍鮮于亮曰。臣以俘虜。蒙王國士之恩。不可不報。今日。臣死日也。獨與數騎先犯高句麗陳所嚮摧陷。高句麗陳動。大衆因而乘之。高句麗兵大敗。左長史韓壽斬高句麗將阿佛和度。加諸軍乘勝追之。遂入丸都。釗單騎走。輕車將軍慕輿濕追獲其母周氏及妻而還。會王寓等戰於北道。皆敗沒。由是。皝不復窮追。遣使招釗。釗不出。皝將還韓壽曰。高句麗之地。不可戍守。今其主亡。民散。潛伏山谷。大軍既

去。必復鳩聚。收其餘燼。猶足爲患。請載其父尸。因其生母而歸。俟其束身自歸。然後返之。撫以恩信。策之上也。皝從之。發釗父乙弗利墓。載其尸。收其府庫累世之寶。虜男女五萬餘口。燒其宮室。毀丸都城而還。○十二月壬子。立妃褚氏爲皇后。徵豫章太守褚裒爲侍中。尙書哀自以后父。不願居中任事。苦求外出。乃除建威將軍。江州刺史。鎮牛洲。○趙王虎作臺觀四十餘所於鄴。又營洛陽長安二宮。作者四十餘萬人。又欲自鄴起閣道。至襄國。敕河南四州治南伐之備。并朔秦雍。嚴西討之資。青冀幽州。爲東征之計。皆三五發卒。諸州軍造甲者五十餘萬人。船夫十七萬人。爲水所沒。虎狼所食者三分居一。加之公侯牧宰。競營私利。百姓失業。愁困。貝丘人李弘。因衆心之怨。自言姓名應讖。連結黨與。署置百寮。事發。誅之。連坐者數千家。虎畋獵無度。晨出夜歸。又多微行。躬察作役。侍中京兆韋謏諫曰。陛下忽天下之重。輕行斤斧之間。猝有狂夫之變。雖有智勇。將安所施。又興役無時。廢民耘穫。吁嗟盈路。殆非仁聖之所忍爲也。虎賜謏穀帛。而與膳滋繁。游察自若。秦公綽有寵於虎。太子宣惡之。右僕射張離。領五兵尙書。欲求媚於宣。說之曰。今諸侯吏兵過限。宜漸裁省。以壯本根。宣使離爲奏。秦燕義陽樂平四公。聽置吏一百九十七人。帳下兵二百人。自是以下三分置一。餘兵五萬。悉配東宮。於是諸公咸怨。嫌釁益深矣。青州上言。濟南平陵城北石虎。一夕移於城東。南有狼狐千餘。迹隨之。迹皆成蹊。虎喜曰。石虎者朕也。自西北徙而東南者。天意欲使朕平蕩江南也。其敕諸州兵。明年悉集。朕當親董六師。以奉天命。羣臣皆賀。上皇德頌者一百七人。制征士五人。出車一乘。牛二頭。米十五斛。絹十匹。調不辨者。斬。民至鬻子。以供軍須。猶不能給。自經於道樹者相望。

康皇帝

晉紀 顯宗成皇帝下咸康八年

建元元年春二月高句麗王釗遣其弟稱臣入朝於燕貢珍異以千數燕王皝乃還其父尸猶留其母爲質○宇文逸豆歸遣其相莫淺渾將兵擊燕諸將爭欲擊之燕王皝不許莫淺渾以爲孰畏之酣飲縱獵不復設備孰使慕容翰出擊之莫淺渾大敗僅以身免盡俘其衆○庾翼爲人忱慨喜功名不尙浮華琅邪內史桓溫葬之子也尙南康公主豪爽有風槩翼與之友善相期以寧濟海內翼嘗薦溫於成帝曰桓溫有英雄之才願陛下勿以常人遇之常培畜之宜委以方邵之任必有弘濟艱難之勳時杜乂殷浩竝才名冠世翼獨弗之重也曰此輩宜束之高閣俟天下太平然後徐議其任耳浩累辭徵辟屏居墓所幾將十年時人擬之管葛江夏相謝尚長山令王濛常伺其出處以下江左興亡嘗相與省之知浩有確然之志既返相謂曰深源不起當如蒼生何尚鯤之子也翼請浩爲司馬詔除待中安西軍司浩不應翼遣浩書曰王夷甫立名非真雖云談道實長華競明德君子遇會處際寧可然乎浩猶不起殷羨爲長沙相在郡貪殘庾水與翼書屬之翼報曰殷君驕豪亦似由有佳兒弟故小令物情容之大較江東之政以嫗煦豪彊常爲民蠹時有行法輒施之寒劣如往年偷石頭倉米一百萬斛皆是豪將輩而直殺倉督監以塞責山遐爲徐姚長爲官出豪彊所藏二千戶而衆共驅之令遐不得安席雖皆前宰之悞謬江東事去實此之由兄弟不幸橫陷此中自不能拔足於風塵之外當共明目而治之荊州所統二十餘郡唯長沙最惡惡而不黜與殺督監者復何異邪遐簡之子也翼以滅胡取蜀爲己任遣使東約燕王皝西約張駿刻期大舉朝議多以爲難唯庾水意與之同而桓溫譙王無忌皆贊成之無忌承之子也秋七月趙汝南太守戴開帥數千人詣翼降丁巳下詔議經略中原翼欲悉所部之衆北伐表桓宣爲都督司雍梁三州荊州之四郡諸軍事梁州刺史前趣丹水桓溫爲前鋒小督假節帥衆入臨淮竝發所統六州奴及車牛驢馬百姓嗟怨○代王什翼犍復求婚於燕燕王皝使納馬千匹

爲禮什翼犍不與又倨慢無子婿禮八月孰遣世子備帥前軍師評等擊代什翼犍帥衆避去燕人無所見而還○漢主壽卒諡曰昭文廟號中宗太子勢卽位大赦○趙太子宣擊鮮卑斛穀提大破之斬首三萬級○宇文逸豆歸執段遼弟蘭送於趙并獻駿馬萬匹趙王虎命蘭帥所從鮮卑五千人屯令支○庾翼欲移鎮襄陽恐朝廷不許乃奏云移鎮安陸帝及朝士皆遣使譬止翼遂違詔北行至夏口復上表請鎮襄陽翼時有衆四萬詔加翼都督征討諸軍事先是車騎將軍揚州刺史庾水屢求出外辛巳以水都督荆江寧益梁交廣七州豫州之四郡諸軍事領江州刺史假節鎮武昌以爲翼繼援徵徐州刺史何充爲都督揚州徐州之琅邪諸軍事領揚州刺史錄尚書事輔政以琅邪內史桓溫爲都督青徐兗三州諸軍事徐州刺史徵江州刺史褚裒爲衛將軍領中書令○冬十一月己巳大赦二年春正月趙王虎享羣臣於太武殿有白鴈百餘集馬道之南虎命射之皆不獲時諸州兵集者百餘萬太史令趙攬密言於虎曰白鴈集庭宮室將空之象不宜南行虎信之乃臨宣武觀大閱而罷○漢主勢改元太和尊母閭氏爲皇太后立妻李氏爲皇后○燕王皝與左司馬高詡謀伐宇文逸豆歸詡曰宇文彊盛今不取必爲國患伐之必克然不利於將出而告人曰吾往必不返然忠臣不避也於是孰自將伐逸豆歸以慕容翰爲前鋒將軍劉佩副之分命慕容軍慕容恪慕容霸及折衝將軍慕輿根將兵三道竝進高詡將發不見其妻使人語以家事而行逸豆歸遣南羅大涉夜干將精兵逆戰孰遣人馳謂慕容翰曰涉夜干勇冠三軍宜小避之翰曰逸豆歸掃其國內精兵以屬涉夜干涉夜干素有勇名一國所賴也今我克之其國不攻自潰矣且吾孰知涉夜干之爲人雖有虛名實易與耳不宜避之以挫吾兵氣遂進戰翰自出衝陳涉夜干出應之慕容霸從傍邀擊遂斬涉夜干宇文士卒見涉夜干死不戰而潰燕軍乘勝逐之遂克其都城逸豆歸走死漠北宇文氏由是散亡孰悉

收其畜產資貨。徙其部衆五千餘落於昌黎。闢地千餘里。更命涉夜干所居城曰威德城。使弟彪戍之。而還。高詡劉佩皆中流矢卒。詡善天文。詡嘗謂曰。卿有佳書。而不見與。何以爲忠。蓋詡曰。臣聞人君執要。人臣執職。執要者逸。執職者勞。是以後稷播種。堯不預焉。占候天文。晨夜甚苦。非至尊之所宜親。殿下將焉用之。詡默然。初逸豆歸。事趙甚謹。貢獻屬路。及燕人伐逸豆歸。趙王虎使右將軍白勝并州刺史王霸自甘松出救之。比至。宇文氏已亡。因攻威德城。不克而還。慕容彪追擊破之。慕容翰之與宇文氏戰也。爲流矢所中。臥病。積時不出。後漸差於其家。試騁馬。或告翰稱病。而私習騎乘。疑欲爲變。燕王詡雖藉翰勇略。然中心終忌之。乃賜翰死。翰曰。吾負罪出奔。既而復還。今日死已晚矣。然羯賊跨據中原。吾不自量。欲爲國家蕩壹區夏。此志不遂。沒有遺恨。命矣夫。飲藥而卒。○代王什翼犍遣其大人長孫秩迎婦於燕。○夏四月。涼州將張瓘敗趙將王擢于三交城。○初。趙領軍王朗言於趙王虎曰。盛冬雪寒。而皇太子使人伐宮材。引於漳水。役者數萬。吁嗟滿道。陛下宜因出游罷之。虎從之。太子宣怒。會熒惑守房。宣使太史令趙攬言於虎曰。房爲天王。今熒惑守之。其殃不細。宜以貴臣王姓者當之。虎曰。誰可者。攬曰。無貴於王領軍。虎意惜朗。使攬更言。其次攬無以對。因曰。其次唯中書監王波耳。虎乃下詔。追罪波前議。稽矢事。腰斬之。及其四子。投尸漳水。既而愍其無罪。追贈司空。封其孫爲侯。○趙平北將軍尹農攻燕凡城。不克而還。○漢太史令韓皓。上言熒惑守心。乃宗廟不修之譴。漢主勢命羣臣議之。相國董皎侍中王叡以爲景武創業。獻文承基。至親不遠。無宜疎絕。乃更命祀成始祖太宗。皆謂之漢。○征西將軍庾翼使梁州刺史桓宣擊趙將李熙於丹水。爲熙所敗。翼貶宣爲建威將軍。宣慙憤成疾。秋八月庚辰。卒。翼以長子方之爲義城太守。代領宣衆。又以司馬應誕爲襄陽太守。參軍司馬勳爲梁州刺史。戍西城。○中書令褚哀固辭樞要。閏月丁巳。以哀爲左將軍。都督兖州徐州之琅邪諸

軍事。兖州刺史鎮金城。○帝疾篤。庾翼欲立會稽王昱爲嗣。中書監何充建議立皇子。聘帝從之。九月丙申。立聘爲皇太子。戊戌。帝崩于式乾殿。己亥。何充以遺旨奉太子卽位。大赦。由是水翼深恨充。尊皇后褚氏爲皇太后。時穆帝方二歲。太后臨朝稱制。何充加中書監。錄尚書事。充自陳。既錄尚書。不宜復監中書。許之。復加侍中。充以左將軍褚哀太后之父。宜綜朝政。上疏薦哀。參錄尚書。乃以哀爲侍中。衛將軍錄尚書事。持節督刺史如故。哀以近戚。懼獲譏嫌。上疏固請居藩。改授都督徐青三州揚州之二郡諸軍事。衛將軍徐兗二州刺史。鎮京口。尚書奏。哀見太后在公庭。則如臣禮。私覲則嚴父。從之。○冬十月乙丑。葬康帝于崇平陵。○江州刺史庾冰有疾。太后徵冰輔政。冰辭。十一月庚辰。卒。庾翼以家國情事。留子方之爲建武將軍。戍襄陽。方之年少。以參軍毛穆之爲建武司馬。以輔之。穆之。寶之子也。翼還鎮夏口。詔翼復督江州。又領豫州刺史。翼辭豫州。復欲移鎮樂鄉。詔不許。翼仍繕修軍器。大佃積穀。以圖後舉。○趙王虎作河橋於靈昌津。采石爲中濟。石下輒隨流。用功五百餘萬。而橋不成。虎怒。斬匠而罷。

孝宗穆皇帝上之上

永和元年春正月甲戌朔。皇太后設白紗帷於太極殿。抱帝臨軒。○趙義陽公鑒鎮關中。役煩賦重。文武有長髮者。輒拔爲冠纓。餘以給宮人。長史取髮。白趙王虎。虎徵鑒還鄴。以樂平公苞代鎮長安。發雍洛秦并州十六萬人治長安未央宮。虎好獵。晚歲體重。不能跨馬。乃造獵車千乘。刻期校獵。自靈昌津南至滎陽。東極陽都。爲獵場。使御史監察。其中禽獸有犯者。梟至大辟。民有美女佳牛馬。御史求之。不得。皆誣以犯獸。論死者百餘人。發諸州二十六萬人。修洛陽宮。發百姓牛二萬頭。配朔州牧官。增置女官二十四等。東宮十二等。公侯七十餘

國皆九等。大發民女三萬餘人。料為三等。以配之。太子諸公。私令采發者。又將萬人。郡縣務求美色。多強奪人妻。殺其夫。及夫自殺者。三千餘人。至鄴。虎臨軒簡第。以使者為能。封侯者十二人。荆楚揚徐之民。流叛略盡。守令坐不能綏懷。下獄誅者五十餘人。金紫光祿大夫逢明。因待切諫。虎大怒。使龍騰拉殺之。○燕王。號以牛假貧民。使佃苑中。稅其什之八。自有牛者。稅其七。記室參軍封裕。上書諫。以為古者什一而稅。天下之中正也。降及魏晉。仁政衰薄。假官田官牛者。不過稅其什六。自有牛者。中分之。猶不取其七八也。自永嘉以來。海內蕩析。武宣王。綏之以德。華夷之民。萬里輻湊。襁負而歸之者。若赤子之歸父母。是以戶口十倍於舊。無田者。什有三四。及殿下繼統。南摧彊趙。東兼高句麗。北取宇文。拓地三千里。增民十萬戶。是宜悉罷苑囿。以賦新民。無牛者。官賜之牛。不當更收重稅也。且以殿下之民。用殿下之牛。牛非殿下之有。將何在哉。如此。則戎旗南指之日。民誰不簞食壺漿。以迎王師。石虎誰與處矣。川瀆溝渠。有廢塞者。皆應通利。旱則灌溉。潦則疏泄。一夫不耕。或受之飢。況游食數萬。何以得家給人足乎。今官司猥多。虛費廩祿。苟才不周用。皆宜澄汰。工商末利。宜立常員。學生三年無成。徒塞英雋之路。皆當歸之於農。殿下聖德寬明。博察芻蕘。參軍王憲。大夫劉明。竝以言事忤旨。主者處以大辟。殿下雖恕其死。猶免官禁錮。夫求諫諍。而罪直言。是猶適越而北行。必不獲其所志矣。右長史宋該等。阿媚苟容。輕劾諫士。已無骨鯁。嫉人有之。掩蔽耳目。不忠之甚者也。號乃下令。稱覽封記室之諫。孤實懼焉。國以民為本。民以穀為命。可悉罷苑囿。以給民之無田者。實貧者。官與之牛。力有餘。願得官牛者。竝依魏晉舊法。講瀆各有益者。令以時修治。今戎事方興。勳伐既多。官未可減。俟中原平壹。徐更議之。工商學生。皆當裁擇。夫人臣。關言于主。至難也。雖有狂妄。當擇其善者而從之。王憲劉明。雖罪應廢黜。亦由孤之無大量也。可悉復本官。仍居諫司。封生塞塞。深得王臣之體。其賜錢五萬。宣示內外。有

欲陳孤過者。不拘貴賤。勿有所諱。號雅好文學。常親臨庠序。講授考校。學徒至千餘人。頗有妄濫者。故封裕及之。○詔徵衛將軍褚裒。欲以為揚州刺史。錄尚書事。吏部尚書劉遐。長史王胡之。說裒曰。會稽王。令德雅望。國之周公也。足下宜以大政授之。裒乃固辭歸藩。壬戌。以會稽王昱為撫軍大將軍。錄尚書六條事。昱清虛寡欲。尤善玄言。常以劉惔王濛及潁川韓伯為談客。又辟郗超為撫軍掾。謝萬為從事中郎。超。鑿之孫也。少卓犖不羈。父愔簡默。沖退而畜於財。積錢至數千萬。嘗開庫。任超所取。超散施親故。一日都盡。萬安之弟也。清曠秀邁。亦有時名。○燕有黑龍。白龍。見于龍山。交首遊戲。解角而去。燕王號親祀以太牢。赦其境內。命所居新宮曰和龍。○都亭肅侯庾翼。疽發于背。表子爰之。行輔國將軍。荊州刺史。委以後任。司馬義陽朱焘。為南蠻校尉。以千人守巴陵。秋七月。庚午。卒。翼部將于瓚等。作亂。殺冠軍將軍曹據。朱焘與安西長史江彪。建武司馬毛穆之。將軍袁真。共誅之。彪。統之子也。○八月。豫州刺史路永。叛奔趙。趙王虎。使永屯壽春。○庾翼既卒。朝議皆以諸庾。世在西藩。人情所安。宜依翼所請。以庾爰之。代其任。何充曰。荆楚國之西門。戶口百萬。北帶彊胡。西鄰勁蜀。地勢險阻。周旋萬里。得人。則中原可定。失人。則社稷可憂。陸抗所謂。存則吳存。亡則吳亡者也。豈可以白面少年當之哉。桓溫。英略過人。有文武器幹。西夏之任。無出溫者。議者又曰。庾爰之。肯避溫乎。如令阻兵。恥懼不淺。充曰。溫足以制之。諸君勿憂。丹陽尹劉惔。每奇溫才。然知其有不臣之志。謂會稽王昱曰。溫不可使居形勝之地。其位號。常宜抑之。勸昱自鎮上流。以己為軍司。昱不聽。又請自行。亦不聽。庚辰。以徐州刺史桓溫為安西將軍。持節都督荆司雍益梁寧六州諸軍事。領護南蠻校尉。荊州刺史。爰之。果不敢爭。又以劉惔監河。中諸軍事。領義成太守。代庾方之。徙方之。爰之于豫章。桓溫嘗乘雪欲獵。先過劉惔。惔見其裝束甚嚴。謂之曰。老賊。欲持此何為。溫笑曰。我不為此。卿安得坐談乎。○漢主勢之弟大將軍廣。以勢無子。求

爲太弟。勢不許。馬當解思明。諫曰：陛下兄弟不多，若復有所廢，將益孤危。固請許之。勢疑其與廣有謀，收當思明，斬之。夷其三族，遣太保李奕、襲廣於涪城，貶廣爲臨邛侯。廣自殺。思明被收，歎曰：國之不亡，以我數人在也。今其殆矣。言笑自若而死。思明有智略，敢諫諍。馬當素得人心，及其死，士民無不哀之。○冬十月，燕王皝使慕容恪攻高句麗，拔南蘇，置戍而還。○十二月，張駿伐焉耆，降之。是歲，駿分武威等十一郡爲涼州，以世子重華爲刺史，分興晉等八郡爲河州，以寧戎校尉張瓘爲刺史，分燉煌等三郡及西域都護三營爲沙州，以西胡校尉楊宣爲刺史。駿自稱大都督、大將軍，假涼王，督攝三州，始置祭酒、郎中、大夫、舍人。謁者等官，官號皆倣天朝，而微變其名。車服旌旗，擬於王者。○趙王虎以冠軍將軍姚弋仲爲持節、十郡六夷大都督、冠軍大將軍。弋仲清儉，鯁直，不治威儀，言無畏避，虎甚重之。朝之大議，每與參決。公卿皆憚而下之。武城左尉虎寵姬之弟也，嘗入弋仲營，侵擾其部衆，弋仲執而數之曰：爾爲禁尉，迫脅小民，我爲大臣，目所親見，不可縱也。命左右斬之。尉叩頭流血。左右固諫，乃止。○燕王皝以爲古者諸侯，卽位各稱元年，於是始不用晉年號。自稱十二年。○趙王虎使征東將軍鄧恒將兵數萬屯樂安，治攻具，爲取燕之計。燕王皝以慕容霸爲平狄將軍，戍徒河，恒畏之，不敢犯。

二年春正月丙寅，大赦。○己卯，都鄉文穆公何充卒。充有器局，臨朝正色，以社稷爲己任，所選用皆以功效，不私親舊。○初，夫餘居于鹿山，爲百濟所侵，部落衰散。西徙近燕，而不設備。燕王皝遣世子儁帥慕容軍慕容恪、慕容興、根三將軍，萬七千騎，襲夫餘，儁居中，指授軍事。皆以任恪，遂拔夫餘，虜其王玄及部落五萬餘口而還。皝以玄爲鎮軍將軍，妻以女。○二月癸丑，以左光祿大夫蔡謨領司徒，與會稽王昱同輔政。○褚哀薦前光祿大夫顧和，前司徒左長史殷浩。三月丙子，以和爲尚書令。浩爲建武將軍，揚州刺史，和有母喪，固辭不起。謂所親

曰：古人有釋衰經，從王事者，以其才足幹時故也。如和者，止足以虧孝道，傷風俗耳。識者美之。浩亦固辭。會稽王昱與浩書曰：屬當厄運，危弊理極，足下沈識淹長，足以經濟。若復深存挹退，苟遂本懷，吾恐天下之事於此去矣。足下去就，卽時之廢興，則家國不異。足下宜深思之。浩乃就職。○夏四月己酉朔，日有食之。○五月丙戌，西平忠成公張駿薨，官屬上世子重華爲使持節、大都督、太尉，護羌校尉涼州牧，西平公。假涼王，赦其境內尊嫡母嚴氏爲太王太后，母馬氏爲王太后。○趙中黃門嚴生惡尚書朱軌，會久雨，生譖軌不修道路，又謗詆朝政。趙王虎囚之。蒲洪諫曰：陛下既有襄國鄴宮，又修長安洛陽宮殿，將以何用作獵車千乘，環數千里，以養禽獸，奪人妻女十餘萬口，以實後宮，聖明王之所爲，固若是乎。今又以道路不修，欲殺尚書，陛下德政不修，天降淫雨，七旬乃霽，霽方二日，雖有鬼兵百萬，亦未能去。道路之塗潦而況人乎。政刑如此，其如四海何。其如後代何。願止作徒，罷苑囿，出宮女，赦朱軌，以副衆望。虎雖不悅，亦不之罪。爲之罷長安洛陽作役，而竟誅朱軌。又立私論朝政之法，聽吏告其君，奴告其主，公卿以下朝覲，以目相顧，不敢復相過從談語。○趙將軍王擢擊張重華，襲武街，執護軍曹權，胡宣徙七千餘戶于雍州。涼州刺史麻秋將軍孫伏都攻金城，太守張冲請降。涼州震恐，重華悉發境內兵，使征南將軍裴恒將之以禦趙。恒壁於廣武，久而不戰。涼州司馬張耽言於重華曰：國之存亡在兵，兵之勝敗在將。今議者舉將多推宿舊，夫韓信之舉，非舊德也。蓋明主之舉，舉無常人才之所堪，則授以大事。今彊寇在境，諸將不進，人情危懼，主簿謝艾兼資文武，可用以禦趙。重華召艾，問以方略。艾願請兵七千人，必破趙。以報重華拜艾中堅將軍，給步騎五千，使擊秋。艾引兵出，振武夜有二梟鳴于牙中。艾曰：六博得梟者勝。今梟鳴牙中，克敵之兆也。進與趙戰，大破之，斬首五千級。重華封艾爲福祿伯。麻秋之克金城也，縣令敦煌車濟不降，伏劍而死。秋又攻大夏，護軍梁式執太守宋晏，以城

應秋。秋遣晏以書誘致宛成都尉敦煌宋矩。矩曰：為人臣，功既不成，唯有死節耳。先殺妻子，而後自刎。秋曰：皆義士也。收而葬之。○冬，漢太保李奔自晉壽舉兵反。蜀人多從之。衆至數萬。漢主勢登城拒戰。奔單騎突門，門者射而殺之。其衆皆潰。勢大赦境內，改元嘉寧。勢驕淫，不恤國事。多居禁中，罕接公卿。疎忌舊臣，信任左右。讒諂竝進，刑罰苛濫。由是中外離心。蜀土先無獠，至是始從山出。自巴西至犍爲，梓潼，布滿山谷，十餘萬落，不可禁制。大爲民患。加以饑饉，四境之內，遂至蕭條。○安西將軍桓溫將伐漢，將佐皆以爲不可。江夏相袁喬勸之曰：夫經略大事，固非常情所及。智者了於胸中，不必待衆言皆合也。今爲天下之患者，胡蜀二寇而已。蜀雖險固，比胡爲弱。將欲除之，宜先其易者。李勢無道，臣民不附。且恃其險遠，不修戰備，宜以精卒萬人，輕齎疾趨，比其覺之，我已出其險要，可一戰擒也。蜀地富饒，戶口繁庶，諸葛武侯用之，抗衡中夏。若得而有之，國家之大利也。論者恐大軍既西，胡必闕覲，此似是而非。胡聞我萬里遠征，以爲內有重備，必不敢動。縱有侵軼，緣江諸軍足以拒守，必無憂也。溫從之。喬，瓌之子也。十一月辛未，溫帥益州刺史周撫、南郡太守譙王無忌伐漢。拜表即行。委安西長史范汪以留事，加撫都督梁州之四郡諸軍事。使袁喬帥二千人爲前鋒。朝廷以蜀道險遠，溫衆少而深入，皆以爲憂。惟劉惔以爲必克。或問其故，惔曰：以博知之。溫善博者也，不必得則不爲，但恐克蜀之後，溫終專制朝廷耳。

三年春二月，桓溫軍至青衣。漢主勢大發兵，遣叔父右衛將軍福從兄鎮南將軍權、前將軍咎堅等將之。自山陽趣合水。諸將欲設伏於江南，以待晉兵。咎堅不從，引兵自江北鴛鴦碕渡。向犍爲。三月，溫至彭模。議者欲分爲兩軍，異道俱進，以分漢兵之救。袁喬曰：今懸軍深入萬里之外，勝則大功可立，不勝則類無遺。當合教齊力，以取一戰之捷。若分兩軍，則衆心不一，萬一偏敗，大事去矣。不如全軍而進，棄去釜餽，齎三日糧，以示無還心。勝可必也。溫從之。留參軍孫盛、周楚將羸兵守輜重。溫自將步卒直指成都。楚撫之子也。李福進攻彭模，孫盛等奮擊走之。溫進遇李權，三戰三捷。漢兵散走。歸成都。鎮軍將軍李位都迎詣溫降。咎堅至犍爲，乃知與溫異道。還自沙頭津濟。比至，溫已軍於成都之十里陌。堅衆自潰。勢悉衆出戰于成都之笮橋。溫前鋒不利，參軍龔護戰死。矢及溫馬首，衆懼欲退。而鼓吏誤鳴進鼓。袁喬拔劍督士卒力戰，遂大破之。溫乘勝長驅至成都，縱火燒其城門。漢人惶懼，無復鬪志。勢夜開東門，走至葭萌。使散騎常侍王幼送降文於溫。自稱略陽李勢，叩頭死罪，尋與觀面縛詣軍門。溫解縛焚榘，送勢及宗室十餘人於建康。引漢司空譙獻之等以爲參佐。舉賢旌善，蜀人悅之。○日南太守夏侯覽貪縱，侵刻胡商。又科調船材，云欲有所討。由是諸國恚憤。林邑王文攻陷日南，將士死者五六千。殺覽，以尸祭天。檄交州刺史朱蕃請以郡北橫山爲界。文既去，蕃使督護劉雄戍日南。○漢故尚書僕射王誓鎮東將軍鄧定，平南將軍王潤，將軍陳文等皆舉兵反。衆各萬餘。桓溫自擊定，使袁喬擊文。皆破之。溫命益州刺史周撫鎮彭模。斬王誓。王潤留成都三十日，振旅還江陵。李勢至建康，封歸義侯。夏四月丁巳，鄧定、陳文等入據成都。征虜將軍楊謙棄涪城，退保德陽。○趙涼州刺史麻秋攻枹罕。晉昌太守郎坦以城大難守，欲棄外城。武成太守張俊曰：棄外城，則動衆心。大事去矣。寧戎校尉張璩從俊言，固守大城。秋帥衆八萬圍璩數重，雲梯地突，百道皆進。城中禦之。秋衆死傷數萬。趙王虎復遣其將劉渾等帥步騎二萬會之。郎坦恨言不用，教軍士李嘉潛引趙兵千餘人登城。璩督諸將力戰，殺二百餘人。趙兵乃退。璩燒其攻具，秋退保大夏。虎以中書監石寧爲征西將軍。帥并州兵二萬餘人爲秋等後繼。張重華將宋秦等帥戶二萬降于趙。重華以謝艾爲使持節、軍師將軍。帥步騎三萬進軍臨河。艾乘輅車，戴白帽，鳴鼓而行。秋望見，怒曰：艾年少書生，冠服如此，輕我也。命黑稍龍驤三千人馳擊之。艾左右大擾，或勸艾宜乘馬。艾不從。下

之。留參軍孫盛、周楚將羸兵守輜重。溫自將步卒直指成都。楚撫之子也。李福進攻彭模，孫盛等奮擊走之。溫進遇李權，三戰三捷。漢兵散走。歸成都。鎮軍將軍李位都迎詣溫降。咎堅至犍爲，乃知與溫異道。還自沙頭津濟。比至，溫已軍於成都之十里陌。堅衆自潰。勢悉衆出戰于成都之笮橋。溫前鋒不利，參軍龔護戰死。矢及溫馬首，衆懼欲退。而鼓吏誤鳴進鼓。袁喬拔劍督士卒力戰，遂大破之。溫乘勝長驅至成都，縱火燒其城門。漢人惶懼，無復鬪志。勢夜開東門，走至葭萌。使散騎常侍王幼送降文於溫。自稱略陽李勢，叩頭死罪，尋與觀面縛詣軍門。溫解縛焚榘，送勢及宗室十餘人於建康。引漢司空譙獻之等以爲參佐。舉賢旌善，蜀人悅之。○日南太守夏侯覽貪縱，侵刻胡商。又科調船材，云欲有所討。由是諸國恚憤。林邑王文攻陷日南，將士死者五六千。殺覽，以尸祭天。檄交州刺史朱蕃請以郡北橫山爲界。文既去，蕃使督護劉雄戍日南。○漢故尚書僕射王誓鎮東將軍鄧定，平南將軍王潤，將軍陳文等皆舉兵反。衆各萬餘。桓溫自擊定，使袁喬擊文。皆破之。溫命益州刺史周撫鎮彭模。斬王誓。王潤留成都三十日，振旅還江陵。李勢至建康，封歸義侯。夏四月丁巳，鄧定、陳文等入據成都。征虜將軍楊謙棄涪城，退保德陽。○趙涼州刺史麻秋攻枹罕。晉昌太守郎坦以城大難守，欲棄外城。武成太守張俊曰：棄外城，則動衆心。大事去矣。寧戎校尉張璩從俊言，固守大城。秋帥衆八萬圍璩數重，雲梯地突，百道皆進。城中禦之。秋衆死傷數萬。趙王虎復遣其將劉渾等帥步騎二萬會之。郎坦恨言不用，教軍士李嘉潛引趙兵千餘人登城。璩督諸將力戰，殺二百餘人。趙兵乃退。璩燒其攻具，秋退保大夏。虎以中書監石寧爲征西將軍。帥并州兵二萬餘人爲秋等後繼。張重華將宋秦等帥戶二萬降于趙。重華以謝艾爲使持節、軍師將軍。帥步騎三萬進軍臨河。艾乘輅車，戴白帽，鳴鼓而行。秋望見，怒曰：艾年少書生，冠服如此，輕我也。命黑稍龍驤三千人馳擊之。艾左右大擾，或勸艾宜乘馬。艾不從。下

軍踞胡牀。指麾處分。趙人以為有伏兵。懼不敢進。別將張瑁自間道引兵。截趙軍後。趙軍退。艾乘勢進擊。大破之。斬其將杜勳。汲魚。獲首虜萬三千級。秋。單馬奔大夏。五月。秋。與石寧復帥眾十二萬。進屯河南。劉寧王擢略地晉興。廣武。武街。至于曲柳。張重華使將軍牛旋拒之。退守枹罕。姑臧。大震。重華欲親出拒之。謝艾固諫。別駕從事索遐曰。君者一國之鎮。不可輕動。乃以艾為使持節。都督征討諸軍事。行衛將軍。遐為軍正將軍。帥步騎二萬拒之。別將楊康敗劉寧于沙阜。寧退屯金城。○六月。辛酉。大赦。○秋。七月。林邑復陷。日南。殺督護劉雄。○隗文鄧定等立故國師范長生之子賁為帝。而奉之。以妖異惑眾。蜀人多歸之。○趙王虎復遣征西將軍孫伏都將軍劉渾帥步騎二萬會麻秋軍。長驅濟河。擊張重華。遂城長最。謝艾建牙營。衆有風。吹旌旗。東南指。索遐曰。風為號令。今旌旗指敵。天所贊也。艾軍于神鳥。王擢與艾前鋒戰。敗走還河南。八月。戊午。艾進擊秋。大破之。秋。遁歸金城。虎聞之。歎曰。吾以偏師定九州。今以九州之力。困於枹罕。彼有人焉。未可圖也。艾還討叛虜斯骨真等萬餘落。皆破平之。○趙王虎據十州之地。聚斂金帛。及外國所獻珍異。府庫財物。不可勝紀。猶自以為不足。悉發前代陵墓。取其金寶。沙門吳進言於虎曰。胡運將衰。晉當復興。宜苦役晉人。以厭其氣。虎使尚書張羣發近郡男女十六萬人。車十萬乘。運土築華林苑。及長牆于鄴北。廣袤數十里。申鍾石璞。趙攬等上疏陳天文錯亂。百姓彫弊。虎大怒曰。使苑牆朝成。吾夕沒。無恨矣。促張羣使然。燭夜作。暴風大雨。死者數萬人。郡國前後送蒼鱗十六。白鹿七。虎命司虞張曷杜調之。以駕芝蓋。大朝會。列於殿庭。九月。命太子宣出祈福于山川。因行遊獵。宣乘大輅。羽葆華蓋。建天子旌旗。十有六軍。戎卒十八萬。出自金門。虎從其後宮。升陵霄觀。望之。笑曰。我家父子如此。自非天崩地陷。當復何愁。但抱子弄孫。日為樂耳。宣所舍。輒列人為長圍。四面各百里。驅禽獸。至暮。皆集其所。使文武皆跪立。重行圍守。炬火如晝。命勁騎百餘。馳射其中。宣與姬

妾乘輦臨觀。獸盡而止。或獸有迸逸。當圍守者。有爵。則奪馬。步驅一日。無爵。則鞭之一百。士卒飢凍。死者萬有餘人。所過三州十五郡。資儲皆無子遺。虎復命韜繼出自并州。至于秦雍。亦如之。宣怒其與己鈞敵。愈嫉之。宦者趙生得幸于宣。無寵於韜。微勸宣除之。於是始有殺韜之謀矣。○趙麻秋又襲張重華將張瑁。敗之。斬首三千餘級。枹罕護軍李達帥眾七千。降于趙。自河以南。氐羌皆附於趙。○冬。十月。乙丑。遣侍御史俞歸至涼州。授張重華侍中。大都督。督隴右關中諸軍事。大將軍。涼州刺史。西平公。歸至姑臧。重華欲稱涼王。未肯受詔。使所親沈猛。私謂歸曰。主公奔世為晉忠臣。今曾不如鮮卑。何也。朝廷封慕容皝為燕王。而主公纔為大將軍。何以褒勸忠賢乎。明臺宜移河右。共勸州主為涼王。人臣出使。苟利社稷。專之可也。歸曰。吾子失言。昔三代之王也。爵之貴者。莫若上公。及周之衰。吳楚始僭號稱王。而諸侯不之非。蓋以蠻夷畜之也。借使齊魯稱王。諸侯豈不四面攻之乎。漢高祖封韓彭為王。尋皆誅滅。蓋權時之宜。非厚之也。聖上以貴公忠賢。故爵以上公。任以方伯。寵榮極矣。豈鮮卑夷狄所可比哉。且吾聞之功有大小。賞有重輕。今貴公始繼世而為王。若帥河右之眾。東平胡羯。修復陵廟。迎天子。返洛陽。將何以加之乎。重華乃止。○武都氐王楊初遣使來稱藩。詔以初為使持節征南將軍。雍州刺史。仇池公。○十二月。振威護軍蕭敬文殺征虜將軍楊謙。攻涪城。陷之。自稱益州牧。遂取巴西。通于漢中。

資治通鑑卷九十七

晉紀 孝宗穆皇帝上之上永和三年

資治通鑑卷第九十八

晉紀二十一

孝宗穆皇帝上之下

永和四年夏四月林邑寇九真殺士民什八九○趙秦公韜有寵於趙王虎欲立之以太子宣長猶豫未決宣嘗忤旨虎怒曰悔不立韜也韜由是益驕造堂於太尉府號曰宣光殿梁長九丈宣見之大怒斬匠截梁而去韜怒增之至十丈宣聞之謂所幸楊杯牟成趙生曰凶豎傲復敢爾汝能殺之吾入西宮當盡以韜之國邑分封汝等韜死主上必臨喪吾因行大事蔑不濟矣杯等許諾秋八月韜夜與僚屬宴於東明觀因宿於佛精舍宣使楊杯等緣欄猴梯而入殺韜置其刀箭而去旦日宣奏之虎哀驚氣絕久之方蘇將出臨其喪司空李農諫曰害秦公者未知何人賊在京師豈與不宜輕出虎乃止嚴兵發哀於太武殿宣往臨韜喪不哭直言呵呵使舉衾觀尸大笑而去收大將軍記室參軍鄭靖尹武等將委之以罪虎疑宣殺韜欲召之恐其不入乃詐言其母杜后哀過危憊宣不謂見疑入朝中宮因留之建興人史科知其謀告之虎使收楊杯牟成皆亡去獲趙生詰之具服虎悲怒彌甚囚宣於席庫以鐵環穿其頷而鐐之取殺韜刀箭舐其血哀號震動宮殿佛圖澄曰宣韜皆陛下之子今爲韜殺宣是重禍也陛下若加慈恕福祚猶長若必誅之宣當爲彗星下掃鄴宮虎不從積柴於鄴北樹標其上標末置鹿盧穿之以繩倚梯柴積送宣其下使韜所幸宦者郝稚劉霸拔其髮抽其舌牽之登梯郝稚以繩貫其頷鹿盧絞上劉霸斷其手足斫眼潰腸如韜之

傷四面縱火煙炎際天虎從昭儀已下數千人登中臺以觀之火滅取灰分置諸門交道中殺其妻子九人宣少子纔數歲虎素愛之抱之而泣欲赦之其大臣不聽就抱中取而殺之兒挽虎衣大叫至於絕帶虎因此發病又廢其后杜氏爲庶人誅其四率已下三百人宦者五十人皆車裂節解奔之漳水洿其東宮以養猪牛東宮衛士十餘萬人皆誦戍涼州先是趙攬言於虎曰宮中將有變宜備之及宣殺韜虎疑其知而不告亦誅之○朝廷論平蜀之功欲以豫章郡封桓溫尙書左丞荀藩曰溫若復平河洛將何以賞之乃加溫征西大將軍開府儀同三司封臨賀郡公加譙王無忌前將軍袁喬龍驤將軍封湘西伯蕤崧之子也溫既滅蜀威名大振朝廷憚之會稽王昱以揚州刺史殷浩有盛名朝野推服引爲心膂與參綜朝權欲以抗溫由是與溫寢相疑貳浩以征北長史荀羨前江州刺史王羲之夙有令名擢羨爲吳國內史羲之爲護軍將軍以爲羽翼羨蕤之弟羲之導之從子也羲之以爲內外協和然後國家可安勸浩不宜與溫構隙浩不從○燕王銑有疾召世子雋屬之曰今中原未平方資賢傑以經世務恪知勇兼濟才堪任重汝其委之以成吾志又曰陽士秋士行高潔忠幹貞固可託大事汝善待之九月丙申薨趙王虎議立太子太尉張舉曰燕公母賤又嘗有略彭城公遵有文德惟陛下所擇虎曰卿言正起吾意戎昭將軍張豺曰燕公母賤又嘗有過彭城公母前以太子事廢今立之臣恐不能無微恨陛下宜審思之初虎之拔上邳也張豺獲前趙主曜幼女安定公主有殊色納於虎虎嬖之生齊公世豹以虎老病欲立世爲嗣冀劉氏爲太后已得輔政乃說虎曰陛下再立太子其母皆出於倡賤故禍亂相尋今宜擇母貴子孝者立之虎曰卿勿言吾知太子處矣虎再與羣臣議於東堂虎曰吾欲以純灰三斛自滌其腸何爲專生惡子年踰二十輒欲殺父今世方十歲比其二十吾已老矣乃與張舉李農定議令公卿上書請立世爲太子大司農曹莫不肯署名虎使張豺問其故莫頓首

曰天下重器不宜立少故不敢署虎曰莫忠臣也然未達朕意張舉李農知朕意矣可令諭之遂立世爲太子以劉昭儀爲后○冬十一月甲辰葬燕文明王世子雋卽位赦境內遣使詣建康告喪以弟交爲左賢王左長史陽鶩爲郎中令○十二月以左光祿大夫領司徒錄尚書事蔡謨爲侍中司徒讓上疏固讓謂所親曰我若爲司徒將爲後代所哂義不敢拜也五年春正月辛未朔大赦○趙王虎卽皇帝位大赦改元大寧諸子皆進爵爲王故東宮高力等萬餘人謫戍涼州行達雍城既不在赦例又敕雍州刺史張茂送之茂皆奪其馬使之步推鹿車致糧戍所高力督定陽梁犢因衆心之怨謀作亂東歸衆聞之皆踊抃大呼犢乃自稱晉征東大將軍帥衆攻拔下辨安西將軍劉寧自安定擊之爲犢所敗高力皆多力善射一當十餘人雖無兵甲掠民斧施一丈柯攻戰若神所向崩潰戍卒皆隨之攻陷郡縣殺長吏二千石長驅而東比至長安衆已十萬樂平王苞盡銳拒之一戰而敗犢遂東出潼關進趣洛陽趙主虎以李農爲大都督行大將軍事統衛軍將軍張賀度等步騎十萬討之戰于新安農等大敗戰于洛陽又敗退壁成臯犢遂東掠滎陽陳留諸郡虎大懼以燕王斌爲大都督督中外諸軍事統冠軍大將軍姚弋仲車騎將軍蒲洪等討之弋仲將其衆八千餘人至鄴求見虎虎病未之見引入領軍省賜以己所御食弋仲怒不食曰主上召我來擊賊當面見授方略我豈爲食來邪且主上不見我我何以知其存亡邪虎力疾見之弋仲讓虎曰兒死愁邪何爲而病兒幼時不擇善人教之使至於爲逆既爲逆而誅之又何愁焉且汝久病所立兒幼汝若不愈天下必亂當先憂此勿憂賊也犢等窮困思歸相聚爲盜所過殘暴何所能至老羌爲汝一舉了之弋仲性狷直人無貴賤皆汝之虎亦不之責於坐授使持節征西大將軍賜以鎧馬弋仲曰汝看老羌堪破賊否乃被鎧跨馬于庭中因策馬南馳不辭而出遂與斌等擊犢於滎陽大破之斬犢首而還討其餘黨盡滅之虎命弋仲劔履上殿入

朝不趨進封西平郡公蒲洪爲車騎大將軍開府儀同三司都督雍秦州諸軍事雍州刺史進封略陽郡公○始平人馬勗聚兵自稱將軍趙樂平王苞討滅之誅三千餘家○夏四月益州刺史周撫龍驤將軍朱壽擊范賁斬之益州平○詔遣謁者陳沈如燕拜慕容雋爲使持節侍中大都督督河北諸軍事幽平二州牧大將軍大單于燕王○桓溫遣督護滕駿帥交廣之兵擊林邑王文於盧容爲文所敗退屯九真○乙卯趙主虎病甚以彭城王遵爲大將軍鎮關右燕王斌爲丞相錄尚書事張豺爲鎮衛大將軍領軍將軍吏部尚書並受遺詔輔政劉后惡斌輔政恐不利於太子與張豺謀去之斌時在襄國遣使詐謂斌曰主上疾已漸愈王須獵者可少停也斌素好獵嗜酒遂留獵且縱酒劉氏與豺因矯詔稱斌無忠孝之心免官歸第使豺弟雄帥龍騰五百人守之乙丑遵自幽州至鄴敕朝堂受拜配禁兵三萬遣之遵涕泣而去是日虎疾小瘳問遵至未左右對曰去已久矣虎曰恨不見之虎臨西閣龍騰中郎二百餘人列拜於前虎問何求皆曰聖體不安宜令燕王入宿衛典兵馬或言乞以爲皇太子虎曰燕王不在內邪召以左右言王酒病不能入虎曰促持輦迎之當付璽綬亦竟無行者尋昏眩而入張豺使張雄矯詔殺斌戊辰劉氏復矯詔以豺爲太保都督中外諸軍錄尚書事如霍光故事侍中徐統歎曰亂將作矣吾無爲預之仰藥而死己巳虎卒太子世卽位尊劉氏爲皇太后劉氏臨朝稱制以張豺爲丞相豺辭不受請以彭城王遵義陽王鑒爲左右丞相以慰其心劉氏從之豺與太尉張舉謀誅司空李農舉素與農善密告之農奔廣宗帥乞活數萬家保上白劉氏使張舉統宿衛諸軍圍之豺以張離爲鎮軍大將軍監中外諸軍事以爲己副彭城王遵至河內聞喪姚弋仲蒲洪劉寧及征虜將軍石閔武衛將軍王鸞等討梁犢還遇遵於李城共說遵曰殿下長且賢先帝亦有意以殿下爲嗣正以末年悖惑爲張豺所誤今女主臨朝奸臣用事上白相持未下京師宿衛空虛殿下若聲

張豺之罪。鼓行而討之。其誰不開門倒戈而迎殿下者。遵從之。遵自李城舉兵。還趣鄴。洛州刺史劉國帥洛陽之衆。往會之。檄至鄴。張豺大懼。馳召上白之軍。丙戌。遵軍于蕩陰。戎卒九萬。石閔爲前鋒。耆舊羯士皆曰。彭城王來奔喪。吾當出迎之。不能爲張豺守城也。踰城而出。豺斬之。不能止。張離亦帥龍騰二千。斬關迎遵。劉氏懼。召張豺入。對之悲哭曰。先帝梓宮未殯。而禍難至此。今嗣子冲幼。託之將軍。將軍將若之何。欲加遵重位。能弭之乎。豺惶怖。不知所出。但云唯唯。乃下詔。以遵爲丞相。領大司馬。大都督。督中外諸軍。錄尚書事。加黃鉞。九錫。己丑。遵至安陽亭。張豺懼而出迎。遵命執之。庚寅。遵擐甲曜兵。入自鳳陽門。升太武前殿。擗踊盡哀。退如東閣。斬張豺于平樂市。夷其三族。假劉氏令曰。嗣子幼冲。先帝私恩所授。皇業至重。非所克堪。其以遵嗣位。於是遵卽位。大赦。罷上白之圍。辛卯。封世爲譙王。廢劉氏爲太妃。尋皆殺之。李農來歸罪。使復其位。尊母鄭氏爲皇太后。立妃張氏爲皇后。故燕王斌子衍爲皇太子。以義陽王鑿爲侍中。太傅。沛王冲爲太保。樂平公苞爲大司馬。汝陰王琨爲大將軍。武興公閔爲都督。中外諸軍事。輔國大將軍。甲午。鄴中暴風拔樹。震雷雨雹。大如孟升。太武暉華殿災。及諸門觀閣蕩然無餘。乘輿服御。燒者太半。金石皆盡。火月餘乃滅。時沛王冲鎮薊。聞遵殺世自立。謂其僚佐曰。世受先帝之命。遵輒廢而殺之。罪莫大焉。其赦內外戒嚴。孤將親討之。於是留寧北將軍洸堅戍幽州。帥衆五萬。自薊南下。傳檄燕趙。所在雲集。比至常山。衆十餘萬。軍于苑鄉。遇遵赦書。冲曰。皆吾弟也。死者不可復追。何爲復相殘乎。吾將歸矣。其將陳暹曰。彭城篡弒自尊。爲罪大矣。王雖北旆。臣將南轅。俟平京師。擒彭城。然後奉迎大駕。冲乃復進。遵馳遣王擢。以書喻冲。冲弗聽。遵使武興公閔。及李農。帥精卒十萬討之。戰于平棘。冲兵大敗。獲冲于元氏。賜死。阮其士卒三萬餘人。武興公閔言於遵曰。蒲洪。人傑也。今以洪鎮關中。臣恐秦雍之地。非國家之有。此雖先帝臨終之命。然陛下踐祚。自宜改圖。遵

從之。罷洪都督。餘如前制。洪怒。歸枋頭。遣使來降。燕平狄將軍慕容霸。上書於燕王雋曰。石虎窮凶極暴。天之所弃。餘燼僅存。自相魚肉。今中國倒懸。企望仁恤。若大軍一振。勢必投戈。北平太守孫興。亦表言。石氏大亂。宜以時進取。中原雋以新遭大喪。弗許。霸馳詣龍城。言於雋曰。難得而易失者。時也。萬一石氏衰而復興。或有英雄據其成資。豈惟失此大利。亦恐更爲後患。雋曰。鄴中雖亂。鄧恒據安樂。兵彊糧足。今若伐趙。東道不可由也。當由盧龍。盧龍山徑險狹。虜乘高斷。要首尾爲患。將若之何。霸曰。恒雖欲爲石氏拒守。其將士顧家人懷歸志。若大軍臨之。自然瓦解。臣請爲殿下前驅。東出徒河。潛趣令支。出其不意。彼聞之。勢必震駭。上不過閉門自守。下不免棄城逃潰。何暇禦我哉。然則殿下可以安步而前。無復留難矣。雋猶豫未決。以問五材將軍封奕。對曰。用兵之道。敵彊則用智。敵弱則用勢。是故以大吞小。猶狼之食豚也。以治易亂。猶日之消雪也。大王自上世以來。積德累仁。兵彊士練。石虎極其殘暴。死未瞑目。子孫爭國。上下乖亂。中國之民。墜於塗炭。延頸企踵。以待振拔。大王若揚兵南邁。先取薊城。次指鄴都。宣耀威德。懷撫遺民。彼孰不扶老提幼。以迎大王。凶黨將望旗水碎。安能爲害乎。從事中郎黃泓曰。今太白經天。歲集畢北。陰國受命。此必然之驗也。宜速出師。以承天意。折衝將軍慕容興根曰。中國之民。困於石氏之亂。咸思易主。以救湯火之急。此千載一時。不可失也。自武宣王以來。招賢養民。務農訓兵。正俟今日。今時至不取。更復顧慮。豈天意未欲使海內平定邪。將大王不欲取天下也。雋笑而從之。以慕容恪爲輔國將軍。慕容評爲輔弼將軍。左長史陽鶩爲輔義將軍。謂之三輔。慕容霸爲前鋒都督。建鋒將軍。選精兵二十餘萬。講武戒嚴。爲進取之計。○六月。葬趙主虎於顯原陵。廟號太祖。○桓溫聞趙亂。出屯安陸。遣諸將經營北方。趙揚州刺史王浹。舉壽春降。西中郎將陳達。進據壽春。征北大將軍褚哀。上表請伐趙。卽日戒嚴。直指泗口。朝議以哀事任貴重。宜先遣偏帥。哀奏言。前已遣督

護王頤之等徑造彭城。後遣督護廉巖進據下邳。今宜速發。以成聲教。秋七月。加哀征討大都督督徐兗青揚豫五州諸軍事。哀帥衆三萬。徑赴彭城。北方士民降附者。日以千計。朝野皆以爲中原指期可復。光祿大夫蔡謨獨謂所親曰。胡滅誠爲大慶。然恐更貽朝廷之憂。其人口。何謂也。謨曰。夫能順天乘時。濟羣生於艱難者。非上聖與英雄不能爲也。自餘則莫若度德量力。觀今日之事。殆非時賢所及。必將經營分表。疲民以逞。既而才略疎短。不能副心。財殫力竭。智勇俱困。安得不憂及朝廷乎。魯郡民五百餘家。相與起兵。附晉。求援於褚裒。裒遣部將王龕。李邁。將銳卒三千。迎之。趙南討大都督李農。帥騎二萬。與龕等戰于代陂。龕等大敗。皆沒於趙。八月。哀退屯廣陵。陳達聞之。焚壽春積聚。殷城遁還。哀上疏。乞自貶詔。不許。命哀還鎮京口。解征討都督。時河北大亂。遺民二十餘萬口。渡河。欲來歸附。會哀已還。威勢不接。皆不能自拔。死亡略盡。○趙樂平王苞。謀帥關右之衆攻鄴。左長史石光。司馬曹曜等。固諫。苞怒。殺光等百餘人。苞性貪而無謀。雍州豪傑。知其無成。竝遣使告晉。梁州刺史司馬勳。帥衆赴之。○楊初襲趙西城。破之。○九月。涼州官屬。共上張重華。爲丞相。涼王。雍秦涼三州牧。重華屢以錢帛。賜左右寵臣。又喜博奕。頗廢政事。徵事索振。諫曰。先王夙夜勤儉。以實保社稷。今蓄積已虛。而寇讐尙在。豈可輕有耗散。以與無功之人乎。昔漢光武躬親萬機。章奏詣闕。報不終日。故能隆中興之業。今章奏停滯。動經時月。下情不得上通。沈寃困於囹圄。殆非明主之事也。重華謝之。○司馬勳出駱谷。破趙長城戍。壁于懸鉤。去長安二百里。使治中劉煥。攻長安。斬京兆太守劉秀離。又拔賀城。三輔豪傑。多殺守令。以應勳。凡三十餘壁。衆五萬人。趙樂平王苞。乃輟攻鄴之謀。使其將麻秋。姚國等。將兵拒勳。趙主遵。遣車騎將軍王朗。帥精騎二萬。以討勳爲名。因劫苞。送鄴。勳兵少。畏朗不敢進。冬十月。釋懸鉤。拔宛城。殺趙

南陽太守袁景。復還梁州。○初。趙主遵之發李城也。謂武興公閔曰。努力事成。以爾爲太子。既而立太子。衍。閔恃功。欲專朝政。遵不聽。閔素驍勇。屢立戰功。夷夏宿將。皆憚之。既爲都督。總內外兵權。乃撫循殿中將士。皆奏爲殿中員外將軍。爵關外侯。遵弗之疑。而更題名善惡。以挫抑之。衆咸怨怒。中書令孟準。左衛將軍王鸞。勸遵稍奪閔兵權。閔益恨望。準等咸勸誅之。十一月。遵召義陽王鑒。樂平王苞。汝陰王琨。淮南王昭等。入議於鄭太后前。曰。閔不臣之迹漸著。今欲誅之。如何。鑒等皆曰。宜然。鄭氏曰。李城還兵。無棘奴。豈有今日。小驕縱之。何可遽殺。鑒出遣宦者楊環。馳以告閔。閔遂劫李農。及右衛將軍王基。密謀廢遵。使將軍蘇彥。周成。帥甲士三千人。執遵於南臺。遵方與婦人彈碁。問成曰。反者誰也。成曰。義陽王鑒當立。遵曰。我尙如是。鑒能幾時。遂殺之於琨華殿。并殺鄭太后。張后。太子衍。孟準。王鸞。及上光祿張斐。鑒卽位。大赦。以武興公閔爲大將軍。封武德王。司空李農爲大司馬。竝錄尙書事。郎闔爲司空。秦州刺史劉羣爲尙書左僕射。侍中盧諶爲中書監。秦雍流民。相帥西歸。路由枋頭。共推蒲洪爲主。衆至十餘萬。洪子健在鄴。斬關。出奔枋頭。鑒懼洪之逼。欲以計遣之。乃以洪爲都督關中諸軍事。征西大將軍。雍州牧。領秦州刺史。洪會官屬議。應受與不。主簿程朴。請且與趙連和。如列國分境而治。洪怒曰。吾不堪爲天子邪。而云列國乎。引朴斬之。○都鄉元侯褚裒。還至京口。聞哭聲甚多。以問左右。對曰。皆代陂死者之家也。哀慙憤發疾。十二月。己酉。卒。以吳國內史苟羨爲使持節監徐兗二州揚州之晉陵諸軍事。徐州刺史。時年二十八。中興方伯。未有如羨之少者。○趙主鑒。使樂平王苞。中書令李松。殿中將軍張才。夜攻石閔。李農於琨華殿。不克。禁中擾亂。鑒懼。僞若不知者。夜斬松才於西中華門。并殺苞。新興王祗。虎之子也。時鎮襄國。與姚弋仲。蒲洪等。連兵。移檄中外。欲共誅閔農。閔農以汝陰王琨爲大都督。與張舉及侍中呼延盛。帥步騎七萬。分討祗等。中領軍石成。侍中石啓。前河東太守石暉。

謀誅閔農。閔農皆殺之。龍驤將軍孫伏都、劉銖等帥羯士三千，伏於胡天。亦欲誅閔農。鑿在中臺，伏都帥三十餘人，將升臺挾鑿以攻之。鑿見伏都毀閣道，臨問其故，伏都曰：「李農等反，已在東掖門。」臣欲帥衛士討之，謹先啓知。鑿曰：「卿是功臣，好爲官陳力。朕從臺上觀，卿勿慮無報也。」於是伏都、銖帥衆攻閔農，不克。屯於鳳陽門。閔農帥衆數千，毀金門而入。鑿懼，閔之殺已，馳招閔農開門內之。謂曰：「孫伏都反，卿宜速討之。」閔農攻斬伏都等，自鳳陽至琨華，橫尸相枕，流血成渠。宣令內外六夷敢稱兵仗者斬，胡人或斬關或踰城而出者，不可勝數。閔使尙書王簡、少府王鬱帥衆數千，守鑿於御龍觀，懸食以給之。下令城中曰：「近日孫劉構逆，支黨伏誅，良善一無預也。今日已後，與官同心者留，不同者各任所之。」敕城門不復相禁。於是趙人百里內悉入城，胡羯去者填門。閔知胡之不爲己用，班令內外趙人斬一胡首，送鳳陽門者，文官進位三等，武官悉拜牙門。一日之中，斬首數萬。閔親帥趙人以誅胡羯，無貴賤男女少長皆斬之，死者二十餘萬。尸諸城外，悉爲野犬豺狼所食。其屯戍四方者，閔皆以書命趙人爲將帥者誅之，或高鼻多須，濫死者半。○燕王雋遣使至涼州，約張重華共擊趙。六年春正月，趙大將軍閔欲滅去石氏之迹，託以讖文有繼趙李，更國號曰衛，易姓李氏。大赦，改元青龍。太宰趙庶、太尉張舉、中軍將軍張春、光祿大夫石岳、撫軍石寧、武衛將軍張李及公侯卿校龍騰等萬餘人出奔襄國。汝陰王琨奔冀州，撫軍將軍張沈據滏口，張賀度據石濱，建義將軍段勤據黎陽，寧南將軍楊羣據桑壁，劉國據陽城，段龜據陳留，姚弋仲據滹頭，蒲洪據枋頭，衆各數萬，皆不附於閔。勤末柸之子龜，蘭之子也。王朗、麻秋自長安赴洛陽。秋承閔書誅朗部胡千餘人，朗奔襄國。秋帥衆歸鄴。蒲洪使其子龍驤將軍雄迎擊，獲之。以爲軍師將軍。汝陰王琨及張舉、王朗帥衆七萬伐鄴。大將軍閔帥騎千餘與戰於城北，閔操

兩刃矛，馳騎擊之，所向摧陷，斬首三千級。琨等大敗而去。閔與李農帥騎三萬討張賀度于石濱。閔月衛主鑿密遣宦者齋書召張沈等，使乘虛襲鄴。宦者以告閔農，閔農馳還廢鑿，殺之。并殺趙主虎二十八孫，盡滅石氏。姚弋仲子曜武將軍益武衛將軍若帥禁兵數千，斬關奔滹頭。弋仲帥衆討閔，軍于混橋。司徒申鍾等上尊號於閔，以讓李農。農固辭。閔曰：「吾屬故晉人也，今晉室猶存，請與諸君分割州郡，各稱牧守公侯，奉表迎晉天子，還都洛陽，尙書胡睦進曰：陛下聖德應天，宜登大位。晉氏衰微，遠竄江表，豈能總馭英雄，混壹四海乎？閔曰：胡尙書之言可謂識機知命矣。乃即皇帝位，大赦，改元永興。國號大魏。○朝廷聞中原大亂，復謀進取，己丑，以揚州刺史殷浩爲中軍將軍，假節都督揚豫徐兗青五州諸軍事，以蒲洪爲氐王，使持節征北大將軍，都督河北諸軍事，冀州刺史，廣川郡公，蒲健爲假節右將軍，監河北征討前鋒諸軍事，襄國公。○姚弋仲、蒲洪各有據關右之志。弋仲遣其子襄帥衆五萬擊洪，迎擊破之，斬獲三萬餘級。洪自稱大都督，大將軍，大單于，三秦王，改姓苻氏。以南安雷弱兒爲輔國將軍，安定梁楞爲前將軍，領左長史，馮翊魚遵爲右將軍，領右長史，京兆段陵爲左將軍，領左司馬，天水趙俱、隴西牛夷、北地辛牢皆爲從事中郎，玄會、毛貴爲單于輔相。○二月，燕王雋使慕容霸將兵二萬自東道出，徒河，慕與于自西道出，麟螭塞。雋自中道出，盧龍塞，以伐趙。以慕容恪、鮮于亮爲前驅，命慕與、暍、槎山、通道，留世子曄守龍城，以內史劉斌爲大司農，與典書令皇甫真留統後事。霸軍至三陘，趙征東將軍鄧恒惶怖，焚倉庫，奔安樂，遁去。與幽州刺史王午共保薊，徙河南部都尉孫泳，急入安樂，撲滅餘火，籍其穀帛，霸收安樂北平兵糧，與雋會臨渠。三月，燕兵至無終，王午留其將王佗以數千人守薊，與鄧恒走保魯口。乙巳，雋拔薊，執王佗，斬之。雋欲悉阮其士卒千餘人，慕容霸諫曰：「趙爲暴虐，王與師伐之，將以拯民於塗炭，而撫有中州也。今始得薊，而阮其士卒，恐不可以爲王師之先聲也。」

雋入都于薊。中州士女降者相繼。燕兵至范陽。范陽太守李產欲為石氏拒燕。衆莫為用。乃帥八城令長出降。雋復以產為太守。產子績為幽州別駕。奔其家從。王午在魯口。鄧恒謂午曰。績鄉里在北。父已降燕。今雖在此。恐終難相保。徒為人累。不如去之。午曰。此何言也。夫以當今喪亂。而績乃能立義捐家。情節之重。雖古烈士無以過。乃欲以猜嫌害之。燕趙之士聞之。謂我直相聚為賊。了無意識。衆情一散。不可復集。此為坐自屠潰也。恒乃止。午猶慮諸將不與己同心。或致非意。乃遣績歸。績始辭。午往見燕王雋。雋讓之曰。卿不識天命。奔職邀名。今日乃始來邪。對曰。臣眷戀舊王。志存微節。官身所委。何事非君。殿下方以義取天下。臣未謂得見之晚也。雋悅。善待之。雋以弟宜為代郡城郎。孫泳為廣寧太守。悉置幽州郡縣守宰。甲子。雋使中部侯釐慕與句督薊中留事。自將擊鄧恒於魯口。軍至清梁。恒將鹿勃早將數千人。夜襲燕營。半已得入。先犯前鋒都督慕容霸。突入幕下。霸起奮擊。手殺十餘人。早不能進。由是燕軍得嚴。雋謂慕與根曰。賊鋒甚銳。宜且避之。根正色曰。我衆彼寡。力不相敵。故乘夜來戰。冀萬一獲利。今求賊得賊。正當擊之。復何所疑。王但安臥。臣等自為王破之。雋不能自安。內史李洪從雋出營外。屯高冢上。根帥左右精勇數百人。從中牙直前擊早。李洪徐整騎隊。還助之。早乃退走。衆軍追擊四十餘里。早僅以身免。所從士卒死亡略盡。雋引兵還薊。○魏主閔復姓冉氏。尊母王氏為皇太后。立妻董氏為皇后。子智為皇太子。胤明。裕皆為王。以李農為太宰。領太尉。錄尚書事。封齊王。其子皆封縣公。遣使者持節赦諸軍屯。皆不從。○麻秋說苻洪曰。冉閔石祗方相持。中原之亂。未可平也。不如先取關中。基業已固。然後東爭天下。誰敢敵之。洪深然之。既而秋因宴鳩洪。欲并其衆。世子健收秋斬之。洪謂健曰。吾所以未入關者。以為中州可定。今不幸為豎子所困。中州非汝兄弟所能辦。我死。汝急入關。言終而卒。健代統其衆。乃去。大都督大將軍三秦王之號。稱晉官爵。遣其叔父安來告喪。且請

朝命。○趙新興王祗即皇帝位于襄國。改元永寧。以汝陰王琨為相國。六夷據州郡者皆應之。祗以姚弋仲為右丞相。親趙王。待以殊禮。弋仲子襄。雄勇多才略。士民多愛之。請弋仲以爲嗣。弋仲以襄非長子。不許。請者日以千數。弋仲乃使之將兵。祗以襄為驃騎將軍。豫州刺史。新昌公。又以苻健為都督河南諸軍事。鎮南大將軍。開府儀同三司。兗州牧。略陽郡公。○夏四月。趙主祗遣汝陰王琨將兵十萬伐魏。○魏主閔殺李農。及其三子。并尚書令王謨。侍中王衍。中常侍嚴震。趙昇。閔遣使臨江告晉曰。逆胡亂中原。今已誅之。能共討者。可遣軍來也。朝廷不應。○五月。廬江太守袁真攻魏合肥。克之。虜其居民而還。○六月。趙汝陰王琨進據邯鄲。鎮南將軍劉國自繁陽會之。魏衛將軍王泰擊琨。大破之。死者萬餘人。劉國還繁陽。○初。段蘭卒於令支。段龕代領其衆。因石氏之亂。擁部落南徙。秋七月。龕引兵東。據廣固。自稱齊王。○八月。代郡人趙楷帥三百餘家。叛燕歸趙。并州刺史張平。燕王雋徙廣甯上谷二郡民於徐無。代郡民於凡城。○王朗之去。長安也。朗司馬杜洪據長安。自稱晉征北將軍。雍州刺史。以馮翊張琚為司馬。關西夷夏皆應之。苻健欲取之。恐洪知之。乃受趙官爵。以趙俱為河內太守。成溫。牛夷為安集將軍。成懷。治宮室於枋頭。課民種麥。示無西意。有知而不種者。健殺之。以狗。既而自稱晉征西大將軍。都督關中諸軍事。雍州刺史。以武威賈玄頌為左長史。略陽梁安為右長史。段純為左司馬。辛牢為右司馬。京兆王魚。安定程肱。胡文等為軍諮祭酒。悉衆而西。以魚遵為前鋒。行至盟津。為浮梁。以濟。遣弟輔國將軍雄帥衆五千。自潼關入。兄子揚武將軍菁帥衆七千。自軹關入。臨別執菁手曰。若事不捷。汝死河北。我死河南。不復相見。既濟。焚橋。自帥大衆。隨雄而進。杜洪聞之。與健書。侮嫂之。以張琚弟先為征虜將軍。帥衆萬三千。逆戰于潼關之北。先兵大敗。走還長安。洪悉召關中之衆。以拒健。洪弟郁。勸洪迎健。洪不從。郁帥所部降於健。健遣苻雄。狗渭北。氐酋毛受屯高陵。徐磋屯好時。羌酋白

晉紀 孝宗穆皇帝上之下永和六年

犢屯黃白。衆各數萬。皆斬洪使。遣子降於健。苻菁魚遵所過城邑。無不降附。洪懼。固守長安。○張賀度段勤劉國斬豚。會于昌城。將攻鄴。魏主閔自將擊之。戰于蒼亭。賀度等大敗。死者二萬八千人。追斬斬豚於陰安。盡俘其衆而歸。閔戎卒三十餘萬。旌旗鉦鼓。綿亙百餘里。雖石氏之盛。無以過也。故晉散騎常侍隴西辛謐。有高名。歷劉石之世。徵辟皆不就。閔備禮。徵爲太常。謐遺閔書。以爲物極則反。致至則危。君王功已成矣。宜因茲大捷。歸身晉朝。必有由夷之廉。享松喬之壽矣。因不食而卒。○九月。燕王雋南狗冀州。取章武河間。初。勃海賈堅。少尙氣節。仕趙爲殿中督。趙亡。堅奔魏。主閔還鄉里。擁部曲數千家。燕慕容評狗勃海。遣使招之。堅終不降。評與戰。擒之。雋以評爲章武太守。封裕爲河間太守。雋與慕容恪皆愛賈堅之材。堅時年六十餘。恪聞其善射。置牛百步上。以試之。堅曰。少之時。能令不中。今老矣。往往中之。乃射再發。一矢拂脊。一矢磨腹。皆附膚落毛。上下如一。觀者咸服其妙。雋以堅爲樂陵太守。治高城。○苻菁與張先戰于渭北。擒之。三輔郡縣堡壁皆降。冬十月。苻健長驅至長安。杜洪張琚奔司竹。○燕王雋還薊。留諸將守之。雋還至龍城。謁陵廟。○十一月。魏主閔帥步騎十萬攻襄國。署其子太原王胤爲大單于。驃騎大將軍。以降胡一千配之。爲麾下。光祿大夫韋謏諫曰。胡羯皆我之仇敵。今來歸附。苟存性命耳。萬一爲變。悔之何及。請誅屏降。胡去單于之號。以防微杜漸。閔方欲撫納羣胡。大怒。誅謏。及其子伯陽。○甲午。苻健入長安。以民心思晉。乃遣參軍杜山伯詣建康獻捷。并修好於桓溫。於是秦雍夷夏皆附之。趙涼州刺史石寧獨據上邽不下。十二月。苻雄擊斬之。○蔡謨除司徒。三年不就職。詔書屢下。太后遣使諭意。謨終不受。於是帝臨軒。遣侍中紀據黃門郎丁纂徵謨。謨陳疾篤。使主簿謝攸陳讓。自旦至申。使者十餘返。而謨不至。時帝方八歲。甚倦。問左右曰。所召人。何以至今不來。臨軒何時當竟。太后以君臣俱疲。乃詔。必不來者。宜罷朝。中軍將軍殷浩奏。免吏部尙書江彪官。會稽王昱令曹曰。蔡公傲違上命。無人臣之禮。若人主卑屈於上。大義不行於下。亦不知所以爲政矣。公卿乃奏謨悖慢傲上。罪同不臣。請送廷尉。以正刑書。謨懼。帥子弟詣闕稽顙。自到廷尉待罪。殷浩欲加謨大辟。會徐州刺史苟羨入朝。浩以問羨。羨曰。蔡公今日事危。明日必有桓文之舉。浩乃止。下詔。免謨爲庶人。

資治通鑑卷第九十八

資治通鑑卷第九十九

晉紀二十一

孝宗穆皇帝中之上

永和七年春正月丁酉日有食之。○苻健左長史賈玄碩等請依劉備稱漢中王故事表健為都督關中諸軍事大將軍大單于秦王健怒曰吾豈堪為秦王邪且晉使未返我之官爵非汝曹所知也既而密使梁安諷玄碩等上尊號健辭讓再三然後許之內辰健即天王大單于位國號大秦大赦改元皇始追尊父洪為武惠皇帝廟號太祖立妻強氏為天王后子萇為太子觀為平原公生為淮南公觀為長樂公方為高陽公頌為北平公騰為淮陽公柳為晉公桐為汝南公度為魏公武為燕公幼為趙公以苻雄為都督中外諸軍事丞相領車騎大將軍雍州牧東海公苻菁為衛大將軍平昌公宿衛二宮雷弱兒為太尉毛貴為司空略陽姜伯周為尙書令梁楞為左僕射王墮為右僕射魚遵為太子太師強平為太傅段純為太保呂婆樓為散騎常侍伯周健之舅平王后之弟婆樓本略陽氏會也○段龜請以青州內附二月戊寅以龜為鎮北將軍封齊公○魏主閔攻圍襄國百餘日趙主祗危急乃去皇帝之號稱趙王遣太尉張舉乞師於燕許送傳國璽中軍將軍張春乞師於姚弋仲弋仲遣其子襄帥騎二萬八千救趙誠之曰冉閔弃仁背義屠滅石氏我受人厚遇當為復讐老病不能自行汝才十倍於閔若不梟擒以來不必復見我也弋仲亦遣使告於燕燕主雋遣禦難將軍悅綰將兵三萬往會之冉閔聞雋欲救趙遣大司馬從事中郎廣寧常焯使於燕

雋使封裕詰之曰冉閔石氏養息負恩作逆何敢輒稱大號焯曰湯放桀武王伐紂以興商周之業曹孟德養於宦官莫知所出卒立魏氏之基苟非天命安能成功推此而言何必致問裕曰人言冉閔初立鑄金為己像以卜成敗而像不成信乎焯曰不聞裕曰南來者皆云如是何故隱之焯曰姦偽之人欲矯天命以惑人者乃假符瑞託著龜以自重魏主握符璽據中州受命何疑而更反真為偽取決於金像乎裕曰傳國璽果安在焯曰在鄴裕曰張舉言在襄國焯曰殺胡之日在鄴者殆無子遺時有迸漏者皆潛伏溝瀆中耳彼安知璽之所在乎彼求救者為妄誕之辭無所不可況一璽乎雋猶以張舉之言為信乃積柴其旁使裕以其私誘之曰君更熟思無為徒取灰滅焯正色曰石氏貪暴親帥大兵攻燕國都雖不克而返然志在必取故運資糧聚器械於東北者非以相資乃欲相滅也魏主誅翦石氏雖不為燕臣子之心聞仇讐之滅義當如何而更為彼責我不亦異乎吾聞死者骨肉下于土精魂升于天蒙君之惠速益薪縱火使僕得上訴於帝足矣左右請殺之雋曰彼不憚殺身以殉其主忠臣也且冉閔有罪使臣何預焉使出就館使其鄉人趙瞻往勞之且曰君何不以實言王怒欲處君於遼碣之表奈何焯曰吾結髮以來尚不欺布衣況人主乎曲意苟合性所不能直情盡言雖沈東海不敢避也遂臥向壁不復與瞻言瞻具以白雋雋乃囚焯於龍城○趙并州刺史張平遣使降秦秦王以平為大將軍冀州牧○燕王雋還薊○三月姚襄及趙汝陰王琨各引兵救襄國冉閔遣車騎將軍胡睦拒襄於長蘆將軍孫威拒琨於黃丘皆敗還士卒略盡閔欲自出擊之衛將軍王泰諫曰今襄國未下外救雲集若我出戰必覆背受敵此危道也不若固壘以挫其銳徐觀其釁而擊之且陛下親臨行陳如失萬全則大事去矣閔將止道士法饒進曰陛下圍襄國經年無尺寸之功今賊至又避不擊將何以使將士乎且太白入昴當殺胡王百戰百克不可失也閔攘袂大言曰吾戰決矣敢沮衆者斬

乃悉衆出與襄琨戰。悅縮適以燕兵至去魏兵數里。疏布騎卒曳柴揚塵。魏人望之。恟懼。襄琨縮三面擊之。趙王祗自後衝之。魏兵大敗。閔與十餘騎走還鄴。降胡栗特康等。執大單于胤。及左僕射劉琦。以降趙。趙王祗殺之。胡睦及司空石璞。尚書令徐機。中書監盧諶等。并將士死者。凡十餘萬人。閔潛還。人無知者。鄴中震恐。訛言閔已沒。射聲校尉張艾。請閔親郊。以安衆心。閔從之。訛言乃息。閔支解法饒父子。贈韋謏大司徒。姚襄還。潏頭姚弋仲怒其不擒。閔杖之一百。初閔之爲趙相也。悉散倉庫。以樹私恩。與羌胡相攻。無月不戰。趙所徙青雍幽荆四州之民。及氐羌胡蠻。數百萬口。以趙法禁不行。各還本土。道路交錯。互相殺掠。其能達者。什有二三。中原大亂。因以飢疫。人相食。無復耕者。趙王祗使其將劉顯帥衆七萬攻鄴。軍于明光宮。去鄴二十三里。魏主閔恐召王泰欲與之謀。泰恚前言之不從。辭以瘡甚。閔親臨問之。泰固稱疾篤。閔怒還宮。謂左右曰。巴奴乃公豈假汝爲命邪。要將先滅羣胡。却斬王泰。乃悉衆出戰。大破顯軍。追奔至陽平。斬首三萬餘級。顯懼。密使請降。求殺祗以自效。閔乃引還。有告王泰欲叛入秦者。閔殺之。夷其三族。○秦王健分遣使者問民疾苦。搜羅雋異。寬重斂之稅。弛離宮之禁。罷無用之器。去侈靡之服。凡趙之苛政。不便於民者。皆除之。○杜洪張琚遣使召梁州刺史司馬勳。夏四月。勳帥步騎三萬赴之。秦王健禦之於五丈原。勳屢戰皆敗。退歸南鄭。健以中書令賈玄碩始者不上尊號。銜之。使人告玄碩。與司馬勳通。并其諸子。皆殺之。○渤海人逢約。因趙亂。擁衆數千家。附於魏。魏以約爲渤海太守。故太守劉準。隗之兄子也。土豪封放。奕之從弟也。別聚衆自守。閔以準爲幽州刺史。與約中分渤海。燕王雋使封奔討約。使昌黎太守高開討準。放開。瞻之子也。奔引兵直抵約壘。遣人謂約曰。相與鄉里。隔絕日久。會遇甚難。時事利害。人皆有心。非所論也。願單出一相見。以寫佇結之情。約素信重。奕即出見。奕於門外。各屏騎卒。單馬交語。奕與論叙平生。因說之曰。與君累世同鄉。情相

愛重。誠欲君享祚無窮。今既獲展奉。不可不盡所懷。冉閔乘石氏之亂。奄有成資。是宜天下服其疆矣。而禍亂方始。固知天命不可力爭也。燕王奕世載德。奉義討亂。所征無敵。今已都薊。南臨趙魏。遠近之民。襁負歸之。民厭荼毒。咸思有道。冉閔之亡。匪朝伊夕。成敗之形。昭然易見。且燕王肇開王業。虛心賢雋。君能翻然改圖。則功參絳灌。慶流苗裔。孰與爲亡國將守孤城。以待必至之禍哉。約聞之。悵然不言。奕給使張安。有勇力。奕豫戒之。俟約氣下。安突前持其馬鞵。因挾之而馳。至營。奕與坐。謂曰。君計不能自決。故相爲決之。非欲取君以邀功。乃欲全君以安民也。高開至渤海。準放迎降。雋以放爲渤海太守。準爲左司馬。約參軍事。以約誘於人。而遇獲。更其名曰鈞。○劉顯弒趙王祗。及其丞相樂安王炳。太宰趙庶等十餘人。傳首于鄴。驃騎將軍石寧奔柏人。魏主閔焚祗首于通衢。拜顯上大將軍。大單于冀州牧。○五月。趙兖州刺史劉啓。自鄆城來奔。○秋七月。劉顯復引兵攻鄴。魏主閔擊敗之。顯還。稱帝於襄國。○八月。魏徐州刺史周成。兖州刺史魏統。荊州刺史樂弘。豫州牧張遇。以廩丘許昌等諸城來降。平南將軍高崇。征虜將軍呂護。執洛州刺史鄭系。以其地來降。燕王雋遣慕容恪攻中山。慕容評攻王午于魯口。魏中山太守上谷侯龕。閉城拒守。恪南徇常山。軍于九門。魏趙郡太守遼西李邽。舉郡降。恪厚撫之。將邽還圍中山。侯龕乃降。恪入中山。遷其將帥士豪數十家詣薊。餘皆安堵。軍令嚴明。秋毫無犯。慕容評至南安。王午遣其將鄭生拒戰。評擊斬之。悅縮還自襄國。雋乃知張舉之妄。而殺之。常煒有四男二女。在中山。雋釋煒之囚。使諸子就見之。煒上疏謝恩。雋手令答曰。卿本不爲生計。孤以州里相存耳。今大亂之中。諸子盡至。豈非天所念邪。天且念卿。況於孤乎。賜妾一人。穀三百斛。使居凡城。以北平太守孫興爲中山太守。興善於綏撫。中山遂安。○庫儻官偉。帥部衆。自上黨降燕。○姚弋仲遣使來請降。冬十一月。以弋仲爲使持節六夷大都督。督江北諸軍事。車騎大將軍。開府儀同三司。大單于。

高陵郡公。又以其子襄爲持節平北將軍。都督并州諸軍事。并州刺史。平鄉縣公。○逢鈞亡。歸渤海。招集舊衆。以叛燕樂陵太守賈堅。使人告諭鄉人。示以成敗。鈞部衆稍散。遂來奔。○吐谷渾葉延卒。子碎奚立。○初桓溫聞石氏亂。上疏請出師經略中原。事久不報。溫知朝廷杖般浩以抗己。甚忿之。然素知浩之爲人。亦不之憚也。以國無他釁。遂得相持彌年。羈縻而已。八州士衆資調。殆不爲國家用。屢求北伐。詔書不聽。十二月辛未。溫拜表輒行。帥衆四五萬。順流而下。軍於武昌。朝廷大懼。般浩欲去位以避溫。又欲以驕虞幡駐溫軍。吏部尙書王彪之。言於會稽王昱曰。此屬皆自爲計。非能保社稷爲殿下計也。若般浩去職。人情離駭。天子獨坐。當此之際。必有任其責者。非殿下而誰乎。又謂浩曰。彼若抗表問罪。卿爲之首。事任如此。猜釁已成。欲作匹夫。豈有全地邪。且當靜以待之。令相王與手書。示以欵誠。爲陳成敗。彼必旋師。若不從。則遣中詔。又不從。乃當以正義相裁。奈何無故忿忿。先自猖獗乎。浩曰。決大事。正自難。頃日來。欲使人悶。聞卿此謀。意始得了。彪之。彬之子也。撫軍司馬高崧。言於昱曰。王宜致書諭以禍福。自當返旆。如其不爾。便六軍整駕。逆順於茲判矣。乃於坐爲昱草書曰。寇難宜平。時會宜接。此實爲國遠圖。經略大筭。能弘斯會。非足下而誰。但以此與師動衆。要當以資實爲本。運轉之艱。古人所難。不可易之於始。而不熟慮。頃所以深用爲疑。惟在此耳。然異常之舉。衆之所駭。遊聲噂喑。想足下亦少聞之。苟患失之。無所不至。或能望風振擧。一時崩散。如此則望實並喪。社稷之事去矣。皆由吾闇弱。德信不著。不能鎮靜羣庶。保固維城。所以內愧於心。外慙良友。吾與足下。雖職有內外。安社稷。保國家。其致一也。天下安危繫之明德。當先思寧國。而後圖其外。使王基克隆。大義弘著。所望於足下。區區誠懷。豈可復顧嫌而不盡哉。溫卽上疏。惶恐致謝。回軍還鎮。○朝廷將行郊祀。會稽王昱問於王彪之曰。郊祀。應有赦否。彪之曰。自中興以來。郊祀往往有赦。愚意常謂非宜。凶愚之人。以爲郊必有赦。將

生心於微幸矣。昱從之。○燕王雋如龍城。○丁零翟鼠帥所部降燕。封爲歸義王。八年春正月辛卯。日有食之。○秦丞相雄等請秦王健正尊號。依漢晉之舊。不必效石氏之初。健從之。卽皇帝位。大赦。諸公皆進爵爲王。且言單于所以統一百蠻。非天子所宜領。以授大子萇。○司馬勳既還漢中。杜洪。張琚。屯宜秋。洪自以右族。輕琚。琚遂殺洪。自立爲秦王。改元建昌。○劉顯攻常山。魏主閔留大將軍蔣幹。使輔太子智守鄴。自將八千騎救之。顯大司馬清河王寧。以棗彊降魏。閔擊顯。敗之。追奔至襄國。顯大將軍曹伏駒。開門納閔。閔殺顯。及其公卿已下百餘人。焚襄國宮室。遷其民於鄴。趙汝陰王琨。以其妻妾來奔。斬於建康市。石氏遂絕。○尙書左丞孔嚴。言於般浩曰。比來衆情良可寒心。不知使君當何以鎮之。愚謂宜明受任之方。韓彭專征伐。蕭曹守管籥。內外之任。各有攸司。深思廉蔣。屈身之義。平勃交歡之謀。令穆然無間。然後可以保大定功也。觀近日降附之徒。皆人面獸心。貪而無親。恐難以義感也。浩不從。嚴愉之從子也。浩上疏請北出許洛。詔許之。以安西將軍謝尙。北中郎將荀羨爲督統。進屯壽春。謝尙不能撫尉。張遇。遇怒。據許昌叛。使其將上官恩。據洛陽。樂弘。攻督護戴施於倉垣。浩軍不能進。三月。命荀羨鎮淮陰。尋加監青州諸軍事。又領兗州刺史。鎮下邳。○乙巳。燕王雋還薊。稍徙軍中文武兵民家屬於薊。○姚弋仲有子四十二人。及病。謂諸子曰。石氏待吾厚。吾本欲爲之盡力。今石氏已滅。中原無主。我死。汝亟自歸於晉。當固執臣節。無爲不義也。弋仲卒。子襄。祕不發喪。帥戶六萬南攻陽平。元城。發于破之。屯于碣磈津。以太原王亮爲長史。天水尹赤爲司馬。太原薛瓚。略陽權翼。爲參軍。襄與秦兵戰。敗。亡三萬餘戶。南至滎陽。始發喪。又與秦將高昌李歷戰于麻田。馬中流矢而斃。弟萇。以馬授襄。襄曰。汝何自免。萇曰。但令兄濟。暨子必不敢害萇。會救至。俱免。尹赤奔秦。秦以赤爲并州刺史。鎮蒲阪。襄遂帥衆歸晉。送其五弟爲質。詔襄屯譙城。襄單騎度淮。見謝尙于壽春。尙聞其名。命去

仗衛幅巾待之。歡若平生。襄博學善談論。江東人士皆重之。○魏主閔既克襄國。因遊食常山中山諸郡。趙立義將軍段勤聚胡羯萬餘人。保據繹幕。自稱趙帝。夏四月甲子。燕王雋遣慕容恪等擊魏。慕容霸等擊勤。魏主閔將與燕戰。大將軍董閔車騎將軍張溫諫曰。鮮卑乘勝鋒銳。且彼衆我寡。宜且避之。俟其驕愷。然後益兵以擊之。閔怒曰。吾欲以此衆平幽州。斬慕容雋。今遇恪而避之。人謂我何。司徒劉茂特進郎闔相謂曰。吾君此行。必不還矣。吾等何爲坐待戮辱。皆自殺。閔軍于安喜。慕容恪引兵從之。閔趣常山。恪追之。及于魏昌之廉臺。閔與燕兵交戰。燕兵皆不勝。閔素有勇名。所將兵精銳。燕人憚之。慕容恪巡陳。謂將士曰。冉閔勇而無謀。一夫敵耳。其士卒飢疲。甲兵雖精。其實難用。不足破也。閔以所將多步卒。而燕皆騎兵。引兵將趣林中。恪參軍高開曰。吾騎兵利平地。若闔得入林。不可復制。宜亟遣輕騎邀之。既合而陽走。誘致平地。然後可擊也。恪從之。魏兵還就平地。恪分軍爲三部。謂諸將曰。閔性輕銳。又自以衆少。必致死於我。我厚集中軍之陳。以待之。俟其合戰。卿等從旁擊之。無不克矣。乃擇鮮卑善射者五千人。以鐵鎖連其馬。爲方陳而前。閔所乘駿馬曰朱龍。日行千里。閔左操兩刃矛。右執鉤戟。以擊燕兵。斬首三百餘級。望見大幢。知其爲中軍。直衝之。燕兩軍從旁夾擊。大破之。圍閔數重。閔潰圍東走。二十餘里。朱龍忽斃。爲燕兵所執。燕人殺魏僕射劉羣。執董閔。張溫及閔皆送於薊。閔子操奔魯口。高開被創而卒。慕容恪進屯常山。雋命恪鎮中山。己卯。冉閔至薊。雋大赦。立閔而責之曰。汝奴僕下才。何得妄稱帝。閔曰。天下大亂。爾曹夷狄禽獸之類。猶稱帝。況我中土英雄。何得不稱帝邪。雋怒。鞭之三百。送於龍城。慕容霸至鄴。魏將幹及大子智閉城拒守。城外皆降於燕。劉寧及弟崇。帥胡騎三千奔晉陽。○秦以張遇爲征東大將軍。豫州牧。○五月。秦主健攻張琚於宜秋。斬之。○鄴中大飢。人相食。故趙時

宮人。被食略盡。蔣幹使侍中繆嵩詹事劉猗奉表請降。且求救於謝尙。庚寅。燕王雋遣廣威將軍慕容軍殿中將軍慕容興根。右司馬皇甫眞等。帥步騎二萬助慕容評攻鄴。○辛卯。燕人斬冉閔於龍城。會大旱。蝗。燕王雋謂閔爲祟。遣使祀之。諡曰悼武天王。○初。謝尙使戴施據枋頭。施聞蔣幹求救。乃自倉垣徙屯棘津。止幹使者。求傳國璽。劉猗使繆嵩還鄴。白幹。幹疑尙不能救。沈吟未決。六月。施帥壯士百餘人入鄴。助守三臺。給之曰。今燕寇在外。道路不通。璽未敢送也。卿且出以付我。我當馳白天子。天子聞璽在吾所。信卿至誠。必多發兵糧。以相救餉。幹以爲然。出璽付之。施宣言使督護何融迎糧。陰令懷璽。送于枋頭。甲子。蔣幹帥銳卒五千。及晉兵出戰。慕容評大破之。斬首四千級。幹脫走入城。○甲申。秦主健還長安。○謝尙姚襄共攻張遇于許昌。秦主健遣丞相東海王雄。衛大將軍平昌王菁。略地關東。帥步騎二萬救之。丁亥。戰于潁水之誠橋。尙等大敗。死者萬五千人。尙奔還淮南。襄奔輜重。送尙于芍陂。尙悉以後事付襄。殷浩聞尙敗。退屯壽春。秋七月。秦丞相雄徙張遇。及陳穎許洛之民五萬餘戶於關中。以右衛將軍楊羣爲豫州刺史。鎮許昌。謝尙降號建威將軍。○趙故西中郎將王擢遣使請降。拜擢秦州刺史。○丁酉。以武陵王晞爲太宰。○丙辰。燕王雋如中山。○王午聞魏敗。時鄧恒已死。午自稱安國王。八月。戊辰。燕王雋遣慕容恪封奕。陽鶩攻之。午閉城自守。送再操詣燕軍。燕人掠其禾稼而還。○庚午。魏長水校尉馬願等開鄴城。納燕兵。戴施蔣幹懸絀而下。葦于倉垣。慕容評送魏后董氏。太子智。太尉申鍾。司空條枚等。及乘輿服御于薊。尙書令王簡。左僕射張乾。右僕射郎肅。皆自殺。燕王雋詐云。董氏得傳國璽。獻之。賜號奉璽君。賜再智爵海賓侯。以申鍾爲大將軍。右長史。命慕容評鎮鄴。○桓溫使司馬勳助周撫討蕭敬文於涪城。斬之。○謝尙自枋頭迎傳國璽。至建康。百僚畢賀。○秦以雷弱兒爲大司馬。毛貴爲太尉。張遇爲司空。○殷浩之北伐也。中軍將軍王羲之以書止之。不聽。既而

無功。復謀再舉。義之遺浩書曰。今以區區江左。天下寒心。固已久矣。力爭武功。非所當作。自頃處內外之任者。未有深謀遠慮。而疲竭根本。各從所志。竟無一功可論。遂令天下將有土崩之勢。任其事者。豈得辭四海之責哉。今軍破於外。資竭於內。保淮之志。非所復及。莫若還保長江。督將各復舊鎮。自長江以外。羈縻而已。引咎責躬。更爲善治。省其賦役。與民更始。庶可以救倒懸之急也。使君起於布衣。任天下之重。當董統之任。而敗喪至此。恐闔朝羣賢。未有與人分其謗者。若猶以前事爲未工。故復求之分外。宇宙雖廣。自容何所。此愚智所不解也。又與會稽王昱牋曰。爲人臣。誰不願尊其主。比隆前世。況遇難得之運哉。顧力有所不及。豈可不權輕重而處之也。今雖有可喜之會。內求諸己。而所憂乃重於所喜。功未可期。遺黎殲盡。勞役無時。徵求日重。以區區吳越。經緯天下十分之九。不亡何待。而不度德量力。不弊不已。此封內所痛心歎悼。而莫敢吐誠者也。往者不可諫。來者猶可追。願殿下更垂三思。先爲不可勝之基。須根立勢舉。謀之未晚。若不行。恐麋鹿之游。將不止林藪而已。願殿下。暨廢虛遠之懷。以救倒懸之急。可謂以亡爲存。轉禍爲福也。不從。九月。浩屯泗口。遣河南太守戴施。據石門。滎陽太守劉遜。據倉垣。浩以軍興。罷遣太學生徒。學校由此遂廢。冬。十月。謝尚遣冠軍將軍王俠。攻許昌。克之。秦豫州刺史楊羣。退屯弘農。徵尚爲給事中。戍石頭。○丁卯。燕王雋還薊。○故趙將。擁兵據州郡者。各遣使降燕。燕王雋。以王擢爲益州刺史。薨逸爲秦州刺史。張平爲并州刺史。李歷爲兖州刺史。高昌爲安西將軍。劉寧爲車騎將軍。○慕容恪屯安平。積糧治攻具。將討王午。丙戌。中山蘇林起兵於無極。自稱天子。恪自魯口還。討林。閏月。戊子。燕王雋遣廣威將軍慕輿根。助恪攻林。斬之。王午爲其將秦興所殺。呂護殺興。復自稱安國王。燕羣僚共上尊號於燕王雋。雋許之。十一月。丁卯。始置百官。以國相封奕爲太尉。左長史陽鶩爲尙書令。右司馬皇甫真爲尙書左僕射。典書令張倫爲右僕射。其餘文武。拜授有差。

戊辰。雋卽皇帝位。大赦。自謂獲傳國璽。改元元璽。追尊武宣王爲高祖。武宣皇帝。文明王爲太祖。文明皇帝。時晉使適至燕。雋謂曰。汝還。白汝天子。我承人乏。爲中國所推。已爲帝矣。改司州爲中州。建留臺於龍都。以玄菟太守乙逸爲尙書。專委留務。○秦丞相雄攻王擢于隴西。擢奔涼州。雄還屯隴東。張重華以擢爲征虜將軍。秦州刺史。特寵待之。九年。春。正月。乙卯朔。大赦。○二月。庚子。燕主雋立其妃可足渾氏爲皇后。世子曄爲皇太子。皆自龍城遷于薊宮。○張重華遣將軍張弘。宋修。會王擢。帥步騎萬五千伐秦。秦丞相雄。衛將軍菁。拒之。大敗。涼兵於龍黎。斬首萬二千級。虜張弘。宋修。王擢奔秦州。薛姑臧。秦主建。以領軍將軍苻願爲秦州刺史。鎮上邽。○三月。交州刺史阮敷。討林邑。破五十餘壘。○趙故衛尉常山李續。聚衆數千人。叛燕。○西域胡劉康。詐稱劉曜子。聚衆於平陽。自稱晉王。夏。四月。秦左衛將軍苻飛。討擒之。○以安西將軍謝尚爲尙書僕射。○五月。張重華復使王擢帥衆二萬伐上邽。秦州郡縣多應之。苻願戰敗。奔長安。重華因上疏請伐秦。詔進重華涼州牧。○燕主雋遣衛將軍恪。討李續。續降。遂東擊呂護於魯口。○六月。秦苻飛攻氏。王楊初於仇池。爲初所敗。丞相雄。平昌王菁。帥步騎四萬屯于隴東。秦主健。納張遇。繼母韓氏。爲昭儀。數於衆中謂遇曰。卿吾假子也。遇恥之。因雄等精兵在外。陰結關中豪傑。欲滅苻氏。以其地來降。秋。七月。遇與黃門劉晃。謀夜襲健。晃約開門以待之。會健使晃出外。晃固辭。不得已而行。遇不知。引兵至門。門不開。事覺。伏誅。於是孔持起池陽。劉珍。夏侯顯。起鄂。喬乘起雍。胡陽亦起。司竹。呼延壽起瀾城。衆數萬人。各遣使來請兵。○秦以左僕射魚遵爲司空。○九月。秦丞相雄。帥衆二萬還長安。遣平昌王菁。略定上洛。置荊州于豐陽川。以步兵校尉金城郭敬爲刺史。雄與清河王法。苻飛。分討孔持等。○姚襄屯歷陽。以燕秦方彊。未有北伐之志。乃夾淮。廣興屯田。訓厲將士。殷浩在壽春。惡其彊盛。囚襄諸弟。屢遣刺客刺之。刺客皆以情告襄。安北將

軍魏統卒。弟憬代領部曲。浩潛遣憬帥衆五千襲之。襄斬憬。并其衆。浩愈惡之。使龍驤將軍劉啓守譙。遷襄于梁國蠡臺。表授梁國內史。魏憬子弟數往來壽春。襄益疑懼。遣參軍權翼使於浩。浩曰。身與姚平北共爲王臣。休戚同之。平北每舉動自專。甚失輔車之理。豈所望也。翼曰。平北英姿絕世。擁兵數萬。遠歸晉室者。以朝廷有道。宰輔明哲故也。今將軍輕信讒慝之言。與平北有隙。愚謂猜嫌之端。在此不在彼也。浩曰。平北姿性豪邁。生殺自由。又縱小人掠奪吾馬。王臣之體。固若是乎。翼曰。平北歸命聖朝。豈肯妄殺無辜。姦宄之人。亦王法所不容也。殺之何害。浩曰。然則掠馬何也。翼曰。將軍謂平北。雄武難制。終將討之。故取馬。欲以自衛耳。浩笑曰。何至是也。初。浩陰遣人誘梁安雷弱兒。使殺秦主健。許以關右之任。弱兒僞許之。且請兵應接。浩聞張遇作亂。健兄子輔國將軍黃眉。自洛陽西奔。以爲安等事已成。冬十月。浩自壽春帥衆七萬北伐。欲進據洛陽。修復園陵。吏部尚書王彪之。上會稽王昱牋。以爲弱兒等容有詐僞。浩未應輕進。不從。浩以姚襄爲前驅。襄引兵北行。度浩將至。詐令部衆夜遁。陰伏甲以邀之。浩聞而追襄。至山桑。襄縱兵擊之。浩大敗。奔輜重。走保譙城。襄俘斬萬餘。悉收其資仗。使兄益守山桑。襄復如淮南。會稽王昱謂王彪之曰。君言無不中。張陳無以過也。○西平敬烈公張重華。有疾。子曜靈纔十歲。立爲世子。赦其境內。重華庶兄長寧侯祚。有勇力吏幹。而傾巧。善事內外。與重華嬖臣趙長。尉緝等。結異姓兄弟。都尉常據。請出之。重華曰。吾方以祚爲周公。使輔幼子。君是何言也。謝艾以枹罕之功。有寵於重華。左右疾之。譖艾出爲酒泉太守。艾上疏言。權倖用事。公室將危。乞聽臣入侍。且言。長寧侯祚及趙長等。將爲亂。宜盡逐之。十一月己未。重華疾甚。手令徵艾爲衛將軍。監中外諸軍事。輔政。祚長等。匿而不宣。丁卯。重華卒。世子曜靈立。稱大司馬。涼州刺史。西平公。趙長等。矯重華遺令。以長寧侯祚爲都督中外諸軍事。撫軍大將軍。輔政。○殷浩使部將劉啓。王彬之。攻姚益于山桑。姚襄自

淮南擊之。啓彬之皆敗死。襄進據芍陂。○趙末。樂陵朱禿。平原杜能。清河丁嬈。陽平孫元。各擁兵分據城邑。至是皆請降於燕。燕主雋以禿爲青州刺史。能爲平原太守。嬈爲立節將軍。元爲兗州刺史。各留撫其營。○秦丞相雄。克池陽。斬孔持。十二月。清河王法。苻飛。克鄆。斬劉珍。夏侯顯。○姚襄濟淮。屯盱眙。招掠流民。衆至七萬。分置守宰。勸課農桑。遣使詣建康。罪狀殷浩。并自陳謝。詔以謝尙都督江西淮南諸軍事。豫州刺史。鎮歷陽。○涼右長史趙長等。建議以爲時難未夷。宜立長君。曜靈冲幼。請立長寧侯祚。張祚先得幸於重華之母馬氏。馬氏許之。乃廢張曜靈。爲涼寧侯。立祚爲大都督。大將軍。涼州牧。涼公。祚既得志。恣爲淫虐。殺重華妃裴氏及謝艾。○燕衛將軍恪。撫軍將軍。左將軍彪等。屢薦給事黃門侍郎霸。有命世之才。宜總大任。是歲。燕主雋以霸爲使持節安東將軍。冀州刺史。鎮常山。十年春正月。張祚自稱涼王。改建興四十二年爲和平元年。立妻辛氏爲王后。子太和爲太子。封弟天錫爲長寧侯。子庭堅爲建康侯。曜靈弟玄靚爲涼武侯。置百官。郊祀天地。用天子禮樂。尙書馬岌。切諫。坐免官。郎中丁琪。復諫曰。我自武公以來。世守臣節。抱忠履謙。五十餘年。故能以一州之衆。抗舉世之虜。師徒歲起。民不告疲。殿下勳德未高於先公。而亟謀革命。臣未見其可也。彼士民所以用命。四遠所以歸嚮者。以吾能奉晉室故也。今而自尊。則中外離心。安能以一隅之地。拒天下之彊敵乎。祚大怒。斬之於闕下。○故魏降將周成。反。自宛襲洛陽。辛酉。河南太守戴施。奔鮪渚。○秦丞相雄。克司竹。胡陽。赤奔霸城。依呼延毒。○中軍將軍揚州刺史殷浩。連年北伐。師徒屢敗。糧械都盡。征西將軍桓溫。因朝野之怨。上疏數浩之罪。請廢之。朝廷不得已。免浩爲庶人。徙東陽之信安。自此內外大權。一歸於溫矣。浩少與溫齊名。而心競不相下。溫常輕之。浩既廢黜。雖愁怨不形。辭色常書空。作咄咄怪事字。久之。溫謂掾郝超曰。浩有德有言。嚮爲令僕。足以儀刑百揆。朝廷用違其才耳。將以浩爲尙書令。以

書告之。浩欣然許焉。將答書。慮有謬誤。開閉者十數。竟達空函。溫大怒。由是遂絕。卒於徙所。以前會稽內史王述爲揚州刺史。○二月己丑。桓溫統步騎四萬發江陵。水軍自襄陽入均口。至南鄉。步兵自浙川趣武關。命司馬勳出子午道以伐秦。○燕衛將軍恪圍魯口。三月拔之。呂護奔野王。遣弟奉表謝罪於燕。燕以護爲河內太守。○姚襄遣使降燕。○燕主雋以慕容評爲鎮南將軍。都督秦雍益梁江揚荆徐兗豫十州諸軍事。權鎮洛水。以慕容彊爲前鋒都督。督荆徐二州緣淮諸軍事。進據河南。○桓溫別將攻上洛。獲秦荊州刺史郭敬。進擊青泥。破之。司馬勳掠秦西鄙。涼秦州刺史王擢攻陳倉。以應溫。秦主健遣太子萇丞相雄。淮南王生。平昌王菁。北平王頌。帥衆五萬軍于峽柳。以拒溫。夏四月己亥。溫與秦兵戰于藍田。秦淮南王生單騎突陳。出入以十數。殺傷晉將士甚衆。溫督衆力戰。秦兵大敗。將軍桓冲又敗秦丞相雄于白鹿原。冲。溫之弟也。溫轉戰而前。壬寅。進至灊上。秦太子萇等退屯城南。秦主健與老弱六千固守長安小城。悉發精兵三萬遣大司馬雷弱兒等與萇合兵。以拒溫。三輔郡縣皆來降。溫撫諭居民。使安堵復業。民爭持牛酒迎勞。男女夾路觀之。耆老有垂泣者。曰。不圖今日復覩官軍。○秦丞相雄帥騎七千襲司馬勳於子午谷。破之。勳退。屯女媧堡。○戊申。燕主雋封撫軍將軍。爲襄陽王。左將軍彭爲武昌王。以衛將軍恪爲大司馬。侍中大都督。錄尚書事。封太原王。鎮南將軍評爲司徒。驃騎將軍封上庸王。封安東將軍霸爲吳王。左賢王友爲范陽王。散騎常侍厲爲下邳王。散騎常侍宜爲廬江王。寧北將軍度爲樂浪王。又封弟桓爲宜都王。逮爲臨賀王。徵爲河間王。龍爲歷陽王。納爲北海王。秀爲蘭陵王。嶽爲安豐王。德爲梁公。默爲始安公。僂爲南康公。子咸爲樂安王。亮爲勃海王。溫爲帶方王。涉爲漁陽王。暉爲中山王。以尚書令陽鶩爲司空。仍守尚書令。命冀州刺史吳王霸。徙治信都。初。燕王皝奇霸之才。故名之曰霸。將以爲世子。羣臣諫而止。然寵遇猶踰於世子。由是雋惡之。

以其嘗墜馬折齒。更名曰缺。尋以其應識文。更名曰垂。遷侍中。錄留臺事。徙鎮龍城。垂大得東北之和。雋愈惡之。復召還。○五月。江西流民郭敞等執陳留內史劉仕。降于姚襄。建康震駭。以吏部尚書周閔爲中軍將軍。屯中堂。豫州刺史謝尚自歷陽還。衛京師。固江備守。○王擢拔陳倉。殺秦扶風內史毛難。○北海王猛少好學。儻有大志。不屑細務。人皆輕之。猛悠然自得。隱居華陰。聞桓溫入關。被褐詣之。捫蝨而談。當世之務。旁若無人。溫異之。問曰。吾奉天子之命。將銳兵十萬。爲百姓除殘賊。而三秦豪傑。未有至者。何也。猛曰。公不遠數千里。深入敵境。今長安咫尺。而不度灊水。百姓未知公心。所以不至。溫嘿然。無以應。徐曰。江東無卿比也。乃署猛軍謀祭酒。溫與秦丞相雄等戰于白鹿原。溫兵不利。死者萬餘人。初。溫指秦麥以爲糧。既而秦人悉芟麥。清野以待之。溫軍乏食。六月丁丑。徙關中三千餘戶而歸。以王猛爲高官督護。欲與俱還。猛辭不就。呼延壽帥衆一萬從溫還。秦太子萇等隨溫擊之。比至潼關。溫軍屢敗。失亡以萬數。溫之屯灊上也。順陽太子薛珍勸溫徑進逼長安。溫弗從。珍以偏師獨濟。頗有所獲。及溫退。乃還。顯言於衆。自矜其勇。而咎溫之持重。溫殺之。○秦丞相雄擊司馬勳。擢於陳倉。勳奔漢中。擢奔略陽。○秦以光祿大夫趙俱爲洛陽刺史。鎮宜陽。○秦東海敬武王雄攻喬乘于雍。丙申。卒。秦主健哭之。嘔血曰。天不欲吾平四海邪。何奪吾元才之速也。贈魏王葬禮。依晉安平獻王故事。雄以佐命元勳。權侔人主。而謙恭汎愛。遵奉法度。故健重之。常曰。元才。吾之周公也。子堅襲爵。堅性至孝。幼有志度。博學多能。交結英豪。呂婆樓。彊汪及略陽梁平老。皆與之善。○燕樂陵太守慕容鈞。翰之子也。與青州刺史朱秃共治厭次。鈞自恃宗室。每陵侮秃。秃不勝忿。秋七月。襲鈞。殺之。南奔段龕。○秦太子萇攻喬乘于雍。八月。斬之。關中悉平。秦主健賞拒桓溫之功。以雷弱兒爲丞相。毛貴爲太傅。魚遵爲太尉。淮南王生爲中軍大將軍。平昌王菁爲司空。健勤於政事。數延公卿。咨講治道。承趙人苛虐。

奢侈之後。易以寬簡節儉。崇禮儒士。由是秦人悅之。○燕大調兵衆。因發詔之日。號曰丙戌舉。○九月。桓溫還。自伐秦。帝遣侍中黃門勞溫于襄陽。○或告燕黃門侍郎宋斌等謀奉冉智爲主而反。皆伏誅。斌。燭之子也。○秦太子萇之拒桓溫也。爲流矢所中。冬十月。卒。諡曰獻哀。○燕主雋如龍城。○桓溫之入關也。王擢遣使告涼王祚言。溫善用兵。其志難測。祚懼。且畏擢之叛。已遣人刺之。事泄。祚益懼。大發兵。聲言東伐。實欲西保敦煌。會溫還而止。旣而遣秦州刺史牛霸等帥兵三千擊擢。破之。十一月。擢帥衆降秦。秦以擢爲尙書。以上將軍啖鐵爲秦州刺史。○秦主健叔父武都王安。自晉還。爲姚襄所虜。以爲洛州刺史。十二月。安亡歸秦。健以安爲大司馬。驃騎大將軍。并州刺史。鎮蒲阪。○是歲。秦大飢。米一升。直布一匹。

資治通鑑卷第九十九

資治通鑑卷第一百

晉紀二十二

孝宗穆皇帝中之下

永和十一年春正月。故仇池公楊毅弟宋奴。使其姑子梁式王。刺殺楊初。初子國。誅式王。及宋奴。自立爲仇池公。桓溫表國爲鎮北將軍。秦州刺史。○二月。秦大蝗。百草無遺。牛馬相噉毛。○夏四月。燕主雋。自和龍還。薊。先是。幽冀之人。以雋爲東遷。互相驚擾。所在屯結。羣臣請討之。雋曰。羣小。以朕東巡。故相惑爲亂耳。今朕旣至。尋當自定。不足討也。○蘭陵太守孫黑。濟北太守高柱。建興太守高窳。及秦河內太守王會。黎陽太守韓高。皆以郡降燕。○秦淮南王生。幼無一目。性粗暴。其祖父洪。嘗戲之曰。吾聞瞎兒一淚信乎。生怒。引佩刀自刺。出血曰。此亦一淚也。洪大驚。鞭之。生曰。性耐刀。槩不堪鞭。極。洪謂其父健曰。此兒狂悖。宜早除之。不然。必破人家。健將殺之。健弟雄。止之曰。兒長。自應改。何可遽爾。及長。力舉千鈞。手格猛獸。走及奔馬。擊刺騎射。冠絕一時。獻哀太子卒。彊后欲立少子晉王柳。秦主健。以讖文有三羊五眼。乃立生爲太子。以司空平昌王菁爲太尉。尙書令王墮爲司空。司隸校尉梁楞爲尙書令。○姚襄所部。多勸襄北還。襄從之。五月。襄攻冠軍將軍高季於外黃。會季卒。襄進據許昌。○六月。丙子。秦主健。寢疾。庚辰。平昌公菁。勒兵入東宮。將殺太子生。而自立。時生侍疾西宮。菁以爲健已卒。攻東掖門。健聞變。登端門。陳兵自衛。衆見健惶懼。皆捨仗逃散。健執菁。數而殺之。

之。餘無所問。壬午。以大司馬武都王安都督中外諸軍事。甲申。健引太師魚遵。丞相雷弱兒。太傅毛貴。司空王墮。尚書令梁楞。左僕射梁安。右僕射段純。吏部尚書辛牢等。受遺詔。輔政。健謂太子生曰。六夷酋帥。及大臣執權者。若不從汝命。宜漸除之。

臣光曰。顧命大臣。所以輔導嗣子。爲之羽翼也。爲之羽翼。而教使翦之。能無斃乎。知其不忠。則勿任而已矣。任以大柄。又從而猜之。鮮有不召亂者也。

乙酉。健卒。諡曰景明皇帝。廟號高祖。丙戌。太子生卽位。大赦。改元壽光。羣臣奏曰。未踰年而改元。非禮也。生怒。窮推議主。得右僕射段純。殺之。○秋。七月。以吏部尚書周閔爲左僕射。或告會稽王昱曰。武陵王第中。大修器仗。將謀非常。昱以告太常王彪之。彪之曰。武陵王之志。盡於馳騁畋獵而已耳。深願靜之。以安異同之論。勿復以爲言。昱善之。○秦主生。尊母彊氏曰皇太后。立妃梁氏爲皇后。梁氏。安之女也。以其嬖臣太子門大夫南安趙詔爲右僕射。太子舍人趙誨爲中護軍。著作郎董榮爲尚書。○涼王祚。淫虐無道。上下怨憤。祚惡河州刺史張瓘之彊。遣張掖太守索孚。代瓘守枹罕。使瓘討叛胡。又遣其將易揣。張玲。帥步騎萬三千。以襲瓘。張掖人王鸞。知術數。言於祚曰。此軍出。必不還。涼國將危。并陳祚三不道。祚大怒。以鸞爲妖言。斬以狗鸞。臨刑曰。我死。軍敗於外。王死於內。必矣。祚族滅之。瓘聞之。斬孚。起兵擊祚。傳檄州郡。廢祚。以侯還第。復立涼寧侯曜靈。易揣。張玲。軍始濟河。瓘擊破之。揣等單騎奔還。瓘軍躡之。姑臧。振恐。驍騎將軍敦煌。宋混。兄修。與祚有隙。懼禍。八月。混與弟澄。西走。合衆萬餘人。以應瓘。還向姑臧。祚遣楊秋。胡。將曜靈於東苑。拉其腰而殺之。埋於沙陀。諡曰哀公。○秦主生。封衛大將軍。黃眉爲廣平王。前將軍飛爲新興王。皆素所善也。徵大司馬武都王安。領太尉。以晉王柳爲征東大將軍。并州牧。鎮蒲阪。魏王度爲鎮東大將軍。豫州牧。鎮陝城。中書監胡文。中書令王魚。言於生曰。比有星孛于大角。熒惑入東井。大角。帝坐。東井。秦分。於

占。不出三年。國有大喪。大臣戮死。願陛下。修德以禳之。生曰。皇后與朕。對臨天下。可以應大喪矣。毛太傅。梁車騎。梁僕射。受遺輔政。可以應大臣矣。九月。生殺梁后及毛貴。梁楞。梁安。貴。后之舅也。右僕射趙詔。中護軍趙誨。皆洛州刺史俱之從弟也。有寵於生。乃以俱爲尚書令。俱固辭以疾。謂詔誨曰。汝等。不復顧祖宗。欲爲滅門之事。毛梁何罪。而誅之。吾何功。而代之。汝等可自爲。吾其死矣。遂以憂卒。○涼宋混。軍于武始大澤。爲曜靈發哀。閏月。混軍至姑臧。涼王祚。收張瓘弟琚。及子嵩。將殺之。琚嵩聞之。募市人數百。揚言。張祚無道。我兄大軍。已至城東。敢舉手者。誅三族。遂開西門。納混兵。領軍趙長等。懼罪入閣。呼張重華母馬氏。出殿。立涼武侯玄靚爲主。易揣等。引兵入殿。收長等。殺之。祚案劍殿上。大呼叱左右。力戰。祚素失衆心。莫肯爲之鬪者。遂爲兵人所殺。混等梟其首。宣示中外。暴尸道左。城內咸稱萬歲。以庶人禮葬之。并殺其二子混琚。上玄靚爲大將軍。涼州牧。西平公。赦境內。復稱建興四十四年。時玄靚始七歲。張瓘至姑臧。推玄靚爲涼王。自爲使持節都督中外諸軍事。尚書令。涼州牧。張掖郡公。以宋混爲尚書僕射。隴西人李儼。據郡不受。瓘命。用江東年號。衆多歸之。瓘遣其將牛霸。討之。未至。西平人衛綝。亦據郡叛。霸兵潰。奔還。瓘遣弟琚。擊綝。敗之。酒泉太守馬基。起兵以應綝。瓘遣司馬張姚。王國。擊斬之。○冬。十月。以豫州刺史謝尚督并冀幽三州。鎮壽春。○鎮北將軍段龕。與燕主雋書。抗中表之儀。非其稱帝。雋怒。十一月。以太原王恪爲大都督。撫軍將軍。陽鶩副之。以擊龕。○秦以辛牢守尚書令。趙詔爲左僕射。尚書董榮爲右僕射。中護軍趙誨爲司隸校尉。○十二月。高句麗王釗。遣使詣燕。納質修貢。以請其母。燕主雋許之。遣殿中將軍刁龕。送釗母周氏歸其國。以釗爲征東大將軍。營州刺史。封樂浪公。王如故。○上黨人馮騫。逐燕太守段剛。據安民城。自稱太守。遣使來降。○秦丞相雷弱兒。性剛直。以趙詔董榮亂政。每公言於朝。見之。常切齒。詔榮譖之於秦主生。生殺弱兒。及其九子二十

七孫於是諸羌皆有離心。生雖諒陰，遊飲自若，彎弓露刃，以見朝臣，錘鉅鋸鑿，可以害人之具，備置左右，卽位未幾，后妃公卿已下，至於僕隸，凡殺五百餘人，截脛拉脅，鋸項刳胎者，比比有之。○燕主雋以段龕方彊，謂太原王恪曰：「若龕遣軍拒河，不得渡者，可直取呂護而還，恪分遣輕軍，先至河上，具舟楫，以觀龕志趣。」龕弟羆驍勇有智謀，言於龕曰：「慕容恪善用兵，加之衆盛，若聽其濟河，進至城下，恐雖乞降，不可得也。請兄固守，羆帥精銳拒之於河，幸而戰捷，兄帥大衆繼之，必有大功。若其不捷，不若早降，猶不失爲千戶侯也。」龕不從，羆固請不已，龕怒殺之。

十二年春正月，燕太原王恪引兵濟河，未至廣固百餘里，段龕帥衆三萬逆戰。丙申，恪大破龕於淄水，執其弟欽，斬右長史袁範等，齊王友辟閭蔚被創，恪聞其賢，遣人求之，蔚已死。士卒降者數千人，龕脫走，還城固守，恪進軍圍之。○秦司空王墮性剛峻，右僕射董榮侍中強國，皆以佞幸進，墮疾之如讐，每朝見榮，未嘗與之言，或謂墮曰：「董君貴幸無比，公宜小降意接之。」墮曰：「董龍是何鷄狗，而令國士與之言乎？」會有天變，榮與強國言於秦主生曰：「今天譴甚重，宜以貴臣應之。」生曰：「貴臣惟有大司馬及司空耳。」榮曰：「大司馬國之懿親，不可殺也，乃殺王墮，將刑榮，謂之曰：「今日復敢比董龍於鷄狗乎？」墮瞋目叱之，洛州刺史杜郁墮之甥也，左僕射趙韶惡之，譖於生，以爲貳於晉而殺之。壬戌，生宴羣臣於太極殿，以尙書令辛牢爲酒監，酒酣，生怒曰：「何不彊入酒，而猶有坐者？」引弓射牢，殺之。羣臣懼，莫敢不醉，偃仆失冠，生乃悅。○匈奴大人劉務桓卒，弟閼頭立，將貳於代。二月，代王什翼犍引兵西巡，臨河，閼頭懼，請降。○燕太原王恪招撫段龕諸城，己丑，龕所署徐州刺史陽都公王騰舉衆降，恪命騰以故職還屯陽都。○秦征東大將軍晉王柳遣參軍閻負、梁殊使於涼，以書說涼王玄靚，負殊至，姑臧，張耀見之曰：「我晉臣也，無境外之交，二君何以來辱？」負殊曰：「晉王與君隣藩，雖山河阻

絕，風通道會，故來修好，君何怪焉？」耀曰：「吾盡忠事晉，於今六世矣，若與苻征東通使，是上違先君之志，下墮士民之節，其可乎？」負殊曰：「晉室衰微，墜失天命，固已久矣，是以涼之二王，北面二趙，唯知機也。今大秦威德方盛，涼王若欲自帝河右，則非秦之敵，欲以小事大，則曷若捨晉事秦，長保福祿乎？」耀曰：「中州好食言，嚮者石氏使車適返，而戎騎已至，吾不敢信也。負殊曰：自古帝王居中州者，政化各殊，趙爲奸詐，秦敦信義，豈得一槩待之乎？張先、楊初皆阻兵不服，先帝討而擒之，赦其罪戾，寵以爵秩，固非石氏之比也。」耀曰：「必如君言，秦之威德無敵，何不先取江南，則天下盡爲秦有，征東何辱命焉？」負殊曰：「江南文身之俗，道汚先叛，化隆後服，主上以爲江南必須兵服，河右可以義懷，故遣行人先申大好，若君不違天命，則江南得延數年之命，而河右恐非君之土也。」耀曰：「我跨據三州，帶甲十萬，西苞葱嶺，東距大河，伐人有餘，況於自守，何畏於秦？」負殊曰：「貴州山河之固，孰若殺函，民物之饒，孰若秦雍，杜洪、張琚、因、趙氏成資，兵彊財富，有囊括關中，席卷四海之志，先帝戎旗西指，水消雲散，旬月之間，不覺易主，主上若以貴州不服，赫然奮怒，控弦百萬，鼓行而西，未知貴州將何以待之？」耀笑曰：「茲事當決之於王，非身所了。」負殊曰：「涼王雖英睿，然年在幼沖，君居伊霍之任，國家安危繫君一舉耳，耀懼，乃以玄靚之命，遣使稱藩於秦，秦因玄靚所稱官爵而授之。○將軍劉度攻秦青州刺史王朗於盧氏，燕將軍慕輿、長卿入軹關，攻秦幽州刺史彊，哲于裴氏堡，秦主生遣前將軍新興王飛、拒度、建節將軍鄧羌、拒長卿、飛未至而度退，羌與長卿戰，大破之，獲長卿及甲首二千餘級。○桓溫請移都洛陽，修復園陵，章十餘上，不許，拜溫征討大都督，督司冀二州諸軍事，以討姚襄。○三月，秦主生發三輔民治渭橋，金紫光祿大夫程肱諫以爲妨農，生殺之。○夏四月，長安大風，發屋拔木，秦宮中驚擾，或稱賊至，宮門盡閉，五日乃止。秦主生推告賊者，刳出其心，左光祿大夫強平諫曰：「天降災異，陛下當愛民事神，緩刑崇

德以應之。乃可弭也。生怒，鑿其頂而殺之。衛將軍廣平王黃眉、前將軍新興王飛、建節將軍鄧羌，以平太后之弟，叩頭固諫，生弗聽。出黃眉爲左馮翊，飛爲右扶風，羌行咸陽太守，猶惜其驍勇，故皆弗殺。五月，太后彊氏以憂恨卒。諡曰明德。○姚襄自許昌攻周成于洛陽。○六月，秦主生下詔曰：朕受皇天之命，君臨萬邦，嗣統以來，有何不善，而謗讟之音，扇滿天下，殺不過千，而謂之殘虐，行者比肩，未足爲希。方當峻刑極罰，復如朕何。自去春以來，潼關之西，至於長安，虎狼爲暴，晝則繼道，夜則發屋，不食六畜，專務食人。凡殺七百餘人，民廢耕桑，相聚邑居，而爲害不息。秋七月，秦羣臣奏請禳災。生曰：野獸飢則食人，飽當自止，何禳之有。且天豈不愛民哉。正以犯罪者多，故助朕殺之耳。○丙子，燕獻懷太子曄卒。○姚襄攻洛陽，踰月不克。長史王亮諫曰：明公英名蓋世，兵彊民附，今頓兵堅城之下，力屈威挫，或爲它寇所乘。此危亡之道也。襄不從。桓溫自江陵北伐，遣督護高武據魯陽，輔國將軍戴施屯河上，自帥大兵繼進，與寮屬登平乘樓望中原，歎曰：遂使神州陸沈，百年丘墟，王夷甫諸人，不得不任其責。記室陳郡袁宏曰：運有興廢，豈必諸人之過。溫作色曰：昔劉景升有千斤大牛，噉芻豆，十倍於常牛，負重致遠，曾不若一羸牸。魏武入荊州，殺以享軍，八月己亥，溫至伊水，姚襄撤圍拒之。匿精銳於水北林中，遣使謂溫曰：承親帥王師以來，襄今奉身歸命，願救三軍小却。當拜伏道左。溫曰：我自開復中原，展敬山陵，無豫君事，欲來者便前，相見在近，無煩使人。襄拒水而戰，溫結陳而前，親被甲督戰，襄衆大敗，死者數千人，襄帥麾下數千騎奔于洛陽北山。其夜，民棄妻子隨襄者五千餘人，襄勇而愛人，雖戰屢敗，民知襄所在，輒扶老携幼，奔馳而赴之。溫軍中傳言：襄病創已死，許洛士女爲溫所得者，無不北望而泣。襄西走，溫追之不及。弘農楊亮自襄所來奔，溫問襄之爲人，亮曰：襄神明器宇，孫策之儔，而雄武過之。周成帥衆出降，溫屯故太極殿前，既而徙屯金墉城。己丑，謁諸陵，有毀壞者，修復之，各置陵令，表鎮

西將軍謝尚都督司州諸軍事，鎮洛陽，以尙未至，留潁川太守毛穆之督護陳午，河南太守戴施以二千人戍洛陽，衛山陵，徙降民三千餘家於江漢之間，執周成以歸。姚襄奔平陽，秦并州刺史尹赤復以衆降襄，襄遂據襄陵。秦大將軍張平擊之，襄爲平所敗，乃與平約爲兄弟，各罷兵。○段龕遣其屬段蘊來求救，詔徐州刺史荀羨將兵隨蘊救之。羨至琅邪，憚燕兵之彊，不敢進。王騰寇鄆城，羨進攻陽都，會霖雨，城壞，獲騰斬之。○冬十月癸巳朔，日有食之。○秦主生夜食棗多，且有疾，召太醫令程延使診之。延曰：陛下無它疾，食棗多耳。生怒曰：汝非聖人，安知吾食棗，遂斬之。○燕大司馬恪圍段龕於廣固，諸將請急攻之。恪曰：用兵之勢，有宜緩者，有宜急者，不可不察。若彼我勢敵，外有彊援，恐有腹背之患，則攻之不可不急。若我彊彼弱，無援於外，力足制之者，當羈縻守之，以待其斃。兵法：十圍五攻，正謂此也。龕兵尙衆，未有離心，濟南之戰，非不銳也，但龕用之無術，以取敗耳。今憑阻堅城，上下戮力，我盡銳攻之，計數日可拔，然殺吾士卒必多矣。自有事中原，兵不暫息，吾每念之夜而忘寐，奈何輕用其死乎。要在取之，不必求功之速也。諸將皆曰：非所及也。軍中聞之，人人感悅。於是爲高牆深塹，以守之。齊人爭運糧，以饋燕軍，龕嬰城自守，樵采路絕。城中人相食，龕悉衆出戰，格破之於圍裏，先分騎屯諸門，龕身自衝盪，僅而入。餘兵皆沒。於是城中氣沮，莫有固志。十一月丙子，龕面縛出降，并執朱秃送薊。恪撫安新民，悉定齊地。徙鮮卑胡羯三千餘戶于薊。燕主雋具朱秃五刑，以段龕爲伏順將軍，恪留慕容廆鎮廣固，以尙書左丞鞠殷爲東萊太守，章武太守鮮于亮爲齊郡太守，乃還。殷彭之子也。彭時爲燕大長秋，以書戒殷曰：王彌曹巖必有子孫，汝善招撫，勿尋舊怨，以長亂源。殷推求得彌從子立，巖孫巖於山中，請與相見，深結意分。彭復遣使遺以車馬衣服，郡民由是大和。荀羨聞龕已敗，退還下邳，留將軍諸葛攸、高平太守劉莊將三千人守琅邪，參軍譙國戴逵等將二千人守泰山，燕將慕容蘭屯

汴城。羨擊斬之。○詔遣兼司空散騎常侍車灌等持節如洛陽。修五陵。十二月庚戌。帝及羣臣皆服。臨於太極殿三日。○司州都督謝尚以疾不行。以丹陽尹王胡之代之。胡之。廙之子也。○是歲。仇池公楊國從父俊殺國自立。以俊爲仇池公。國子安奔秦。
升平元年春正月壬戌朔。帝加元服。太后詔歸政。大赦。改元。太后徙居崇德宮。○燕主雋徵幽州刺史乙逸爲左光祿大夫。逸夫婦共載鹿車。子璋從。數十騎服飾甚麗。奉迎於道。逸大怒。閉車不與言。到城深責之。璋猶不悛。逸常憂其敗。而璋更被擢任。歷中書令。御史中丞。逸乃歎曰。吾少自修立。克己守道。僅能免罪。璋不治節儉。專爲奢縱。而更居清顯。此豈惟璋之忝幸。實時世之陵夷也。○二月癸丑。燕主雋立其子中山王暉爲太子。大赦。改元光壽。○太白入東井。秦有司奏。太白罰星。東井秦分。必有暴兵。起京師。秦主生曰。太白入井。自爲渴耳。何所怪乎。○姚襄將圖關中。夏四月。自北屈進屯杏城。遣輔國將軍姚蘭略地敷城。曜武將軍姚益生。左將軍王欽盧各將兵。招納諸羌胡。蘭襄之從兄。益生襄之兄也。羌胡及秦民歸之者五萬餘戶。秦將苻飛龍擊蘭。擒之。襄引兵進據黃落。秦主生遣衛大將軍廣平王黃眉。平北將軍苻道龍驤將軍東海王堅。建節將軍鄧羌將步騎萬五千以禦之。襄堅壁不戰。羌謂黃眉曰。襄爲桓溫張平所敗。銳氣喪矣。然其爲人彊狠。若鼓譟揚旗。直壓其壘。彼必忿恚而出。可一戰擒也。五月。羌帥騎三千壓其壘門而陳。襄怒。悉衆出戰。羌陽不勝而走。襄追之。至于三原。羌廻騎擊之。黃眉等以大衆繼至。襄兵大敗。襄所乘駿馬曰鰲眉。騎馬倒。秦兵擒而斬之。弟萇帥其衆降。襄載其父弋仲之柩。在軍中。秦主生以王禮葬弋仲於孤磐。亦以公禮葬襄。黃眉等還長安。生不之賞。數衆辱黃眉。黃眉怒。謀弑生。發覺。伏誅。事連王公親戚。死者甚衆。○戊寅。燕主雋遣撫軍將軍垂。中軍將軍虔。護軍將軍平熙。帥步騎八萬。攻敕勒於塞北。大破之。俘斬十餘萬。獲馬十三萬匹。牛羊億萬頭。○匈奴單于賀賴頭帥部落三萬五千口降。

燕。燕人處之代郡平舒城。○秦主生夢大魚食蒲。又長安謠曰。東海大魚化爲龍。男皆爲王女。爲公。生乃誅太師錄尚書事廣甯公魚遵。并其七子十孫。金紫光祿大夫牛夷懼禍。求爲荊州生不許。以爲中軍將軍。引見。調之曰。牛性遲重。善持轆轤。雖無驥足。動負百石。夷曰。雖服大車。未經峻壁。願試重載。乃知勳績。生笑曰。何其快也。公嫌所載輕乎。朕將以魚公爵位。處公夷懼。歸而自殺。生飲酒。無晝夜。或連月不出。奏事不省。往往寢落。或醉中決事。左右因以爲姦。賞罰無準。或至申酉。乃出視朝。乘醉多所殺戮。自以眇目。諱言殘缺。偏隻。少無。不具之類。誤犯而死者不可勝數。好生剝牛羊驢馬。燔雞豚鵝鴨。縱之殿前。數十爲羣。或剝人面皮。使之歌舞。臨觀以爲樂。嘗問左右曰。自吾臨天下。汝外間何所聞。或對曰。聖明宰世。賞罰明當。天下唯歌太平。怒曰。汝媚我也。引而斬之。它日又問。或對曰。陛下刑罰微過。又怒曰。汝謗我也。亦斬之。勳舊親戚。誅之殆盡。羣臣得保一日。如度十年。東海王堅素有時譽。與故姚襄參軍薛讚權翼善。讚翼密說堅曰。主上猜忍暴虐。中外離心。方今宜主秦祀者。非殿下而誰。願早爲計。勿使他姓得之。堅以問尙書呂婆樓。婆樓曰。僕刀鏹上人耳。不足以辦大事。僕里舍有王猛。其人謀略不世出。殿下宜請而咨之。堅因婆樓以招猛。一見如舊友。語及時事。堅大悅。自謂如劉玄德之遇諸葛孔明也。六月。太史令康權言於秦主生曰。昨夜三月竝出。孛星入太微。連東井。自去月上旬。沈陰不雨。以至於今。將有下人謀上之禍。生怒。以爲妖言。撲殺之。特進領御史中丞梁平等。謂堅曰。主上失德。上下嗷嗷。人懷異志。燕晉二方。伺隙而動。恐禍發之日。家國俱亡。此殿下之事也。宜早圖之。堅心然之。畏生趨勇。未敢發。生夜對侍婢言曰。阿法兄弟。亦不可信。明當除之。婢以告堅。及堅兄清河王法。法與梁平等。及特進光祿大夫彊汪。帥壯士數百。潛入雲龍門。堅與呂婆樓帥麾下三百人。鼓譟繼進。宿衛將士皆舍仗歸堅。生猶醉寐。堅兵至。生驚問左右曰。此輩何人。左右曰。賊也。生曰。何不拜之。堅兵皆笑。

生又大言。何不速拜。不拜者斬之。堅兵引生置別室。廢為越王。尋殺之。諡曰厲王。堅以位讓法。法曰。汝嫡嗣。且賢。宜立。堅曰。兄年長。宜立。堅母苟氏泣謂羣臣曰。社稷事重。小兒自知不能。它日有悔。失在諸君。羣臣皆頓首。請立堅。堅乃去。皇帝之號。稱大秦天王。即位於太極殿。誅生倖臣中書監董榮。左僕射趙韶等二十餘人。大赦。改元永興。追尊父雄為文桓皇帝。母苟氏為皇太后。妃苟氏為皇后。世子宏為皇太子。以清河王法為都督中外諸軍事。丞相錄尚書事。東海公諸王皆降爵為公。以從祖右光祿大夫永安公侯為太尉。晉公柳為車騎大將軍。尚書令封弟融為陽平公。雙為河南公。子丕為長樂公。暉為平原公。熙為廣平公。叡為鉅鹿公。以漢陽李威為左僕射。梁平老為右僕射。彊汪為領軍將軍。呂婆樓為司隸校尉。王猛為中書侍郎。融好文學。明辨過人。耳聞則誦。過目不忘。力敵百夫。善騎射。擊刺少有合譽。堅愛重之。常與共議國事。融綜內外。刑政脩明。薦才揚滯。補益弘多。丕亦有文武才幹。治民斷獄。皆亞於融。威。苟太后之姑子也。素與魏王雄友善。生屢欲殺堅。賴威營救得免。威得幸於苟太后。堅事之如父。威知王猛之賢。常勸堅以國事任之。堅謂猛曰。李公知君猶鮑叔牙之知管仲也。猛以兄事之。燕主雋殺段龕。阮其徒三千餘人。秋七月。秦大將軍冀州牧張平遣使請降。拜并州刺史。八月丁未。立皇后何氏。后故散騎侍郎廬江何準之女也。禮如咸康而不賀。秦王堅以權翼為給事黃門侍郎。薛讚為中書侍郎。與王猛並掌機密。九月。追復太師魚遵等官。以禮改葬。子孫存者皆隨才擢敘。張平據新興。雁門。西河。太原。上黨。上郡之地。壁壘三百餘。夷夏十餘萬戶。拜置征鎮。欲與燕秦為敵國。冬十月。平寇略秦境。秦王堅以晉公柳都督并冀州諸軍事。加并州牧。鎮蒲阪。以禦之。十一月。癸酉。燕主雋自薊徙都鄴。秦太后苟氏遊宣明臺。見東海公法之第門。車馬輻湊。恐終不利於秦王堅。乃與李威謀。賜法死。堅與法訣於東堂。慟哭。歐血。諡曰獻哀公。封其子陽為東海公。數為清河

公。○十二月乙巳。燕主雋入鄴宮。大赦。復作銅雀臺。○以太常王彪之為左僕射。○秦王堅行至尚書。以文案不治。免左丞程卓官。以王猛代之。堅舉異材。修廢職。課農桑。恤困窮。禮百神。立學校。旌節義。繼絕世。秦民大悅。
二年春正月。司徒昱稽首歸政。帝不許。○初。馮騫既以上黨來降。又附於張平。又自歸於燕。既而復叛。燕二月。燕司徒上庸王評討之。不克。○秦王堅自將討張平。以鄧羌為前鋒。督護帥騎五千。軍于汾上。平使養子蚝禦之。蚝多力。趨捷。能曳牛却走。城無高下。皆可超越。與羌相持旬餘。莫能相勝。三月。堅至銅壁。平盡眾出戰。蚝單馬大呼。出入秦陳者四五。堅募人生致之。鷹揚將軍呂光刺蚝中之。鄧羌擒蚝以獻。平眾大潰。平懼請降。堅拜平右將軍。以蚝為虎賁中郎將。蚝本姓弓。上黨人也。堅寵待甚厚。常置左右。秦人稱鄧羌張蚝皆萬人敵。光。婆樓之子也。堅徙張平部民三千餘戶于長安。○甲戌。燕主雋遣領軍將軍慕輿根將兵助司徒評攻馮騫。根欲急攻之。評曰。騫壁堅。不如緩之。根曰。不然。公至城下。經月未嘗交鋒。賊謂國家力止於此。遂相固結。冀幸萬一。今根兵初至。形勢方振。賊眾恐懼。皆有離心。計慮未定。從而攻之。無不克者。遂急攻之。騫與其黨果相猜忌。騫奔野王。據呂護其眾盡降。○夏四月。秦王堅如雍。祠五時。六月。如河東。祠后土。○秋八月。豫州刺史謝奕卒。奕之兄也。司徒昱以建武將軍桓雲代之。雲溫之弟也。訪於僕射王彪之。彪之曰。雲非不才。然溫居上流。已割天下之半。其弟復處西藩。兵權萃於一門。非深根固蒂之宜。人才非可豫量。但當令不與殿軍事。豫州刺史王羲之與桓溫牋曰。謝萬才流經通。使之處廊廟。固是後來之秀。今以之俯順荒餘。近是違才易務矣。又遣萬書曰。以君邁往不屑之韻。而俯同羣碎。誠難為意也。然所謂通識。正當隨事行藏耳。願君每與士卒之下者同甘苦。則盡善矣。萬不能用。徐兗二州刺

史荀羨有疾。以御史中丞郗曇爲軍司。曇鑿之子也。○九月庚辰。秦王堅還長安。以太尉侯守尙書令。於是秦大旱。堅減膳徹樂。命后妃以下悉去羅紈。開山澤之利。公私共之。息兵養民。旱不爲災。王猛日親幸用事。宗親勳舊多疾之。特進姑臧侯樊世。本氏豪。佐秦主健定關中。謂猛曰。吾輩耕之。君食之邪。猛曰。非徒使君耕之。又將使君炊之。世大怒曰。要當懸汝頭於長安城門。不然。吾不處世。猛以白堅。堅曰。必殺此老氏。然後百寮可肅。會世入言事。與猛爭論於堅前。世欲起擊猛。堅怒。斬之。於是羣臣見猛皆屏息。○趙之亡也。其將張平。李歷。高昌。皆遣使降燕。已而降晉。又降秦。各受爵位。欲中立以自固。燕主雋使司徒評討張平於并州。司空陽鶩討高昌於東燕。樂安王臧討李歷於濮陽。鶩攻昌別將於黎陽。不拔。歷奔滎陽。其衆皆降。并州壁壘百餘。降於燕。雋以右僕射悅綰爲并州刺史。以撫之。平所署征西將軍諸葛驥等帥壁壘百三十八降於燕。雋皆復其官爵。平帥衆三千奔平陽。復請降於燕。○冬十月。泰山太守諸葛攸攻燕東郡。入武陽。燕主雋遣大司馬恪統陽鶩及樂安王臧之兵以擊之。攸敗。走還泰山。恪遂渡河。略地河南。分置守宰。○燕主雋欲經營秦晉。十二月。令州郡校實見丁。戶留一丁。餘悉發爲兵。欲使步卒滿一百五十萬。期來春大集洛陽。武邑劉貴。上書極陳。百姓彫弊。發兵非法。必致土崩之變。雋善之。乃更令三五發兵。寬其期日。以來冬集鄴時。燕調發繁數。官司各遣使者。道路旁午。郡縣苦之。太尉領中書監封奕。請自今非軍期。嚴急不得遣使。自餘賦發。皆責成州郡。其羣司所遣彈督在外者。一切攝還。雋從之。○燕泰山太守賈堅。屯山在荀羨引兵擊之。堅所將纔七百餘人。羨兵十倍於堅。堅將出戰。諸將皆曰。衆少。不如固守。堅曰。固守亦不能免。不如戰也。遂出戰。身先士卒。殺羨兵千餘人。復還入城。羨進攻之。堅歎曰。吾自結髮。志立功名。而每值窮厄。豈非命乎。與其屈辱而生。不若守節而死。乃謂將士曰。今危困。計無所設。卿等可去。吾將止死。將士皆泣曰。府君不出。衆亦俱死耳。

乃扶堅上馬。堅曰。我如欲逃。必不相遺。今當爲卿曹決鬪。若勢不能支。卿等可趣去。勿復顧我也。乃開門直出。羨兵四集。堅立馬橋上。左右射之。皆應弦而倒。羨兵衆多。從塹下斫橋。堅人馬俱陷。生擒之。遂拔山在。羨謂堅曰。君父祖世爲晉臣。奈何背本不降。堅曰。晉自棄中華。非吾叛也。民既無主。彊則託命。既已事人。安可改節。吾束修自立。涉趙歷燕。未嘗易志。君何忽忽。相謂降乎。羨復責之。堅怒曰。堅子兒女。御乃公。羨怒。執置雨中。數日。堅憤惋而卒。燕青州刺史慕容廆遣司馬悅明救泰山。羨兵大敗。燕復取山在。燕主雋以賈堅子活爲任城太守。荀羨疾篤。徵還。以郗曇爲北中郎將。都督徐兗青冀幽五州諸軍事。徐兗二州刺史。鎮下邳。○燕吳王垂娶段末柸女。生子令寶。段氏才高性烈。自以貴姓。不尊事。可足渾后。可足渾氏銜之。燕主雋素不快於垂。中常侍涅皓因希旨告段氏。及吳國典書令遼東高弼。爲巫蠱欲以連汗垂。雋收段氏及弼。下大長秋廷尉考驗。段氏及弼志氣確然。終無撓辭。掠治日急。垂惑之。私使人謂段氏曰。人生會當一死。何堪楚毒如此。不若引服。段氏歎曰。吾豈愛死者耶。若自誣以惡逆。上辱祖宗。下累於王。固不爲也。辯答益明。故垂得免禍。而段氏竟死於獄中。出垂爲平州刺史。鎮遼東。垂以段氏女弟爲繼室。可足渾氏黜之。以其妹長安君妻垂。垂不悅。由是益惡之。○匈奴劉閼頭部落多叛。懼而東走。乘水度河。半度而水解。後衆悉歸。劉悉勿祈。閼頭奔代。悉勿祈務桓之子也。

三年春二月。燕主雋立子泓爲濟北王。冲爲中山王。○燕人殺段勤。勤弟思來奔。○燕主雋宴羣臣于蒲池。語及周太子晉。漕然流涕曰。才子難得。自景先之亡。吾鬢髮中白。卿等謂景先何如。司徒左長史李績對曰。獻懷太子之在東宮。臣爲中庶子。太子志業。敢不知之。太子大德有八。至孝一也。聰敏二也。沈毅三也。疾諛喜直四也。好學五也。多藝六也。謙恭七也。好施八也。雋曰。卿譽之雖過。然此兒在。吾死無憂矣。景茂何如。時太子暉侍側。績曰。皇太子天

資岐巖。雖八德已聞。而二闕未補。好遊畋。而樂絲竹。此其所以損也。雋顧謂暉曰。伯陽之言。藥石之惠也。汝宜誠之。暉甚不平。雋夢趙王虎。齧其臂。乃發虎墓。求尸不獲。購以百金。鄴女子李菟。知而告之。得尸於東明觀下。僵而不腐。雋踢而罵之曰。死胡。何敢怖生天子。數其殘暴之罪。而鞭之。投於漳水。尸倚橋柱。不流。及秦滅燕。王猛爲之誅李菟。收而葬之。○秦平羌護軍高離。據略陽叛。永安威公侯討之。未克而卒。夏四月。驍騎將軍鄧羌。秦州刺史啖鐵。討平之。○匈奴劉悉勿祈卒。弟衛辰。殺其子而代之。○五月。秦王堅。如河東。六月。大赦。改元甘露。○涼州牧張瓘。猜忌苛虐。專以愛憎爲賞罰。郎中殷郇。諫之。瓘曰。虎生三日。自能食肉。不須入教也。由是人情不附。輔國將軍宋混。性忠鯁。瓘憚之。欲殺混。及弟澄。因廢涼王玄靚。而代之。徵兵數萬。集姑臧。混知之。與澄帥壯士楊和等四十餘騎。奄入南城。宣告諸營曰。張瓘謀逆。被太后令誅之。俄而衆至二千。瓘帥衆出戰。混擊破之。瓘麾下玄臚。刺混。不能穿甲。混擒之。瓘衆悉降。瓘與弟琚。皆自殺。混夷其宗族。玄靚以混爲使持節都督中外諸軍事。驃騎大將軍。酒泉郡侯。代瓘輔政。混乃請玄靚去涼王之號。復稱涼州牧。混爲玄臚曰。卿刺我。幸而不傷。今我輔政。卿其懼乎。臚曰。臚受瓘恩。唯恨刺節下不深耳。竊無所懼。混義之。任爲心膂。○高昌不能拒燕。秋七月。自白馬奔滎陽。○秦王堅。自河東還。以驍騎將軍鄧羌爲御史中丞。八月。以咸陽內史王猛爲侍中。中書令。領京兆尹。特進光祿大夫。彊德。太后之弟也。酬酒豪橫。掠人財貨。子女爲百姓患。猛下車收德。奏未及報。已陳尸於市。堅馳使赦之。不及。與鄧羌同志疾惡。糾案無所顧忌。數旬之間。權豪貴戚。殺戮刑免者二十餘人。朝廷震栗。豺猾屏氣。路不拾遺。堅歎曰。吾始今知天下之有法也。○秦山太守諸葛攸。將水陸二萬擊燕。入自石門。屯于河渚。燕上庸王評。長樂太守傅顏。帥步騎五萬。與攸戰于東阿。攸兵大敗。冬十月。詔謝萬軍下蔡。郗曇軍高平。以擊燕。萬矜豪傲物。但以嘯詠自高。未嘗撫衆。兄安深憂之。

謂萬曰。汝爲元帥。宜數接對諸將。以悅其心。豈有傲誕如此。而能濟事也。萬乃召集諸將。一無所言。直以如意指四坐云。諸將皆勁卒。諸將益恨之。安慮萬不免。乃自隊帥以下。無不親造。厚相親託。既而萬帥衆入渦潁。以援洛陽。郗曇以病退。屯彭城。萬以爲燕兵大盛。故曇退。卽引兵還。衆遂驚潰。萬狼狽歸。軍士欲因其敗而圖之。以安故而止。既至。詔廢萬爲庶人。降曇號建武將軍。於是許昌。潁川。譙。沛。諸城相次。皆沒於燕。○秦王堅。以王猛爲吏部尙書。尋遷太子詹事。十一月。爲左僕射。餘官如故。○十二月。封武陵王晞子璿爲梁王。○大旱。○辛酉。燕主雋寢疾。謂大司馬太原王恪曰。吾病必不濟。今二方未平。景茂冲幼。國家多難。吾欲效宋宣公。以社稷屬汝。何如。恪曰。太子雖幼。勝殘致治之主也。臣實何人。敢干正統。雋怒曰。兄弟之間。豈虛飾邪。恪曰。陛下若以臣能荷天下之任者。豈不能輔少主乎。雋喜曰。汝能爲周公。吾復何憂。李績。清方忠亮。汝善遇之。召吳王垂還鄴。○秦王堅。以王猛爲輔國將軍。司隸校尉。居中宿衛。僕射詹事侍中。中書令。領選如故。猛上疏辭讓。因薦散騎常侍陽平公融。光祿散騎。西河任羣。處士京兆朱彤。自代。堅不許。而以融爲侍中。中書監。左僕射。任羣爲光祿大夫。領太子家令。朱彤爲尙書侍郎。領太子庶子。猛時年三十六。歲中五遷。權傾內外。人有毀之者。堅輒罪之。於是羣臣莫敢復言。以左僕射李威。領護軍。右僕射梁平。老爲使持節都督北垂諸軍事。鎮北大將軍。戍朔方之西。丞相司馬賈雍。爲雲中護軍。戍雲中之南。○燕所徵郡國兵。悉集鄴城。

資治通鑑卷第一百

晉紀 孝宗穆皇帝中之下 升平三年

資治通鑑卷第一百

晉紀二十三

孝宗穆皇帝下

升平四年春正月癸巳燕主僞大閱于鄴欲使大司馬恪司空陽鶩將之入寇會疾篤乃召恪鶩及司徒評領軍將軍慕輿根等受遺詔輔政甲午卒戊子太子暉卽皇帝位年十一大赦改元建熙○秦王堅分司隸置雍州以河南公雙爲都督雍河涼三州諸軍事征西大將軍雍州刺史改封趙公鎮安定封弟忠爲河南公○仇池公楊俊卒子世立○二月燕人尊可足渾后爲皇太后以太原王恪爲太宰專錄朝政上庸王評爲太傅陽鶩爲太保慕輿根爲太師參輔朝政根性木強自恃先朝勳舊心不服恪舉動倨傲時太后可足渾氏頗預外事根欲爲亂乃言于恪曰今主上幼冲母后干政殿下宜防意外之變思有以自全且定天下者殿下之功也兄亡弟及古今成法俟畢山陵宜廢主上爲王殿下自踐尊位以爲大燕無窮之福恪曰公醉邪何言之悖也吾與公受先帝遺詔云何而遽有此議根愧謝而退恪以告吳王垂垂勸恪誅之恪曰今新遭大喪二鄰觀釁而宰輔自相誅夷恐乖遠近之望且可忍之祕書監皇甫真言於恪曰根本庸豎過蒙先帝厚恩引參顧命而小人無識自國哀已來驕狠日甚將成禍亂明公今日居周公之地當爲社稷深謀早爲之所恪不聽根又言於可足渾氏及燕主暉曰太宰太傅將謀不軌臣請帥禁兵以誅之可足渾氏將從之暉曰二公國之親賢先帝選之託以孤養必不肯爾安知非太師欲爲亂也乃止根又思戀東土言

於可足渾氏及暉曰今天下蕭條外寇非一國大憂深不如還東恪聞之乃與太傅評謀密奏根罪狀使右衛將軍傅顏就內省誅根并其妻子黨與大赦是時新遭大喪誅夷狼藉內外恟懼太宰恪舉止如常人不見其有憂色每出入一人步從或說以宜自嚴備恪曰人情方懼當安重以鎮之奈何復自驚擾衆將何仰由是人心稍定恪雖綜大任而朝廷之禮兢兢嚴謹每事必與司徒評議之未嘗專決虛心待士諮詢善道量才授任人不踰位官屬朝臣或有過失不顯其狀隨宜他叙不令失倫唯以此爲貶時人以爲大愧莫敢犯者或有小過自相責曰爾復欲望宰公遷官邪朝廷初聞燕主僞于龍陵諡曰景昭皇帝廟號烈祖所徵郡國兵以燕朝尙在憂方大耳三月己卯葬燕主僞于龍陵諡曰景昭皇帝廟號烈祖所徵郡國兵以燕朝多難互相驚動往往擅自散歸自鄴以南道路斷塞太宰恪以吳王垂爲使持節征南將軍都督河南諸軍事兖州牧荊州刺史鎮梁國之蠡臺孫希爲并州刺史傅顏爲護軍將軍帥騎二萬觀兵河南臨淮而還境內乃安希泳之弟也○匈奴劉衛辰遣使降秦請田內地春來秋返秦王堅許之夏四月雲中護軍賈雍遣司馬徐贊帥騎襲之大獲而還堅怒曰朕方以恩信懷戎狄而汝貪小利以敗之何也黜雍以白衣領職遣使還其所獲慰撫之衛辰於是入居塞內貢獻相尋○夏六月代王什翼犍妃慕容氏卒○秋七月劉衛辰如代會葬因求婚什翼犍以女妻之○八月辛丑朔日有食之既○謝安少有重名前後徵辟皆不就寓居會稽以山水文籍自娛雖爲布衣時人皆以公輔期之士大夫至相謂曰安石不出當如蒼生何安每遊東山常以妓女自隨司徒昱聞之曰安石既與人同樂必不得不與人同憂召之必至安妻劉惔之妹也見家門貴盛而安獨靜退謂曰丈夫不如此也安掩鼻曰恐不免耳及弟萬廢黜安始有仕進之志時已年四十餘征西大將軍桓溫請爲司馬安乃赴召溫大喜深禮重之○冬十月烏桓獨孤部鮮卑沒奕干各帥衆數萬降秦秦王堅處之塞南

陽平公融諫曰。戎狄人面獸心。不知仁義。其稽顙內附。實貪地利。非懷德也。不敢犯邊。實憚兵威。非感恩也。今處之塞內。與民雜居。彼窺郡縣虛實。必爲邊患。不如徙之塞外。以防未然。堅從之。○十一月。封桓溫爲南郡公。溫弟冲爲豐城縣公。子濟爲臨賀縣公。○燕太宰恪欲以李績爲右僕射。燕主暉不許。恪屢以爲請。暉曰。萬機之事。皆委之叔父。伯陽一人。暉請獨裁。出爲章武太守。以憂卒。

五年春正月戊戌大赦。○劉衛辰掠秦邊民五十餘口。爲奴婢。以獻於秦。秦王堅責之。使歸所掠。衛辰由是叛秦。專附於代。○東安簡伯郁曇卒。二月。以東陽太守范汪都督徐兗冀青幽五州諸軍事。兼徐兗二州刺史。○平陽人舉郡降燕。燕以建威將軍段剛爲太守。遣督護韓苞將兵共守平陽。○方士丁進有寵于燕主暉。欲求媚于太宰恪。說恪令殺太傅評。恪大怒。奏收斬之。○高昌卒。燕河內太守呂護并其衆。遣使來降。拜護冀州刺史。護欲引晉兵以襲鄴。三月。燕太宰恪將兵五萬冠軍將軍皇甫真將兵萬人共討之。燕兵至野王。護嬰城自守。護軍將軍傅顏請急攻之。以省大費。恪曰。老賊經變多矣。觀其守備未易猝攻。而多殺士卒。頃攻黎陽。多殺精銳。卒不能拔。自取困辱。護內無蓄積。外無救援。我深溝高壘。坐而守之。休兵養士。離間其黨。於我不勞。而賊勢日蹙。不過十旬。取之必矣。何爲多殺士卒。以求旦夕之功乎。乃築長圍守之。○夏四月。桓溫以其弟黃門郎豁都督河中七郡諸軍事。兼新野義城二郡太守。將兵取許昌。破燕將慕容塵。○涼驃騎大將軍宋混疾甚。張玄靚及其祖母馬氏往省之。曰。將軍萬一不幸。寡婦孤兒。將何所託。欲以林宗繼將軍。可乎。混曰。臣子林宗幼弱。不堪大任。殿下儻未棄臣門。臣弟澄政事愈於臣。但恐其懦緩。機事不稱耳。殿下策勵而使之可也。混戒澄及諸子曰。吾家受國大恩。當以死報。無恃勢位以驕人。又見朝臣皆戒之以忠貞。及卒。行路爲之揮涕。玄靚以澄爲領軍將軍。輔政。○五月丁巳。帝崩。無嗣。皇太后令

曰。琅邪王丕。中興正統。義望情地。莫與爲比。其以王奉大統。於是百官備法駕。迎于琅邪第。庚申。卽皇帝位。大赦。壬戌。改封東海王奕爲琅邪王。秋七月戊午。葬穆帝于永平陵。廟號孝宗。○燕人圍野王數月。呂護遣其將張興出戰。傅顏擊斬之。城中日蹙。皇甫真戒部將曰。護勢窮犇突。必擇虛隙而投之。吾所部士卒多羸。器甲不精。宜深爲之備。乃多課櫓楯。親察行夜者。護食盡。果夜悉精銳趨真所部突圍。不得出。太宰恪引兵擊之。護衆死傷殆盡。棄妻子。犇滎陽。恪存撫降民。給其廩食。徙士人將帥于鄴。自餘各隨所樂。以護參軍廣平梁琛爲中書著作郎。○九月戊申。立妃王氏爲皇后。后濛之女也。穆帝何皇后稱穆皇后。居永安宮。○涼右司馬張邕惡宋澄專政。起兵攻澄。殺之。併滅其族。張玄靚以邕爲中護軍。叔父天錫爲中領軍。同輔政。○張平襲燕平陽。殺段剛。韓苞又攻鴈門。殺太守單男。旣而爲秦所攻。平復謝罪于燕。以求救。燕人以平反覆。弗救也。平遂爲秦所滅。○乙亥。秦大赦。○徐兗二州刺史范汪素爲桓溫所惡。溫將北伐。命汪帥衆出梁國。冬十月。坐失期。免爲庶人。遂廢。卒於家。子甯。好儒學。性質直。常謂王弼何晏之罪。深于桀紂。或以爲貶之太過。甯曰。王何蔑棄典文。幽沈仁義。游辭浮說。波蕩後生。使搢紳之徒。翻然改轍。以至禮壞樂崩。中原傾覆。遺風餘俗。至今爲患。桀紂縱暴一時。適足以喪身覆國。爲後世戒。豈能廻百姓之視聽哉。故吾以爲一世之禍。輕歷代之患。重自喪之惡。小迷衆之罪。大也。○呂護復叛。犇燕。燕人赦之。以爲廣州刺史。○涼張邕驕矜淫縱。樹黨專權。多所刑殺。國人患之。張天錫所親敦煌劉肅謂天錫曰。國家事欲未靜。天錫曰。何謂也。肅曰。今護軍出入。有似長寧。天錫驚曰。我固疑之。未敢出口。計將安出。肅曰。正當速除之耳。天錫曰。安得其人。肅曰。肅即其人也。肅時年未二十。天錫曰。汝年少。更求其助。肅曰。趙白駒與肅二人足矣。十一月。天錫與邕俱入朝。肅與白駒從。天錫值邕於門下。肅斫之不中。白駒繼之。又不克。二人與天錫俱入宮中。邕得逸走。帥甲士三百餘

人攻宮門。天錫登屋大呼曰：張邕凶逆無道，既滅宋氏，又欲傾覆我家。汝將士世為涼臣，何忍以兵相向邪？今所取者，止張邕耳。它無所問。於是邕兵悉散走。邕自刎死。盡滅其族黨。玄靚以天錫為使持節冠軍大將軍、都督中外諸軍事、輔政。十二月，始改建興四十九年。奉升平年號。詔以玄靚為大都督，督隴右諸軍事。涼州刺史護羌校尉西平公○燕大赦。○秦王堅命牧伯守宰，各舉孝弟廉直文學政事，察其所舉，得人者賞之，非其人者罪之。由是人莫敢妄舉，而請託不行。士皆自勵。雖宗室外戚，無才能者，皆弃不用。當是之時，內外之官，率皆稱職。田疇修闢，倉庫充實，盜賊屏息。○是歲，歸義侯李勢卒。

哀皇帝

隆和元年春正月壬子大赦。改元。○甲寅，減田租，畝收二升。○燕豫州刺史孫興請攻洛陽。曰：晉將陳祐弊卒千餘，介守孤城，不足取也。燕人從其言，遣寧南將軍呂護屯河陰。○二月辛未，以吳國內史庾希為北中郎將，徐亮二州刺史，鎮下邳。龍驤將軍袁真為西中郎將，監護豫司并冀四州諸軍事。豫州刺史鎮汝南，並假節。希，水之子也。丙子，拜帝母周貴人為皇太妃，儀服擬于太后。○燕呂護攻洛陽。三月乙酉，河南太守戴施奔宛。陳祐告急。五月丁巳，桓溫遣庾希及竟陵太守鄧遐帥舟師三千人助祐守洛陽。遐，嶽之子也。溫上疏請遷都洛陽，自永嘉之亂，播流江表者，一切北徙，以實河南。朝廷畏溫，不敢為異，而北土蕭條，人情疑懼。雖竝知不可，莫敢先諫。散騎常侍領著作郎孫綽上疏曰：昔中宗龍飛，非惟信順協于天人，實賴萬里長江畫而守之耳。今自喪亂已來六十餘年，河洛丘墟，函夏蕭條，士民播流，江表已經數世，存者老子長孫，亡者丘隴成行。雖北風之思，感其素心，目前之哀，實為交切。若遷都旋軫之日，中興五陵，即復緬成，遐域泰山之安，既難以理保，烝烝之思，豈不纏於聖心哉。溫今此舉，誠欲大覽始終，為國遠圖，而百姓震駭，同懷危懼，豈不以反舊之樂除，趨死之憂促哉。何者，植根江外，數十年矣。一朝頓欲拔之，驅蹙於窮荒之地，提挈萬里，踰險浮深，離墳墓，棄生業，田宅不可復售，舟車無從而得，捨安樂之國，適習亂之鄉，將頓仆道塗，飄溺江川，僅有達者，此仁者所宜哀矜。國家所宜深慮也。臣之愚計，以為且宜遣將帥，有威名資實者，先鎮洛陽，掃平梁許，清壹河南，運漕之路，既通，開墾之積，已豐，豺狼遠竄，中夏小康。然後可徐議遷徙耳。奈何捨百勝之長理，舉天下而一擲哉。綽，楚之孫也。少慕高尚，嘗著遂初賦，以見志。溫見綽表，不悅，曰：致意與公，何不尋君遂初賦，而知人家國事邪。時朝廷憂懼，將遣侍中止溫。揚州刺史王述曰：溫欲以虛聲威朝廷耳，非事實也。但從之，自無所至。乃詔溫曰：在昔喪亂，忽涉五紀，戎狄肆暴，繼襲凶迹，眷言西顧，慨歎盈懷。知欲躬帥三軍，蕩滌氛穢，廓清中畿，光復舊京，非夫外身徇國，孰能若此。諸所處分，委之高筭，但河洛丘墟，所營者廣，經始之勤，致勞懷也。事果不行，溫又議移洛陽。鍾虞述曰：永嘉不競，暫都江左，方當蕩平區宇，旋軫舊京，若其不爾，宜改遷園陵，不應先事鍾虞。溫乃止。朝廷以交廣遼遠，改授溫都督并司冀三州。溫表辭不受。○秦王堅親臨太學，考第諸生經義，與博士講論，自是每月一至焉。○六月甲戌，燕征東參軍劉拔刺殺征東將軍冀州刺史范陽王友於信都。○秋七月，呂護退守小平津。中流矢而卒。燕將段崇收軍北渡，屯于野王。鄧遐進屯新城。八月，西中郎將袁真進屯汝南。運米五萬斛以饋洛陽。○冬十一月，代王什翼犍納女于燕。燕人亦以女妻之。○十二月戊午朔，日有食之。○庾希自下邳退屯山陽。袁真自汝南退屯壽陽。

興寧元年春二月己亥大赦。改元。○三月壬寅，皇太后周氏薨于琅邪第。癸卯，帝就第治喪。詔司徒會稽王昱總內外衆務。帝欲為太妃服三年，僕射江彪啓於禮，應服總麻。又欲降服朞，彪曰：厭屈私情，所以上嚴祖考，乃服總麻。○夏四月，燕寧東將軍慕容忠攻滎陽太守劉

遠。遠，犇魯陽。五月，加征西大將軍桓溫。侍中、大司馬、都督中外諸軍、錄尚書事、假黃鉞。溫以撫軍司馬王坦之爲長史。坦之，述之子也。又以征西掾郝超爲參軍。王珣爲主簿。每事必與二人謀之。府中爲之語曰：「髯參軍，短主簿，能令公喜，能令公怒。」溫氣槩高邁，罕有所推與。超言：「常自謂不能測，傾身待之，超亦深自結納。珣，導之孫也。與謝玄皆爲溫掾，溫俱重之。」曰：「謝掾年四十，必擁旄杖節。王掾當作黑頭公，皆未易才也。」玄，弈之子也。○以西中郎將袁真都督司冀并三州諸軍事。北中郎將庾希都督青州諸軍事。○癸卯，燕人拔密城。劉遠、犇江陵。○秋八月，有星孛于角亢。○張玄靚祖母馬氏卒。尊庶母郭氏爲太妃。郭氏以張天錫專政，與大臣張欽等謀誅之。事泄，欽等皆死。玄靚懼，以位讓天錫。天錫不受。右將軍劉肅等勸天錫自立。閏月，天錫使肅等夜帥兵入宮，弑玄靚。宣言暴卒。諡曰冲公。天錫自稱使持節、大都督、大將軍、涼州牧、西平公。時年十八。尊母劉美人曰太妃。遣司馬綸、騫奉、章詣建康，請命。并送御史俞歸東還。○癸亥，大赦。○冬十月，燕鎮南將軍慕容塵攻陳留太守袁披于長平。汝南太守朱斌乘虛襲許昌，克之。○代王什翼犍擊高車，大破之。俘獲萬餘口，馬、牛、羊百餘萬頭。○以征虜將軍桓冲爲江州刺史。十一月，姚襄故將張駿殺江州督護趙毘，帥其徒北叛，冲討斬之。

二年春正月丙辰，燕大赦。○二月，燕太傅評、龍驤將軍李洪略地河南。○三月庚戌朔，大閱戶口。令所在土斷，嚴其法制，謂之庚戌制。○帝信方士言，斷穀餌藥，以求長生。侍中高崧諫曰：「此非萬乘所宜爲。陛下茲事，實日月之食，不聽。辛未，帝以藥發，不能親萬幾。褚太后復臨朝攝政。」○夏四月甲辰，燕李洪攻許昌。汝南太守朱斌戰死。汝南太守朱斌，犇壽春。陳郡太守朱輔退保彭城。大司馬溫遣西中郎將袁真等禦之。溫帥舟師屯合肥。燕人遂拔許昌。汝南、陳郡徙萬餘戶於幽冀二州。遣鎮南將軍慕容塵屯許昌。○五月戊

辰，以揚州刺史王述爲尚書令，加大司馬。溫揚州牧，錄尚書事。壬申，使侍中召溫入參朝政。溫辭不至。王述每受職，不爲虛讓。其所辭，必於不受。及爲尚書令，子坦之白述：「故事當讓，述曰：『汝謂我不堪邪？』坦之曰：『非也。但克讓自美事耳。』述曰：『既謂堪之，何爲復讓？』人言：『汝勝我，定不及也。』」○六月，秦王堅遣大鴻臚拜張天錫爲使持節、大將軍、涼州牧、西平公。○秋七月丁卯，詔復徵大司馬溫入朝。八月，溫至赭圻，詔尚書車灌止之。溫遂城赭圻，居之。固讓內錄。遙領揚州牧。○秦汝南公騰謀反，伏誅。騰，秦主生之弟也。是時，生弟晉公柳等猶有五人。王猛言于堅曰：「不去五公，終必爲患。堅不從。」○燕侍中慕容與龍詣龍城，徙宗廟及所留百官皆詣鄴。○燕太宰恪將取洛陽，先遣人招納士民。遠近諸塢皆歸之。乃使司馬悅希軍于盟津。豫州刺史孫興軍于成皇。初，沈充之子勁以其父死于逆亂，志欲立功，以雪舊恥。年三十餘，以刑家不得仕。吳興太守王胡之爲司州刺史，上疏稱勁才行，請解禁錮，參其府事。朝廷許之。會胡之以病不行。及燕人逼洛陽，冠軍將軍陳祐守之。衆不過二千。勁自表求配祐効力。詔以勁補冠軍長史，令自募壯士得千餘人，以行。勁屢以少擊衆，摧破之。而洛陽糧盡，援絕。祐自度不能守，乃以救許昌爲名。九月，留勁以五百人守洛陽。祐帥衆而東。勁喜曰：「吾志欲致命，今得之矣。」祐聞許昌已沒，遂犇新城。燕悅希引兵略河南諸城，盡取之。○秦王堅命公國各置三卿，并餘官，皆聽自采辟。獨爲置郎中令、富商趙接等車服僭侈。諸公競引以爲卿。黃門侍郎安定程憲請治之。堅乃下詔稱：「本欲使諸公延選英儒，乃更猥濫如是。宜令有司推檢，辟召非其人者悉降爵爲侯。自今國官皆委之銓衡，自非命士已上不得乘車馬去京師百里內。工商阜隸不得服金銀錦繡。犯者棄市。於是平陽、平昌、九江、陳留、安樂、五公皆降爵爲侯。」

三年春正月庚申，皇后王氏崩。○劉衛辰復叛代。代王什翼犍東渡河，擊走之。什翼犍性寬

厚。郎中令許謙盜絹二匹。什翼犍知而匿之。謂左長史燕鳳曰。吾不忍視謙之面。若謙慙而自殺。是吾以財殺士也。嘗討西部叛者。流矢中目。既而獲射者。羣臣欲斃割之。什翼犍曰。彼各爲其主鬪耳。何罪。遂釋之。○大司馬溫移鎮姑孰。二月乙未。以其弟右將軍豁監荊州揚州之義城。雍州之京兆諸軍事。領荊州刺史。加江州刺史。桓冲監江州。及荊豫八郡諸軍事。竝假節。司徒昱聞陳祐棄洛陽。會大司馬溫于列洲。共議征討。丙申。帝崩于西堂。事遂寢。帝無嗣。丁酉。皇太后詔以琅邪王奕承大統。百官奉迎于琅邪第。是日即皇帝位。大赦。○秦大赦。改元建元。○燕太宰恪與王垂共攻洛陽。恪謂諸將曰。卿等常患吾不攻。今洛陽城高而兵弱。易克也。勿更畏懦而怠惰。遂攻之。三月克之。執揚武將軍沈勁。勁神氣自若。恪將宥之。中軍將軍慕輿度曰。勁雖奇士。觀其志度。終不爲人用。今赦之。必爲後患。遂殺之。恪略地。至崱澠。關中大震。秦王堅自將屯陝城。以備之。燕人以左中郎將慕容筑爲洛州刺史。鎮金墉。吳王垂爲都督。荆揚洛徐兗豫雍益涼秦十州諸軍事。征南大將軍。荊州牧。配兵一萬。鎮魯陽。太宰恪還鄴。謂僚屬曰。吾前平廣固。不能濟辟閭蔚。今定洛陽。使沈勁爲戮。雖皆非本情。然身爲元帥。實有愧于四海。朝廷嘉勁之忠。贈東陽太守。

臣光曰。沈勁可謂能子矣。恥父之惡。致死以滌之。變凶逆之族。爲忠義之門。易曰。幹父之蠱。用譽。蔡仲之命曰。爾尙蓋前人之愆。惟忠惟孝。其是之謂乎。

太宰恪爲將。不事威嚴。專用恩信。撫士卒。務綜大要。不爲苛令。使人人得便安。平時營中寬縱。似若可犯。然警備嚴密。敵至莫能近者。故未嘗負敗。○壬申。葬哀帝及靜皇后于安平陵。○夏四月壬午。燕太尉武平匡公封奔卒。以司空陽鶩爲太尉。侍中光祿大夫皇甫真爲司空。領中書監。鶩歷事四朝。年耆望重。自太宰恪以下。皆拜之。而鶩謙恭謹厚。過於少時。戒束子孫。雖朱紫羅列。無敢違犯其法度者。○六月戊子。益州刺史建城襄公周撫卒。撫在益州

三十餘年。甚有威惠。詔以其子韞爲太守。楚代之。○秋七月己酉。徙會稽王昱復爲琅邪王。○壬子。立妃庾氏爲皇后。后冰之女也。○甲申。立琅邪王昱子昌明爲會稽王。昱固讓。猶自稱會稽王。○匈奴右賢王曹轂。左賢王劉衛辰。皆叛秦。轂帥衆二萬寇杏城。秦王堅自將討之。使衛大將軍李威。左僕射王猛。輔太子宏留守長安。八月。堅擊轂破之。斬轂弟活。殺請降之。徙其豪傑六千餘戶于長安。建節將軍鄧羌討衛辰。擒之於木根山。九月。堅如朔方。巡撫諸胡。冬十月。征北將軍淮南公幼帥杏城之衆。乘虛襲長安。李威擊斬之。○鮮卑秃髮椎斤卒。年一百一十。子思復鞬。代統其衆。椎斤樹機能從弟務丸之孫也。○梁州刺史司馬勳爲政酷暴。治中別駕及州之豪右。言語忤意。即於坐梟斬之。或親射殺之。常有據蜀之志。憚周撫不敢發。及撫卒。勳遂舉兵反。別駕雍端。西戎司馬隗粹。切諫勳皆殺之。自號梁益二州牧。成都王十一月。勳引兵入劔閣。攻涪。西夷校尉母丘暉棄城走。乙卯。圍益州刺史周楚于成都。大司馬溫表鷹揚將軍江夏相義陽朱序爲征討都護。以救之。○秦王堅還長安。以李威守太尉。加侍中。以曹毅爲鴈門公。劉衛辰爲夏陽公。各使統其部落。○十二月戊戌。以尙書王彪之爲僕射。

海西公上

太和元年春三月。荊州刺史桓豁使督護桓熙攻南鄭。討司馬勳。○燕太宰大司馬恪太傅司徒評稽首歸政。上章綬請歸第。燕主暉不許。○夏五月戊寅。皇后庾氏崩。○朱序周楚擊司馬勳破之。擒勳及其黨。送大司馬溫。溫皆斬之。傳首建康。○代王什翼犍遣左長史燕鳳入貢于秦。○秋七月癸酉。葬孝皇后于敬平陵。○秦輔國將軍王猛前將軍楊安揚武將軍姚萇等帥衆二萬寇荊州。攻南鄉郡。荊州刺史桓豁救之。八月。軍于新野。秦兵掠安陽民萬

餘戶而還。○九月甲午。曲赦梁益二州。○冬十月。加司徒昱丞相。錄尚書事。入朝不趨。讚拜不名。劔履上殿。○張天錫遣使至秦境。上告絕於秦。○燕撫軍將軍下邳王厲寇兗州。拔魯高平數郡。置守宰而還。○初隴西李儼。以郡降秦。既而復通于張天錫。十二月。羌斂岐以略陽四千家叛秦。稱臣于儼。儼於是拜置牧守。與秦涼絕。○南陽督護趙億據宛城。降燕。太守桓澹走保新野。燕人遣南中郎將趙盤。自魯陽戍宛。○徐兖二州刺史庾希。以后族故。兄弟貴顯。大司馬溫忌之。

二年春正月。庾希坐不能救魯高平。免官。○二月。燕撫軍將軍下邳王厲鎮北將軍宜都王桓襲救勒。○秦輔國將軍王猛隴西太守姜衡。南安太守南安邵羌。揚武將軍姚萇等。帥衆萬七千討斂岐。三月。張天錫遣前將軍楊適向金城。征東將軍常據向左南。游擊將軍張統向白土。天錫自將三萬人屯倉松。以討李儼。斂岐部落先屬姚弋仲。聞姚萇至。皆降。王猛遂克略陽。斂岐奔白馬。秦王堅以萇爲隴東太守。○夏四月。燕慕容塵寇竟陵。太守羅崇擊破之。○張天錫攻李儼。大夏武始二郡下之。常據敗儼兵於葵谷。天錫進屯左南。儼懼。退守枹罕。遣其兄子純謝罪於秦。且請救。秦王堅使前將軍楊安。建威將軍王撫。帥騎二萬會王猛以救儼。猛遣邵羌追斂岐。王撫守侯和。羌衡守白石。猛與楊安救枹罕。天錫遣楊適逆戰于枹罕東。猛大破之。俘斬萬七千級。與天錫相持於城下。邵羌禽斂岐於白馬。送之。猛遣天錫書曰。吾受詔救儼。不令與涼州戰。今當深壁高壘。以聽後詔。曠日持久。恐二家俱弊。非良筭也。若將軍退舍。吾執儼而東。將軍徙民西旋。不亦可乎。天錫謂諸將曰。猛書如此。吾本來伐叛。不來與秦戰。遂引兵歸。李儼猶未納秦師。王猛白服乘輿。從者數十人。請與儼相見。儼開門延之。未及爲備。將士繼入。遂執儼。以立忠將軍彭越爲平西將軍。涼州刺史鎮枹罕。張天錫之西歸也。李儼將賀施說儼曰。以明公神武。將士驍悍。奈何束手於人。王猛孤軍遠來。士

卒疲弊。且以我請救。必不設備。若乘其怠而擊之。可以得志。儼曰。求救于人。以免難。難既免。而擊之。天下其謂我何。不若固守以老之。彼將自退。猛責儼。以不卽出迎。儼以賀施之謀告猛。斬施。以儼歸至長安。堅以儼爲光祿勳。賜爵歸安侯。○燕太原桓王恪言于燕主暉曰。吳王垂將相之才。十倍于臣。先帝以長幼之次。故臣得先之。臣死之後。願陛下舉國以聽。吳王五月壬辰。恪疾篤。暉親視之。問以後事。恪曰。臣聞報恩莫大於薦賢。賢者雖在板築。猶可爲相。況至親乎。吳王文武兼資。管蕭之亞。陛下若任以大政。國家可安。不然。秦晉必有窺窬之計。言終而卒。秦王堅聞恪卒。陰有圖燕之計。欲覘其可否。命匈奴曹毅發使如燕朝貢。以西戎主簿郭辯爲之副。燕司空皇甫真兄腆及從子奮覆皆仕秦。腆爲散騎常侍。辯至燕。歷造公卿。謂真曰。僕本秦人。家爲秦所誅。故寄命曹王。貴兄常侍。及奮覆兄弟。竝相知有素。真怒曰。臣無境外之交。此言何以及我。君似奸人。得無因緣假託乎。白暉請窮治之。太傅評不許。辯還爲堅言。燕朝政無綱紀。實可圖也。鑿機讖變。唯皇甫真耳。堅曰。以六州之衆。豈得不使有智士一人哉。曹毅尋卒。秦分其部落爲二。使其二子分統之。號東西曹。○荊州刺史桓豁竟陵太守羅崇攻宛。拔之。趙億走。趙盤退。歸魯陽。豁追擊盤於雒城。擒之。留兵戍宛而還。○秋七月。燕下邳王厲等破勅勒。獲馬牛數萬頭。初厲兵過代地。犯其稼田。代王什翼犍怒。燕平北將軍武強公渥以幽州兵戍雲中。八月。什翼犍攻雲中。渥棄城走。振威將軍慕輿賀辛戰沒。○九月。以會稽內史郗愔爲都督。兗青幽揚州之晉陵諸軍事。徐兖二州刺史。鎮京口。○秦淮南公幼之反也。征東大將軍并州牧晉公柳征西大將軍秦州刺史趙公雙皆與之通謀。秦王堅以雙母弟至親。柳健之愛子。隱而不問。柳雙復與鎮東將軍洛州刺史魏公虔。安西將軍雍州刺史燕公武謀作亂。鎮東主簿南安姚眺諫曰。明公以周邵之親。受方面之任。國家有難。當竭力除之。況自爲難乎。虔不聽。堅聞之。徵柳等詣長安。冬十月。柳據蒲阪。

雙據上邽。度據陝城。武據安定。皆舉兵反。堅遣使諭之曰。吾待卿等。恩亦至矣。何苦而反。今止不徵卿。宜罷兵。各定其位。一切如故。各齧黎以爲信。皆不從。○代王什翼犍。擊劉衛辰。河冰未合。什翼犍命以葦絙約流澌。俄而冰合。然猶未堅。乃散葦於其上。冰草相結。有如浮梁。代兵乘之以渡。衛辰不意。兵猝至。與宗族西走。什翼犍收其部落什六七而還。衛辰犇秦。秦王堅。送衛辰還朔方。遣兵戍之。○十二月。甲子。燕太尉建寧敬公陽鶩卒。以司空皇甫真爲侍中。太尉光祿大夫李洪爲司空。

三年春正月。秦王堅遣後將軍楊成世。左將軍毛嵩。分討上邽。安定。輔國將軍王猛。建節將軍鄧羌。攻蒲阪。前將軍楊安。廣武將軍張蚝。攻陝城。堅命蒲陝之軍。皆距城三十里。堅壁勿戰。俟秦雍已平。然後并力取之。○初。燕太宰恪有疾。以燕主暉幼弱。政不在己。太傅評多猜忌。恐大司馬之任。不當其人。謂暉兄樂安王臧曰。今南有遺晉。西有彊秦。二國常蓄進取之志。顧我未有隙耳。夫國之興衰。繫于輔相。大司馬總統六軍。不可任非其人。我死之後。以親疎言之。當在汝及冲。汝曹雖才識明敏。然年少。未堪多難。吳王天資英傑。智略超世。汝曹若能推大司馬以授之。必能混壹四海。況外寇不足憚也。慎無冒利而忘害。不以國家爲意也。又以語太傅評。及恪卒。評不用其言。二月。以車騎將軍中山王冲爲大司馬。冲暉之弟也。以荊州刺史吳王垂爲侍中。車騎大將軍。儀同三司。○秦魏公度。以陝城降燕。請兵應接。秦人大懼。盛兵守華陰。燕魏尹范陽王德。上疏以爲先帝。應天受命。志平六合。陛下纂統。當繼而成之。今苻氏骨肉乖離。國分爲五。投誠請援。前後相尋。是天以秦賜燕也。天與不取。反受其殃。吳越之事。足以觀矣。宜命皇甫真。引并冀之衆。徑趨蒲阪。吳王垂。引許洛之兵。馳解度圍。太傅總京師虎旅。爲二軍後繼。傳檄三輔。示以禍福。明立購賞。彼必望風響應。渾壹之期。於此乎在矣。時燕人多請救陝。因圖關中者。太傅評曰。秦大國也。今雖有難。未易可圖。朝廷雖明。

未如先帝。吾等智略。又非太宰之比。但能閉關保境足矣。平秦非吾事也。魏公度遣吳王垂。及皇甫真。賤曰。苻堅。王猛。皆人傑也。謀爲燕患久矣。今不乘機取之。恐異日。燕之君臣。將有雨東之悔矣。垂謂真曰。方今爲人患者。必在於秦。主上富於春秋。觀太傅識度。豈能敵苻堅。王猛乎。真曰。然。吾雖知之。如言不用何。○三月。丁巳朔。日有食之。○癸亥。大赦。○秦楊成世。爲趙公。雙將苟興所敗。毛嵩亦爲燕公武所敗。犇還。秦王堅復遣武衛將軍王鑿。寧朔將軍呂光。將軍馮翊郭將。翟偁等。帥衆三萬討之。夏四月。雙武乘勝。至于榆眉。以苟興爲前鋒。王鑿欲速戰。呂光曰。興新得志。氣勢方銳。宜持重以待之。彼糧盡必退。退而擊之。蔑不濟矣。二旬而興退。光曰。興可擊矣。遂追之。興敗。因擊雙武。大破之。斬獲萬五千級。武棄安定。與雙皆犇上邽。鑿等進攻之。晉公柳。數出挑戰。王猛不應。柳以猛爲畏之。五月。留其世子良。守蒲阪。其衆。柳與數百騎。入城。猛羌進攻之。秋七月。王鑿等拔上邽。斬雙武。宥其妻子。以左衛將軍苻雅爲秦州刺史。八月。以長樂公丕爲雍州刺史。九月。王猛等拔蒲阪。斬晉公柳。及其妻子。猛屯蒲阪。遣鄧羌與王鑿等。會攻陝城。○燕王公貴戚。多占民爲陰戶。國之戶口。少於私家。倉庫空竭。用度不足。尙書左僕射廣信公悅。縮曰。今三方鼎峙。各有吞併之心。而國家。政法不立。豪貴恣橫。至使民戶殫盡。委輸無入。吏斷常俸。戰士絕廩。官貸粟帛。以自贍給。既不可聞於隣敵。且非所以爲治。宜一切罷斷諸陰戶。盡還郡縣。燕主暉從之。使縮專治其事。糾擿姦伏。無敢蔽匿。出戶二十餘萬。舉朝怨怒。縮先有疾。自力釐校戶籍。疾遂亟。冬十一月。卒。○十二月。秦王猛等拔陝城。獲魏公度。送長安。秦王堅問其所以反對曰。臣本無反心。但以弟兄屢謀逆亂。臣懼并死。故謀反耳。堅泣曰。汝素長者。固知非汝心也。且高祖不可以無後。乃賜度死。原其七子。以長子襲魏公。餘子皆封縣公。以嗣越厲王。及諸弟之無後者。苟太后曰。

度與雙俱反。雙獨不得置後。何也。堅曰。天下者。高祖之天下。高祖之子。不可以無後。至于仲羣。不顧太后。謀危宗廟。天下之法。不可私也。以范陽公抑爲征東大將軍。并州刺史。鎮蒲阪。鄧羌爲建武將軍。洛州刺史。鎮陝城。擢姚眺爲汲郡太守。○加大司馬溫殊禮。位在諸侯王上。○是歲。以仇池公楊世爲秦州刺史。世弟統爲武都太守。世亦稱臣于秦。秦以世爲南秦州刺史。

資治通鑑卷第一百一

資治通鑑卷第一百一

晉紀二十四

海西公下

太和四年春三月。大司馬溫請與徐兗二州刺史郗愔。江州刺史桓沖。豫州刺史袁真等。伐燕。初愔在北府。溫常云。京口酒可飲。兵可用。深不欲愔居之。而愔暗於事機。乃遣溫賤欲共獎王室。請督所部。出河上。愔子超爲溫參軍。取視寸寸毀裂。乃更作愔賤。自陳。非將帥才。不堪軍旅。老病。乞閑地。自養。勸溫并領己所統。溫得賤大喜。卽轉愔冠軍將軍。會稽內史。溫自領徐兗二州刺史。夏四月庚戌。溫帥步騎五萬發姑孰。○甲子。燕主暉立皇后。可足渾氏。太后從弟尙書令豫章公翼之女也。○大司馬溫自兗州伐燕。郗超曰。道遠。汴水又淺。恐漕運難通。溫不從。六月辛丑。溫至金鄉。天旱。水道絕。溫使冠軍將軍毛虎生鑿鉅野三百里。引汶水。會于清水。虎生。寶之子也。溫引舟師。自清水入河。舳艫數百里。郗超曰。清水入河。難以通運。若寇不戰。運道又絕。因敵爲資。復無所得。此危道也。不若盡舉見衆。直趨鄴城。彼畏公威名。必望風逃潰。北歸遼碣。若能出戰。則事可立決。若欲城鄴而守之。則當此盛夏。難爲功力。百姓布野。盡爲官有。易水以南。必交臂請命矣。但恐明公以此計輕銳。勝負難必。欲務持重。則莫若頓兵河濟。控引漕運。俟資儲充備。至來夏。乃進兵。雖如賒遲。然期于成功而已。捨此二策。而連軍北上。進不速決。退必愆乏。賊因此勢。以日月相引。漸及秋冬。水更澁滯。且北土早寒。三軍裘褐者少。恐於時所憂。非獨無食而已。溫又不從。溫遣建威將軍檀玄。攻胡陸。拔

之獲燕寧東將軍慕容忠燕主暉以下邳王厲爲征討大都督帥步騎二萬逆戰于黃墟厲兵大敗單馬奔還高平太守徐翻舉郡來降前鋒鄧遐朱序敗燕將傅顔于林渚暉復遣樂安王臧統諸軍拒溫臧不能抗乃遣散騎常侍李鳳求救於秦秋七月溫屯武陽燕故兗州刺史孫元帥其族黨起兵應溫溫至枋頭暉及太傅評大懼謀犇和龍吳王垂曰臣請擊之若其不捷走未晚也暉乃以垂代樂安王臧爲使持節南討大都督帥征南將軍范陽王德等衆五萬以拒溫垂表司徒左長史申胤黃門侍郎封孚尙書郎悉羅騰皆從軍胤鍾之子孚放之子也暉又遣散騎侍郎樂嵩請救于秦許賂以虎牢以西之地秦王堅引羣臣議于東堂皆曰昔桓溫伐我至灞上燕不救我今溫伐燕我何救焉且燕不稱藩于我我何爲救之王猛密言於堅曰燕雖彊大慕容評非溫敵也若溫舉山東進屯洛邑收幽冀之兵引并豫之粟觀兵崤澠則陛下大事去矣今不如與燕合兵以退溫溫退燕亦病矣然後我承其弊而取之不亦善乎堅從之八月遣將軍苟池洛州刺史鄧羌帥步騎二萬以救燕出自洛陽軍至潁川又遣散騎侍郎姜撫報使于燕以王猛爲尙書令太子太傅封孚問于申胤曰溫衆彊士整乘流直進今大軍徒遠巡高岸兵不接刃未見克殄之理事將何如胤曰以溫今日聲勢似能有爲然在吾觀之必無成功何則晉室衰弱溫專制其國晉之朝臣未必皆與之同心故溫之得志衆所不願也必將乖阻以敗其事又溫驕而恃衆怯于應變大衆深入值可乘之會反更道遙中流不出赴利欲望持久坐取全勝若糧廩愆懸情見勢屈必不戰自敗此自然之數溫以燕降人段思爲鄉導悉羅騰與溫戰生擒思溫使故趙將李述徇趙魏騰又與虎賁中郎將染干津擊斬之溫軍奪氣初溫使豫州刺史袁真攻譙梁開石門以通水運真克譙梁而不能開石門水運路塞九月燕范陽王德帥騎一萬蘭臺侍御史劉當帥騎五千屯石門豫州刺史李邽帥州兵五千斷溫糧道當佩之子也德使將軍慕容宙

帥騎一千爲前鋒與晉兵遇宙曰晉人輕剽怯于陷敵勇于乘退宜設餌以釣之乃使二百騎挑戰分餘騎爲三伏挑戰者兵未交而走晉兵追之宙帥伏以擊之晉兵死者甚衆溫戰數不利糧儲復竭又聞秦兵將至丙申焚舟棄輜重鎧仗自陸道犇還以毛虎生督東燕等四郡諸軍事領東燕太守溫自東燕出倉垣鑿井而飲行七百餘里燕之諸將爭欲追之吳王垂曰不可溫初退惶恐必嚴設備簡精銳爲後拒擊之未必得志不如緩之彼幸吾未至必晝夜疾趨俟其士衆力盡氣衰然後擊之無不克矣乃帥八千騎徐行躡其後溫果兼道而進數日垂告諸將曰溫可擊矣乃急追之及溫於襄邑范陽王德先帥勁騎四千伏于襄邑東澗中與垂夾擊溫大破之斬首三萬級秦苟池邀擊溫于譙又破之死者復以萬計孫元遂據武陽以拒燕燕左衛將軍孟高討擒之冬十月己巳大司馬溫收散卒屯於山陽溫深恥喪敗乃歸罪於袁真奏免真爲庶人又免冠軍將軍鄧遐官真以溫誣己不服表溫罪狀朝廷不報真遂據壽春叛降燕且請救亦遣使如秦溫以毛虎生領淮南太守守歷陽○燕秦旣結好使者數往來燕散騎侍郎郝晷給事黃門侍郎梁琛相繼如秦晷與王猛有舊猛接以平生問以東方之事晷見燕政不脩而秦大治陰欲自託於猛頗泄其實琛至長安秦王堅方敗於萬年欲引見琛琛曰秦使至燕燕之君臣朝服備禮灑掃宮庭然後敢見今秦王欲野見之使臣不敢聞命尙書郎辛勁謂琛曰賓客入境惟主人所以處之君焉得專制其禮且天子稱乘輿所至曰行在所何常居之有又春秋亦有遇禮何爲不可乎琛曰晉室不綱靈祚歸德二方承運俱受明命而桓溫猖狂闕我王略燕危秦孤勢不獨立是以秦主同恤時患要結好援東朝君臣引領西望愧其不競以爲隣憂西使之辱敬待有加今彊寇旣退交聘方始謂宜崇禮篤義以固二國之歡若忽慢使臣是卑燕也豈脩好之義乎夫天子以四海爲家故行曰乘輿止曰行在所今海縣分裂天光分曜安得以乘輿行在爲言

哉。禮不期而見曰遇。蓋因事權行。其禮簡略。豈平居容與之所爲哉。客使單行。誠勢屈於主人。然苟不以禮。亦不敢從也。堅乃爲之設行宮。百僚陪位。然後延客。如燕朝之儀。事畢。堅與之私宴。問東朝名臣爲誰。琛曰。太傅上庸王評。明德茂親。光輔王室。車騎大將軍吳王垂。雄略冠世。折衝禦侮。其餘或以文進。或以武用。官皆稱職。野無遺賢。琛從兄奔。爲秦尚書郎。堅使典客館琛於奔舍。琛曰。昔諸葛瑾。爲吳聘蜀。與諸葛亮。惟公朝相見。退無私面。余竊慕之。今使之卽安私室。所不敢也。乃不果館。奔數來就邸舍。與琛臥起。間問琛東國事。琛曰。今二方分據。兄弟竝蒙榮寵。論其本心。各有所在。琛欲言東國之美。恐非西國之所欲聞。欲言其惡。又非使臣之所得論也。兄何用問爲。堅使太子延琛相見。秦人欲使琛拜太子。先諷之曰。隣國之君。猶其君也。隣國之儲君。亦何以異乎。琛曰。天子之子。視元士。欲其由賤以登貴也。尚不敢臣其父之臣。況它國之臣乎。苟無純敬。則禮有往來。情豈忘恭。但恐降屈爲煩耳。乃不果拜。王猛勸堅留琛。堅不許。○燕主暉遣大鴻臚溫統。拜袁真使持節都督淮南諸軍事。征南大將軍。揚州刺史。封宣城公。統未踰淮而卒。○吳王垂。自襄邑還鄴。威名益振。太傅評愈忌之。垂奏所募將士。忘身立効。將軍孫蓋等。椎鋒陷陳。應蒙殊賞。評皆抑而不行。垂數以爲言。與評廷爭。怨隙愈深。太后可足渾氏。素惡垂。毀其戰功。與評密謀誅之。太宰恪之子楷。及垂舅蘭建。知之。以告垂。曰。先發制人。但除評。及樂安王臧。餘無能爲矣。垂曰。骨肉相殘。而首亂于國。吾有死而已。不忍爲也。頃之。二人又以告曰。內意已決。不可不早發。垂曰。必不可。彌縫。吾寧避之于外。餘非所議。垂內以爲憂。而未敢告諸子。世子令。請曰。尊比者如有憂色。豈非以主上幼冲。太傅疾賢。功高望重。愈見猜邪。垂曰。然。吾竭力致命。以破彊寇。本欲保全家國。豈知功成之後。返令身無所容。汝既知吾心。何以爲吾謀。令曰。主上闇弱。委任太傅。一旦禍發。疾于駭機。今欲保族全身。不失大義。莫若逃之龍城。孫辭謝罪。以待主上之察。若周

公之居東。庶幾感寤而得還。此幸之大者也。如其不然。則內撫燕代。外懷羣夷。守肥如之險。以自保。亦其次也。垂曰。善。十一月辛亥朔。垂請敗于大陸。因微服出鄴。將趨龍城。至邯鄲。少子麟。素不爲垂所愛。逃還告狀。垂左右多亡叛。太傅評白燕主暉。遣西平公強帥精騎追之。及于范陽。世子令斷後。強不敢逼。會日暮。令謂垂曰。本欲保東都。以自全。今事已泄。謀不及。設秦主方招延英傑。不如往歸之。垂曰。今日之計。舍此安之。乃散騎滅迹。傍南山復還鄴。隱于趙之顯原陵。俄有獵者數百騎。四面而來。抗之則不能敵。逃之則無路。不知所爲。會獵者鷹皆飛颺。衆騎散去。垂乃殺白馬以祭天。且盟從者。世子令言于垂曰。太傅忌賢疾能。構事以來。人尤忿恨。今鄴城之中。莫知尊處。如嬰兒之思母。夷夏同之。若順衆心。襲其無備。取之。如指掌耳。事定之後。革弊簡能。大匡朝政。以輔主上。安國存家。功之大者也。今日之便。誠不可失。願給騎數人。足以辦之。垂曰。如汝之謀。事成。誠爲大福。不成。悔之何及。不如西奔。可以萬全。子馬奴。潛謀逃歸。殺之而行。至河陽。爲津吏所禁。斬之而濟。遂自洛陽與段夫人。世子令。令弟寶。農。隆。兄子楷。舅蘭建。郎中令高弼。俱奔秦。留妃可足渾氏于鄴。乙泉戍主吳歸。追及於閭鄉。世子令擊之而退。初。秦王堅聞太宰恪卒。陰有圖燕之志。憚垂威名。不敢發。及聞垂至。大喜。郊迎執手曰。天生賢傑。必相與共成大功。此自然之數也。要當與卿共定天下。告成岱宗。然後還卿本邦。世封幽州。使卿去國。不失爲子之孝。歸朕。不失事君之忠。不亦美乎。垂謝曰。羈旅之臣。免罪爲幸。本邦之榮。非所敢望。堅復愛世子令。及慕容楷之才。皆厚禮之。賞賜鉅萬。每進見。屬目觀之。關中士民。素聞垂父子名。皆嚮慕之。王猛言于堅曰。慕容垂父子。譬如龍虎。非可馴之物。若借以風雲。將不可復制。不如早除之。堅曰。吾方收攬英雄。以清四海。柰何殺之。且其始來。吾已推誠納之矣。匹夫猶不棄言。況萬乘乎。乃以垂爲冠軍將軍。封賓徒侯。楷爲積弩將軍。燕魏尹范陽王德。素與垂善。及車騎從事中郎高泰。皆坐免官。尚書右

丞申紹言于太傅評曰。今吳王出犇。外口籍籍。宜徵王僚屬之賢者。顯進之。粗可消謗。評曰。誰可者。紹曰。高泰。其領袖也。乃以泰爲尙書郎。泰瞻之從子。紹胤之子也。○秦留梁琛。月餘。乃遣歸。琛兼程而進。比至鄴。吳王垂已犇秦。琛言于太傅評曰。秦人日閱軍旅。多聚糧于陝東。以琛觀之。爲和必不能久。今吳王又往歸之。秦必有窺燕之謀。宜早爲之備。評曰。秦豈肯受叛臣而敗和好哉。琛曰。今二國分據中原。常有相吞之志。桓溫之入寇。彼以計相救。非愛燕也。若燕有覺。彼豈忘其本志哉。評曰。秦主何如人。琛曰。明而善斷。問王猛曰。名不虛得。評皆不以爲然。琛又以告燕主暉。暉亦不然之。以告皇甫真。真深憂之。上疏言。苻堅雖聘問相尋。然實有窺上國之心。非能慕樂德義。不忘久要也。前出兵洛川。及使者繼至。國之險易。虛實。彼皆得之矣。今吳王垂。又往從之。爲其謀主。伍員之禍。不可不備。洛陽。太原。壺關。皆宜選將益兵。以防未然。暉召太傅評。謀之。評曰。秦國小力弱。恃我爲援。且苻堅庶幾善道。終不肯納叛臣之言。絕二國之好。不宜輕自驚擾。以啓寇心。卒不爲備。秦遣黃門郎石越。聘于燕。太傅評示之以奢。欲以誇燕之富盛。高泰及太傅參軍河間劉靖。言于評曰。越言誕而視遠。非求好也。乃觀釁也。宜耀兵以示之。用折其謀。今乃示之以奢。益爲其所輕矣。評不從。泰遂謝病歸。是時。太后可足渾氏。侵撓國政。太傅評貪昧無厭。貨賂上流。官非才舉。羣下怨憤。尙書左丞申紹。上疏。以爲守宰者。致治之本。今之守宰。率非其人。或武臣出于行伍。或貴戚生長綺紈。既非鄉曲之選。又不更朝廷之職。加之黜陟無法。貪惰者無刑罰之懼。清脩者無旌賞之勸。是以百姓困弊。寇盜充斥。綱頽紀紊。莫相糾攝。又官吏猥多。踰于前世。公私紛然。不勝煩擾。大燕戶口。數兼二寇。弓馬之勁。四方莫及。而比者。戰則屢北。皆由守宰。賦調不平。侵漁無已。行留俱窘。莫肯致命。故也。後宮之女。四千餘人。僮侍廝役。尙在其外。一日之費。厥直萬金。士民承風。競爲奢靡。彼秦吳僭僻。猶能調治所部。有兼并之心。而我上下因循。日失其序。

我之不脩。彼之願也。謂宜精擇守宰。併官省職。存恤兵家。使公私兩遂。節抑浮靡。愛惜用度。賞必當功。罰必當罪。如此。則溫猛可梟。二方可取。豈特保境安民而已哉。又索頭什翼犍。疲病昏悖。雖乏資御。無能爲患。而勞兵遠戍。有損無益。不若移于并土。控制西河。南堅壺關。北重晉陽。西寇來則拒守。過則斷後。猶愈于戍孤城。守無用之地也。疏奏。不省。○辛丑。丞相昱。與大司馬溫。會涂中。以謀後舉。以溫世子熙爲豫州刺史。假節。○初。燕人許割虎牢以西。賂秦。晉兵既退。燕人悔之。謂秦人曰。行人失辭。有國有家者。分災救患。理之常也。秦王堅大怒。遣輔國將軍王猛。建威將軍梁成。洛州刺史鄧羌。帥步騎三萬。伐燕。十二月。進攻洛陽。○大司馬溫。發徐兗州民。築廣陵城。徙鎮之。時。征役既頻。加之疫癘。死者什四五。百姓嗟怨。祕書監孫盛。作晉春秋。直書時事。大司馬溫。見之。怒。謂盛子曰。枋頭。誠爲失利。何至乃如尊君所言。若此。史遂行。自是。關君門戶事。其子。遽拜謝。請改之。時。盛。年。老家。居。性。方。嚴。有。軌。度。子。孫。雖。斑。白。待。之。愈。峻。至。是。諸。子。乃。共。號。泣。稽。顙。請。爲。百。口。切。計。盛。大。怒。不。許。諸。子。遂。私。改。之。盛。先。已。寫。別。本。傳。之。外。國。及。孝。武。帝。購。求。異。書。得。之。于。遼。東。人。與。見。本。不。同。遂。兩。存。之。○秦五年。春。正月。己亥。袁真。以。梁。國。內。史。沛。郡。朱。憲。及。弟。汝。南。內。史。斌。陰。通。大。司。馬。溫。殺。之。○秦王猛。遣。燕。荆。州。刺。史。武。威。王。筑。書。曰。國。家。今。已。塞。成。阜。之。險。杜。盟。津。之。路。大。駕。虎。旅。百。萬。自軹。關。取。鄴。都。金。墉。窮。戍。外。無。救。援。城。下。之。師。將。軍。所。監。豈。三。百。弊。卒。所。能。支。也。筑。懼。以。洛。陽。降。猛。陳。師。受。之。燕。衛。大。將。軍。樂。安。王。臧。城。新。樂。破。秦。兵。于。石。門。執。秦。將。楊。猛。王。猛。之。發。長。安。也。請。募。容。令。參。其。軍。事。以。爲。鄉。導。將。行。造。募。容。垂。飲。酒。從。容。謂。垂。曰。今。當。遠。別。何。以。贈。我。使。我。覩。物。思。人。垂。脫。佩。刀。贈。之。猛。至。洛。陽。賂。垂。所。親。金。熙。使。詐。爲。垂。使。者。謂。令。曰。吾。父。子。來。此。以。逃。死。也。今。王。猛。疾。人。如。讐。讒。毀。日。深。秦。王。雖。外。相。厚。善。其。心。難。知。丈。夫。逃。死。而。卒。不。免。將。爲。天。下。笑。吾。聞。東。朝。比。來。始。更。悔。悟。主。后。相。尤。吾。今。還。東。故。遣。告。汝。吾。已。行。矣。便。可。速。發。令。

疑之。躊躇終日。又不可審覆。乃將舊騎。詐爲出獵。遂奔樂安王臧于石門。猛表令叛狀。垂懼而出走。及藍田。爲追騎所獲。秦王堅引見東堂。勞之曰。卿家國失和。委身投朕。賢子。心不忘本。猶懷首丘。亦各其志。不足深咎。然燕之將亡。非令所能存。惜其徒入虎口耳。且父子兄弟。罪不相及。卿何爲過懼。而狼狽如是乎。待之如舊。燕人以令叛而復還。其父爲秦所厚。疑令爲反間。徙之沙城。在龍都東北六百里。

臣光曰。昔周得微子。而革商命。秦得由余。而霸西戎。吳得伍員。而克彊楚。漢得陳平。而誅項籍。魏得許攸。而破袁紹。彼敵國之材臣。來爲己用。進取之良資也。王猛知慕容垂之心。久而難信。獨不念燕尙未滅。垂以材高功盛。無罪見疑。窮困歸秦。未有異心。遽以猜忌殺之。是助燕爲無道。而塞來者之門也。如何其可哉。故秦王堅禮之。以收燕望。親之。以盡燕情。寵之。以傾燕衆。信之。以結燕心。未爲過矣。猛何汲汲于殺垂。乃爲市井鬻賣之行。有如嫉其寵而讒之者。豈雅德君子所宜爲哉。

樂安王臧。進屯滎陽。王猛遣建威將軍梁成。洛州刺史鄧羌。擊走之。留羌鎮金墪。以輔國司馬桓寅爲弘農太守。代羌。戍陝城。而還。秦王堅以王猛爲司徒。錄尚書事。封平陽郡侯。猛固辭曰。今燕吳未平。戎車方駕。而始得一城。卽受三事之賞。若克殄二寇。將何以加之。堅曰。苟不蹙抑朕心。何以顯卿謙光之美。已詔有司。權聽所守。封爵酬庸。其勉從朕命。○二月癸酉。袁真卒。陳郡太守朱輔。立真子瑾爲建威將軍。豫州刺史。以保壽春。遣其子乾之。及司馬鑿亮。如鄴。請命。燕人以瑾爲揚州刺史。輔爲荊州刺史。○三月。秦王堅以吏部尚書權翼爲尚書右僕射。夏四月。復以王猛爲司徒。錄尚書事。猛固辭。乃止。○燕秦皆遣兵助袁瑾。大司馬溫。遣督護竺瑤等。禦之。燕兵先至。瑤等與戰于武丘。破之。南頓太守桓石虔。克其南城。石虔。溫之弟子也。○秦王堅。復遣王猛督鎮南將軍楊安等十將。步騎六萬。以伐燕。○慕容令自

度終不得免。密謀起兵。沙城中。譚戍士數千人。令皆厚撫之。五月庚午。令殺牙門孟嬌。城大。涉圭懼。請自效。令信之。引置左右。遂帥譚戍士。東襲威德城。殺城郎慕容倉。據城部署。遣人招東西諸戍。翕然皆應之。鎮東將軍勃海王亮。鎮龍城。令將襲之。其弟麟。以告亮。亮閉城拒守。癸酉。涉圭因待直擊令。令單馬走。其黨皆潰。涉圭追令至薛黎澤。擒而殺之。詣龍城。白亮。亮爲誅涉圭。收令尸而葬之。○六月乙卯。秦王堅。送王猛于灞上。曰。今委卿以關東之任。當先破壺關。平上黨。長驅取鄴。所謂疾雷不及掩耳。吾當親督萬衆。繼卿星發。舟車糧運。水陸俱進。卿勿以爲後慮也。猛曰。臣杖威靈。奉成筭。盪平殘胡。如風掃葉。願不煩變輿。親犯塵霧。但願速敕所司。部署鮮卑之所。堅大悅。○秋七月癸酉朔。日有食之。○秦王猛攻壺關。楊安攻晉陽。八月。燕主暉。命太傅上庸王評。將中外精兵三十萬。以拒秦。暉以秦寇爲憂。召散騎侍郎李鳳。黃門侍郎梁琛。中書侍郎樂嵩。問曰。秦兵衆寡何如。今大軍旣出。秦能戰乎。鳳曰。秦國小兵弱。非王師之敵。景略常才。又非太傅之比。不足憂也。琛嵩曰。勝敗在謀。不在衆寡。秦遠來爲寇。安肯不戰。且吾當用謀以求勝。豈可冀其不戰而已乎。暉不悅。王猛克壺關。執上黨太守南安王越。所過郡縣。皆望風降附。燕人大震。黃門侍郎封孚。問司徒長史申胤。曰。事將何如。胤歎曰。鄴必亡矣。吾屬今茲將爲秦虜。然越得歲。而吳伐之。卒受其禍。今福德在燕。秦雖得志。而燕之復建。不過一紀耳。○大司馬溫。自廣陵帥衆二萬。討袁瑾。以襄城太守劉波爲淮南內史。將五千人。鎮石頭。波。陳之孫也。癸丑。溫敗瑾于壽春。遂圍之。燕左衛將軍孟高。將騎兵救瑾。至淮北。未渡。會秦伐燕。燕召高還。○廣漢妖賊李弘。詐稱漢歸義侯勢之子。聚衆萬餘人。自稱聖王。年號鳳凰。隴西人李高。詐稱成主雄之子。攻破涪城。遂梁州刺史楊亮。九月。益州刺史周楚。遣子瓊討高。又使瓊子梓潼太守斌討弘。皆平之。○秦楊安攻晉陽。晉陽兵多糧足。久之未下。王猛留屯騎校尉苟長。戍壺關。引兵助安。攻晉陽。爲地道。使虎牙

將軍張蚝帥壯士數百潛入城中大呼斬關納秦兵辛巳猛安入晉陽執燕并州刺史東海王莊太傅評畏猛不敢進屯于潞川冬十月辛亥猛留將軍武都毛當戍晉陽進兵潞川與慕容評相持壬戌猛遣將軍徐成覘燕軍形要期以日中及昏而返猛怒將斬之鄧羌請之曰今賊衆我寡詰朝將戰成大將也宜且宥之猛曰若不殺成軍法不立羌固請曰成羌之郡將也雖違期應斬羌願與成効戰以贖之猛弗許羌怒還營嚴鼓勒兵將攻猛猛問其故羌曰受詔討遠賊今有近賊自相殺欲先除之猛謂羌義而有勇使語之曰將軍止吾今赦之成既免羌詣猛謝猛執其手曰吾試將軍耳將軍于郡將尙爾況國家乎吾不復憂賊矣太傅評以猛懸軍深入欲以持久制之評爲人貪鄙鄆固山泉鬻樵及水積錢帛如丘陵士卒怨憤莫有鬪志猛聞之笑曰慕容評真奴才雖億兆之衆不足畏況數十萬乎吾今茲破之必矣乃遣游擊將軍郭慶帥騎五千夜從間道出評營後燒評輜重火見鄆中燕主暉懼遣侍中蘭伊讓評曰王高祖之子也當以宗廟社稷爲憂奈何不撫戰士而權賣樵水專以貨殖爲心乎府庫之積朕與王共之何憂于貧若賊兵遂進家國喪亡王持錢帛欲安所置之乃命悉以其錢帛散之軍士且趨使戰評大懼遣使請戰于猛甲子猛陳於渭源而誓之曰王景略受國厚恩任兼內外今與諸君深入賊地當竭力致死有進無退共立大功以報國家受爵明君之朝稱觴父母之室不亦美乎衆皆踴躍破釜棄糧大呼競進猛望燕兵之衆謂鄧羌曰今日之事非將軍不能破勁敵成敗之機在茲一舉將軍勉之羌曰若能以司隸見與者公勿以爲憂猛曰此非吾所及也必以安定太守萬戶侯相處羌不悅而退俄而兵交猛召羌寢不應猛馳就許之羌乃大飲帳中與張蚝徐成等跨馬運矛馳赴燕陳出入數四旁若無人所殺傷數百及日中燕兵大敗俘斬五萬餘人乘勝追擊所殺及降者又十萬餘人評單騎走還鄆

崔鴻曰鄧羌請郡將以撓法徇私也勒兵欲攻王猛無上也臨戰豫求司隸邀君也有此三者罪孰大焉猛能容其所短收其所長若馴猛虎馭悍馬以成大功詩曰采芣采菲無以下體猛之謂矣

秦兵長驅而東丁卯圍鄆猛上疏稱臣以甲子之日大殲醜類順陛下仁愛之志使六州士庶不覺易主自非守迷違命一無所害秦王堅報之曰將軍役不踰時而元惡克舉勳高前古朕今親帥六軍星言電赴將軍其休養將士以待朕至然後取之猛之未至也鄆旁剽劫公行及猛至遠近帖然號令嚴明軍無私犯法簡政寬燕民各安其業更相謂曰不圖今日復見太原王王猛聞之歎曰慕容玄恭信奇士也可謂古之遺愛矣設太牢以祭之十一月秦王堅留李威輔太子守長安陽平公融鎮洛陽自帥精銳十萬赴鄆七日而至安陽宴祖父時故老猛潛如安陽謁堅曰昔周亞夫不迎漢文帝今將軍臨敵而棄軍何也猛曰亞夫前却人主以求名臣竊少之且臣奉陛下威靈擊垂亡之虜譬如釜中之魚何足慮也監國冲幼鸞駕遠臨脫有不虞悔之何及陛下忘臣瀟上之言邪初燕宜都王桓帥衆萬餘屯沙亭爲太傅評後繼聞評敗引兵屯內黃堅使鄧羌攻信都丁丑桓帥鮮卑五千奔龍城戊寅燕散騎侍郎餘蔚帥扶餘高句麗及上黨質子五百餘人夜開鄆北門納秦兵燕主暉與上庸王評樂安王臧定襄王淵左衛將軍孟高殿中將軍艾朗等奔龍城辛巳秦王堅入鄆宮慕容垂見燕公卿大夫及故時僚吏有愠色高弼言于垂曰大王憑祖宗積累之資負英傑高世之略遭值逆阨棲集外邦今雖家國傾覆安知其不爲興運之始邪愚謂國之舊人宜恢江海之量有以慰結其心以立覆篑之基成九仞之功奈何以一怒捐之愚竊爲大王不取也垂悅從之燕主暉之出鄆也衛士猶千餘騎旣出城皆散惟十餘騎從行秦王堅使游擊將軍郭慶追之時道路艱難孟高扶侍暉經護二王極其勤瘁又所在遇盜轉鬪而前